



Owner's Manual

For your safety and comfort, read carefully and keep in the vehicle.

HIGHLANDER



本車両は米国にて生産され、主にニュージーランド国内での使用を前提として設計されております。

そのため、日本国内においては一部機能に制限が生じる場合がございます。誠に恐れ入りますが、あらかじめご理解・ご了承のうえ、ご使用くださいますようお願い申し上げます。

イラスト目次	イラストから検索	
安全・安心のために	お客様に 必ずお読みいただきたいこと (主な項目：チャイルドシートの取扱い、盗難防止装置)	1
走行に関する情報表示	走行に関する情報を表示する計器類の見方 (主な項目：メーター・マルチインフォメーションディスプレイ)	2
運転する前に	ドア・ドアガラスの開閉や、運転操作前の調整 (主な項目：キー、ドア、シート)	3
運転	運転に必要な操作やアドバイス (主な項目：ハイブリッドシステム始動のしかた、給油のしかた)	4
室内装備・機能	室内装備の使い方など (主な項目：エアコン・収納装備の使い方)	5
お手入れのしかた	車のお手入れ・メンテナンスの方法 (主な項目：内装・外装の手入れ、電球の交換)	6
万一の場合には	故障したときや、緊急時などの対処 (主な項目：補機バッテリーあがりやタイヤがパンクしたときの対処)	7
車両情報	車の仕様やお好みに合わせて選べる機能の情報 (主な項目：指定燃料、各オイル量、タイヤ空気圧)	8
さくいん	症状から検索	
	アルファベットで検索	
	五十音で検索	

知っておいていただきたいこと	5
本書の見方	10
検索のしかた	11
イラスト目次	12

1 安全／安心のために

1-1. 安全にお使いいただくために	
運転する前に	22
安全なドライブのために	23
シートベルト	24
SRS エアバッグ	28
排気ガスに対する注意	34
1-2. お子さまの安全	
お子さまを乗せるときは	36
チャイルドシート	37
1-3. 緊急支援	
トヨタコネクティッドサービス	51
1-4. ハイブリッドシステム	
ハイブリッドシステムの特徴	54
ハイブリッドシステムの注意	57
1-5. 盗難防止装置	
イモビライザーシステム	61
オートアラーム	62

2 走行に関する情報表示

2-1. 計器の見方	
警告灯／表示灯	66
計器類	69
マルチインフォメーションディスプレイ	74
ヘッドアップディスプレイ	82
エネルギーモニター／燃費画面	87

3 運転する前に

3-1. キー	
キー	92
3-2. ドアの開閉、ロックのしかた	
ドア	95
バックドア	99
スマートエントリー&スタートシステム	109
3-3. シートの調整	
フロントシート	114
リヤシート	115
ヘッドレスト	119
3-4. ハンドル位置・ミラー	
ハンドル	122
インナーミラー	123
ドアミラー	124
3-5. ドアガラスとムーンルーフの開閉	
パワーウインドウ	127
ムーンルーフ	129
パノラマムーンルーフ	132
3-6. お好み設定	
ドライビングポジションメモリー	136
マイセッティング	138

4 運転

4-1. 運転にあたって	
運転にあたって	142
荷物を積むときの注意	148
4-2. 運転のしかた	
パワー（イグニッション）スイッチ	150
EV ドライブモード	154
ハイブリッドトランスミッション	156
方向指示レバー	159

パーキングブレーキ	159
ブレーキホールド	162
4-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方	
ランプスイッチ	165
AHB（オートマチックハイビーム）	167
フォグランプスイッチ	170
ワイパー&ウォッシャー（フロント）	171
ワイパー&ウォッシャー（リヤ）	173
4-4. 給油のしかた	
給油口の開け方	175
4-5. 運転支援装置について	
Toyota Safety Sense	177
PCS（プリクラッシュセーフティ）	182
LTA（レーントレーシングアシスト）	192
レーダークルーズコントロール	201
RSA（ロードサインアシスト）	211
BSM（ブラインドスポットモニター）	214
クリアランスソナー	218
RCTA（リヤクロストラフィックアラート）	226
PKSB（パーキングサポートブレーキ）	231
パーキングサポートブレーキ（後方静止物）	237
パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）	240
ドライブモードセレクトスイッチ	241
トレイルモード	242
運転を補助する装置	244
4-6. 運転のアドバイス	
ハイブリッド車運転のアドバイス	250
寒冷時の運転	252
実用車の注意事項	254

5 室内装備・機能

5-1. エアコンとデフォグガーの使い方	
フロントオートエアコン	258
リヤオートエアコン	265
シートヒーター / シートベンチレーター	269
5-2. 室内灯のつけ方	
室内灯一覧	271
5-3. 収納装備	
収納装備一覧	274
ラゲージルーム内装備	279
5-4. その他の室内装備の使い方	
その他の室内装備	284

6 お手入れのしかた

6-1. お手入れのしかた	
外装の手入れ	296
内装の手入れ	299
6-2. メンテナンス	
メンテナンス要件	302
6-3. 簡単な点検・部品交換	
セルフサービスの注意事項	304
ボンネット	306
ガレージジャッキ	307
エンジンルーム	308
12 ボルトバッテリー	313
タイヤについて	316
タイヤ空気圧について	323
ホイールについて	324
エアコンフィルターの交換	326
駆動用電池冷却用吸入口の清掃	327
電子キーの電池交換	330
ヒューズの点検・交換	332
電球（バルブ）の交換	335

7 万ーの場合には

7-1. まず初めに

非常点滅灯（ハザードランプ）...	344
発炎筒	344
車両を緊急停止するには.....	345
水没・冠水したときは	346

7-2. 緊急時の対処法

けん引について	348
何かおかしいと思ったら.....	351
警告灯がついたときは	352
警告メッセージが表示されたときは	359
パンクしたときは	363
ハイブリッドシステムが始動できないときは.....	374
キーをなくしたときは	375
燃料給油口が開かないときは.....	375
電子キーが正常に働かないときは	376
補機バッテリーがあがったときは	378
オーバーヒートしたときは.....	384
スタックしたときは	387

8 車両情報

8-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）.....	390
燃料情報.....	398

8-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ機能一覧	399

8-3. 初期設定

初期設定が必要な項目	410

さくいん

こんなときは（症状別さくいん）

.....	412
アルファベット順さくいん	415
五十音順さくいん	416

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。そのため、お客様の車にはない装備の説明が記載されている場合があります。また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。

トヨタ販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱説明書をお読みください。

イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様の車の装備と一致しない場合があります。

不正改造について

現在、市場にはトヨタ車向けの純正ではない様々なスペアパーツやアクセサリーが流通しています。これらの純正トヨタ製品ではないスペアパーツやアクセサリーの使用は、たとえお住まいの国の特定の当局によって承認されている場合でも、車両の安全性に悪影響を及ぼす可能性があります。したがって、トヨタ自動車株式会社は、純正トヨタ製品ではないスペアパーツやアクセサリー、およびそれらを使用した交換／取り付けについて、一切の責任を負いかねます。

トヨタが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、

不正改造になることがあります。車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

また、このような改造は Toyota Safety Sense のような先進安全装備にも影響を与え、正しく作動しない危険や作動すべきでない場面での作動をするおそれがあり危険です。

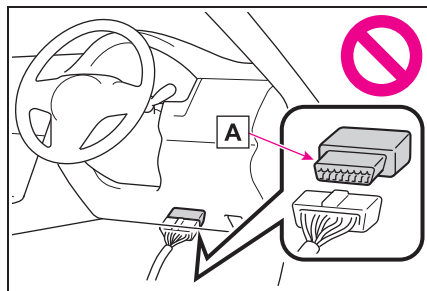
サイバー攻撃のリスクについて

電子機器や無線機を取り付けると、装着された部品を通じサイバー攻撃のリスクを高め、思わぬ事故や個人情報の流出などににつながるおそれがあります。トヨタ純正品以外を取り付けたことに起因する問題に関してトヨタは保証いたしません。

故障診断コネクターなどへの電装品取り付けについて

故障診断コネクター[A]などに、点検整備用の故障診断装置以外の電装品を取り付けないでください。

電子機器に悪影響をおよぼしたり、バッテリーがあがったりするなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。



RF 送信機の取り付けについて

お車へ RF 送信機を取り付けると、次のようなシステムに影響をおよぼす可能性があります。

- ハイブリッドシステム
- マルチポート燃料噴射システム / シーケンシャルマルチポート燃料噴射システム
- Toyota Safety Sense
- ABS（アンチロックブレーキシステム）
- SRS エアバッグ
- シートベルトプリテンショナー

悪影響を防ぐための措置や取り付け方法については、必ずトヨタ販売店にお問い合わせください。ご希望により、RF 送信機の実取り付けに関する詳しい情報（周波数帯域／電力レベル／アンテナ位置／取り付け条件）をトヨタ販売店にてご提供します。

RF 送信機の設置に関する周波数帯域、電力レベル、アンテナ位置、設置規定の詳細情報は、トヨタ販売店にてご請求いただければご提供いたします。

高電圧部位や高電圧配線は、電磁シールド構造になっています。従

来の車や家電製品と比べて、電磁波が多いということはありません。

アマチュア無線の一部（遠距離通信）において、受信時に雑音が入入する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

車両データの記録

本車両には、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが装着されています。

- ・ エンジン回転数／電動モーター回転数（駆動モーター回転数）
- ・ アクセルペダルの操作状況
- ・ ブレーキペダルの操作状況
- ・ 車速
- ・ 運転支援システムの作動状況
- ・ カメラの画像情報

車両には複数のカメラがついています。どのカメラが画像を記録しているかは、トヨタ販売店にお問い合わせください。

グレード・オプション装備により記録されるデータ項目は異なります。

コンピューターは会話などの音声や車内の映像は記録せず、特定の状況下においてのみ車外の映像を記録します。

● データの取り扱いについて

トヨタはコンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。

なお、次の場合を除き、トヨタは取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

- ・ お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合

- ・ 警察／裁判所／政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
 - ・ トヨタ自動車が訴訟で使用する場合
 - ・ 統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合
- 車両に記録されている画像情報は、トヨタ販売店にて、消去することが可能です。

また、画像情報を記録する機能を停止することも可能です。ただし、機能を停止するとシステム作動時のデータは残りません。

イベントデータレコーダー

お車には、イベントデータレコーダー（EDR）が装備されています。EDR は、一定の衝突や衝突に近い状態（SRS エアバッグの作動および路上障害物との接触など）が発生した時に車両システムの作動状況に関するデータを記録します。EDR は車両の動きや安全システムに関するデータを短時間記録するように作られています。ただし、衝突の程度と形態によっては、データが記録されない場合があります。

EDR は次のようなデータを記録します。

- ・ 車両の各システムの作動状況
- ・ アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作状況
- ・ 車速

これらのデータは、衝突や傷害が発生した状況を把握するのに役立ちます。

注意：EDR は衝突が発生したときにデータを記録します。通常走行

時にはデータは記録されません。また、個人情報（例：氏名／性別／年齢／衝突場所）は記録されません。ただし、事故調査の際に法執行機関などの第三者が、通常の手続きとして収集した個人を特定できる種類のデータと EDR データを組み合わせる使用することがあります。

EDR で記録されたデータを読み出すには、特別な装置を車両または EDR へ接続する必要があります。トヨタにくわえ、法執行機関などの特別な装置を所有する第三者が車両または EDR に接続した場合でも情報を読み出すことができます。

● EDR データの情報開示

次の場合を除き、トヨタは EDR で記録されたデータを第三者へ開示することはありません。

- ・ お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- ・ 警察／裁判所／政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- ・ トヨタが訴訟で使用する場合

ただし、トヨタは

- ・ データを車両安全性能の研究に使用することがあります。
- ・ 使用者／車両が特定されないデータを調査目的で第三者に開示することがあります。

トヨタ車の廃車について

トヨタ車の SRS エアバッグおよびシートベルトプリテンショナー装置には爆発性化学物質が含まれています。車両を廃棄する際、エアバッグやシートベルトプリテン

ショナーをそのまま残したままにすると、火災などの事故を引き起こすおそれがあります。車両を廃棄する前に、必ず SRS エアバッグおよびシートベルトプリテンショナーのシステムを、認定サービス工場またはトヨタ販売店にて取り外し、廃棄処分してください。

高電圧部位に貼り付けられている記号について

パワーコントロールユニットなどの高電圧部位には、取り扱いに注意することを示すラベルが貼付されている場合があります。

記号の示す意味は次のとおりです。

記号	意味
	危険であることを示しています。
	高電圧部位であることを示しています。
	手で触れてはいけな部位であることを示しています。
	高温部位であることを示しています。

警告

■ 運転中の一般的な注意事項

飲酒運転：アルコールや薬物の影響で運転能力が低下している状態での運転は絶対に避けてください。アルコールや特定の薬物は反応時間を遅らせ、判断力を鈍らせ、協調性を低下させます。これにより事故が発生し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

防御運転：常に防御運転を心がけましょう。他のドライバーや歩行者が起こす可能性のあるミスを予測し、事故を回避する準備を整えておきましょう。

運転中の注意散漫：運転には常に全神経を集中させてください。操作装置の調整、携帯電話での通話、読書など、運転者の注意をそらす行為は、事故の原因になり重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ お子さまの安全に関する一般的な注意事項

お子さまを車内に一人きりにしてはいけません。また、お子さまに鍵を持たせたり使用させたりしてはいけません。

お子さまは車両を始動させたり、ニュートラルギアに入れる可能性があります。また、窓やムーンルーフ、その他の車両機能で遊ぶことで、お子さまが怪我をする危険性もあります。さらに、車内の温度上昇や極度の低温は、お子さまにとって致命的な結果を招くおそれがあります。

⚠ 警告**■ コイン型電池およびボタン型電池に関する一般的な注意事項**

本製品にはコイン型電池またはボタン型電池が含まれています。

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 新しい電池や取り外した電池をお子さまの手の届かない場所に保管してください。
- 電池を飲み込まないでください。飲み込むと化学やけどの原因となることがあります。
- 電池を飲み込んだ場合、わずか 2 時間で深刻な化学やけどを引き起こす可能性があり、死亡または重篤な傷害につながるおそれがあります。
- 誤って電池を飲み込んだ場合、または電池を体内に挿入した場合は、直ちに緊急医療処置を受けてください。

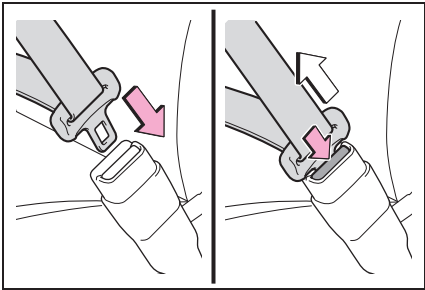
本書の見方

本書で使用している、記号について説明します。

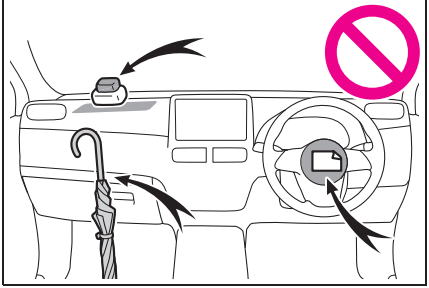
本文の記号について

記号	意味
	警告： お守りいただかないと、お客様自身と周囲の人々が死亡、または重大な傷害につながるおそれがあることを説明しています。
	注意： お守りいただかないと、車や装備品の故障や破損につながるおそれがあることを説明しています。
1 2 3...	操作・作業の手順を示しています。番号の順に従ってください。

イラストの記号



記号	意味
	押す・まわすなど、していただきたい操作を示しています。
	フタが開くなど、操作後の作動を示しています。

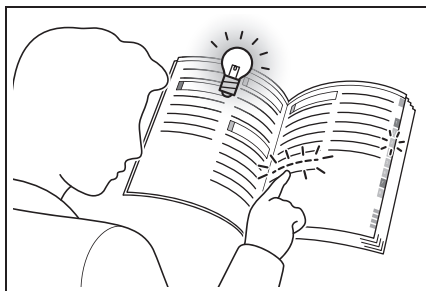
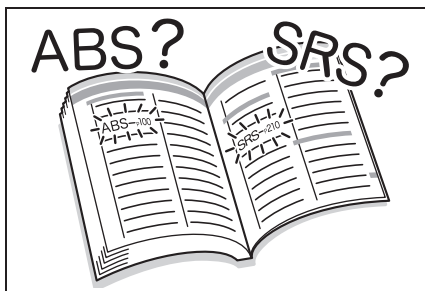


記号	意味
	説明の対象となるもの・場所を示しています。
	してはいけません、このようにしないでください、このようなことを起こさないでくださいという意味です。

検索のしかた

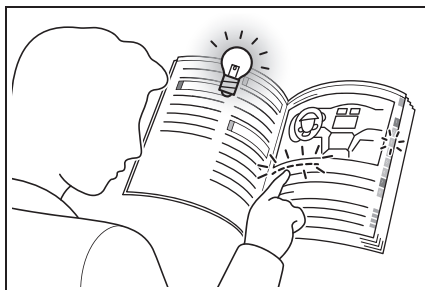
■ 名称から探す

- 五十音順さくいん：→P.416
- アルファベット順さくいん：→P.415



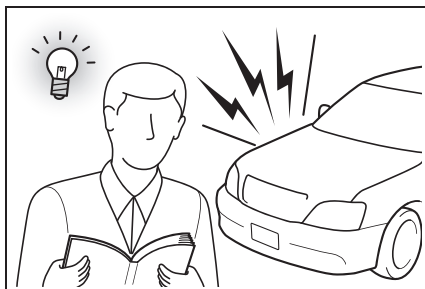
■ 取り付け位置から探す

- イラスト目次：→P.12



■ 症状や音から探す

- こんなときは（症状別さくいん）：→P.412

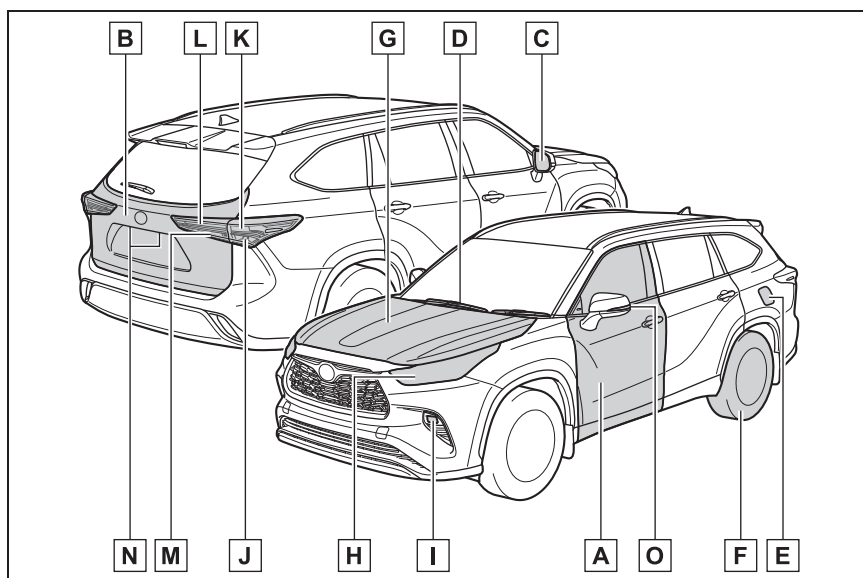


■ タイトルから探す

- 目次：→P.2

イラスト目次

■ 外観



A	ドア	P.95
	施錠／解錠.....	P.95
	ドアガラスの開閉	P.127
	メカニカルキーでの施錠／解錠.....	P.376
	警告メッセージ	P.352, 359
B	バックドア.....	P.99
	車内から開ける ※	P.102
	車外から開ける	P.102
	警告メッセージ	P.352, 359
C	ドアミラー.....	P.124
	鏡面の角度調整	P.125
	ミラーの格納.....	P.125
	調整位置の登録 ※	P.136
	曇りを取る（ミラーヒーター）.....	P.260
D	ワイパー.....	P.171

冬季の注意.....	P.252
凍結防止（ウインドシールドデアイサー）.....	P.297
E 給油口.....	P.175
給油方法.....	P.175
燃料の種類／燃料タンク容量.....	P.391
F タイヤ.....	P.316
サイズ／空気圧.....	P.316, 395
冬用タイヤ／タイヤチェーン.....	P.252
点検／ローテーション.....	P.316
パンク時の対処.....	P.363
G ボンネット.....	P.306
開け方.....	P.306
エンジンオイル.....	P.392
オーバーヒート時の対処.....	P.384
警告メッセージ.....	P.359

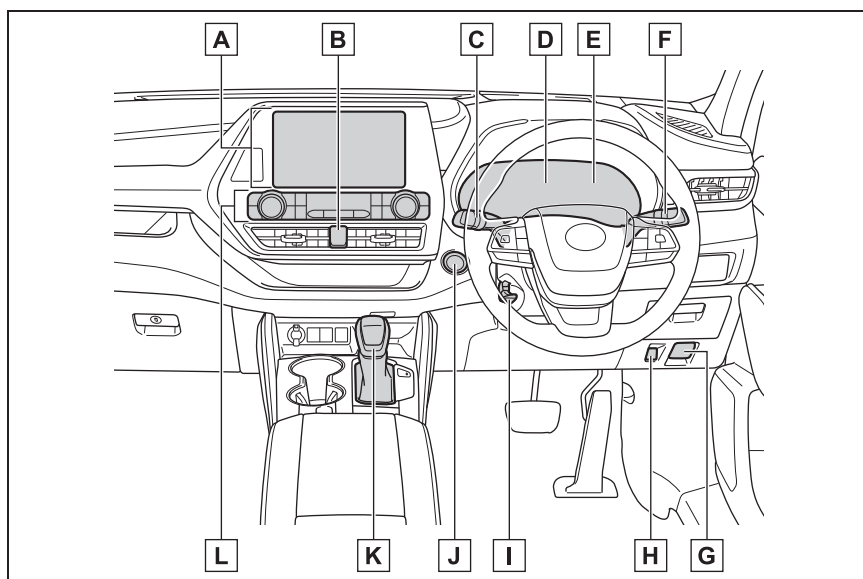
走行に関わる外装のランプバルブ

（交換要領：P.335, ワット数：P.396）

H ヘッドランプ／車幅灯／方向指示灯.....	P.159, 165
I フロントフォグランプ.....	P.170
J コーナリングランプ.....	P.159
K 制動灯／尾灯.....	P.165
緊急ブレーキシグナル.....	P.245
L 尾灯.....	P.165
M 後退灯	
シフトポジションを R にする.....	P.156
N 番号灯.....	P.165
O サイド方向指示灯.....	P.159

※ グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ インstrumentパネル

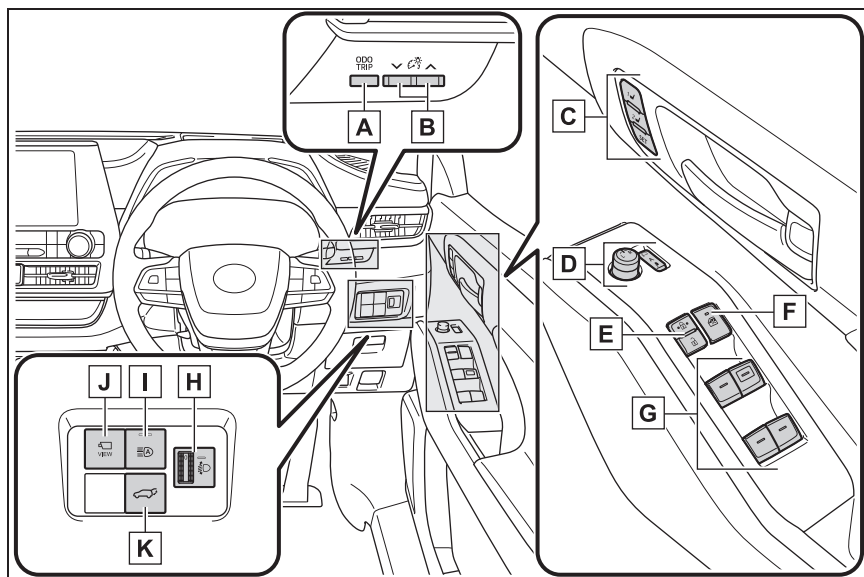


- A** オーディオ ※
- B** 非常点滅灯スイッチ P.344
- C** ワイパー&ウォッシャースイッチ（フロント）..... P.171, 173
 - 操作方法..... P.171, 173
 - ウォッシャー液の補充 P.312
 - 警告メッセージ P.359
- D** マルチインフォメーションディスプレイ..... P.74
 - 表示内容..... P.74
 - エネルギーモニター P.87
 - 警告メッセージ表示時の対処..... P.359
- E** メーター..... P.69
 - 見方／明るさの調整 P.69, 74
 - 警告灯／表示灯 P.66
 - 警告灯点灯時の対処 P.352
- F** 方向指示レバー P.159

ヘッドランプスイッチ	P.165
ヘッドランプ／フロントポジションランプ／尾灯／番号灯	P.165
フロントフォグランプ	P.170
G ボンネット解除レバー	P.306
H 給油口ドアオープナースイッチ	P.175
I ハンドル位置調整レバー	P.122
調整方法	P.122
J パワースイッチ	P.150
ハイブリッドシステムの始動／モード切りかえ	P.150
ハイブリッドシステムの緊急停止	P.345
ハイブリッドシステムが始動できないときの対処	P.374
警告メッセージ	P.359
K シフトレバー	P.156
シフトポジションの切りかえ	P.156
けん引時の注意	P.348
シフトレバーが動かないときの対処	P.157
L エアコン	P.258
操作方法	P.258
リヤウインドウの曇り取り（リヤウインドウデフォッガー）	P.260

※ 別冊 “Multimedia Owner’s Manual” を参照してください。

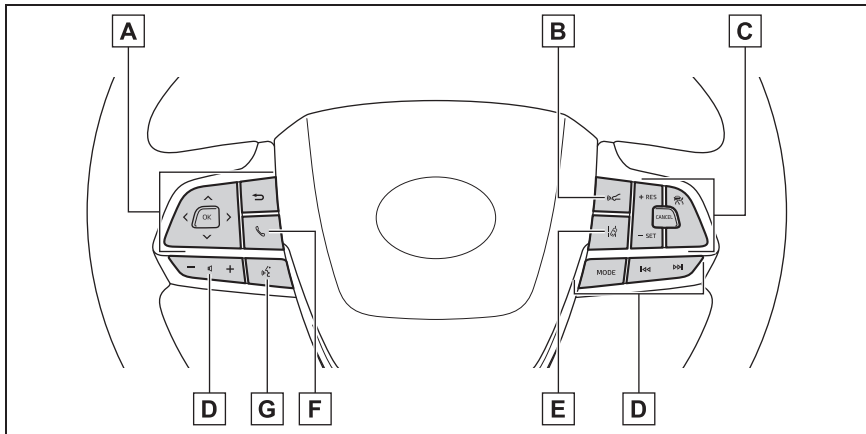
■ スイッチ類



- A** “ODO TRIP” スイッチ P.73
- B** インstrumentパネルライトコントロールスイッチ P.74
- C** ポジションメモリーボタン ※¹ P.136
- D** ドアミラースイッチ P.124
- E** ドアロックスイッチ P.97
- F** ウインドウロックスイッチ P.129
- G** パワーウインドウスイッチ P.127
- H** アダプティブハイビームシステムスイッチ P.166
- I** オートマチックハイビームスイッチ P.167
- J** カメラスイッチ ※^{1, 2}
- K** パワーバックドアスイッチ ※¹ P.102

※¹ グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※² 別冊 “Multimedia Owner’s Manual” を参照してください。



A メーター操作スイッチ P.75

B 車間距離切りかえスイッチ P.205

C クルーズコントロールスイッチ

レーダークルーズコントロール P.201

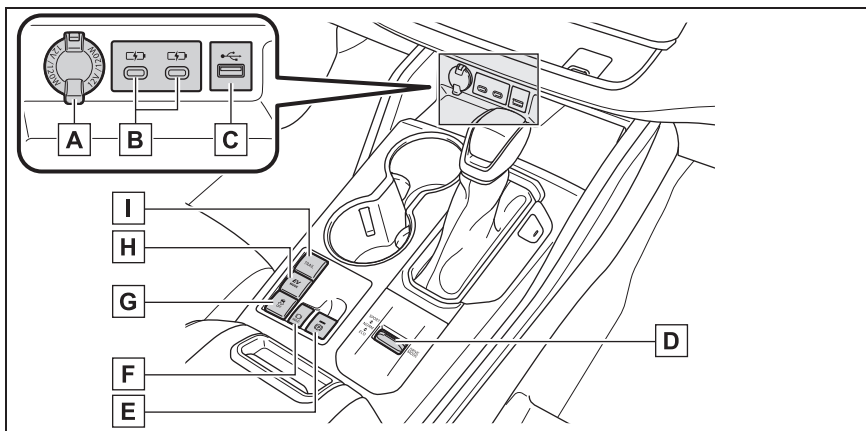
D オーディオスイッチ ※

E LTA（レーントレーシングアシスト）スイッチ P.192

F 電話スイッチ ※

G トークスイッチ ※

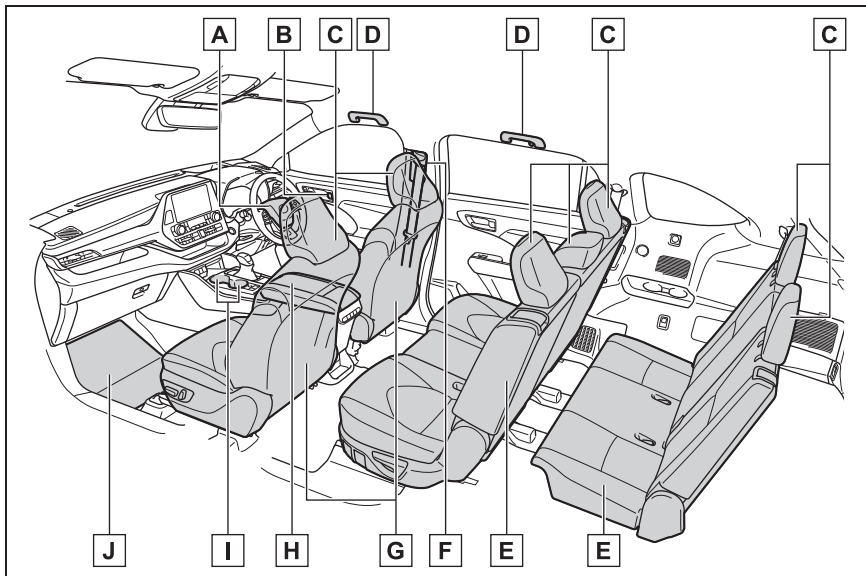
※ 別冊 “Multimedia Owner’s Manual” を参照してください。



A	アクセサリソケット	P.291
B	USB 充電ポート	P.284
C	USB ポート ※	
D	ドライブモードセレクトスイッチ	P.241
E	パーキングブレーキスイッチ	P.159
	かける／解除する	P.159
	冬季の注意	P.252
	警告ブザー／警告ランプ／警告メッセージ	P.352, 359
F	ブレーキホールドスイッチ	P.162
G	VSC OFF スイッチ	P.245
H	EV ドライブモードスイッチ	P.154
I	トレイルモードスイッチ	P.242

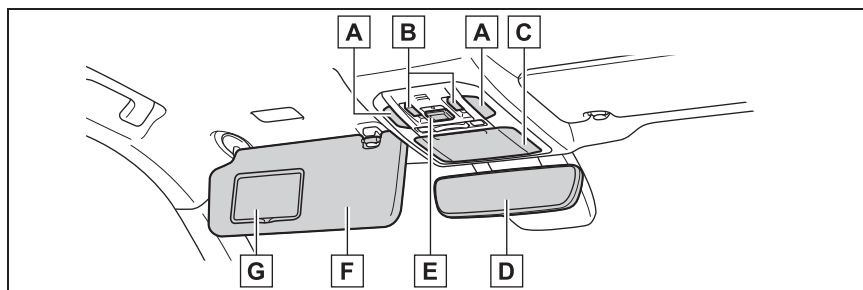
※ 別冊 “Multimedia Owner’ s Manual” を参照してください。

■ 室内



A	SRS エアバッグ	P.28
B	ロックレバー	P.98
C	ヘッドレスト	P.119
D	アシストグリップ	P.290
E	リヤシート	P.115
F	シートベルト	P.24
G	フロントシート	P.114
H	コンソールボックス	P.275
I	カップホルダー	P.276
J	フロアマット	P.22

■天井



A	インテリアランプ ※ ¹	P.272
	パーソナルランプ ※ ¹	P.272
B	ムーンルーフスイッチ ※ ²	P.129
	パノラマムーンルーフスイッチ ※ ²	P.132
C	小物入れ	P.277
D	インナーミラー	P.123
E	“SOS” ボタン ※ ²	
F	サンバイザー ※ ³	P.292
G	バニティミラー	P.292

※¹ イラストは前面を示していますが、リヤにも装備されています。

※² グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※³ やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けしないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。(→P.39)



1-1. 安全にお使いいただくために	
運転する前に	22
安全なドライブのために	23
シートベルト	24
SRS エアバッグ	28
排気ガスに対する注意	34
1-2. お子さまの安全	
お子さまを乗せるときは	36
チャイルドシート	37
1-3. 緊急支援	
トヨタコネクティッドサービス	51
1-4. ハイブリッドシステム	
ハイブリッドシステムの特徴	54
ハイブリッドシステムの注意	57
1-5. 盗難防止装置	
イモビライザーシステム	61
オートアラーム	62

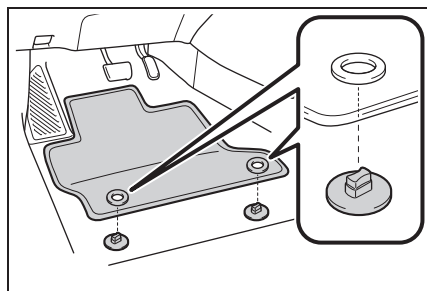
運転する前に

お車を安全に運転していただくために、運転する前は必ず次のことを確認してください。

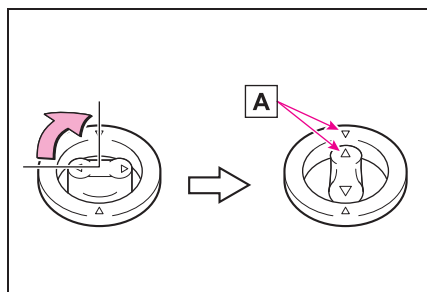
フロアマットを固定するには

専用のフロアマットを、フロアカーペットの上にしっかりと固定してお使いください。

- 1 固定フック（クリップ）にフロアマット取り付け穴をはめ込む



- 2 固定フック（クリップ）上部のレバーをまわして、フロアマットを固定する



△ マーク **A** を必ず合わせてください。

固定フック（クリップ）の形状はイラストと異なる場合があります。

警告

次のことを必ずお守りください。

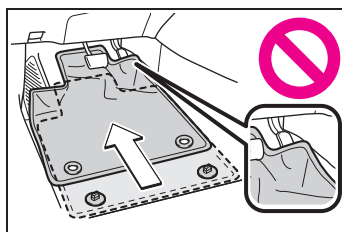
お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、事故の原因になり重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■運転席にフロアマットを敷くとき

- トヨタ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- 運転席専用のフロアマットを使用する
- 固定フック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定する
- 他のフロアマット類と重ねて使用しない
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

■運転する前に

- フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、特に洗車後は必ず確認を行う

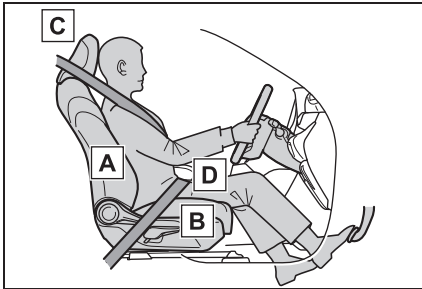


- ハイブリッドシステム停止およびシフトポジションがPの状態、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する

安全なドライブのために

安全に運転するために、走行前にシートやミラーなどを適切に調整してください。

正しい運転姿勢について



- A** まっすぐ座り、運転操作時に体が背もたれから離れないよう、背もたれの角度を調整する (→P.114)
- B** ペダルがしっかりと踏み込め、ハンドルを握ったときにひじが少し曲がるようなシート位置にする (→P.114)
- C** ヘッドレストの中央が耳のいちばん上あたりになるようにする (→P.119)
- D** シートベルトを正しく着用する (→P.24)

⚠ 警告

■ 安全な運転のために

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中は運転席の調整をしないでください。運転を誤るおそれがあります。
- 背もたれと背のあいだにクッションなどを入れないでください。正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあります。
- フロントシートの下にものを置かないでください。ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故や調整機構の故障の原因になります。装備の説明をしています。
- 公道を走行するときは、法定速度や制限速度を遵守してください。
- 長距離ドライブの際は、疲れを感じる前に定期的に休憩してください。また、運転中に疲労感や眠気を感じたときは、無理に運転せず、すみやかに休憩してください。

シートベルトを正しく着用する

すべての乗員は、走行前に必ずシートベルトを正しく着用してください。(→P.24)

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切なチャイルドシートをご用意ください。(→P.37)

ミラーを調整する

後方が確実に確認できるように、インナーミラー／ドアミラーを正しく調整してください。(→P.123, 124)

シートベルト

走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

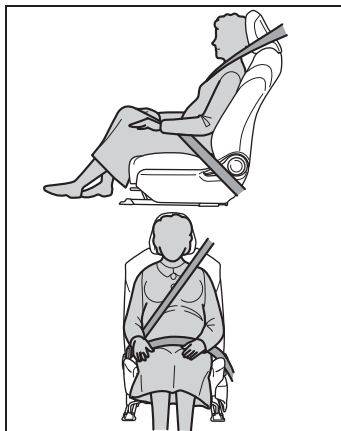
⚠ 警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ シートベルトの着用について

- 全員がシートベルトを着用する
- シートベルトを正しく着用する
- シートベルトは一組につき一人で使用するお子さまでも一組のベルトを複数の人で使用しない
- お子さまはリヤ席に座らせてシートベルトを着用させる
- 背もたれは必要以上に倒さず、上体を起こし、シートに深く座る
- 肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- 腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する

■ 妊娠中の女性の場合



医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。(→P.25)

通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 疾患のある方の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。(→P.25)

■ お子さまを乗せるとき

→P.47

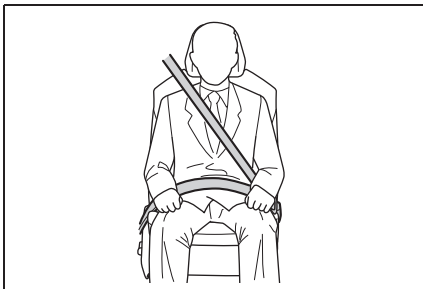
■ シートベルトの損傷／故障について

- ベルトやプレート／バックルなどは、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。
- シートベルトが損傷したときはシートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。

⚠ 警告

- プレートがバックルに確実に挿し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく挿し込めない場合はただちにトヨタ販売店に連絡してください。
- もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート、シートベルトを交換してください。
- プリテンショナー付きシートベルトの取り付けや取りはずし／分解／廃棄などは、トヨタ販売店以外でしないでください。不適切に扱うと、正常に作動しなくなるおそれがあります。

正しく着用する



- 肩部ベルトを肩に十分かける
首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。
- 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る
- ねじれないようにする

□ 知識

■ 緊急ロック式リトラクター（ELR）

リトラクターは急停止時や衝突時にベルトをロックします。前傾姿勢を急にとった場合にもロックされることがあります。ゆっくりと自然な動作でベルトを伸ばせば、体を自由に動かすことができます。

■ お子さまのシートベルトの使い方

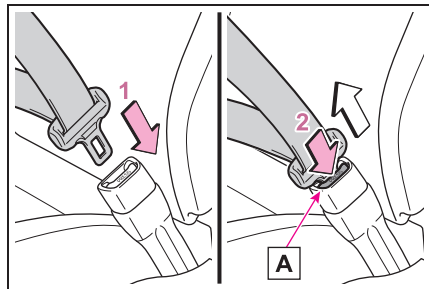
この車のシートベルトは、シートベルトを装着するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

- シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合ったお子さま専用シートを使用してください。（→P.37）
- シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。（→P.24）

■ シートベルトの着用義務

お住まいの国でシートベルトの規制がある場合は、シートベルトの交換または取り付けについてトヨタ販売店にお問い合わせください。

着け方／はずし方



- 1 ベルトを固定するには、“カチッ”と音がするまでプレートをバックルに挿し込む

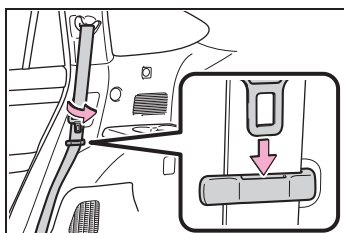
2 ベルトを解除するには、解除ボタン **A** を押す



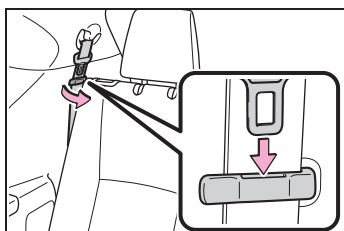
■ リヤシートのシートベルトを使用して いない場合

外側のシートベルトをシートベルトハンガーに通し、シートベルトプレートを固定して肩部ベルトが損傷しないようにしてください。

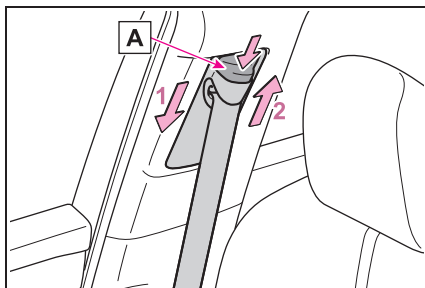
▶ 第2シートベルト



▶ 第3シートベルト



シートベルトの高さ調節（フロント席）



1 解除ボタン **A** を押しながら、

アジャスターを下げる

2 解除ボタン **A** を押しながら、アジャスターを上げる

“カチッ” と音がして固定されるところまで動かしてください。



警告

■ 調節可能な肩部アンカー

肩部アンカーは常に肩の中央に付けるようにしてください。ベルトは首から離し、肩からずり落ちないようにしてください。これを怠ると、急停止／急ハンドル等による事故発生時に保護効果が低下し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

シートベルトプリテンショナー（フロントシート／セカンドシート外側席）

前方／側方から強い衝撃を受けたとき、フロント席／セカンドシート外側席のシートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を保します。

前方／側方からの衝撃が弱いときや、うしろからの衝撃、横転のときは通常は作動しません。



■ 予防連携機能について

PCS（プリクラッシュセーフティ）によって車両との衝突の可能性が高いと判断されたとき、シートベルトプリテンショナーの作動準備を整えます。

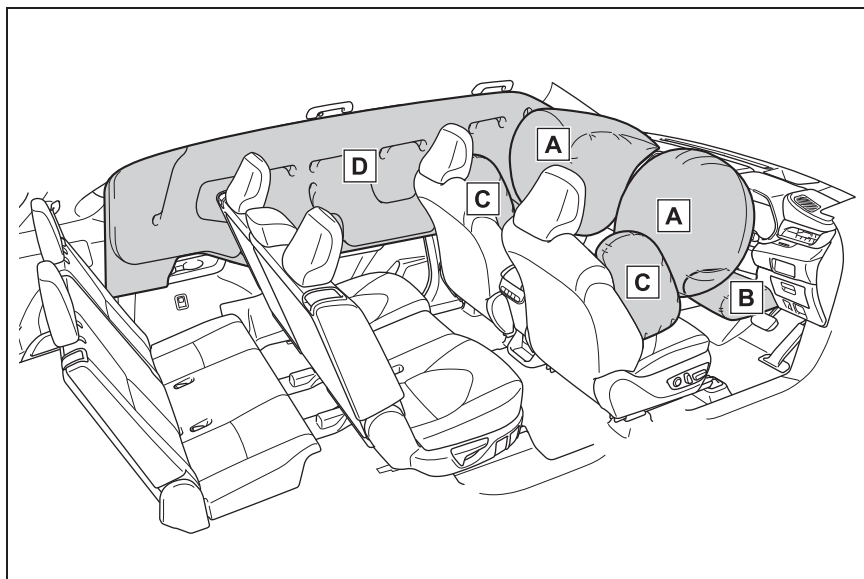
**警告****■ プリテンショナー付きシートベルト
について**

シートベルトプリテンショナーが作動すると、SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合はシートベルトを再使用することができないため、必ずトヨタ販売店で交換してください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて乗員への衝撃を緩和させます。



A フロント SRS エアバッグ（運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ）

運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和

B SRS ニーエアバッグ

運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和

C SRS サイドエアバッグ

フロント席乗員の胸などへの衝撃を緩和

D SRS カーテンシールドエアバッグ

フロント席とリヤ外側席乗員の主に頭部への衝撃を緩和

SRS エアバッグシステムの主要構成部品は上記に示す通りです。SRS エアバッグシステムはエアバッグセンサーアセンブリによって制御されます。エアバッグが展開されると、インフレーター内の化学反応により、エアバッグが速やかに無毒ガスで満たされ、乗員の運動を抑制するのに役立ちます。

知識

■ SRS エアバッグが作動すると

- SRS エアバッグは高温のガスにより非常に速い速度でふくらむため、すり傷／やけど／打撲などを受けることがあります。
- 作動音と共に白いガスが発生します。
- エアバッグ周辺の部品の一部分などだけでなくエアバッグ構成部品（ハンドルのハブ／エアバッグカバー／インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。
- フロントウインドウガラスが破損することがあります。
- ハイブリッドシステムと燃料供給を停止します。（→P.60）
- 自動的にブレーキと制動灯を制御します。（→P.245）
- 室内灯が自動で点灯します。（→P.273）
- 非常点滅灯が自動で点滅します。（→P.344）

■ 緊急通報について

- トヨタコネクティッドサービス の契約期間内は、次の場合、自動的に緊急通報がヘルプネットセンターに送信されます。
 - ・ SRS エアバッグが作動した
 - ・ シートベルトプリテンショナーが作動した
 - ・ オペレーターからの呼びかけに回答がなくても、緊急車両などを手配することがあります。詳しくは“Multimedia Owner’s Manual”を参照してください。

■ 正面からの衝撃で SRS エアバッグが作動するとき

- 次のエアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁

に、車速約 20 ～ 30km/h で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）

以上の場合に作動します。

- ・ フロント SRS エアバッグ
- ・ SRS ニーエアバッグ

- 次の場合はエアバッグが作動する車速は設定値より高くなります。

- ・ 駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合
- ・ もぐり込むような衝突の場合（例えば、車両前部がもぐり込む、下に入り込む、トラックの下敷きになるなど）

- 衝突条件によっては次の部品のみが作動する場合があります。

- ・ シートベルトプリテンショナー

- 前面衝突時でも、特に衝撃が大きい場合は左右の SRS カーテンシールドエアバッグが作動する場合があります。

■ 側面からの衝撃で SRS エアバッグが作動するとき

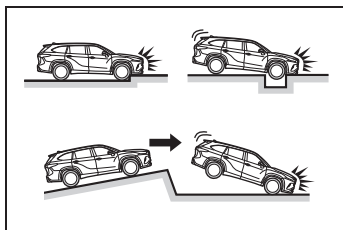
- 次の SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値（約 1.5t の車両が、約 20 ～ 30km/h の速度で客室へ直角に衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。

- ・ SRS サイドエアバッグ
- ・ SRS カーテンシールドエアバッグ

■ 車両下部からの衝撃で SRS エアバッグが作動するとき

- 次の SRS エアバッグは、車両下部が固いものにぶつかったときなどの状況で作動する場合があります。

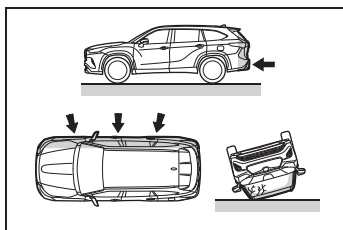
- ・ フロント SRS エアバッグ
- ・ SRS ニーエアバッグ
- ・ SRS サイドエアバッグ
- ・ SRS カーテンシールドエアバッグ



■ SRS エアバッグが作動しないとき

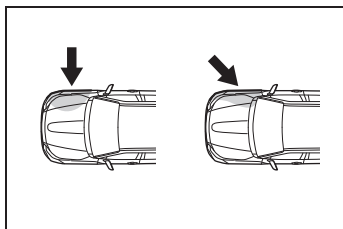
- 次の SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃／横転／または低速での前方からの衝撃では、通常は作動しません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、作動することがあります。

- ・ フロント SRS エアバッグ
- ・ SRS ニーエアバッグ



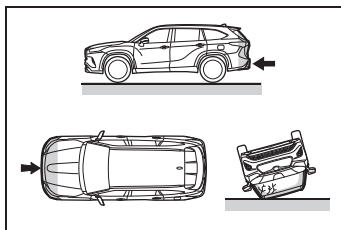
- 次の SRS エアバッグは、斜めから衝撃を受けた場合や、客室部分以外の側面に衝撃を受けたときに作動しない場合があります。

- ・ SRS サイドエアバッグ
- ・ SRS カーテンシールドエアバッグ

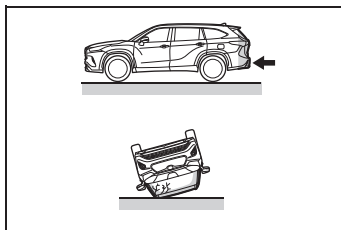


- 次のエアバッグは、前方や後方からの衝撃、横転、または低速での側面からの衝撃では、通常は作動しません。

- ・ SRS サイドエアバッグ



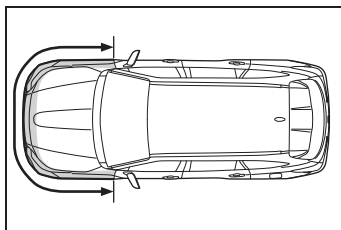
- 次のエアバッグは、後方からの衝撃／横転／または低速での前方や側面からの衝撃では、通常は作動しません。
- ・ SRS カーテンシールドエアバッグ



■ トヨタ販売店に連絡が必要な場合

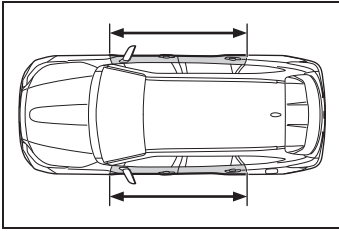
次のような場合には、点検／修理が必要になります。できるだけ早くトヨタ販売店へご連絡ください。

- いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき
- 次のエアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部を衝突したとき、または破損／変形などがあるとき
- ・ フロント SRS エアバッグ
- ・ SRS ニーエアバッグ



- 次のエアバッグはふくらまなかったが、事故でドアおよびその周辺部分を衝突したとき、または破損／変形／穴あきなどがあるとき

- ・ SRS サイドエアバッグ
- ・ SRS カーテンシールドエアバッグ



- ハンドルのパッド部分／ダッシュボードの助手席 SRS エアバッグ付近／インストルメントパネル下部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき
- SRS サイドエアバッグが内蔵されているシート表面が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき
- SRS カーテンシールドエアバッグが内蔵されているフロントピラー／リヤピラー部／ルーフサイド部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

⚠ 警告

■ SRS エアバッグについて

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。

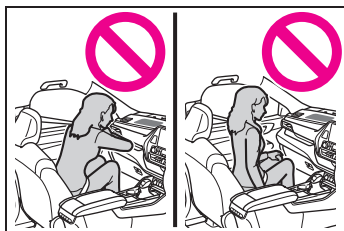
- SRS 運転席エアバッグは強い力で展開し、特に運転席エアバッグに非常に近い位置にいる場合、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。運転席エアバッグの危険領域は、展開開始後 50 ～ 75mm の範囲です。運転席エアバッグから 250mm 離れることで、十分な安全マージンを確保できます。この距離は、ハンドルの中心から胸骨までの距離で測定します。現在の運転姿勢で運転席エアバッグから 250mm 未満の場合、以下の方法で運転姿勢を変更できます：

- ・ ペダルに楽に届く範囲で、シートをできるだけ後方に移動させてください。
- ・ シートバックを少し倒してください。車両設計は様々ですが、多くのドライバーは運転席を最前まで進めた状態でも、シートバックを少し倒すだけで 250mm の距離を確保できます。シートバックを倒すと道路が見えにくくなる場合は、しっかりした滑りにくいクッションで体を高くするか、車両にその機能があればシートを高くしてください。
- ・ ハンドルが調整可能な場合は、下向きに傾けてください。これによりエアバッグが頭や首ではなく胸の方向に向くようになります。

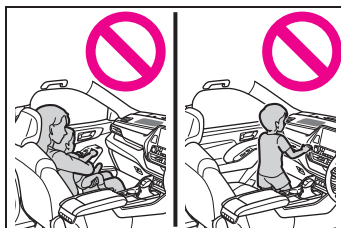
シートは上記の推奨通りに調整し、ペダルとハンドルで車両を操作できる状態を保ちつつ、計器盤の操作部が見える位置に設定してください。

警告

- 助手席SRS エアバッグは強い力でふくらむため、特に乗員がエアバッグに近付きすぎると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。乗員がSRS エアバッグのふくらむ場所に近い場合は特に危険です。シートの背もたれを調整して、シートをできるだけSRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。
- お子さまがシートにしっかり座っていないと、SRS エアバッグのふくらむ衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。お子さまが小さくてシートベルトを使用できないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。お子さまはリヤ席に寄せ、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをおすすめします。(→P.37)
- シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない



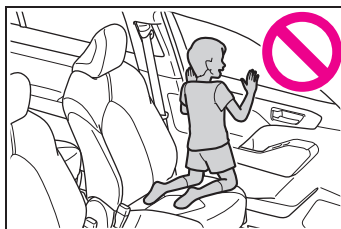
- お子さまを助手席SRS エアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない



- 運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない
- ドアやフロントピラー／センターピラー／リヤピラー／ルーフサイドレールへ寄りかからない

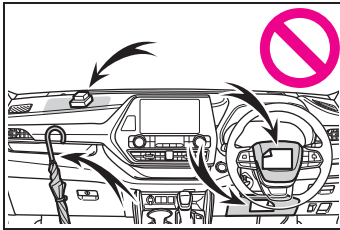


- ドアに向かってひざをついたり、窓から顔や手を出したりしない

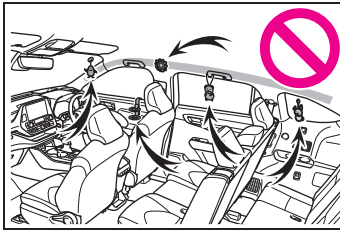


⚠ 警告

- ダッシュボード／ハンドルのパッド部分／インストルメントパネル下部などには何も取り付けたり、置いたりしない



- ドア／フロントウインドウガラス／ドアガラス／フロントピラーおよびリヤピラー／ルーフサイドレール／アシストグリップなどには何も取り付けない



- コートフックにハンガーなどの硬いものをかけないでください。SRS カーテンシールドエアバッグが作動したときに投げ出されて重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- SRS ニーエアバッグがふくらむ場所にビニールカバーが付いている場合は、取り除いてください。

- エアバッグがふくらむ場所を覆うようなアクセサリーを使用しないでください。エアバッグが作動する際、アクセサリーが干渉するおそれがあります。そのようなアクセサリーがエアバッグが正常に作動するのをさまたげ、システムを不能にしたり、またはエアバッグが誤って作動したりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- SRS エアバッグシステム構成部品の周辺およびフロントドアの周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため、ふれないでください。
- SRS エアバッグがふくらんだあとに、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため、残留物はできるだけ早く洗い流してください。
- SRS エアバッグが収納されている部分に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せず、トヨタ販売店で交換してください。

■ 改造／廃棄について

トヨタ販売店への相談なしに、次の改造／廃棄をしないでください。SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- SRS エアバッグの取りはずし／取り付け／分解／修理

⚠ 警告

- 次の部品周辺の修理／取りはずし／改造
 - ・ ハンドル
 - ・ インストルメントパネル
 - ・ ダッシュボード
 - ・ シート
 - ・ シート表皮
 - ・ フロントピラー
 - ・ センターピラー
 - ・ リヤピラー
 - ・ ルーフサイドレール
 - ・ フロントドアパネル
 - ・ フロントドアトリム
 - ・ フロントドアスピーカー
- フロントドアパネルの穴あけなどの改造
- 次の部品やその周辺の修理／改造
 - ・ フロントフェンダー
 - ・ フロントバンパー
 - ・ 車内側面部
- 次の部品、または装置の取り付け
 - ・ グリルガード
 - ・ 除雪装置
 - ・ ウインチ
 - ・ ルーフキャリア
- サスペンションの改造
- CD プレーヤー／無線機などの電化製品の取り付け

排気ガスに対する注意

排気ガスには吸引すると人体に有害な物質が含まれています。

⚠ 警告

排気ガスには無色／無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、排気ガスが車内に侵入し、多量の排気ガスが眠気を招き事故の原因となるほか、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 走行中の留意事項

- バックドアを閉じてください。
- バックドアが閉じているのに車内で排気ガス臭がするときは、ドアガラスを開けて空気を入れかえ、すみやかにトヨタ販売店で点検整備を受けてください。

■ 駐車するとき

- 車庫内など換気が悪い場所や囲まれた場所では、エンジンを停止してください。
- 長時間エンジンが作動したままにしないでください。やむを得ないときは、開かれた場所に車を止め、排気ガスが車内に入ってこないことを確認してください。
- 降雪時や雪が積もった場所では、エンジンが作動したままにしないでください。まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して、車内に侵入するおそれがあります。

 警告**■排気管について**

排気管は定期的に点検する必要があります。排気管等の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気付いた場合は、必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。

お子さまを乗せるときは

お子さまを乗せるときは、次のことをお守りください。

- お子さまにも必ずシートベルトを着用させてください。
シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切なチャイルドシートをご用意ください。
- 運転装置にふれるのを防ぐため、お子さまはリヤシートに乗せることをおすすめします。
- 走行中にドアを開けたり、パワーウィンドウを誤操作したりしないように、チャイルドプロテクター／ウィンドウロックスイッチをご使用ください。(→P.98, 129)
- 小さなお子さまには、パワーウィンドウ／ボンネット／バックドアやシートなど、体を挟まれるおそれがある装備類を操作させないでください。

警告

■ お子さまを乗せるときは

お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付け方などをまとめた「チャイルドシート」を参照してください。

チャイルドシート

ここでは、お車にチャイルドシートを取り付ける前にお守りいただきたいことや、チャイルドシートの種類および取り付け方法などを記載しています。

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。取り付け方法は、商品に付属の取扱説明書に必ず従ってください。

目次

知っておいていただきたいこと：
P.37

チャイルドシートを使用するときは：P.38

シート位置別チャイルドシートの適合性について：P.40

チャイルドシートの取り付け方法：
P.45

- ・ シートベルトで固定する：P.45
- ・ ISOFIX ロアアンカレッジで固定する：P.47
- ・ トップテザーアンカレッジを使用する：P.48

知っておいていただきたいこと

- チャイルドシートに関する注意事項および法規について、優先してお守りください。

- お子さまが成長し、適切にシートベルトが着用できるようになるまではチャイルドシートを使用してください。
- お子さまの年齢／体格に合わせて、適切なチャイルドシートをお選びください。
- すべてのチャイルドシートがすべての車両に適合するわけではありません。チャイルドシートの使用／購入の際は、あらかじめ取り付けのシート位置との適合性を確認してください。
(→P.40)

警告

■ お子さまを乗せるときは

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 事故や急停止の際、効果的にお子さまを保護するために、必ず正しく取り付けられたチャイルドシートを使用して、しっかり体を固定してください。お子さまに最適なチャイルドシートについては、チャイルドシート製造業者、または販売業者にご相談ください。
- トヨタでは、お子さまの年齢や体の大きさに合った適切なチャイルドシートをリヤシートに取り付けることを推奨します。事故統計によると、フロントシートよりリヤシートに適切に取り付けるほうがより安全です。
- お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートのかわりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントウィンドウガラスや乗員、車内の装備にぶつかるおそれがあります。

⚠ 警告

■ チャイルドシートについて

次のことをお守りいただかないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに飛ばされるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 事故等で車両に強い衝撃を受けた場合は、チャイルドシートにも目に見えない破損があるおそれ強いいため、再使用しないでください。
- チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。その場合は、車への取り付けに適したチャイルドシートであるか確認してください（→P.40）。本書のチャイルドシート固定方法およびチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。
- チャイルドシートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかりと取り付けた状態にしてください。ゆるめた状態で客室内に置くことは避けてください。
- チャイルドシートの取りはずしが必要な場合は、車両からはずして保管するか、ラゲージルーム内に容易に動かないように収納してください。

チャイルドシートを使用するとき

■ 助手席にチャイルドシートを取り付けるとき

お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける

場合には、助手席シートを次のように調整し、チャイルドシートを取り付けてください。

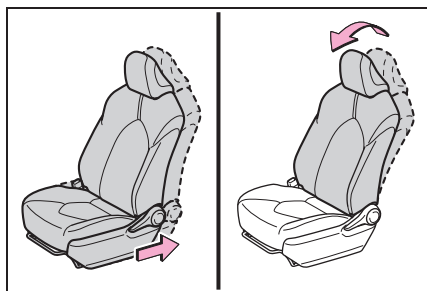
- シートをいちばんうしろに下げる

- 背もたれを可能な限り起こす

背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように調整してください。

- ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずす

取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。



⚠ 警告

■ チャイルドシートを使用するとき

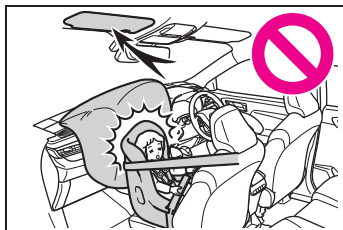
次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 警告

- やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。うしろ向きに取り付けていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

助手席側のサンバイザーに、同内容のラベルが貼られています。

併せて参照してください。

**⚠ 警告**

警告

- やむを得ず助手席に前向きにチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートをいちばんうしろに下げて取り付けてください。助手席 SRS エアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

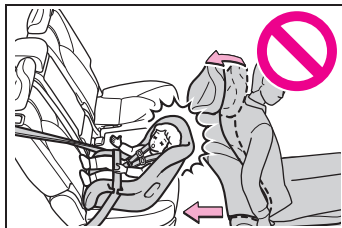


- チャイルドシートに座らせている場合でも、ドア／シート／フロントピラー／リヤピラー／ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分も、もたれかけないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。

- お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用して、リヤシートに取り付けてください。
- 運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のリヤ席に取り付けてください。



- 助手席シートとチャイルドシートが干渉しないように、助手席シートを調整してください。

シート位置別チャイルドシートの適合性について

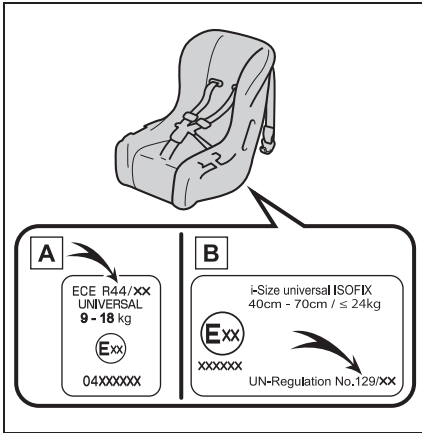
■ シート位置別チャイルドシートの適合性一覧表について

シート位置別チャイルドシートの適合性 (→P.41) は、使用可能なチャイルドシートの種類や取り付け可能なシート位置を記号で表しています。

また、お子さまに合った推奨チャイルドシートについても選択することができます。推奨チャイルドシートについては、「推奨チャイルドシートと適合性一覧表」を確認してください。次に記載されている、「シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に」も併せて確認してください。

■ シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に

- 1 チャイルドシートの規格を確認する UN(ECE) R44※¹ または、UN(ECE) R129※^{1, 2} に適合したチャイルドシートを使用してください。適合したチャイルドシートには、次の認可マークが表示されています。チャイルドシートに付いている認可マークを確認してください。



法規番号の表示例

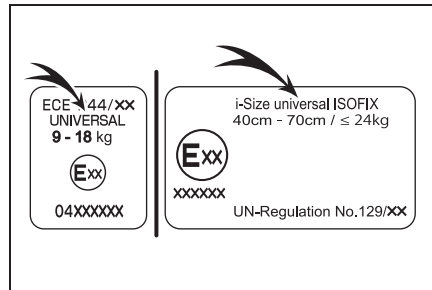
- A** UN(ECE) R44 認可マーク ※³
対象となるお子さまの体重の範囲が記載されています。
- B** UN(ECE) R129 認可マーク ※³

対象となるお子さまの身長範囲および使用可能な体重が記載されています。

- 2 チャイルドシートのカテゴリーを確認するチャイルドシートのカテゴリーが次のどのカテゴリーに該当するのか、チャイルドシートの認可マークを確認く

ださい。また、ご不明な場合はチャイルドシートに付属の取扱説明書を確認頂くか、または販売業者へ確認してください。

- ・ユニバーサル「universal (汎用)」
- ・セミユニバーサル「semiuniversal (準汎用)」
- ・リストラクティッド「restricted (限定)」
- ・ビークルスペシフィック「vehicle specific (特定車両)」

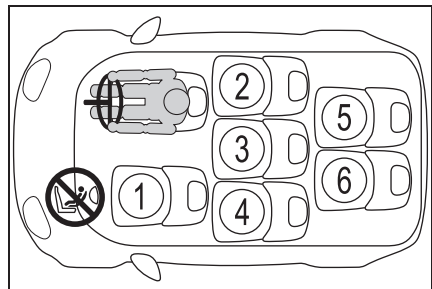


※¹ UN(ECE) R44、UN(ECE) R129 は、チャイルドシートに関する国連法規です。

※² 表に記載されているチャイルドシートは、EU 地域以外では利用できない場合があります。

※³ 表示されているマークは、商品により異なります。

■ シート位置別チャイルドシートの適合性



① ※1, 2, 3	U ※4	
② ※3, 5	U Anchor icon	ISOFIX icon
③ ※3, 5	U Anchor icon	
④ ※3, 5	U Anchor icon	ISOFIX icon
⑤ ※6	U	
⑥ ※6	U	



車両のシートベルトで固定するタイプのユニバーサル（汎用）カテゴリーのチャイルドシートに適しています。



i-Size チャイルドシートおよび ISOFIX チャイルドシートに適しています。



トップテザーアンカレッジが装備されています。

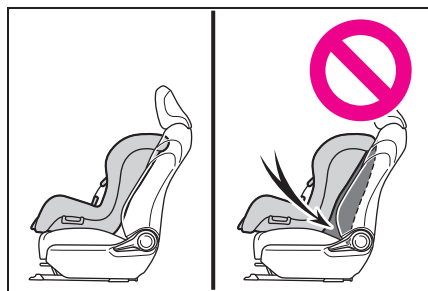


やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けしないでください。

※¹シートをいちばんうしろに下げた状態で取り付けてください。シートの高さ調整ができる場合は、いちばん高い位

置に調整してください。

※²背もたれを可能な限り起こしてください。前向きにチャイルドシートを取り付けるときに、背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。



※³ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。

※⁴チャイルドシートを必ず、前向きで使用してください。

※⁵チャイルドシートを取り付けた場合、シートバックを最も直立した位置から3番目のロック位置に調整してください。

※⁶チャイルドシートを取り付けた後は、ヘッドレストを使用位置（直立状態）に戻してください。

■ チャイルドシート取り付けに関する詳細情報

着座位置						
シート位置の番号	①	②※ ¹	③※ ¹ 1	④※ ¹	⑤※ ¹ 2	⑥※ ¹ 2
ユニバーサル（汎用）ベルト式が搭載可能な着座位置（有／無）	有 前向きのみ	有	有	有	有	有
アイサイズ着座位置（有／無）	無	有	無	有	無	無
搭載可能な横向きチャイルドシートの治具（L1／L2／無）	無	無	無	無	無	無
搭載可能なうしろ向きチャイルドシートの治具（R1／R2X／R2／R3／無）	無	R1, R2X, R2, R3	無	R1, R2X, R2, R3	無	無
搭載可能な前向きチャイルドシートの治具（F2X／F2／F3／無）	無	F2X, F2, F3	無	F2X, F2, F3	無	無
搭載可能なジュニアシートの治具（B2／B3／無）	無	B2, B3	無	B2, B3	無	無

※¹チャイルドシートを取り付けた場合、シートバックを最も直立した位置から3番目のロック位置に調整してください。

※²チャイルドシートを取り付けた後は、ヘッドレストを使用位置（直立状態）に戻してください。

ISOFIX チャイルドシートはいくつかの“fixture”に分かれています。上記の表に示す“fixture”の着座位置でチャイルドシートを使用することができます。“fixture”の種類は、次の表を確認ください。

チャイルドシートの“fixture”の種類を確認するために、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。お手持ちのチャイルドシートに“fixture”の種類がない（または必要な情報が表の中にある）場合は、チャイルドシートの“vehicle list”を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。

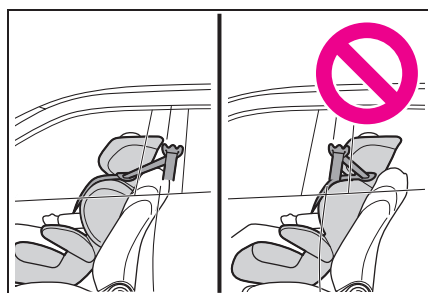
治具	使用の向き／形状／大きさ
F3	全高前向きチャイルドシート
F2	低型前向きチャイルドシート
F2X	低型前向きチャイルドシート
R3	大型うしろ向きチャイルドシート
R2	小型うしろ向きチャイルドシート
R2X	小型うしろ向きチャイルドシート
R1	うしろ向きチャイルドシート
L1	左向き寝台式チャイルドシート
L2	右向き寝台式チャイルドシート
B2	ジュニアシート
B3	ジュニアシート

チャイルドシートの隣の席を使用するときは、肩部ベルトが確実に肩を通り、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置に密着することを確認してください。チャイルドシートの隣の席に座ったときに、チャイルドシートの種類によっては、乗員の体またはシートベルトがチャイルドシートと干渉するためシートベルトが正しく着用できず、十分な効果を発揮できない場合があります。その場合は、他の席を使用してください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- リヤシートにチャイルドシートを取り付けるときは、お子様やチャイルドシートがフロントシートと干渉しないようにフロントシートを調整してください。
- サポートベース付きのチャイルドシートを取り付けるときに、チャイルドシートをサポート

ベースへ固定する際にチャイルドシートが背もたれと干渉する場合は、チャイルドシートが干渉しなくなるまで背もたれを調整してください。

- シートベルトの肩部アンカーがチャイルドシートベルトガイドより前にある場合は、シートを前方に動かします。



- ジュニアシートを取り付けるときに、お子様がかなり直立した姿勢になる場合は、背もたれの角度を最も快適な位置に調整します。また、シートベルトの肩部アンカーがチャイルドシート

ベルトガイドより前にある場合

は、シートを前方に移動します。

チャイルドシートの取り付け方法

チャイルドシートの取り付けについては、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。

固定方法	ページ
シートベルトで固定する	P.45
ISOFIX ロアアンカレッジ で固定する	P.47
テザーベルトを固定する	P.48

チャイルドシートをシートベルトで固定する

■ シートベルトで固定する

チャイルドシートに付属の取扱説

明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

お手持ちのチャイルドシートが“universal” カテゴリーでない（または必要な情報が表の中にな

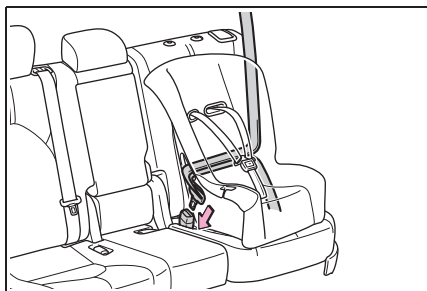
い) 場合は、チャイルドシートメーカーが提供する“Vehicle List”を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。(→P.41, 41)

- 1 やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合は、助手席シートを正しく調整してください。(P.38)
- 2 2番目のシートを使用する際は、シートバックを最も直立した位置から3番目のロック位置に調整してください。
- 3 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずしてください。取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。(→P.119)

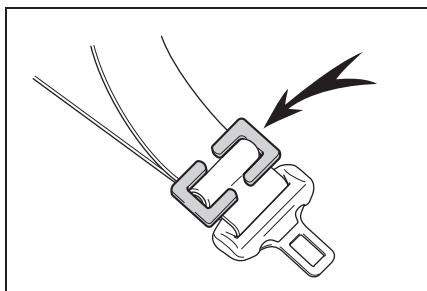
3番目のシートを使用する際は、ヘッドレストを使用位置(直立状態)に戻してください。(→P.118)

- 4 チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートをバックルに“カチッ”と音がするまで挿し込む。ベルトがねじれていないようにする。チャイルドシートに付属の取扱説明書に従い、シートベルトをチャイル

ドシートにしっかりと固定させてください。



- 5 チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は、ロッキングクリップ(別売)を使用して固定する。ロッキングクリップの購入にあたっては、トヨタ販売店にご相談ください。(ロッキングクリップ品番: 73119-22010)



- 6 取り付け後はチャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかりと固定されていることを確認してください。(→P.47)

■ チャイルドシートの取りはずし

バックルの解除ボタンを押し、シートベルトをチャイルドシートから取りはずす

バックル解除時に、シートクッションの反発により、チャイルドシートが跳ね上

ることがあります。チャイルドシートを抑えながらバックルの解除をしてください。

シートベルトは自動的に巻き取られますので、ゆっくりもどしてください。

知識

■チャイルドシートを取り付けるとき

チャイルドシートを取り付けるにはロッククリップ（別売）が必要になる場合があります。ロックングクリップの購入にあたっては、トヨタ販売店にご相談ください。（ロックングクリップ品番：73119-22010）

警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。
- シートベルトのプレートとバックルがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかり固定されているか確認してください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。

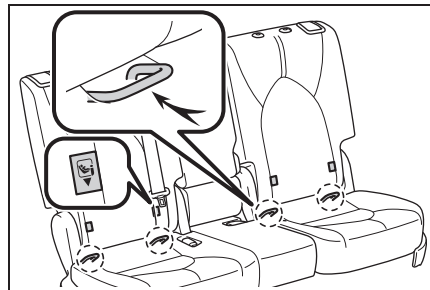
- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。

- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

チャイルドシートを ISOFIX ロアアンカレッジで固定する

■ ISOFIX ロアアンカレッジについて

この車はセカンドシート外側席に ISOFIX ロアアンカレッジが装備されています。（ロアアンカレッジが装備されていることを示すボタンがシートに付いています）



■ ISOFIX ロアアンカレッジで固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

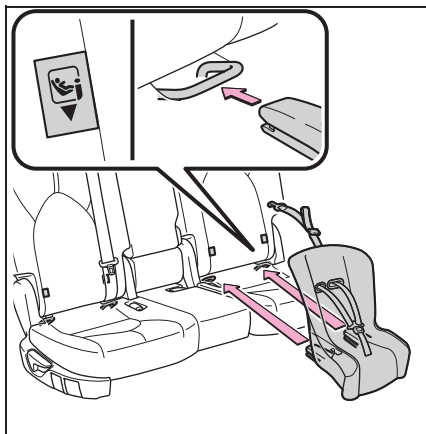
お手持ちのチャイルドシートが“universal” カテゴリーでない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートメーカーが提供する“Vehicle List”を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認

してください。(→P.41, 41)

- 1 シートの背もたれを、最も直立した位置から3番目のロック位置まで調整する。
- 2 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずしてください。取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。(→P.119)

3 チャイルドシートをシートに取り付ける

チャイルドシートのコネクタ(取り付け金具)をロアアンカレッジに取り付けます。取り付け方法は、それぞれのチャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってください。



- 4 取り付けたチャイルドシートを前後左右にゆすり、固定されていることを確認する(→P.47)

⚠ 警告

■ チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- SOFIX ロアアンカレッジを使用するときは、周辺に障害物がないか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

■ チャイルドシートアンカレッジの使用

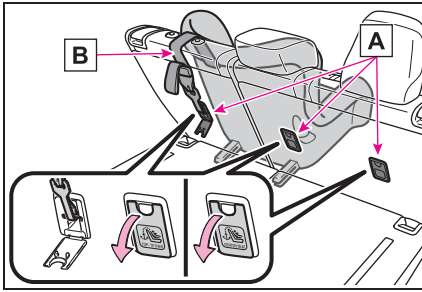
警告：チャイルドシートアンカレッジは、正しく装着されたチャイルドシートによる負荷のみに耐えるよう設計されています。いかなる場合も、大人用シートベルト、ハーネス、または車両へのその他の物品や機器の取り付けに使用しないでください。

トップテザーアンカレッジを使用する

■ トップテザーアンカレッジについて

この車はリヤ外側席にトップテザーアンカレッジが装備されています。

テザーベルトを固定するときに使います。



A トップテザーアンカレッジ

B テザーベルト

■ テザーベルトをトップテザーアンカレッジに固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

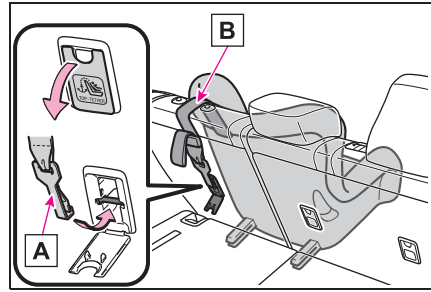
1 ヘッドレストを上げる

ヘッドレストとチャイルドシートまたはテザーベルトが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずしてください。(→P.119)

2 トップテザーアンカレッジにフックを固定し、テザーベルトを締める

テザーベルトをピンと張り、フックがしっかり固定されていることを確認します。(→P.47)

ヘッドレストを上げた状態でチャイルドシートを取り付けるときは、テザーベルトは必ずヘッドレストの下へ通してください。



A フック

B テザーベルト

⚠ 警告

■ チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- テザーベルトがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- テザーベルトはトップテザーアンカレッジ以外にかけないでください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。
- ヘッドレストを上げた状態でチャイルドシートを取り付けるときは、ヘッドレストを引き上げてトップテザーアンカレッジに固定したあとに、ヘッドレストを下げないでください。

 警告**■チャイルドシートアンカレッジの使用**

警告：チャイルドシートアンカレッジは、正しく装着されたチャイルドシートによる負荷のみに耐えるよう設計されています。いかなる場合も、大人用シートベルト、ハーネス、または車両へのその他の物品や機器の取り付けに使用しないでください。

 注意**■トップテザーアンカレッジについて**

使用しないときはフタを確実に閉めてください。開けたままにしておくとフタが破損するおそれがあります。

トヨタコネクティッドサービス ※1,2

※1グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

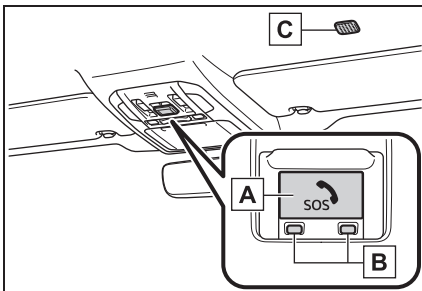
※2トヨタコネクティッドサービスの範囲内で動作します。

トヨタコネクティッドサービスは、全地球測位システム（GPS）データと組み込みセルラーテクノロジーを使用して、ACN（自動衝突通知）とSOS緊急通報（手動緊急サービス通知）（“SOS” ボタンを押すことによって）の緊急通報を可能にするテレマティクスサービスです。

トヨタコネクティッドサービスの詳細については、以下をご覧ください。

<https://www.toyota.com.au/connected>

各部の名称とはたらき



A “SOS” ボタン ※

B 表示灯

C マイク

※ このボタンは緊急通報センターとの通

信を目的としています。他の車両のシステムに搭載されているヘルプネットボタンは本装置とは関係がなく、緊急通報センターとの通信には使用しないでください。

トヨタコネクティッドサービス

■ ACN（自動衝突通知）

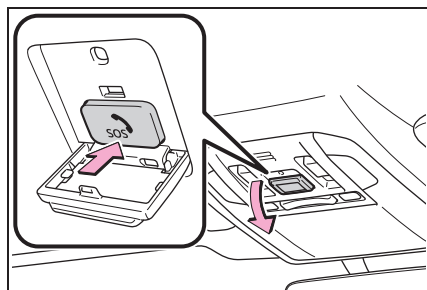
エアバッグが作動した場合、システムは自動的に緊急コールセンターに通報するように設計されています。※ コールセンターのエージェントは、車両の位置、事故発生時刻、車両識別番号（VIN）を特定し、乗員との会話を通じて状況を把握します。乗員が意思疎通できない場合、コールセンターのエージェントは自動的に通報を緊急事態として扱い、緊急サービスに連絡して状況を説明し、現場への救援派遣を要請します。

※ 場合によっては通話ができないことがあります。（→P.52）

■ SOS 緊急通報（手動緊急サービス通知）

緊急事態が発生した場合は、“SOS” ボタンを押して緊急コールセンターに電話してください。※ コールセンターのエージェントが車両の位置を特定し、状況を評価して、必要な援助を派遣します。

“SOS” ボタンを押す前に必ずカバーを開けてください。



誤って“SOS”ボタンを押した場合は、コールセンターのエージェントに緊急事態ではないことを伝えてください。

※ 場合によっては通話ができないことがあります。(→P.52)

表示灯

電源を ON にすると、赤色の表示灯が 2 秒間点灯し、その後消灯します。その後、緑色の表示灯が点灯し、動作中であることを示します。以下の表示灯のパターンは、特定のシステム使用状況を示しています。

- 緑の表示灯が点灯 = 動作中のとき
- 緑の表示灯が 2 回点滅 = 通報中のとき
- 電源を ON にした直後以外で赤色の表示灯が点灯する場合は、システムの故障またはバックアップバッテリーの消耗が考えられます。トヨタ販売店にご連絡ください。



■ フリー／オープンソースソフトウェア情報について

本製品はフリー／オープンソースソフトウェアを含んでいます。

このようなフリー／オープンソースソフトウェアのライセンス情報やソースコードの両方またはどちらか片方は以下の URL で入手することができます。

<http://www.opensourceautomotive.com/dcm/19MC/>

⚠ 警告

■ ACN/SOS ができない場合

- 以下の状況では、ACN/SOS を発信できない場合があります。その場合は、近くの公衆電話などを利用して、緊急通報機関（000 システムなど）に通報してください。
- ・ 車両が携帯電話のサービスエリア内であっても、電波状況が悪い場合や回線が混雑している場合など、緊急通報センターに繋がりにくい場合があります。その場合、緊急通報センターに接続できないことがあります。
- ・ 車両が携帯電話のサービスエリア外にある場合、ACN/SOS を発信することはできません。
- ・ 関連する機器（“SOS” ボタンパネル、表示灯、マイク、DCM、アンテナ、機器を接続する配線など）が故障、損傷、または破損している場合は、ACN/SOS を発信できません。
- ・ 対応済みのトヨタ車は、コネクティッドサービスを提供するために車両データを収集・送信します。ヘルプネットボタンの下の緑色の LED が点灯していない場合、SOS と自動衝突通知が無効になっている可能性があります。再有効化を含む詳細については、こちらをご覧ください。
<https://www.toyota.com.au/privacy>

⚠ 警告

- ・ ACN/SOS サービス中は、緊急通報センターへの接続を繰り返し試みます。ただし、電波状況の悪化などにより緊急通報センターに接続できない場合、携帯電話ネットワークに接続できず、接続されずに通話が終了することがあります。その場合、車両スピーカーから音声ガイダンスが流れ、通話が切断されたことをお知らせします。
- 12 ボルト バッテリーの電圧が低下したり、接続が切断されたりすると、システムが緊急通報センターに接続できなくなる可能性があります。
- ACN/SOS システムは、オーストラリア国内で利用可能なインフラストラクチャによっては、オーストラリア地域外では機能しない可能性があります。

■ ACN/SOS システムが新しいものに置き換えられた場合

ACN/SOS システムの登録が必要です。トヨタ販売店にお問い合わせください。

■ 安全のために

- 安全運転を心がけてください。このシステムは、交通事故や急な医療緊急事態などが発生した場合に、適切な救急サービスへの連絡を支援するものであり、運転手や同乗者を保護するものではありません。安全運転を心がけ、常にシートベルトを着用してください。
- 緊急事態が発生した場合は、人命の保護を最優先にしてください。
- 何かが焦げているような臭いや異常な臭いがした場合は、直ちに車両から降りて安全な場所に避難してください。

- システムが正常に作動している状態でエアバッグが展開した場合、緊急通報が発信されます。また、エアバッグが展開していない場合でも、車両が後方から衝突されたり横転したりした場合には、緊急通報が発信されます。
- 安全のため、運転中は“SOS” ボタンを押さないでください。運転中の通話はハンドル操作を誤らせ、思わぬ事故につながる可能性があります。“SOS” ボタンを押す前に、必ず車を停車させ、周囲の安全を確認してください。
- ヒューズを交換する際は、必ず指定のヒューズをご使用ください。指定以外のヒューズを使用すると、回路内で発火や発煙が発生し、火災につながる可能性があります。
- 煙が出ているときや異臭がしているときなどに使用すると、火災の原因となる恐れがあります。直ちに使用を中止し、トヨタ販売店にご相談ください。

⚠ 注意**■ 損傷を防ぐために**

“SOS” ボタンパネル等に液体をかけた り、衝撃を与えたりしないでください。

■ ACN/SOS サービス中に “SOS” ボタンパネル、スピーカー、またはマイクが故障した場合

ACN/SOS の発信、システムステータスの確認、コールセンターエージェントとの通信ができない場合があります。上記の機器のいずれかが損傷している場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

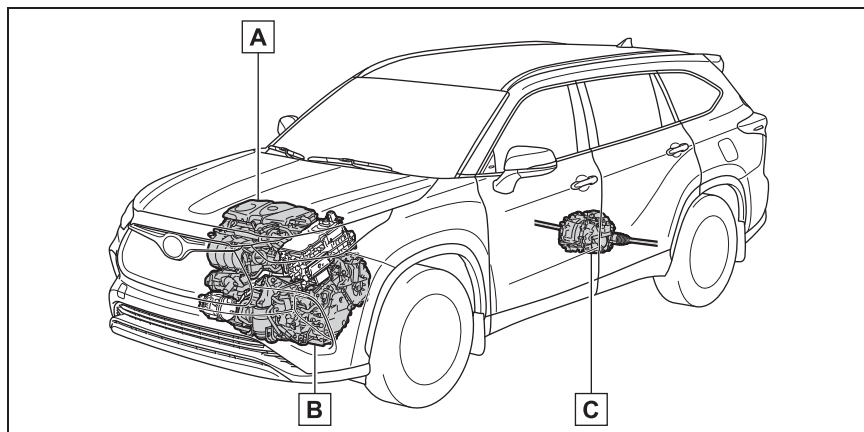
ハイブリッドシステムの特徴

お客様のお車はハイブリッド電気自動車です。従来の車両とは異なる特性があります。車両の特性を十分に理解し、注意深く操作してください。

ハイブリッドシステムは、電気モーターとガソリンエンジンという2つのパワーのシナジー（相乗）効果により、優れた動力性能と低燃費化の両立を高い次元で実現したシステムです。さらに、排出ガスを低減、クリーン化した環境に配慮した技術となっています。

システムの構成部品

■ システムの構成部品



イラストは説明のための例であり、実際とは異なります。

A ガソリンエンジン

B フロント電気モーター

C リヤ電気モーター（4WD 車）

■ 停車時／発進時／低速走行時

停車中はガソリンエンジンを停止します※。発進時は電気モーターを使って発進します。低速走行時や下り坂走行時もガソリンエンジンを停止※し、電気モーターを使って走行します。

シフトレバーがNにあるときは駆動用電池への充電が行われません。

※ 駆動用電池の充電が必要ときやエンジン暖機中など、ガソリンエンジンが自動停止しないことがあります。
(→P.55)

■ 通常走行時

主にガソリンエンジンを使用して

走行します。必要に応じて電気モーターを発電機として動かし、駆動用電池へ充電します。

■ 急加速時

アクセルペダルを強く踏み込むと、ガソリンエンジンに加え、駆動用電池からも電気モーターに電力を供給し、電気モーターの出力を上げ、力強く加速します。

■ 減速時／制動時（回生ブレーキ）

車輪が電気モーターを発電機として動かし、駆動用電池へ充電します。



知識

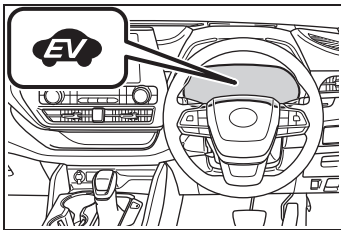
■ 回生ブレーキについて

次の場合、車の運動エネルギーを電気エネルギーに変換し、駆動用電池へ充電すると共に減速力を得ることができます。

- シフトレバーがD またはS で走行中に、アクセルペダルから足を離したとき
- シフトレバーがD またはS で走行中に、ブレーキペダルを踏んだとき

■ EV インジケーターについて

ガソリンエンジン停止中や、電気モーターのみで走行しているときに、EV インジケーターが点灯します。



■ ガソリンエンジンの自動停止について

車両状態に応じて、ガソリンエンジンは自動的に始動／停止します。ただし、次のいずれかの状態では自動停止しないこ

とがあり、燃費が低下する場合があります＊。

- ガソリンエンジン暖機中
- 駆動用電池充電時
- 駆動用電池の温度が高いとき、または低いとき
- 暖房をかけているとき
- 急加速／急減速をくり返したとき
- 長時間のハイブリッドシステム作動をくり返したとき
- 長い下り坂を走行したとき

＊ 状況により、上記の他にもガソリンエンジンが自動停止しない場合があります。

■ 駆動用電池の充電について

ガソリンエンジンの動力による充電や回生ブレーキにより、駆動用電池が充電されるため、車外からの充電は必要ありません。しかし、車両を長時間放置すると、少しずつ放電します。そのため少なくとも、2～3ヶ月に一度、約30分間または16kmほど運転してください。万一、駆動用電池が完全に放電し、ハイブリッドシステムを始動できないときはトヨタ販売店にご連絡ください。

■ 補機バッテリーの充電について

→P.378

■ 補機バッテリーあがり発生後や、交換などでターミナルを脱着したとき

ガソリンエンジンの動力による充電や回生ブレーキにより、駆動用電池が充電されるため、車外からの充電は必要ありません。しかし、車両を長時間放置すると、少しずつ放電します。そのため少なくとも、2～3ヶ月に一度、約30分間または16kmほど運転してください。万一、駆動用電池が完全に放電し、ハイブリッドシステムを始動できないときはトヨタ販売店にご連絡ください。

■ハイブリッド車特有の音と振動について

ハイブリッド車は、“READY” インジケーターが点灯し、走行可能な状態でも、通常の車のように、エンジン音や振動がないことがあるため、走行可能な状態であることに気が付かない場合があります。安全のため、駐車時は確実にシフトレバーをPにして、パーキングブレーキをかけてください。

ハイブリッドシステム始動後は、次のような音や振動が発生する場合がありますが、異常ではありません。

- エンジンルームからのモーター音
- ハイブリッドシステム始動時や停止時に聞こえる車両後方および駆動用電池からの音
- ハイブリッドシステム始動時および停止時に車両後方から聞こえる “コトン”、“カチッ” などの高電圧リレーの音
- バックドアを開けたときに聞こえる作動音
- ガソリンエンジンの始動／停止時や低速走行時、およびアイドリング中にトランスミッション付近から聞こえる音
- 急加速時のエンジン音
- ブレーキペダルを踏んだときや、アクセルペダルをゆるめたときに聞こえる回生ブレーキの音
- ガソリンエンジンの始動／停止による振動
- リヤシート下（左側）にある吸入口から聞こえるファンの音

■メンテナンスや修理、廃車について

お車のメンテナンスや修理／廃車の際は必ずトヨタ販売店にご相談ください。特に廃車する場合は、トヨタ販売店を通じて駆動用電池の回収を行っていますので、ご協力ください。

車両接近通報装置

ガソリンエンジンが停止した状態での走行時、車両の接近を周囲の人に知らせるため、車速に応じた音階で音を鳴らします。車速が約25km/h をこえると消音します。

知識

■車両接近通報装置について

次のような場合は、周囲の人に通報音が聞こえにくくなる場合があります。

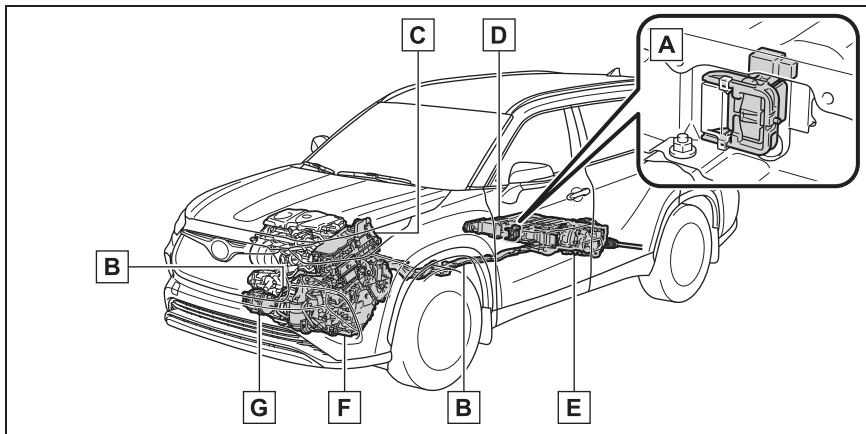
- 周囲の騒音が大きい場合
- 雨または強風の場合

また、車両接近通報装置は車両前側にあるので、車両前方と比較して、車両後方は聞こえにくくなる場合があります。

ハイブリッドシステムの注意

ハイブリッドシステムには、駆動用電池／パワーコントロールユニット／オレンジ色の高圧ケーブル／電気モーターなどの高電圧部位（最高約650V）や、冷却用ラジエーターなどの高温部位がありますので、ご注意ください。ご使用前に、ここで説明している内容をよくお読みいただき、正しく取り扱ってください。なお、高電圧部位には、取り扱い上の注意喚起のため ⚠ 表示を含んだラベルが貼付されています。

システムの構成部品



イラストは説明のための例であり、実際とは異なります。

- A** サービスプラグ
- B** 高電圧ケーブル（オレンジ色）
- C** パワーコントロールユニット
- D** 駆動用電池
- E** リヤ電気モーター（4WD 車）
- F** フロント電気モーター
- G** エアコンコンプレッサー

知識

■ ガス欠になったとき

ガス欠でハイブリッドシステムが始動できないときは、燃料残量警告灯

(→P.354) が消灯するまで給油してから再始動してください。少量の給油では始動できない場合があります。（給油量の目安は車両水平状態で約 11.05L 以上です。車両の傾きによって給油量はかわります。傾いているときは、少し多めに給

油してください)

■電磁波について

- 高電圧部位や高電圧配線は、電磁シールド構造になっています。従来の車や家電製品とくらべて、電磁波が多いということはありません。
- アマチュア無線の一部（遠距離通信）において、受信時に雑音が混入する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

■駆動用電池について

駆動用電池には寿命があります。寿命は車の使い方、走行条件により異なります。

■適合宣言

この車両は、ECE100（バッテリー電気車両安全）に基づいた水素排出量に適合しています。

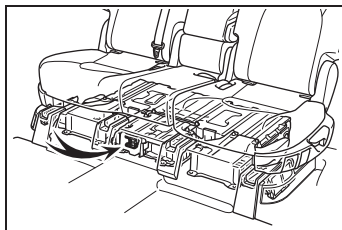
⚠ 警告

■高電圧／高温について

この車は、高電圧システムを使用しています。次のことをお守りいただかないと、やけどや感電など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 高電圧部位／高電圧の配線（オレンジ色）およびそのコネクターの取りはずし／分解などは絶対に行わないでください。
- 高電圧部位にふれないでください。特に走行後は高温になっており危険です。

- サービスプラグが駆動用電池に設置してあります。サービスプラグは絶対にさわらないでください。サービスプラグは、トヨタ販売店での車両の修理時などに、駆動用電池の高電圧を遮断するためのものです。



■事故が発生したとき

次のことをお守りいただかないと、感電など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 続発事故防止のため安全な場所に停車して、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーをPに入れ、ハイブリッドシステムを停止する
- 高電圧部位／高電圧配線（オレンジ色）などには、絶対にさわらない
- 車室内および車室外に、はみ出している電気配線には絶対さわらない
- 液体の付着やもれがある場合は絶対にさわらない
駆動用電池の電解液（炭酸エステルを主とする有機電解液）が目や皮膚にふれると失明や皮膚傷害のおそれがあり危険です。万一、目や皮膚に付着した場合はただちに多量の水で洗い流し、早急に医師の診察を受けてください。
- 万一、車両火災が発生したときは、ABC 消火器を使用して消火する水をかける場合は、消火栓などから大量にかけてください。

⚠ 警告

- 前輪 (FF 車) または 4 輪 (4WD 車) が接地した状態でけん引しない電気モーターから発電され、破損の状態によっては、火災のおそれがあり危険です。(→P.348)
- 車の下の路面などを確認し、液体のもれ (エアコンの水以外) が見つかった場合、燃料系統が損傷している可能性があります。そのままハイブリッドシステムを始動すると燃料に引火するおそれがあり危険ですので、始動しないでください。この場合は、トヨタ販売店に状況を連絡するときに併せてお伝えください。

■ 駆動用電池について

- 絶対に転売／譲渡／改造などをしないでください。廃車から取りはずされた駆動用電池は事故防止のため、トヨタ販売店を通じて回収を行っていますので、ご協力ください。

適切に回収されないと、次のようなことがおこり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ・ 不法投棄または放置され、環境汚染となるばかりか、第三者が高電圧部位に触れてしまい、感電事故が発生する
- ・ 装備された車両以外で駆動用電池を使用 (改造などを含む) し、感電事故、発熱／発煙／発火／爆発事故、電解液漏出事故などが発生する

特に、転売／譲渡などを行うと、相手にこれらの危険性が認識されず、事故につながるおそれがあります。

- 駆動用電池を取りはずさないままでお車を廃棄された場合、高電圧部品／ケーブル／それらのコネクターにふれると、深刻な感電の危険があります。お車を廃棄するときには、トヨタ販売店で駆動用電池を廃棄してください。駆動用電池は適切に廃棄しないと、感電を引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■ 駆動用電池について

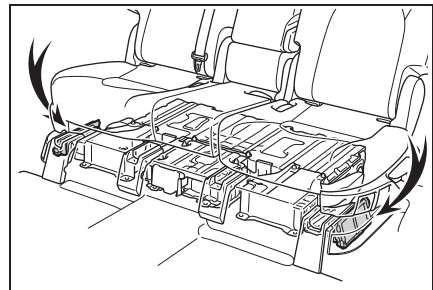
駆動用電池周辺に多量の水をこぼさないよう注意してください。誤ってこぼしてしまったときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

駆動用電池冷却用吸入口

リヤシートの下には、駆動用電池冷却用の吸入口があります。

吸入口がふさがれると駆動用電池の冷却に悪影響をおよぼします。

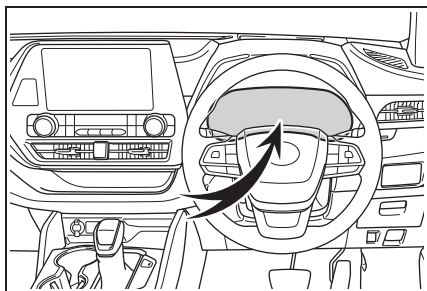
駆動用電池の入出力に制限がかかることで、電気モーターでの走行距離が短くなり燃費性能の低下につながります。



⚠ 注意

■ 駆動用電池冷却用の吸入口について

- シートカバーや荷物などで吸入口をふさがないでください。駆動用電池の入出力に制限がかかり、出力低下や故障の原因となるおそれがあります。
- 吸入口が目づまりしないよう、定期的に清掃してください。(→P.327)
- 吸入口に水や異物を入れないでください。駆動用電池を損傷するおそれがあります。



□ 知識

■ 警告灯が点灯したときや、警告メッセージが表示されたとき、または補機バッテリーとの接続が断たれたとき

ハイブリッドシステムを再始動できないおそれがあります。もう一度始動操作をしても“READY”インジケーターが点灯しない場合はトヨタ販売店にご連絡ください。

緊急停止システム

事故により衝撃を受けたときなどは、ハイブリッドシステムを停止して高電圧を遮断します。また、フューエルポンプ制御により燃料供給を停止し、燃料もれを最小限に抑えます。この場合、ハイブリッドシステムを再始動させることができなくなるためトヨタ販売店へご連絡ください。

警告メッセージ

ハイブリッドシステムの異常やお知らせしたい事項が発生すると自動で表示されます。

警告メッセージは、マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。表示された画面の指示に従ってください。(→P.359)

イモバイザーシステム

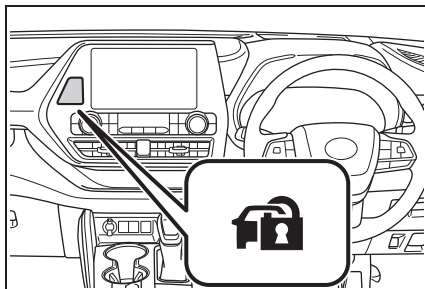
キーに信号発信機が内蔵しており、あらかじめ登録されたキー以外ではハイブリッドシステムを始動できません。

車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。

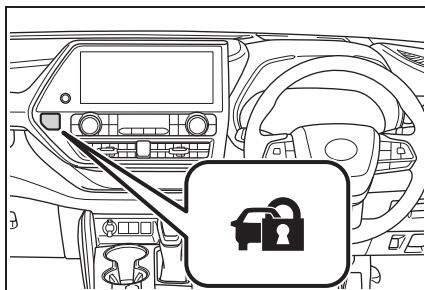
このシステムは車両盗難の防止に寄与する機能であり、すべての車両盗難に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

システムを作動させるには

▶ 8 インチディスプレイ装着車



▶ 12.3 インチディスプレイ装着車



パワースイッチを OFF にすると、システムの作動を知らせるために

インジケーターが点滅します。

登録されたキーを携帯し、パワースイッチを ACC または ON にするとシステムが解除され、インジケーターが消灯します。

□ 知識

■ メンテナンスについて

イモバイザーシステムのメンテナンスは不要です。

■ システムが正常に作動しないとき

- キーが金属製のものに接したり、覆われているとき
- キーが他の車両のセキュリティシステム用キー（信号発信機内蔵キー）と重なっているときや接近しているとき

⚠ 注意

■ イモバイザーシステムを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

オートアラーム

オートアラームとは、侵入を検知した場合に音と光で警報する機能です。オートアラームを設定すると、次のような状況でオートアラームが作動します。

- 施錠されたドアまたはバックドアが、スマートエントリー&スタートシステム/ワイヤレスリモコンを使わずに解錠されたり、開けられたとき
- ボンネットが開けられたとき

オートアラームを設定／解除／停止する

■ ドアを施錠する前の確認

オートアラームの思わぬ作動、および盗難を防ぐため、次のことを必ず確認してください。

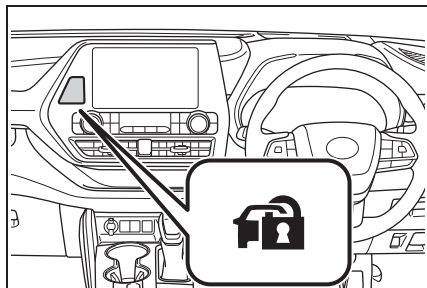
- 車内に人が乗っていないか
- ドアガラスが閉じているか
- 車内に貴重品などを放置していないか

■ オートアラームを設定するには

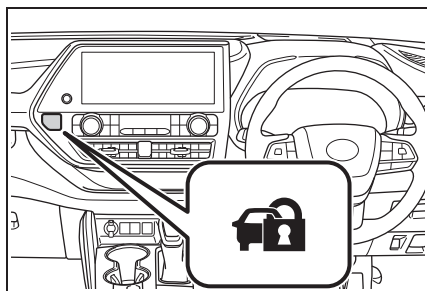
ドア/バックドア/ボンネットを閉め、スマートエントリー&スタートシステム/ワイヤレスリモコンを使って施錠します。30 秒以上経過すると、自動的に設定されます。

オートアラームがセットされるとインジケータは点灯から点滅にかわります。

▶ 8 インチディスプレイ装着車



▶ 12.3 インチディスプレイ装着車



■ オートアラームを解除／停止するには

次のいずれかを行ってください。

- スマートエントリー&スタートシステム/ワイヤレスリモコンを使ってドアまたはバックドアを解錠する
- パワースイッチを ACC または ON にするか、ハイブリッドシステムを始動する（数秒後に解除／停止します）

□ 知識

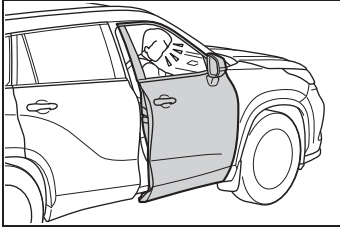
■ メンテナンスについて

オートアラームシステムのメンテナンスは不要です。

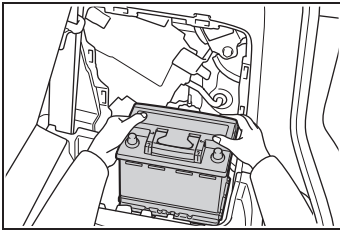
■オートアラームの作動について

パワースイッチを ACC または ON にするか、ハイブリッドシステムを始動する（数秒後に解除／停止します）

- 車内に残った人が、ドア／バックドア／ボンネットを開けたり、ロックレバーで解錠したとき



- 施錠後、補機バッテリーあがりなどで補機バッテリーの充電や交換をしたとき（→P.381）



■オートアラーム作動によるドアロック機能

次のような場合、車内への不正な侵入を防止するため自動的にドアが施錠されることがあります。

- 車内に残った人がドアを解錠し、オートアラームが作動したとき
- オートアラーム作動中に車内に残った人がドアを解錠したとき
- 補機バッテリーあがりなどで充電／交換したとき

■カスタマイズ機能

機能の一部は設定を変更することができます。（→P.399）

⚠ 注意

■オートアラームを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

2-1. 計器の見方

警告灯／表示灯	66
計器類	69
マルチインフォメーションディスプレイ	74
ヘッドアップディスプレイ	82
エネルギーモニター／燃費画面	87



(赤色) パワーステアリング警告灯
(→P.354)



(黄色)



燃料残量警告灯 ※¹ (→P.354)



運転席・助手席シートベルト
非着用警告灯 (→P.354)



リヤ席シートベルト非着用警
告灯 (→P.355)



タイヤ空気圧警告灯 ※¹
(→P.355)



(橙色)

LTA 表示灯 (→P.355)



クリアランスソナー OFF 表示
灯 ※¹ (→P.355)



“RCTA OFF” 表示灯 ※¹
(→P.356)



PKSB OFF 表示灯 ※¹
(→P.356)



(点滅または
点灯)

PCS 警告灯 ※¹ (→P.356)



スリップ表示灯 ※¹
(→P.357)



パーキングブレーキ表示灯 ※¹
(→P.357)



(点滅)

ブレーキホールド作動表示灯
※¹ (→P.357)

※¹ 作動確認のためにパワースイッチを ON にすると点灯し、数秒後またはハイブリッドシステムを始動すると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

※² マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

警告

安全装置の警告灯が点灯しないとき

ABS や SRS エアバッグなど安全装置の警告灯がパワースイッチを ON にしても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

表示灯一覧

システムの作動状況を表示します。



方向指示表示灯 (→P.159)



尾灯表示灯 (→P.165)



ハイビーム表示灯 (→P.166)



AHB 表示灯 (→P.167)



フロントフォグランプ表示灯
(→P.170)



PCS 警告灯 ※^{1, 2} (→P.182)



クルーズコントロール表示灯
(→P.201)



レーダークルーズコントロール
表示灯 (→P.201)



クルーズコントロール
“SET” 表示灯 (→P.201)



※⁷

LTA 表示灯 (→P.182, 197)



LTA OFF 表示灯 ※¹
(→P.196)



ドアミラーインジケーター※2,
3 (→P.214, 226)



BSM OFF 表示灯 ※1, 2
(→P.214)



クリアランスソナー OFF 表示
灯 ※1, 2 (→P.219)



“RCTA OFF” 表示灯 ※1, 2
(→P.226)



PKSB OFF 表示灯 ※1, 2
(→P.232)



(点滅)

スリップ表示灯 ※2
(→P.245)



VSC OFF 表示灯 ※1, 2
(→P.245)



スマートエントリー&スター
トシステム表示灯 ※4
(→P.150)



READY インジケーター
(→P.150)



EV ドライブモード表示灯
(→P.154)



パーキングブレーキ表示灯 ※2
(→P.159)



ブレーキホールドスタンバイ
表示灯 ※2 (→P.162)



ブレーキホールド作動表示灯
※2 (→P.162)



EV インジケーター (→P.55)



低温表示灯 ※6 (→P.69)



セキュリティ表示灯 ※5
(→P.61, 62)

● ドライブモード表示灯一覧



エコドライブモード表示灯
(→P.241)



スポーツモード表示灯
(→P.241)



トレイルモード表示灯
(→P.242)

※1 システムが OFF のときに点灯します。

※2 作動確認のためにパワースイッチを ON にすると点灯し、数秒後またはハイブリッドシステムを始動すると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

※3 ドアミラーに表示されます。

※4 マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

※5 センターパネルに表示されます。

※6 外気温が約 3℃以下のとき、約 10 秒間点滅後に点灯します。

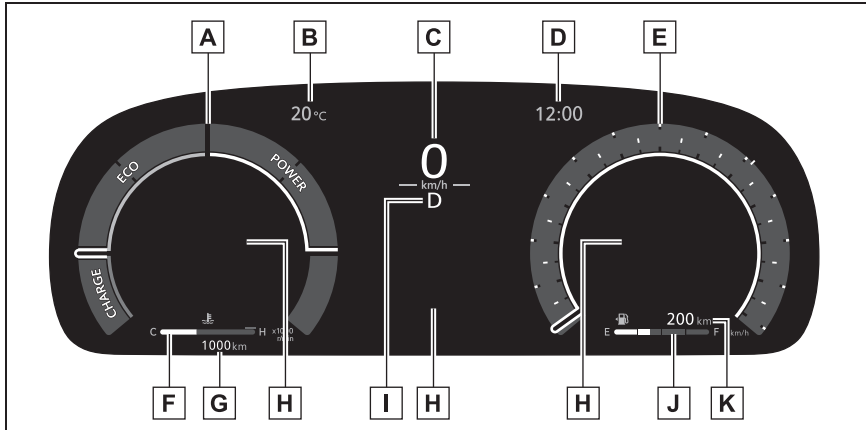
※7 動作状態により、ライトの色や点灯・点滅状態が変わります。

計器類

メーターの表示について

■ 計器類の位置

▶ 2 ダイアルディスプレイ



メーターに表示される単位は、対象地域によって異なる場合があります。

A ハイブリッドシステムインジケーター／タコメーター

ハイブリッドシステムインジケーター：ハイブリッドシステムの出力や回生レベルを示します。(→P.72)

設定画面で表示を切り替えることができます。(→P.76)

B 外気温

外気温を -40℃～60℃のあいだで表示します。

C デジタルスピードメーター

D 時計 (→P.74)

E アナログスピードメーター

F 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

G オドメーター／トリップメーターディスプレイ (→P.73)

H マルチインフォメーションディスプレイ

車両に関するさまざまな情報を表示します。(→P.74)

車両に異常が発生したときは警告メッセージを表示します。(→P.359)

I シフトポジション表示 (→P.156)

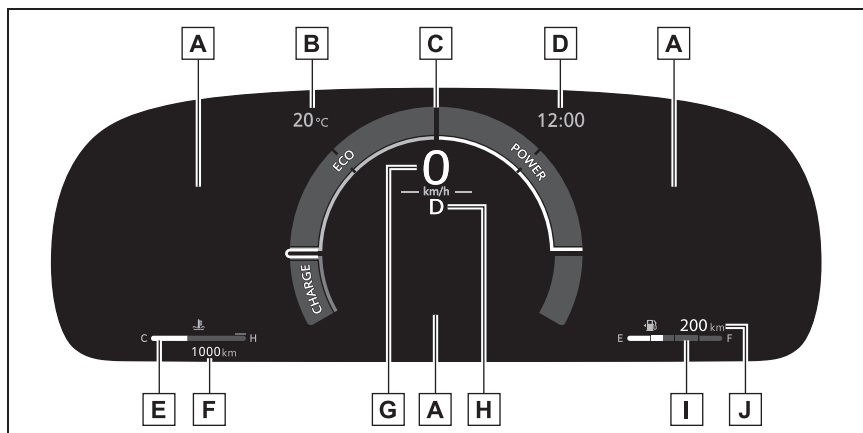
J 燃料計

燃料残量を示します。

K 航続可能距離

現在の燃料残量で走行可能なおよその距離を表示します。

▶ 1 ダイヤルディスプレイ



メーターに表示される単位は、対象地域によって異なる場合があります。

A マルチインフォメーションディスプレイ

車両に関するさまざまな情報を表示します。(→P.74)

車両に異常が発生したときは警告メッセージを表示します。(→P.359)

B 外気温

外気温度を -40℃～60℃のあいだで表示します。

C アナログスピードメーター／タコメーター／ハイブリッドシステムインジケーター

ハイブリッドシステムインジケーター：ハイブリッドシステムの出力や回生レベルを示します。(→P.72)

設定画面で表示を切り替えることができます。(→P.76)

D 時計 (→P.74)

E 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

F オドメーター／トリップメーターディスプレイ (→P.73)

G デジタルスピードメーター

H シフトポジション表示 (→P.156)

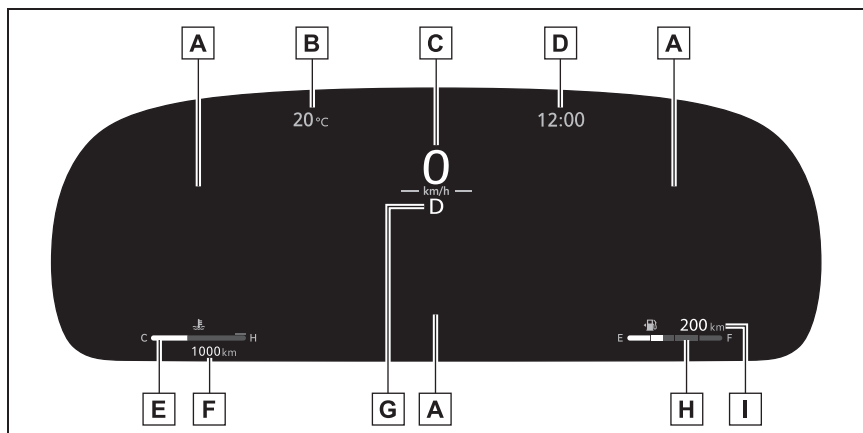
I 燃料計

燃料残量を示します。

J 航続可能距離

現在の燃料残量で走行可能なおよその距離を表示します。

▶ ダイヤルなしディスプレイ



メーターに表示される単位は、対象地域によって異なる場合があります。

A マルチインフォメーションディスプレイ

車両に関するさまざまな情報を表示します。(→P.74)

車両に異常が発生したときは警告メッセージを表示します。(→P.359)

B 外気温

外気温度を -40 °C ~ 60 °C のあいだで表示します。

C デジタルスピードメーター**D** 時計 (→P.74)**E** 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

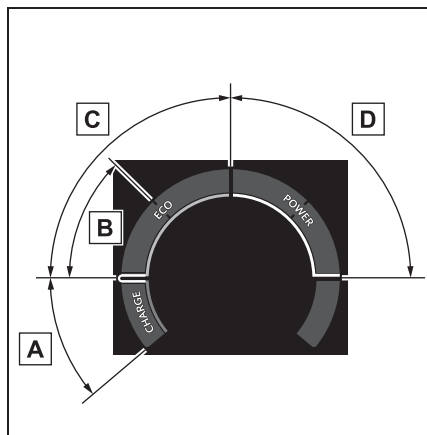
F オドメーター／トリップメーターディスプレイ (→P.73)**G** シフトポジション表示 (→P.156)**H** 燃料計

燃料残量を示します。

I 航続可能距離

現在の燃料残量で走行可能なおよその距離を表示します。

■ ハイブリッドシステムインジケーター



A チャージエリア

回生 ※ ブレーキ機能により、エネルギーを回収している状態を示します。

回生した電力は、駆動用電池を充電します。

B ハイブリッドエコエリア

ガソリンエンジンの動力を使用しない状況を多く含む状態を示します。

ガソリンエンジンは、各種の条件により自動的に停止・再始動します。

C エコエリア

エコ運転（環境に配慮した走行）をしている状態を示します。

インジケーターのバー表示をエコエリアに保つことで、エコ運転が可能です。

D パワーエリア

全開走行時など、エコ運転の範囲をこえている状態を示します。

※ ここでの回生の意味は、運動エネルギーを電気エネルギーに変換することです。

□ 知識

■ エンジン回転数について

ハイブリッド車のエンジン回転数は、燃費の向上や排気ガス低減などのため、厳密に制御されています。走行条件や運転条件が同じでも、エンジン回転数が異なる場合があります。

■ ハイブリッドシステムインジケーターについて

次の場合、ハイブリッドシステムインジケーターは作動しません。

- ハイブリッドシステムインジケーターが点灯していないとき。
- シフトポジションがDまたはS以外のとき。

■ 外気温表示について

- 次の場合は、正しい外気温が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。
 - ・ 停車しているときや、低速走行（約20km/h以下）のとき
 - ・ 外気温が急激に変化したとき（車庫・トンネルの出入り口付近など）
- “-”または“E”が表示されたときは、システム故障のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ 燃料計と航続可能距離について

- 表示された値はあくまで参考としてご利用ください。
- 運転履歴から学習した燃費と現在の燃料残量から算出した走行可能な距離を表示します。使用環境（気象、渋滞など）や運転方法（急発進、エアコンの使用など）に応じて燃費が変わるため、実際に走行できる距離とは異なります。
- タンクに少量の燃料しか追加しないと、表示が更新されない場合があります。給油の際はパワースイッチを切ってください。

ださい。パワースイッチを切らずに車両に給油すると、表示が更新されない場合があります。

■液晶ディスプレイについて

ディスプレイに小さな斑点や光点が表示されることがあります。これは液晶ディスプレイ特有の現象でそのまま使用しても問題ありません。

■フリー／オープンソースソフトウェア情報について

本製品はフリー／オープンソースソフトウェアを含んでいます。このようなフリー／オープンソースソフトウェアのライセンス情報やソースコードの両方またはどちらか片方は以下の URL で入手することができます。

<https://www.denso.com/global/en/opensource/meter/toyota/>

■カスタマイズ機能

マルチインフォメーションディスプレイの  で、計器類の表示を変更できます。(→P.399)

⚠ 警告

■低温時の画面表示について

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車室内を暖めてからご使用ください。

例えばシフトポジション表示を使用した場合、シフト操作をしてもすぐにポジションの表示が切りかわらないことで運転者がダウンシフトしなかったと誤解し、再度ダウンシフトすることによって急激に過度のエンジンブレーキがかかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

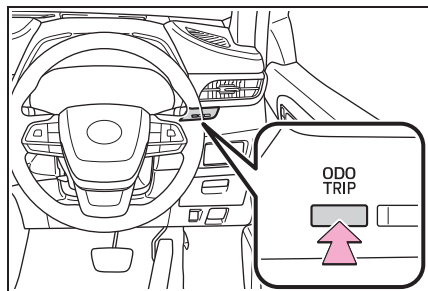
■ハイブリッドシステムや構成部品への損傷を防ぐために

- タコメーターの針がレッドゾーン（エンジンの許容回転数をこえている範囲）に入らないようにしてください。
- 水温計の針が H のレッドゾーンに入ったときは、オーバーヒートのおそれがあるので、ただちに安全な場所に停車してください。完全に冷えたあと、エンジンを確認してください。(→P.384)

オドメーター／トリップメーターディスプレイ

■表示の切りかえ

スイッチを押すごとに表示が切りかわります。また、トリップメーター表示中にスイッチを押し続けると、走行距離を 0 にすることができます。



■表示項目

● オドメーター

走行した総距離を表示します。

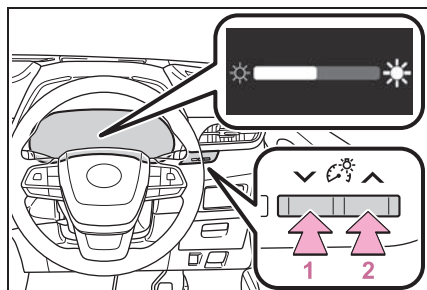
● トリップメーター A /トリップメーター B

リセットしてからの走行距離を表示します。トリップ A・トリップ B の 2 種類

で使い分けることができます。

メーターの照度調整

インストルメントパネルの明るさを調整できます。



この画像は参考用であり、実際の車両とは異なる場合があります。

- 1 暗くする
- 2 明るくする

知識

■メーターの明るさ（昼間モードと夜間モード）

メーターの明るさは、昼間モードと夜間モードの間で切りかわります。

- 昼間モード：周囲が明るいとき
- 夜間モード：周囲が暗いとき

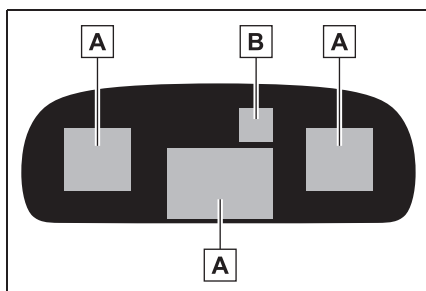
時計の調整

■時計はオーディオシステムの画面で調整できます。

“Multimedia Owner's Manual” を参照してください。

マルチインフォメーションディスプレイ

ディスプレイの表示



A コンテンツ表示エリア

メニューアイコンを選択し、走行に関するさまざまな情報を表示したり、車両設定を変更することができます。

また、状況に応じて注意喚起やアドバイスなどを割り込み表示します。

B 走行支援システム表示エリア

コンテンツ表示エリアで運転支援システム情報を表示していないときに運転支援システムが作動していると、システムの作動状況を表示します。

- ・ LTA（レーントレーシングアシスト）
- ・ レーダークルーズコントロール

知識

■液晶ディスプレイについて

→P.73

警告

■運転中の使用について

- マルチインフォメーションディスプレイを操作する時は、周囲の安全に十分注意してください。

警告

- マルチインフォメーションディスプレイを見続けしないでください。前方の歩行者、障害物などを見落とすおそれがあり危険です。

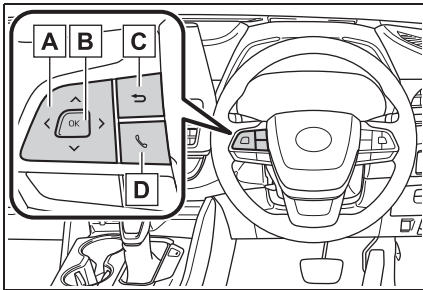
■ 低温時の画面表示について

→P.73

表示を切りかえるには

■ メーター操作スイッチ

メーター操作スイッチを使って次のように操作します。



- A** </> : マルチインフォメーションディスプレイの切り換え
 ▲/▼ : 表示項目の切り換え・ページ送り・カーソル移動

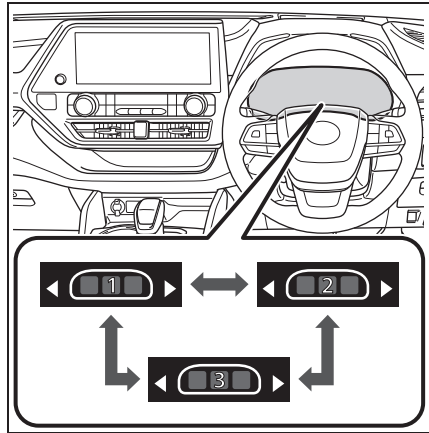
- B** 短押し : 決定
 長押し : リセット／詳細項目表示

- C** ひとつ前の画面にもどる

- D** 電話の発着信・履歴表示

■ メーターのページ切り換え

メーター操作スイッチの < または > を押してページを切りかえる



マルチインフォメーションディスプレイの表示項目について (中央画面)

■ 表示項目

- 運転支援システム情報
- ナビゲーションシステム連携表示※
- 設定
- 警告メッセージ (→P.359)

※ グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ページ内の表示項目の切り換え

ページ内の設定モード画面から表示させる項目を選択します。

- 1 メーター操作スイッチの < または > を押してページを選択する

- 2 メーター操作スイッチの OK を長押しして設定モード画面にする

- 3 メーター操作スイッチの ◀ または ▶ を押して変更する表示画面を選択する
- 4 メーター操作スイッチの ▲ または ▼ を押して表示項目を選択する
- 5 設定完了後、⏮ を押す

■ 運転支援システム情報について

次のシステムの作動状況を表示します。

- LTA（レーントレーシングアシスト）（→P.192）
- レーダークルーズコントロール（→P.201）

■ ナビゲーションシステム連携表示※

※ グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

マルチインフォメーションディスプレイに次の情報を表示します。

- 目的地案内
- コンパス



知識

■ 目的地までのルート案内表示

ヘッドアップディスプレイ※で目的地までのルート案内表示が有効になっている場合、マルチインフォメーションディスプレイには表示されません。（→P.84）

※ グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 設定

メーター表示の設定を  から変更することができます。

● 言語

表示される言語を選択することができます。

● 単位

燃費単位を選択することができます。

● メータータイプ

メーターの表示タイプを選択することができます。

● メータースタイル

メーターの表示スタイルを選択することができます。

● ダイヤルタイプ

1 ダイヤル：メーターの表示を、スピードメーター／タコメーター／ハイブリッドシステムインジケーターから選択することができます。

2 ダイヤル：メーター左側の表示を、タコメーター／ハイブリッドシステムインジケーターから選択することができます。

● EV インジケーター

EV インジケーターの作動・非作動を切りかえることができます。

● 燃費表示

燃費情報の表示を変更することができます。

● ハイブリッドシステムインジケーター

エコアクセルガイドの表示・非表示を選択することができます。

● ドライブインフォ項目

ドライブ情報の表示を変更することができます。

● TRIP A/B の表示項目

TRIP A/B のドライブインフォ情報を変更することができます。

● 割り込み表示

割り込み表示される項目の表示・非表示を、項目ごとに変更することができます。

● 初期化

メーターの表示設定をもとにもどすことができます。

マルチインフォメーションディスプレイの表示項目について（サイド画面）

■ 表示項目（サイド画面）

- 燃費グラフ
- エコアクセルガイド／エコジャッジ
- 始動後走行時間／EV 走行比率
- 運転支援システム情報
- ナビゲーションシステム連携表示※
- オーディオシステム連携表示
- ドライブインフォメーション
- TRIP A/B のドライブインフォメーション
- エネルギーモニター（→P.87）
- タイヤ空気圧（→P.318）
- 4WD 作動状態表示

※ グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ページ内の表示項目の切りかえ

→P.75

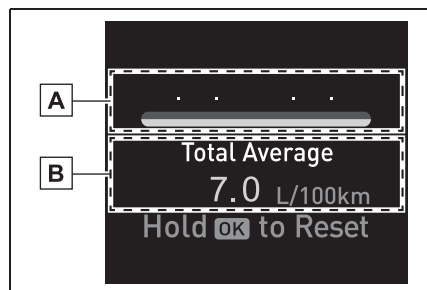
■ サイド画面に表示させる項目の変更

- 1 メーター操作スイッチの < または > を押してページを選択する

- 2 メーター操作スイッチの OK を長押しして設定モード画面にする
- 3 メーター操作スイッチの < または > を押して変更する表示画面を選択する
- 4  が表示されている画面でメーター操作スイッチの < または > を押すと、各項目の表示・非表示を選択できる画面に移動します。
- 5 メーター操作スイッチの ^ または v を押して表示させる項目を選択し OK を押す

■ 燃費グラフ

表示される数値は参考として利用してください。



A 瞬間燃費

現在の瞬間燃費を表示します。

B 平均燃費

 画面の“燃費グラフ”で選択した燃費が表示されます。（→P.76）

● 始動後平均燃費

ハイブリッドシステム始動後の平均燃費

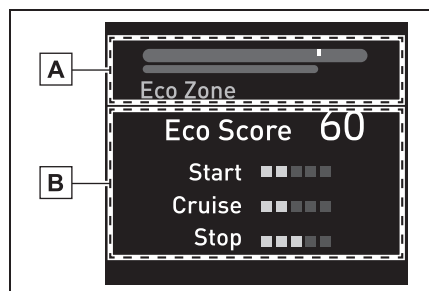
を表示します。

● リセット間平均燃費

リセット間の平均燃費を表示します。

平均燃費をリセットするには、メーター操作スイッチの OK を長押しします。

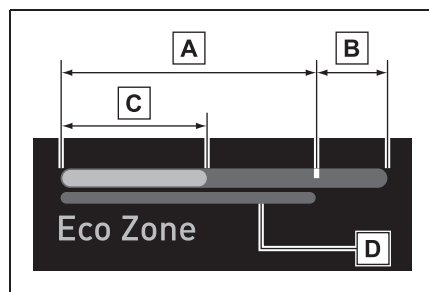
■ エコアクセルガイド／エコジャッジ



A エコアクセルガイド

B エコジャッジ

● エコアクセルガイド



A エコエリア

エコ運転（環境に配慮した走行）をしている状態を示します。

B パワーエリア

全開走行時など、エコ運転の範囲をこえている状態を示します。

C 現状のアクセルペダル操作

エコエリア内では緑色でゾーン表示されます。

アクセルペダル操作を示す表示が、青色のバー表示をこえないように走行することで、環境に配慮した走行が、より容易に行えます。（→P.143）

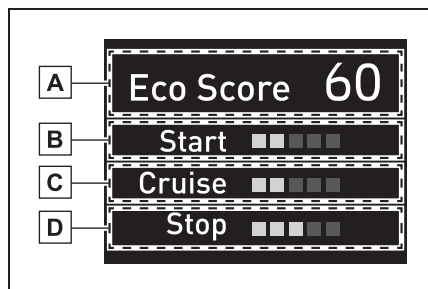
D アクセルペダル操作の目安

発進・安定走行などの各走行状況に適したアクセル操作範囲の目安が、エコエリアの下側に青く表示されます。

エコアクセルガイド表示は、発進・安定走行などの走行状況に応じて変化します。

● エコジャッジ

なめらかな発進加速（エコ発進）・急な加減速のない安定した走行（安定走行）・スムーズな停車（エコ停車）という 3 つの観点から、走行状況をそれぞれ 5 段階で評価し、車両が停車するたびに 100 点満点で採点結果を表示します。



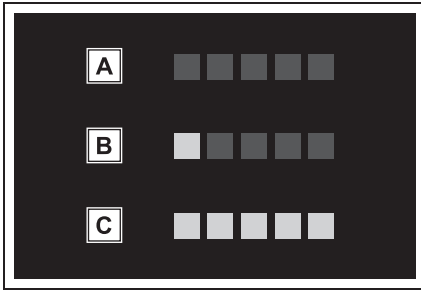
A 採点結果

B エコ発進の状況

C 安定走行の状況

D エコ減速の状況

表示の見方



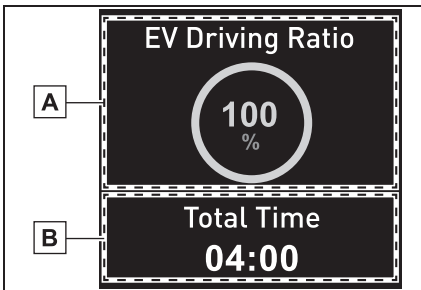
A 未評価

B 低い

C 高い

- ・発進後、車速が約 30km/h をこえるまで、エコジャッジの表示は開始されません。
- ・エコジャッジは発進するたびにリセットされ、新たに評価が開始されます。
- ・ハイブリッドシステムが停止すると、現在の走行の合計スコアが表示されます。

■ 始動後走行時間／EV 走行比率



A 始動後 EV 走行比率

ハイブリッドシステムを始動してから現在までに EV 走行できた割合をグラフ表示します。※

B 始動後走行時間

ハイブリッドシステムを始動してから現在までの走行時間を表示します。※

※ ハイブリッドシステムを始動するたびに、表示がリセットされます。

■ 運転支援システム情報について

次のシステムの作動状況を表示します。

- LTA（レーントレーシングアシスト）（→P.192）
- レーダークルーズコントロール（→P.201）

■ ナビゲーションシステム連携表示※

※ グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

マルチインフォメーションディスプレイに次の情報を表示します。

- 目的地案内
- コンパス

□ 知識

■ 目的地までのルート案内表示

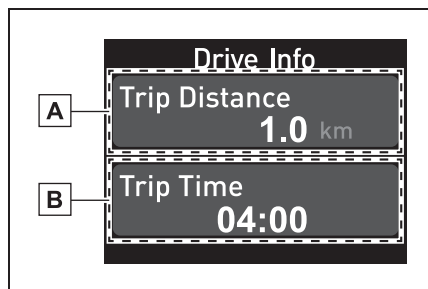
ヘッドアップディスプレイ※で目的地までのルート案内表示が有効になっている場合、マルチインフォメーションディスプレイには表示されません。（→P.84）

※ グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ オーディオシステム連携表示について

オーディオシステムの作動状況をマルチインフォメーションディスプレイに表示できます。

■ ドライブインフォメーション



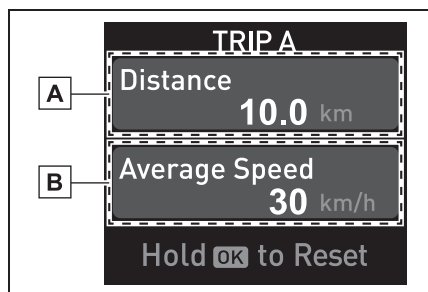
A ドライブインフォメーション 1

B ドライブインフォメーション 2

ドライブインフォ項目の組み合わせを から選択して表示させることができます。(→P.76)

- 平均車速：ハイブリッドシステム始動後の平均車速を表示
- 距離：ハイブリッドシステム始動後の走行距離を表示
- 走行時間：ハイブリッドシステム始動後の経過時間を表示

■ TRIP A/B のドライブインフォメーション



A TRIP A/B 1 のドライブインフォメーション

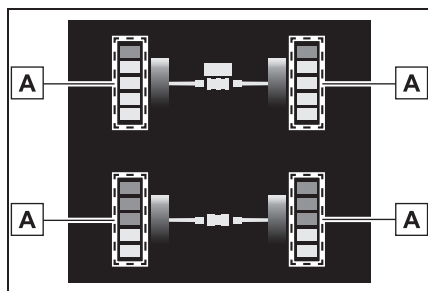
B TRIP A/B 2 のドライブインフォメーション

ドライブインフォ項目の組み合わせ

せを から選択して表示させることができます。(→P.76)

- 平均車速：TRIP A/B の平均車速を表示
- 距離：TRIP A/B の走行距離を表示
- 走行時間：TRIP A/B の経過時間を表示

■ 4WD 作動状態表示



図の画面表示は、使用状況や車両の仕様により実際の表示と異なる場合があります。

A 駆動力表示

0 ～ 5 の 6 段階で、各車輪の駆動状態を表示します。

知識

■ エコアクセルガイド／エコジャッジについて

次の場合エコアクセルガイド／エコジャッジは作動しません。

- ハイブリッドシステムインジケータが作動していないとき
- レーダークルーズコントロールを使用しているとき

提案サービス機能

状況に応じて運転者に提案メッ

セージを表示する機能です。

提案メッセージが表示されたときにメーター操作スイッチを操作することで、提案された内容を直接操作することができます。



知識

■ カスタマイズ

一部の機能はカスタマイズできます。
(→P.399)

設定について

■ 変更できる項目（メーター表示）

→P.76

■ 変更できる項目（機能の切りかえ・車両設定）

→P.399



知識

■ 設定画面の操作について

- 一部の項目を除き、車両走行中は設定画面を操作することができません。設定を変更するときは、安全な場所に停車して操作してください。
- 警告メッセージが表示されたときは、設定画面の操作が一時中断されます。



警告

■ ディスプレイの設定を変更するとき

ハイブリッドシステムが作動している状態で操作を行う場合、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



注意

■ ディスプレイの設定を変更するとき

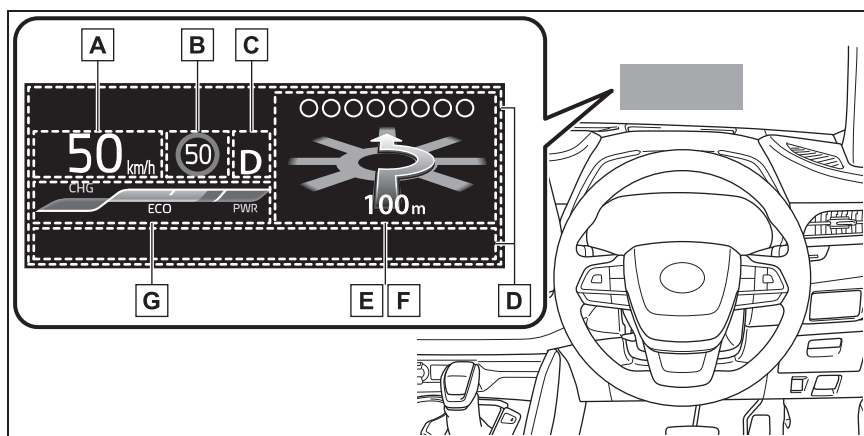
補機バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にハイブリッドシステムが作動している状態で実施してください。

ヘッドアップディスプレイ ※

※ グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ヘッドアップディスプレイは、フロントウインドウガラスに運転支援システムの作動状況や走行に関するさまざまな情報を表示することができます。

ディスプレイの表示



イラストは説明のための例であり、実際の表示状況とは異なります。

A スピードメーター

B RSA（ロードサインアシスト）表示エリア（→P.211）

C シフトポジション表示（→P.156）

D メッセージ表示領域（→P.86）

状況に応じて、次の項目が割り込み表示されます。

- ・ 警告 / メッセージ
- ・ ハンズフリーシステムの作動状況
- ・ オーディオシステムの作動状況

E ナビゲーションシステム連携表示エリア ※（→P.85）

ナビゲーションシステムにリンクされている次の項目を表示します。

- ・ 目的地までのルート案内
- ・ レーン（車線）案内
- ・ コンパス（ヘッドアップディスプレイ）

F 運転支援システム表示エリア（→P.85）

G ハイブリッドシステムインジケーター／タコメーター／外気温

(→P.85)

※ グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■ **ヘッドアップディスプレイの作動条件**
パワースイッチが ON のとき

■ **ヘッドアップディスプレイを使用するときは**

サングラス（特に偏光サングラス）を着用していると、ヘッドアップディスプレイの表示が見づらくなる場合があります。表示が見づらい場合は、輝度を調整するか、サングラスをはずしてください。

■ **外気温表示**

外気温が約 3℃以下になると、低外気温表示が 10 秒間点滅し、低外気温表示と外気温表示が消灯します。外気温が約 5℃以上になり、その後 3℃以下になると、低外気温表示は再び点灯します。

警告

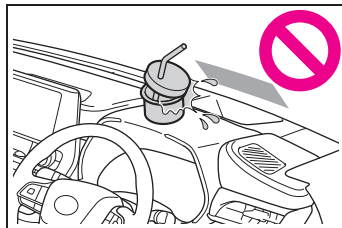
■ **ヘッドアップディスプレイを使用するときは**

- 映像の明るさ、および表示位置は、安全運転に支障がないよう適切な状態に調整してください。調整が不適切だと運転者の視界のさまたげとなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ヘッドアップディスプレイを見続けないでください。前方の歩行者、障害物などを見落とすおそれがあります。

注意

■ **ヘッドアップディスプレイ映写部について**

- 映写部の付近に飲み物を置かないでください。水やその他の液体が映写部にかかると、装置が故障する原因になります。



- 映写部の上にものを置いたり、シールなどを貼り付けたりしないでください。ヘッドアップディスプレイの表示のさまたげとなります。
- 映写部の内部にふれたり、とがったものを押し付けたりしないでください。装置が故障する原因となります。

ヘッドアップディスプレイの使い方

■ **ヘッドアップディスプレイの設定**

マルチインフォメーションディスプレイで  を選択し、次に“HUD”を選択します。
(→P.399)

■ **ヘッドアップディスプレイの表示／非表示について**

OK を押して、ヘッドアップディスプレイの表示／非表示を切りかえることができます。

■ ヘッドアップディスプレイの設定を変更

OK を押し続けると、以下の設定を表示します。

● ヘッドアップディスプレイの明るさ／位置

表示の明るさや、上下の位置を調整することができます。

● ヘッドアップディスプレイ運転支援システム

・ タコメーターの設定

blank / ハイブリッドシステム / タコメーター

表示をblank（非表示） / ハイブリッドシステムインジケーター / タコメーターに変更することができます。

次の項目を表示 / 非表示にすることができます。

・ ナビゲーション ※
・ 運転支援システム

・ コンパス ※
・ オーディオ

※ グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

● 表示の傾き

表示の傾きを調整することができます。

〈 または 〉 を押して、ヘッドアップディスプレイの角度を調整します。



知識

■ ヘッドアップディスプレイの表示／非表示について

ヘッドアップディスプレイを非表示にしたときは、パワースイッチを OFF にしたあとで再度 ON にしても、非表示のままです。

■ 表示の明るさについて

マルチインフォメーションディスプレイの  による明るさの調整に加えて、周囲の明るさに応じて表示の明るさが自動で調整されます。

■ ヘッドアップディスプレイ表示位置の自動調整

お好みのヘッドアップディスプレイ表示位置をポジションメモリーに登録すると、自動で調整されます。(→P.136)

■ 補機バッテリー端子の脱着をしたときは

ヘッドアップディスプレイの設定がリセットされます。

■ カスタマイズ

一部の機能はカスタマイズできます。(→P.399)

⚠ 警告

■ ヘッドアップディスプレイの設定を変更するときは

ハイブリッドシステムが作動している状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

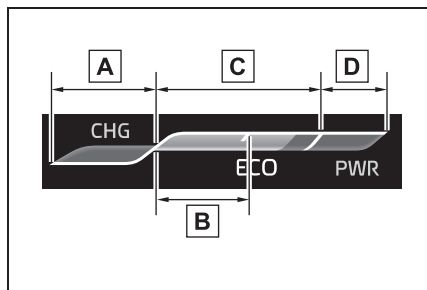
⚠ 注意

■ ヘッドアップディスプレイの設定を変更するときは

補機バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にハイブリッドシステムが作動している状態で実施してください。

ハイブリッドシステムインジケータ / タコメーター / 外気温表示エリア

■ ハイブリッドシステムインジケータ



A チャージエリア

B ハイブリッドエコエリア

C エコエリア

D パワーエリア

ハイブリッドシステムの出力や回生レベルを示します。詳しくは、P.72 を参照してください。

■ タコメーター

毎分のエンジン回転数を表示します。

■ 外気温

次の状況で表示されます。

- パワースイッチを ON にしたとき（約 10 秒間表示）
- 外気温低下インジケータが点滅しているとき

表示される内容はマルチインフォメーションディスプレイに表示される内容と同じです。詳細はマルチインフォメーションディスプレイの外気温表示の説明を参照してください。（→P.72）

ナビゲーションシステム連携表示エリア※

※ グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ナビゲーションシステムと連携して、次の内容が表示されます。

（“Multimedia Owner's Manual” を参照してください。）

■ 目的地案内

ナビゲーションシステムがルート案内を行っているときに表示されます。交差点に近づく、推奨される進行方向を示す矢印が表示されます。

■ レーン（車線）案内

状況に応じて、接近する交差点の道路名が表示されます。

■ コンパス（ヘッドアップディスプレイ）

進行方向を表示します。



知識

■ 道路名表示

地図データに情報がない場合など、状況によっては交差点の道路名が表示されない場合があります。

運転支援システム表示エリア

次のシステムの作動状況を表示します。

- LTA（レーントレーシングアシスト）（→P.192）
- レーダークルーズコントロール（→P.201）
- PCS（プリクラッシュセーフ

ティ) (→P.182)

- パーキングサポートブレーキ
(後方静止物検知) (→P.237)
- ドライブスタートコントロール
(→P.142)
- ブレーキオーバーライドシステム
(→P.143)

表示される内容はマルチインフォメーションディスプレイの表示と同様です。詳しくは各システムの説明を参照してください。

/ アイコン

次のマルチインフォメーションディスプレイのリンクアイコンとメッセージを表示します：

：マスター警告アイコン

マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたときに表示されます。(→P.359)

：インフォメーションアイコン

マルチインフォメーションディスプレイに提案 / アドバイスが割り込み表示されたときに表示されます。(→P.80)

メッセージ表示エリア

状況に応じて、次のように表示されます。

■ 警告 / メッセージ

状況に応じて、警告メッセージやその他のメッセージが表示されます。

● 警告メッセージ

特定の警告メッセージが表示される場合があります。

● 割り込み表示

運転支援システムが作動しているとき、マルチインフォメーションディスプレイに表示される情報の一部が、ヘッドアップディスプレイに割り込み表示されます。

■ ハンズフリーシステムのステータス

ハンズフリーシステムが作動しているときに表示されます。

“Multimedia Owner’s Manual” を参照してください。

■ オーディオシステムの動作状況

オーディオシステムを操作しているときに表示されます。

“Multimedia Owner’s Manual” を参照してください。

知識

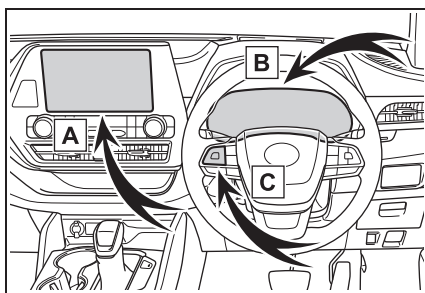
■ 割り込み表示について

割り込み表示される項目によっては、一部の表示エリアが非表示になります。割り込み表示終了後、もとの表示にもどります。

エネルギーモニター／燃費画面

ハイブリッドシステムの状態や燃費に関する情報を、マルチインフォメーションディスプレイおよびマルチメディアディスプレイに表示します。

システムの構成部品



- A** マルチメディアディスプレイ
- B** マルチインフォメーションディスプレイ
- C** メーター操作スイッチ

エネルギーモニターの見方

■ マルチインフォメーションディスプレイ表示

メーター操作スイッチを数回押し、エネルギーモニターを表示させます。

■ マルチメディアディスプレイ画面

- 1 メインメニューで を選択する。
- 2 “Energy flow” を選択する。

■ 表示について

エネルギーの流れに応じて矢印が表示されます。エネルギーの流れがないときは、矢印は表示されません。

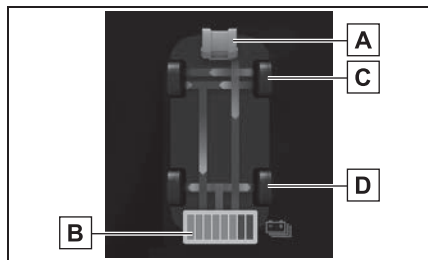
矢印の色は次のように変化します。

緑または青：電気エネルギーを回収・充電しているとき

黄または橙：電気エネルギーを使用しているとき

赤：ガソリンエンジンの動力を使用しているとき

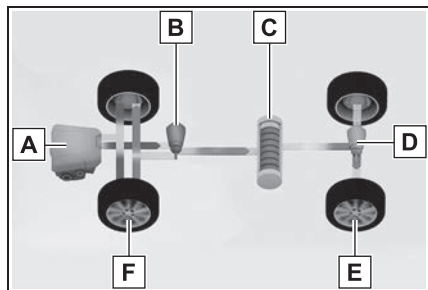
▶ マルチインフォメーションディスプレイ



図は説明のためにすべての矢印を掲載しており、実際の表示内容とは異なります。

- A** エンジン
- B** 駆動用電池
- C** フロントタイヤ
- D** リヤタイヤ

▶ マルチメディアディスプレイ



図は説明のためにすべての矢印を掲載し

ており、実際の表示内容とは異なります。

- A** エンジン
- B** フロント電気モーター
- C** 駆動用電池
- D** リヤ電気モーター
- E** リヤタイヤ
- F** フロントタイヤ

知識

■ 駆動用電池の残量警告について

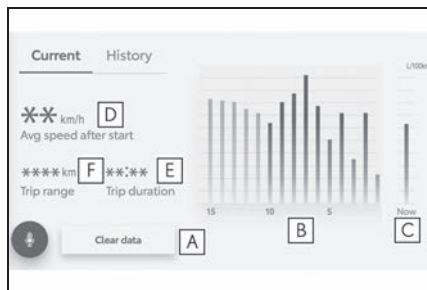
- シフトレバーが N で、駆動用電池の充電ができない状態が継続、もしくは、駆動用電池の残量が一定未満まで低下すると、ブザーが断続的に吹鳴します。その後、さらに残量が低下したときは、ブザー音が断続から連続にかかります。
- マルチインフォメーションディスプレイのメッセージとブザー音で警告されたときは、画面の指示に従って対処してください。

燃費画面の見方

■ 画面を表示させるには

- 1 メインメニューの  を選択する
- 2 “Trip information” を選択する

“Current” 以外の画面が表示されている場合は、“Current” を選択してください。



- A** 履歴削除
- B** 過去 15 分間の 1 分ごとの燃費（平均燃費）
- C** 瞬間燃費
- D** ハイブリッドシステム始動後平均車速
- E** ハイブリッドシステム始動後経過時間
- F** 航続可能距離

過去 15 分間の平均燃費は、過去の平均値と最後にパワースイッチを ON にしてからの平均値に色分けして表示されます。表示される平均燃費は、参考として利用してください。

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

■ 燃費履歴画面の見方

- 1 メインメニューの  を選択する
- 2 “Trip information” を選択する

“History” 以外の画面が表示されている場合は、“History” を選択してください。



- A** 過去最高値表示
- B** 最新値表示
- C** 過去平均燃費表示
- D** 履歴削除
- E** 最新値更新

平均燃費履歴は、過去の平均燃費と最終更新以降の平均燃費に色分けされています。表示される平均燃費は、参考として利用してください。

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。



知識

■過去の区間平均燃費の記録を更新するには

燃費履歴画面で“Update”を選択すると、平均燃費の値とグラフが更新され、新たに平均燃費の記録を開始します。

■燃費データをリセットするには

“Clear data”を選択すると、燃費データがリセットされます。

■航続可能距離について

現在の燃料残量で走行できるおよその距離を示します。

表示される距離は、過去の平均燃費をもとに算出されるため、表示される距離を実際に走行できるとは限りません。

3-1. キー

キー 92

3-2. ドアの開閉、ロックのしかた

ドア 95

バックドア 99

スマートエントリー&スタートシステム 109

3-3. シートの調整

フロントシート 114

リヤシート 115

ヘッドレスト 119

3-4. ハンドル位置・ミラー

ハンドル 122

インナーミラー 123

ドアミラー 124

3-5. ドアガラスとムーンルーフの開閉

パワーウインドウ 127

ムーンルーフ 129

パノラマムーンルーフ 132

3-6. お好み設定

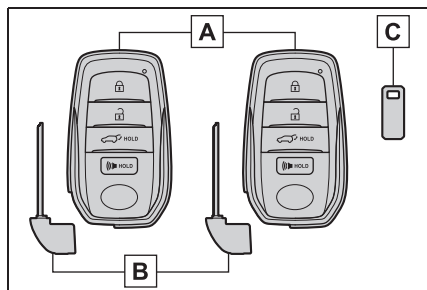
ドライビングポジションメモリー 136

マイセッティング 138

キー

キー

お客様へ次のキーをお渡しします。



A 電子キー

- ・スマートエントリー&スタートシステムの作動 (→P.109)
- ・ワイヤレス機能の作動 (→P.93)

B メカニカルキー

C キーナンバープレート

知識

■ 航空機に乗るとき

航空機にキーを持ち込む場合は、航空機内でキーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

■ 電池の消耗について

- 電池の標準的な寿命は 1 ～ 2 年です。
- 電池残量が少なくなると、ハイブリッドシステムを停止した際に車内から警告音が鳴ります。
- 電子キーを長時間使用しないときは、節電モードに設定することで、電池の消耗を抑えることができます。(→P.110)

- 電子キーは常に電波を受信しているため、使用していないあいだでも電池が消耗します。次のような状態になったときは、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。

- ・ スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンが作動しない
- ・ 作動範囲が狭くなった
- ・ 電子キーの LED が点灯しない

- 電池の著しい消耗を防ぐため、次のような磁気を発生する電化製品の 1m 以内に電子キーを置かないでください。

- ・ TV
- ・ パソコン
- ・ 携帯電話やコードレス電話機、および充電器
- ・ 携帯電話やコードレス電話の充電
- ・ 電気スタンド
- ・ 電磁調理器

■ 電池が切れたとき

→P.330

■ 登録キー番号の確認

車両に登録されているキーの数は確認できます。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

■ マルチインフォメーションディスプレイに “A New Key has been Registered Contact Your Dealer for Details” と表示されたときは

追加で新しく電子キーが登録された場合、車外から解錠して運転席ドアを開けたときにメッセージが表示されることが 10 日ほど続きます。

電子キーの登録をした覚えがないにも関わらずメッセージが表示されたときは、お持ちの電子キー以外に登録されている電子キーがないかをトヨタ販売店で確認してください。

⚠ 注意

■ キーの故障を防ぐために

- 落したり、強い衝撃を与えたり、曲げたりしない
- 温度の高いところに長時間放置しない
- めらしたり超音波洗浄器などで洗ったりしない
- キーに金属製または磁気を帯びた製品を取り付けたり、近付けたりしない
- 分解しない
- 電子キー表面にシールなどを貼らない
- テレビやオーディオ・電磁調理器などの磁気を帯びた製品の近くに置かない
- 電気医療機器（マイクロ波治療機器や低周波治療機器など）の近くに置いたり、身に付けたまま治療を受けない

■ キーを携帯するとき

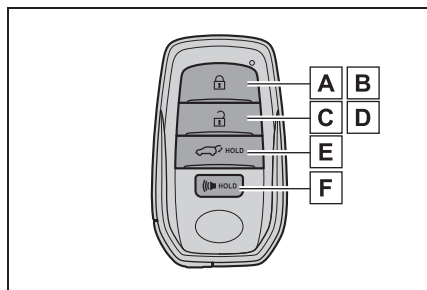
電源を入れた状態の電化製品とは10cm 以上離して携帯してください。10cm 以内にあると電化製品の電波と干渉し正常に機能しない場合があります。

■ スマートエントリー&スタートシステムの故障などで販売店に車両を持っていくとき

→P.376

■ 電子キーを紛失したとき

→P.375



A ドアを施錠する (→P.95)

B ドアガラス ※¹ とムーンルーフ ※^{1,2} を閉める (→P.95)

C ドアを解錠する (→P.95)

D ドアガラス ※¹ とムーンルーフ ※^{1,2} を開く (→P.95)

E パワーバックドア ※² を開閉する (→P.101)

F アラームを鳴らす

※¹ トヨタ販売店での設定変更が必要です。

※² グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

📖 知識

■ 盗難抑止パニックモード

🔊 を約 1 秒以上押すと、断続的にアラームが鳴り、車両のライトが点滅して、車両への侵入や損傷を阻止します。

アラームを停止するには、電子キーのいずれかのボタンを押します。

ワイヤレス機能について

キーには次のワイヤレス機能が搭載されています。



■メカニカルキーを紛失したとき

→P.375

■不正キーの使用について

指定のキー以外のキーを使用すると、キーシリンダーが空まわりして解錠できません。

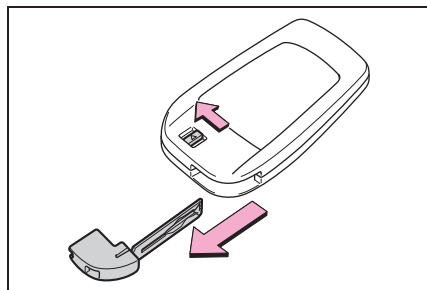
メカニカルキーを使うには

メカニカルキーを取り出すには、解除レバーをスライドさせてキーを取り出してください。

メカニカルキーは挿し込み方向に指定のある片溝キーです。キーシリンダーに挿し込めないときは、キー溝面の向きをかえて挿し込んでください。

使用後はもとにもどし、電子キーと一緒に携帯してください。電子キーの電池が切れたときやスマートエントリー&スタートシステムが正常に作動しないとき、メカニカルキーが必要になります。

(→P.376)



知識

■駐車場係員に車の鍵を預ける必要がある場合

状況に応じてグローブボックスをロックしてください。(→P.275)

ご自身で使用する機械式キーは取り外し、係員には電子キーのみをお渡しください。

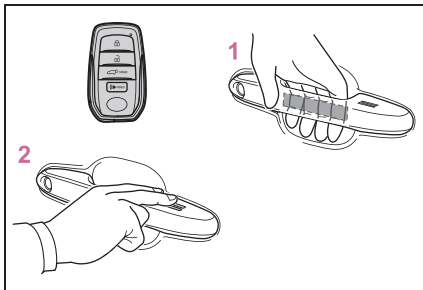
ドア

エントリー機能、ワイヤレスリモコン、またはドアロックスイッチを使用して、車両のロックとロック解除を行うことができます。

車外から解錠／施錠するには

■ スマートエントリー&スタートシステムを使用する

電子キーを携帯して操作します。



1 フロント席のドアハンドルを握って解錠する※

ハンドル裏面のセンサー部に確実にふれてください。

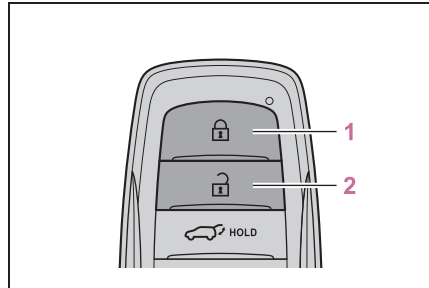
施錠操作後 3 秒間は解錠できません。

※ ドアのロック解除設定を変更できます。
(→P.95, 399)

2 フロント席ドアハンドル表面のロックセンサー部（ハンドルのくぼみ部）にふれ施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

■ ワイヤレス機能を使用する



1 全ドアを施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

押し続けるとドアガラス※¹とムーンルーフ※^{1,2}が閉まります。

2 全ドアを解錠する

押し続けるとドアガラス※¹とムーンルーフ※^{1,2}が開きます。

※¹ トヨタ販売店での設定変更が必要です。

※² グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■ 解錠するドアを切りかえるには

ワイヤレスリモコンを使用して、スマートエントリー&スタートシステムで解錠できるドアの設定を切りかえることができます。

1 パワースイッチを OFF にする

2 キー表面のインジケーターが消灯しているときに ボタンと同時に、、

 または  のいずれかを約 5 秒間押し続ける

操作を行うごとに次のように設定が切りかわります。（続けて切り換え操作を行う場合は、ボタンから手を離れたあと 5 秒以上間隔をあけてから手順 2 を行ってください）

マルチインフォメーションディスプレイ表示／ブザー音	解錠できるドア
 車外：“ピピッ” (3 回) 車内：“ポーン” (1 回)	運転席のドアハンドルを握ると運転席のみ解錠 助手席のドアハンドルを握ると全席解錠
 車外：“ピピッ” (2 回) 車内：“ポーン” (1 回)	フロント席のいずれかのドアハンドルを握ると全席解錠

オートアラームの誤作動防止のため、登録後はいったんワイヤレスリモコンで解錠し、ドアを開閉してください。( ボタンを押して 30 秒以内にドアを開けなかった場合は、ドアが再び施錠されオートアラームが設定されます)

オートアラームが作動し警報が鳴ってしまったときは、作動を停止する操作を行ってください。(→P.62)

■作動の合図

ドアの施錠・解錠を、ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。(施錠は 1 回、解錠は 2 回)

ドアガラスとムーンルーフ* またはパノラミックムーンルーフ* の開閉をブザーで知らせます。

* グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

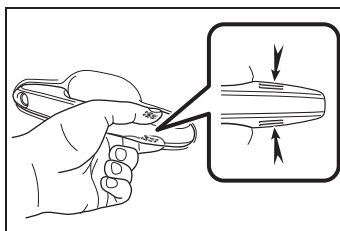
■解錠操作のセキュリティ機能

解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは、盗難防止のため自動的に施錠されます。

■ドアハンドル上側のロックセンサーで施錠できないとき

ドアハンドル上側のロックセンサー部にふれても施錠できないときは、上下のロックセンサー部に同時にふれてください。

手袋を着用しているときは、手袋をはずしてください。



■半ドア警告ブザー

ドアが完全に閉まっていない状態で施錠しようすると、ブザーが 5 秒間鳴り続けます。ドアを完全に閉めてブザーを停止し、再度施錠してください。

■オートアラームの設定制御

施錠するとオートアラームが設定されます。(→P.62)

■スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に働かないおそれのある状況

→P.111

■スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に作動しないとき

メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。(→P.376)

キーの電池が消耗しているときは、電池を交換してください。(→P.330)

■補機バッテリーがあがったときは

スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンでドアを施錠・解錠することはできません。メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠をしてください。(→P.376)

■リヤシートリマインダー機能

リヤシートへの荷物の置き忘れなどを防止するため、次の操作を行ってからパワースイッチを OFF にするとブザーが鳴り、約 6 秒間マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

- リヤドアを開閉したあと約 10 分以内にハイブリッドシステムを始動した
- ハイブリッドシステムが作動している状態でリヤドアを開閉した

ただし、リヤドアを開けてから約 2 秒以内にリヤドアを閉めたときは、リヤシートリマインダー機能は作動しません。

リヤシートリマインダー機能は、リヤドアの開閉によりリヤシートに荷物などを載せたと判断します。そのため、使い方によってはリヤシートに荷物を置き忘れていてもリヤシートリマインダー機能が作動しないなど、実際の状況とは異なる作動をする場合があります。

リヤシートリマインダー機能の作動／非作動を設定できます。(→P.399)

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.399)

⚠ 警告

■事故を防ぐために

運転中は次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、不意にドアが開き車外に放り出されるなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- すべてのドアを確実に閉め、施錠する

- 走行中はドア内側のドアレバーを引かない

特に、運転席はロックレバーが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。

- お子さまをリヤ席に乗せるときは、チャイルドプロテクターを使用して車内からドアが開かないようにする

■ドアを開閉するときの留意事項

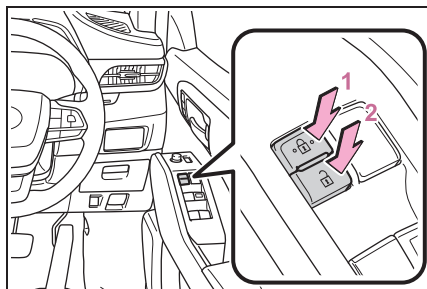
傾斜地・ドアと壁などのあいだが狭い場所・強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

■ワイヤレスリモコンを使ってパワーウィンドウまたはムーンルーフ（装備されている場合）を操作するとき

ドアガラスに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

車内から解錠／施錠するには

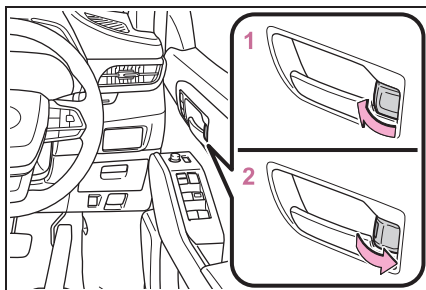
■ドアロックスイッチを使用する



1 全ドアを施錠する

2 全ドアを解錠する

■ ロックレバーを使用する



1 ドアを施錠する

2 ドアを解錠する

運転席ドアは、ロックレバーが施錠側になっていても、車内のドアレバーを引くと開きます。



知識

■ キーを使わずに外側からフロント席を施錠するとき

- 1 ロックレバーを施錠側にする
- 2 ドアハンドルを引いたままドアを閉める

パワースイッチが ACC または ON のときや、車内に電子キーが放置されているときは施錠されません。

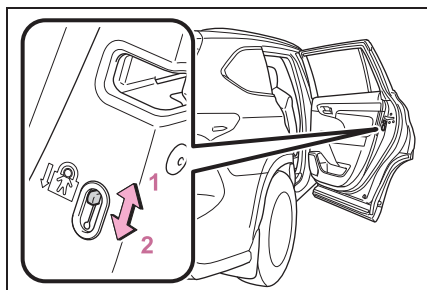
キーが正しく検知されずに施錠される場合があります。

■ 半ドア走行時警告ブザー

各ドアまたはバックドアが確実に閉まっていない状態のまま、車速が約 5km/h をこえると警告ブザーが鳴ります。

開いているドアまたはボンネットがマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

内から開かなくなります。



1 解錠

2 施錠

お子さまが車内からリヤ席ドアを開けられないようにできます。両側のリヤ席ドアを施錠側にしてください。

チャイルドプロテクター

施錠側になると、リヤ席ドアが車

バックドア

次の手順でバックドアの施錠・解錠、開閉が行えます。

⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 走行する前に

走行前にバックドアが閉まっていることを確認してください。完全に閉まっていないと走行中に突然開き、車外のものにあたったり、荷物が投げ出されたりして思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ 走行中の留意事項

- 走行中はバックドアを閉めてください。

開けたまま走行すると、バックドアが車外のものにあたったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

さらに、排気ガスが車内に侵入し、死亡事故や深刻な健康被害を引き起こす可能性があります。運転する前に必ずバックドアを閉めてください。

- ラゲージルームには絶対に人を乗せないでください。急ブレーキ・急旋回をかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ お子さまが車内にいるとき

- ラゲージルームでお子さまを遊ばせないでください。

誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。

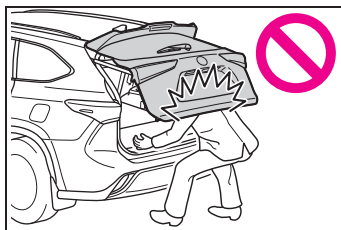
- お子さまにはバックドアの開閉操作をさせないでください。

不意にバックドアが開いたり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

■ バックドアの操作にあたって

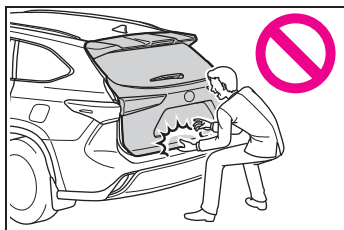
次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害につながるおそれがあります。

- バックドアを開ける前に、バックドアに貼り付いた雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでバックドアが突然閉じるおそれがあります。
- バックドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- 人がいるときは、安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 強風時の開閉には十分注意してください。バックドアが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。
- パワーバックドア非装着車：半開状態で使用すると、バックドアが突然閉じて重大な傷害を受けるおそれがあります。特に傾斜した場所では、平坦な場所よりもバックドアの開閉がしにくく、急にバックドアが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずバックドアが全開で静止していることを確認して使用してください。



⚠ 警告

- パワーバックドア装着車：傾斜が急な場所で半開状態で使用すると、バックドアが突然閉じて重大な傷害を受けるおそれがあります。必ずバックドアが静止していることを確認して使用してください。
- バックドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。



- バックドアは必ず外からバックドア上面を軽く押して閉めてください。バックドアハンドルで直接バックドアを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。
- バックドアダンパーステー（パワーバックドア非装着車）（→P.101）、またはスピンドルユニット（パワーバックドア装着車）（→P.107）を持ってバックドアを閉めたり、バックドアダンパーステー（パワーバックドア非装着車）、またはスピンドルユニット（パワーバックドア装着車）が破損したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

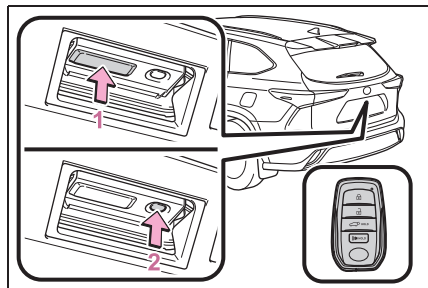
手を挟んだり、バックドアダンパーステー（パワーバックドア非装着車）またはスピンドルユニット（パワーバックドア装着車）が破損したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- バックドアにキャリアなどの重いものを取り付けると、開けたあとにドアが突然閉じて、手・頭・首などを挟むおそれがあります。バックドアへのアクセサリ用品の取り付けは、トヨタ純正品を使用することをおすすめします。

車外から解錠／施錠するには

■ スマートエントリー&スタートシステム

電子キーを携帯して操作します。



1 全ドアを解錠する

施錠操作後 3 秒間は解錠できません。

2 全ドアを施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

■ ワイヤレス機能を使用する

→P.95



■ 作動の合図

→P.96

車内から解錠／施錠するには

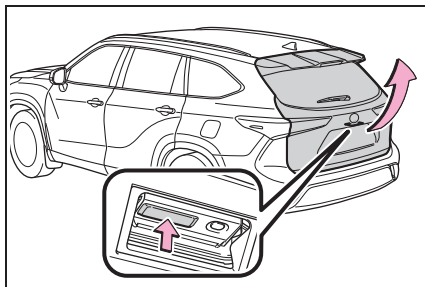
■ ドアロックスイッチを使用する

→P.97

バックドアを開閉するには（パワーバックドア非装着車）

■ 開ける

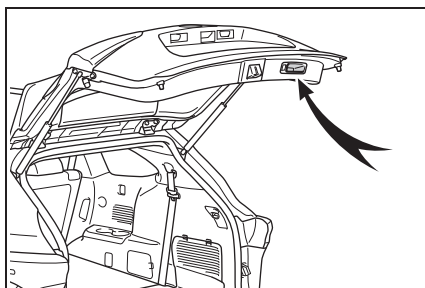
バックドア解錠時に、バックドアオープンスイッチを押したまま、バックドアを持ち上げる



■ 閉める

バックドアハンドルを持ってバックドアを引き下げ、必ず外から押して閉めてください。

バックドアハンドルを使用する際は、バックドアを横に引かないように注意してください。



■ 半ドア走行時警告ブザー

→P.98

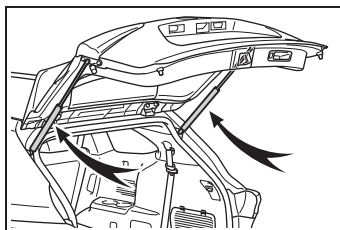
⚠ 注意

■ ダンパーステアについて

バックドアにはバックドアを支えるためのダンパーステアが取り付けられています。

ダンパーステアの損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。

- ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステアのロッド部（棒部）に付着させない



- ロッド部を軍手などでふれない
- バックドアにトヨタ純正品以外のアクセサリ用品をつけない
- ステアに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

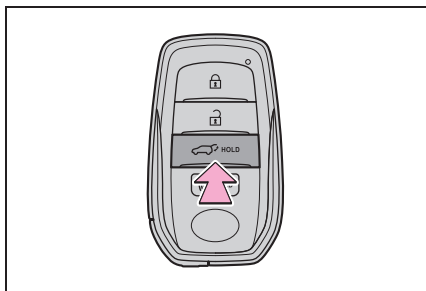
バックドアを開閉するには（パワーバックドア装着車）

■ ワイヤレス機能を使用して開閉する

スイッチを長押しする

バックドア解錠時に作動させることができます。

開閉作動中にスイッチを押すと、作動を停止します。作動を停止した状態から再度、スイッチを長押しすると、バックドアは反転作動します。

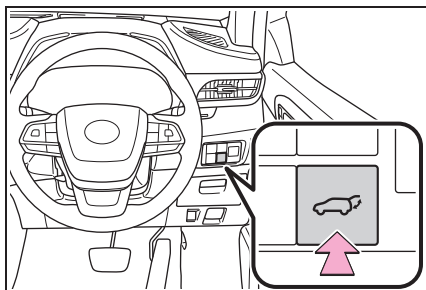


■ 車内からスイッチ操作で開閉する

スイッチを長押しする

バックドア解錠時に作動させることができます。

開閉作動中にスイッチを押すと、作動を停止します。作動を停止した状態から再度、スイッチを長押しすると、バックドアは反転作動します。

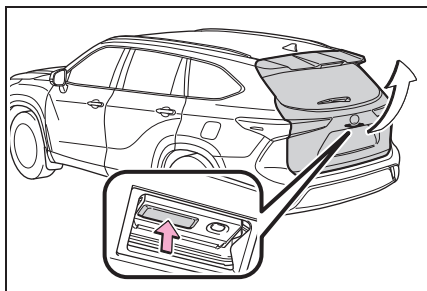


■ バックドアのスイッチを使用して開く

バックドア解錠時：バックドアオープンスイッチを押す

バックドア施錠時：電子キーを携帯して、バックドアオープンスイッチを押し続ける

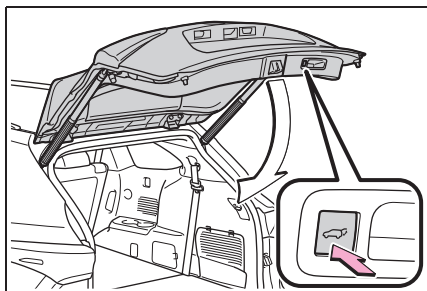
バックドアの開閉中にスイッチを押すと、作動が停止します。もう一度スイッチを押すと、バックドアが開きます。



■ バックドアのスイッチを使用して開閉する

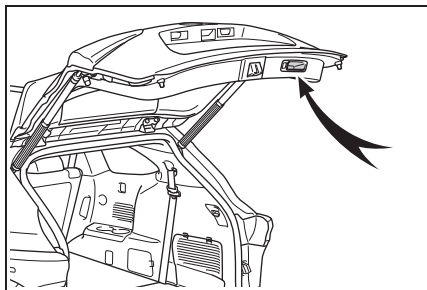
スイッチを押す

開閉作動中にスイッチを押すと、作動を停止します。作動を停止した状態から再度、スイッチを押すと、バックドアは反転作動します。



■ バックドアハンドルを使用して閉じる

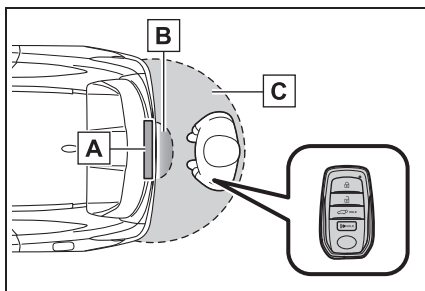
バックドアハンドルを持ってバックドアを引き下げると、ブザーが鳴りバックドアが自動で閉まります。



■ キックセンサーを使用して開閉する（ハンズフリーパワーバックドア装着車）

ハンズフリーパワーバックドアは、リヤバンパー運転席側の下部に足を近付けて離す動作をすることで、バックドアを自動で開閉することができます

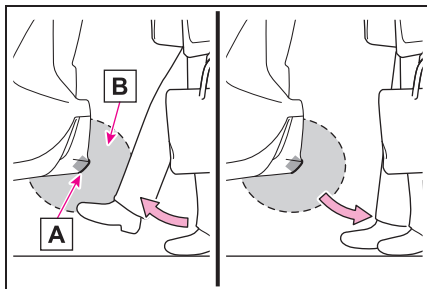
- 1 電子キーを携帯し、スマートエントリー&スタートシステムの作動範囲内でリヤバンパーから約 35 ～ 55cm 離れた位置に立つ



- A** キックセンサー
- B** ハンズフリーパワーバックドア作動検知エリア
- C** スマートエントリー&スタートシステム作動検知エリア（→P.110）

- 2 リヤバンパーから約 10cm 以内に足を近付けて引く動作を行ってください。キックセンサーが足を検知するとブザーが鳴ります。ブザーが鳴った後、足を後ろに引くと、バックドアが自動的に全開／全閉します。
 - ・足を近付けて引く動作を 1 秒以内に行ってください。
 - ・足先をリヤバンパーの下に入れたままでは作動しません。

- ・リヤバンパーに足先をあてずに非接触で操作してください。
- ・車室内またはラゲージルーム内に他の電子キーがあると、作動までの時間が少し長くなる場合があります。



- A** キックセンサー
- B** ハンズフリーパワーバックドア作動検知エリア

バックドアの開閉作動中に再度操作をすると、作動を停止します。作動が停止した状態から再度操作をすると、バックドアは反転作動します。

□ 知識

■ バックドアアイジークローザー

パワーバックドアが半ドア状態になったとき、バックドアアイジークローザーが作動し、バックドアが自動で完全に閉まります。

- パワースイッチがどの状態であっても、バックドアアイジークローザーは作動します。
- バックドアアイジークローザーが作動中でも、バックドアオープンスイッチを押してパワーバックドアを開けることができます。

■ パワーバックドアの作動条件

次の作動条件を満たしているときに作動します。

- パワーバックドアの作動が ON のとき
(→P.399)
- パワースイッチが ON のときは、上記に加え、次のいずれかの条件を満たす必要があります。
 - ・ パーキングブレーキがかかっている
 - ・ ブレーキペダルを踏んでいる
 - ・ シフトレバーが P の位置にある

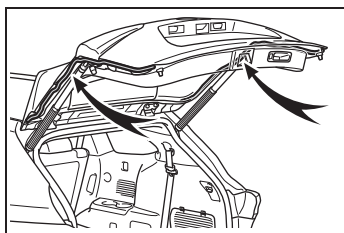
■ パワーバックドアの作動について

- 作動開始時にブザーが鳴り、非常点滅灯が 2 回点滅します。
- バックドアが作動中であることを知らせるブザーが鳴ります。
- パワーバックドアの作動が OFF のときは、パワーバックドアは作動しません
が手で開閉できます。
- パワーバックドア自動開閉中に、人や異物などにより異常を感知すると作動が停止します。

■ 挟み込み防止機能

パワーバックドアの左右端部には、センサーが付いています。パワーバックドアを自動で閉めているときに、挟み込みなどによりセンサーが押されると挟み込み防止機能が作動します。

その位置からパワーバックドアは自動的に反対方向に少し動き、作動が停止します。



■ 予約ドアロック機能について

パワーバックドアの自動閉作動中に、あらかじめ全ドアの施錠を予約する機能です。次の操作をすると、パワーバックド

ア以外のすべてのドアが施錠され、パワーバックドアも閉まると同時に施錠されます。

- 1 バックドア以外のすべてのドアを閉じる
- 2 パワーバックドアの自動閉作動中にドアハンドルのロックセンサーにふれてワイヤレスリモコンによる施錠操作を行う (→P.95)、またはスマートエントリー&スタートシステム (→P.95) による施錠操作を行う

すべてのドアが閉まり施錠されると、ブザーが鳴り、非常点滅灯が点滅してお知らせします。

- 予約ドアロック機能使用時、施錠操作をしたあとに、キーを車内にもどすと、車内にキーが閉じ込められることがあります。
- 予約ロックをしてバックドアが自動閉作動中に、挟み込み防止機能が働くなど停止操作が行われると、予約ロック機能が解除され全てのドアが解錠されます。
- 車から離れるときは、すべてのドアが閉まり施錠されたことを確認してください。

■ キックセンサー作動条件 (ハンズフリーパワーバックドア装着車)

- キックセンサー作動設定を ON (→P.399) にして、パワースイッチを OFF にした場合。
- 電子キーが作動範囲内にあるとき

■ ハンズフリーパワーバックドアが正常に作動しない状況 (装備されている場合)

ハンズフリーパワーバックドアは、次のような状況では正常に作動しないことがあります。

- 足先をリヤバンパーの下に入れたままのとき

- リヤバンパーに足先が強くあたったときや、一定時間ふれたとき

リヤバンパーに一定時間ふれた場合は、少し時間をおいてから再度操作してください。

- 人がリヤバンパーに近すぎる位置で操作したとき
- 電子キーと車両間の通信をさまたげる電波があるとき (→P.111)
- コインパーキング・ガソリンスタンド・ロードヒーター・蛍光灯などキックセンサーの感度をさまたげる電波やノイズがある場所に駐車したとき
- 近くにテレビ塔や発電所・ラジオ放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
- 洗車や大雨などでリヤバンパーに大量の水がかかっているとき
- リヤバンパーの表面に泥・雪・氷などが付着したとき
- リヤバンパーに草木などの動くものがふれる状態が長時間続いたとき
- リヤバンパーにアクセサリ用品を付けたとき

アクセサリ用品を取り付けた場合は、キックセンサーの作動を OFF にしてください。(→P.399)

■ ハンズフリーパワーバックドアの誤作動を防ぐために (装備されている場合)

ハンズフリーパワーバックドアは、電子キーが作動範囲内にあるとき、次のような状況で意図せず作動するおそれがありますので注意してください。

- 洗車や大雨などでリヤバンパーに大量の水がかかっているとき
- リヤバンパーの汚れを拭き取る動作をしたとき
- 小動物やボールなどがリヤバンパーの

下を横切ったとき

- リヤバンパーの下のものを取る動作をしたとき
- リヤバンパーに腰かけて、足を動かしたとき
- リヤバンパーに足や体をふれながら車両を横切ったとき
- コインパーキング・ガソリンスタンド・ロードヒーター・蛍光灯などキックセンサーの感度をさまたげる電波やノイズがある場所に駐車したとき
- 近くにテレビ塔や発電所・ラジオ放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
- リヤバンパーの近くに草木などがある場所に駐車したとき
- リヤバンパーの近くで荷物などの積み降ろしをしたとき
- リヤバンパーの近くでアクセサリ用品やカーカバーの着脱作業したとき
- リヤバンパー内側に付着した雪が溶けた場合
- スペアタイヤが正しい位置に格納されていない場合。

誤作動を防止するため、キックセンサー作動設定を OFF にしてください。(→P.399)

■ 補機バッテリーを再接続したとき

パワーバックドアを適切に作動させるために、初期設定としてバックドアを手動で一度全閉にしてください。

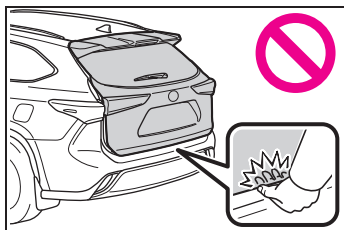
■ カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.399)

⚠ 警告

■ バックドアアイズクローザーについて

- パワーバックドアが半ドア状態になったとき、バックドアアイズクローザーが動き自動で完全に閉まります。また、作動し始めるまでに数秒かかります。指などを挟まないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあります。



- バックドアアイズクローザーは、パワーバックドアの作動が OFF のときにも作動するため、指などの挟みこみには十分注意してください。

■ パワーバックドアについて

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 周辺の安全を確かめ、障害物がないか、身のまわりの品が挟み込まれる危険がないか確認してください。
- 人がいるときは、作動させる前に安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 自動開閉中にパワーバックドアの作動を OFF にすると、作動が停止し手動操作に切りかわります。この場合、パワーバックドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。

● 自動開閉中に作動可能条件

(→P.103) を満たさなくなったときは、ブザーが鳴り、作動が停止し手動操作に切りかわる場合があります。この場合、傾斜した場所ではパワーバックドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので十分注意してください。

- 傾斜した場所では、開いたあとにパワーバックドアが突然閉じる場合があります。必ずドアが全開で静止していることを確認してください。

- 次のような場合、システムが異常と判断して自動作動が停止し、手動操作に切りかわることがあります。この場合、パワーバックドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。

- ・ 自動作動中、障害物に干渉したとき
- ・ ハイブリッドシステム停止時でパワーバックドアが自動作動しているときに、パワースイッチを ON モードにしたりハイブリッドシステムを始動したりして、補機バッテリー電圧が急に低下したとき

- パワーバックドアにキャリアなどの重いものを取り付けると、自動で作動できずにパワーバックドアが故障したり、開いたあとにドアが突然閉じて、手・腕・頭・首などを挟むおそれがあります。パワーバックドアへのアクセサリ用品の取り付けは、トヨタ純正品を使用することをおすすめします。

■ 挟み込み防止機能

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

- 挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、体の一部を挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、パワーバックドアが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。
- 挟み込み防止機能は、挟まれるものの形状や挟まれかたによっては作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

■ ハンズフリーパワーバックドアについて（装備されている場合）

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

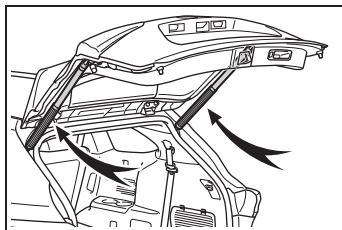
- 周辺の安全を確かめ、障害物がないか、身のまわりの品が挟み込まれる危険がないか確認してください。
- 排気管は排気ガスにより高温になります。操作するときは排気管にふれないでください。
- リヤバンパーの下スペースが狭い場合は、操作しないでください。

注意

■ スピンドルユニットについて

バックドアにはバックドアを支えるためのスピンドルユニットが取り付けられています。

スピンドルユニットの損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。



- ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をスピンドルユニットに付着させない
- バックドアにトヨタ純正品以外のアクセサリ用品を付けない
- スピンドルユニットに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

■ バックドアアイジークローザーの故障を防ぐために

バックドアアイジークローザーの作動中は無理な力をかけないでください。無理な力をかけると、バックドアアイジークローザーの故障の原因となります。

■ パワーバックドアの故障を防ぐために

- パワーバックドアを作動させる前に、凍結によるパワーバックドアの貼り付きがないことを確認してください。パワーバックドアに無理な力がかかっている状態で作動させると、故障の原因になります。

注意

● パワーバックドアの作動中は、パワーバックドアに無理に力をかけないでください。

● センサー（パワーバックドア左右端部）を刃物などの鋭利なもので傷付けないように注意してください。センサーが切断されると自動で閉めることができなくなります。

■ ハンズフリーパワーバックドアについて（装備されている場合）

キックセンサーは、リヤバンパーの内側に設置されています。ハンズフリーパワーバックドアを正しく作動させるために次のことをお守りください。

● リヤバンパーは常にきれいにしておく

リヤバンパーに汚れや着雪などがある場合、ハンズフリーパワーバックドアが作動しなくなることがあります。その場合、汚れや雪を落とした後、現在の位置から車両を動かしてから作動するか確認を行ってください。それでも作動しない場合はトヨタ販売店にて点検を受けてください。

● リヤバンパーに親水性コーティングなどの液体を塗らない

● リヤバンパーに草木など動くものを近づけない

リヤバンパーに草木などの動くものがふれる状態が長期間続いたときは、ハンズフリーパワーバックドアが作動しなくなることがあります。その場合、現在の位置から車両を動かしてから作動するか確認を行ってください。それでも作動しない場合はトヨタ販売店にて点検を受けてください。

● リヤバンパーへの強い衝撃を避ける
リヤバンパーが強い衝撃を受けると、ハンズフリーパワーバックドアが正常に作動しなくなるおそれがあります。

次のような場合にハンズフリーパワーバックドアが作動しないときは、必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。

・ キックセンサーやキックセンサー周辺に強い衝撃を受けた

・ リヤバンパーに傷や破損がある

● リヤバンパーを分解しない

● リヤバンパーにステッカーを貼らない

● リヤバンパーを塗装しない

● パワーバックドアに自転車キャリアなどを取り付けた場合は、ハンズフリーパワーバックドア（キックセンサー）の作動を OFF にする

パワーバックドア自動開停止位置調整について

パワーバックドアを自動で開けたときに、開く位置を調整できます。

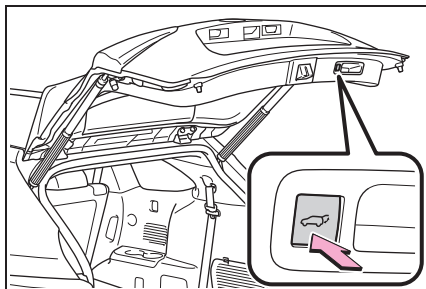
1 パワーバックドアをお好みの位置で停止させる（→P.102）

2 バックドアにあるパワーバックドアスイッチを約 2 秒間押し続けます。

・ 設定が完了するとブザーが 4 回鳴ります。

・ 次回パワーバックドアを開けると、その位置でパワーバックド

アが停止します。

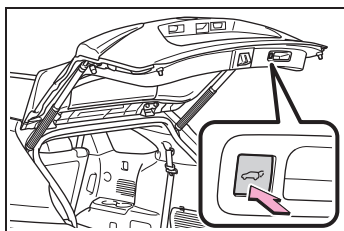


知識

■ パワーバックドア自動開停止位置を初期状態の位置にもどすには

バックドアにあるパワーバックドアスイッチを約 7 秒間押し続けます。

ブザーが 4 回鳴ったあと、さらに 2 回鳴ります。次回パワーバックドアを開ける操作をすると、初期状態の位置までパワーバックドアが開きます。



■ マルチインフォメーションディスプレイでバックドアの開位置を設定する場合

パワーバックドアの開位置は、マルチインフォメーションディスプレイで調整できます。(→P.399)

パワーバックドアを開けると、バックドアまたはマルチインフォメーションディスプレイ上のパワーバックドアスイッチで最後に設定した位置まで開きます。

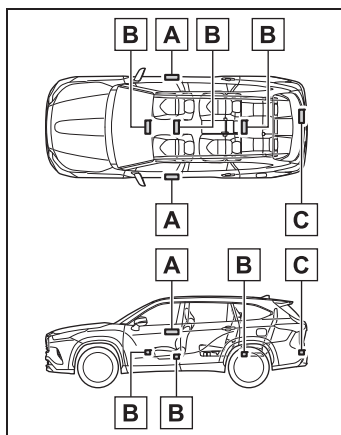
スマートエントリー&スタートシステム

電子キーをポケットなどに携帯していると、次の操作が行えます。必ず運転者が携帯してください。

- ドアを施錠・解錠する (→P.95)
- バックドアを施錠・解錠する (→P.100)
- ハイブリッドシステムを始動・停止する (→P.150)

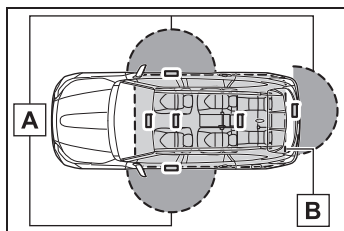
知識

■ アンテナの位置



- A** 車外アンテナ
- B** 車室内アンテナ
- C** 荷物室外のアンテナ

■作動範囲（電子キーの検知エリア）



【A】ドアの施錠・解錠時

フロントドアのドアハンドル・リヤドアのドアハンドル・バックドアオープンスイッチから周囲約 70cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。（電子キーを検知しているドアハンドルのみ作動します）

【B】ハイブリッドシステム始動時またはパワースイッチ切りかえ時

車内で電子キーを携帯している場合に作動します。

■警告音が鳴ったり警告表示が出たりしたとき

誤操作などによる予期せぬ事故や盗難を防ぐため、警告音が鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されることがあります。警告が表示されたときは、ディスプレイの表示をもとに適切に対処してください。（→P.359）

警告音のみが鳴る場合の状況と対処方法は次の通りです。

- 車外から警告音が“ピー”と5秒鳴るとき

状況	対処方法
いずれかのドアが開いているときに施錠しようとした	全ドアを閉めたあと、再度施錠する

- 車内から警告音が“ポーン、ポーン”と鳴り続けるとき

状況	対処方法
運転席ドアが開いている状態でパワースイッチをACCにした（パワースイッチがACCのとき運転席ドアを開いた）	パワースイッチをOFFにしたあと、運転席ドアを閉める

■節電機能

長期駐車時に電子キーの電池と車両の補機バッテリーあがりを防止するため、節電機能が働きます。

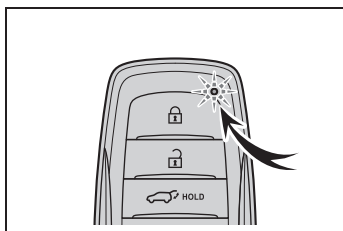
- 次の状況では、スマートエントリー&スタートシステムによる解錠に時間がかかる場合があります。
 - ・車の外約 2m 以内に電子キーを 10 分以上放置した
 - ・5 日間以上スマートエントリー&スタートシステムを使用しなかった
 - 14 日間以上スマートエントリー&スタートシステムを使用しなかった場合、運転席以外での解錠ができなくなります。この場合は、運転席のドアハンドルを握る、もしくは、ワイヤレス機能、メカニカルキーで解錠してください。

■電子キーを節電モードにするには

節電モードに設定すると、電子キーによる電波の受信待機を停止し、電子キーの電池の消耗を抑えることができます。

電子キーの  を押しながら、 を 2 回押し、電子キーのインジケーターが 4 回光することを確認してください。

節電モード中は、スマートエントリー&スタートシステムを使用できません。節電モードを解除するには、電子キーのいずれかのスイッチを押してください。



■機能が正常に働かないおそれのある状況

スマートエントリー&スタートシステムは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子キーと車両間の通信をさまたげ、スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコン、エンジンイモビライザーシステムが正常に作動しない場合があります。(対処方法：→P.376)

- 電子キーの電池が消耗しているとき
- 近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
- 電子キーが、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき
 - ・ アルミ箔などの金属の貼られたカード
 - ・ アルミ箔を使用したタバコの箱
 - ・ 金属製の財布やかばん
 - ・ 小銭
 - ・ カイロ
 - ・ CD や DVD などのメディア
- 近くで他の電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき
- 電子キーを、次のような電波を発信する製品と同時に携帯しているとき
 - ・ 無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器
 - ・ 他の電子キーや電波式ワイヤレスリモコン
 - ・ パソコンや携帯情報端末 (PDA など)
 - ・ デジタルオーディオプレーヤー

・ ポータブルゲーム機器

- リヤウインドウガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき
- 充電器など電子機器の近くに電子キーを置いた場合
- コインパーキングなど通信をさまたげる電波がある場所に駐車したとき

■ご留意いただきたいこと

- 電子キーが作動範囲内（検知エリア内）にあっても、次のような場合は正しく作動しないことがあります。
 - ・ ドアの施錠・解錠時に電子キーがドアガラスやドアハンドルに近付きすぎる、または地面の近くや高い場所にある場合
 - ・ ハイブリッドシステム始動時またはパワースイッチの切りかえ時に電子キーがインストルメントパネルやフロア上・リヤシート後方のパッケージトレイ上・ドアポケット、またはグローブボックス内などに置かれていた場合
- インストルメントパネル上面・ドアポケット付近に電子キーを置いたまま車外に出ると、電波の状況によっては車外アンテナに検知されて車外からのドアロックが可能になる場合があります、電子キーが車内に閉じ込められるおそれがあるため注意してください。
- 電子キーが作動範囲内にあれば、電子キーを携帯している人以外でも施錠・解錠できます。ただし、電子キーを検知しているドア以外では、解錠できません。
- 車外でもドアガラスに近い位置に電子キーがあるときは、ハイブリッドシステムの始動が可能になる場合があります。
- 電子キーが作動範囲内にある場合、洗車や大雨などでドアハンドルに大量の水がかかると、ドアが施錠・解錠することがあります。(解錠された場合で

も、ドアの開閉操作がなければ約 30 秒後に自動的に施錠されます)

- 車両に近い位置に電子キーがあるときにワイヤレスリモコンなどで施錠を行うと、スマートエントリー&スタートシステムによる解錠ができなくなることがあります。(ワイヤレスリモコンで解錠すると復帰します)
- 手袋を着用していると施錠・解錠しないことがあります。
- ロック操作は、連続で2回まで有効で、3回目以降はロック動作しません。
- キーを携帯して洗車などで水をドアハンドルにかけた場合、施錠／解錠動作をくり返すことがあります。その場合は次のような処置をして、洗車などをしてください。
 - ・電子キーを車両から 2m 以上離れた場所に保管する (電子キーの盗難に注意してください)
 - ・電子キーを節電モードに設定し、スマートエントリー&スタートシステムの作動を停止する (→P.110)
- 車内にキーがあるときに、洗車機で洗車するなどして水をドアハンドルにかけた場合、警報がマルチインフォメーションディスプレイに表示され、車外のブザーが吹鳴することがあります。その場合は全ドアを施錠すれば警報は表示されなくなります。
- ロックセンサーの表面に氷や雪、泥が付着した場合、センサーが反応しない場合があります。反応しない場合は表面に付着した氷や雪、泥を取り除いて再度操作してください。
- すばやいドアハンドル操作や、車外アンテナの作動範囲内へ入ってすぐのドアハンドル操作では、解錠しないことがあります。センサーにふれ解錠したことを確認してからドアハンドルを引いてください。

- 作動範囲内に他の電子キーがあるときは、ドアハンドルを握ってから解錠するまでの時間が少し長くなる場合があります。

■長期間運転しないとき

- 盗難防止のため、電子キーを車両から 2m 以上離しておいてください。
- あらかじめスマートエントリー&スタートシステムを非作動にすることができます。(→P.399)
- 電子キーを節電モードに設定すると、電池の消耗を抑えることができます。(→P.110)

■システムを正しく作動させるために

電子キーを必ず携帯した上で作動させてください。また、車外から操作する場合は電子キーを車両に近付けすぎないようにしてください。

作動時の電子キーの位置や持ち方によっては、電子キーが正しく検知されず、システムが正しく作動しないことがあります。(誤って警報が鳴ったり、キー閉じ込み防止機能が動かないこともあります。)

■スマートエントリー&スタートシステムが正常に作動しないとき

スマート エントリー & スタート システムを使用してドアをロック / ロック解除できない場合は、次のいずれかを実行してドアを施錠・解錠してください。

- 電子キーをドアハンドルに近づけて施錠・解錠の操作をする
- ワイヤレスリモコンを使用する

上記の方法で施錠・解錠できないときは、メカニカルキーを使って操作してください。(→P.376)

ハイブリッドシステムの始動ができないときは、次の方法を行ってください。
P.377.

■ カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.399)

■ カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムを非作動にしたとき

- ドアの施錠・解錠：ワイヤレス機能、またはメカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。(→P.95, 376)
- ハイブリッドシステムの始動・パワースイッチのモード切りかえ：→P.377
- ハイブリッドシステムの停止：→P.151

スマートエントリー&スタートシステムを作動しないようにすることもできます。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

⚠ 警告

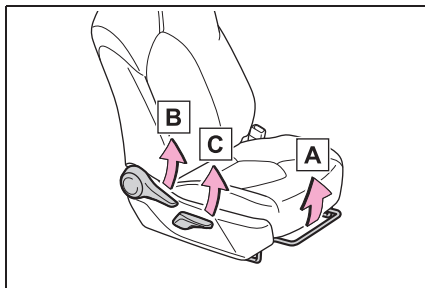
■ 電波がおよぼす影響について

- 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータまたは植込み型除細動器を装着されている方は、アンテナ(→P.109) から約 22cm 以内に植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータまたは植込み型除細動器が近づかないようにしてください。電波により植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータまたは植込み型除細動器の作動に影響を与える場合があります。
- 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータまたは植込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合には、電波による影響について個別に医療用電気機器メーカーなどにご確認ください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与える場合があります。

フロントシート

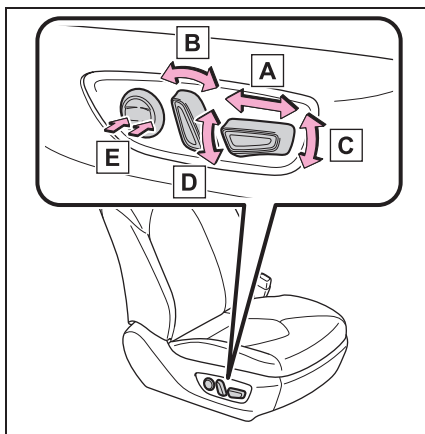
調整のしかた

▶ マニュアルシート装着車



- A** 前後位置調整
- B** リクライニング調整
- C** クッション全体の上下調整（運転席のみ）

▶ パワーシート装着車



- A** 前後位置調整
- B** リクライニング調整
- C** クッション前端の上下調整
- D** シート全体の上下調整
- E** 腰部位置調整（運転席のみ）

知識

■ シートを調整するとき

シートを調整する際は、ヘッドレストが天井に触れないように注意してください。

⚠ 警告

■ シート位置を調整するとき

- 同乗者がシートにあたっけがをしないように注意してください。
 - シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあります。
 - 足元のスペースを確保し足を挟まないように注意してください。
- ##### ■ シート調整について
- シートが同乗者や荷物に当たらないように注意してください。
 - 衝突時にシートベルトの下に滑落する危険を減らすため、必要以上にシートを倒さないでください。

背もたれは必要以上に倒さないでください。必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

運転中に調整を行うと、シートが予期せず動いて運転者が車両の制御を失う可能性があります。

- マニュアルシート装着車のみ：シートを調整した後、シートが所定の位置に固定されていることを確認してください。

リヤシート

レバーの操作で、リクライニングの調整や背もたれを倒すことができます。

⚠ 警告

■ シート調整

- 衝突時にシートベルトの下に滑り落ちる危険を減らすため、必要以上にシートを倒さないでください。

背もたれは必要以上に倒さないでください。必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

運転中に調整を行うと、シートが予想せず動いて運転者が車両の制御を失うおそれがあります。

- シートが同乗者や荷物に当たらないように注意してください。
- 手や足がシートにはさまれないように注意してください。

■ シートを調整または戻した後

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- シートを前後に軽くゆさぶり、確実に固定する
- シートベルトがねじれたり、シートの背もたれに引っかかったりしていないことを確認してください。

■ 背もたれを操作するとき

次のことをお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中に前倒しをしない
- 平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーをPにする
- 倒した背もたれの上やラゲージルームに人を乗せて走行しない
- お子さまがラゲージルームに入らないよう注意する
- リヤシートに同乗者がいる場合やリヤシートに荷物が置かれている場合は、リヤシートの背もたれを倒さないでください。
- リヤシートの背もたれを倒す際は手を挟まないように注意してください。

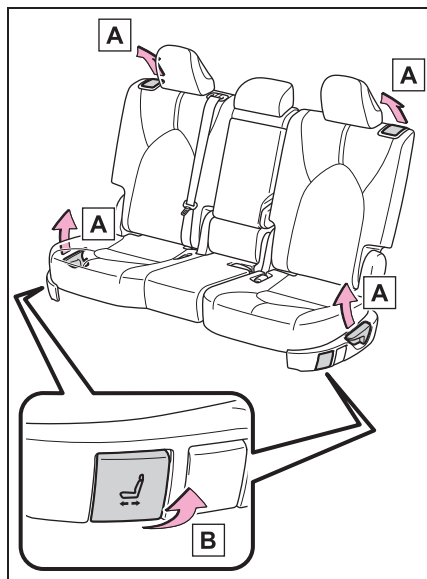
■ サードシートを使用する場合

サードシートの中央に座らないでください。図のようにラベルが貼られています。中央に座ると、急ブレーキや衝突の際に死亡または重傷を負うおそれがあります。



調整するには

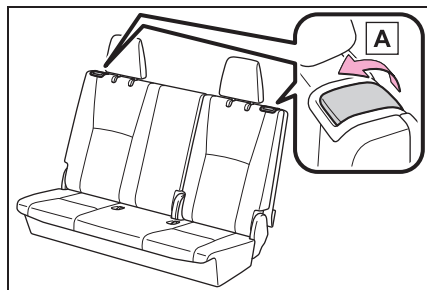
■ セカンドシート



A リクライニング調整レバー

B シート位置調整レバー

■ サードシート



A リクライニング調整レバー

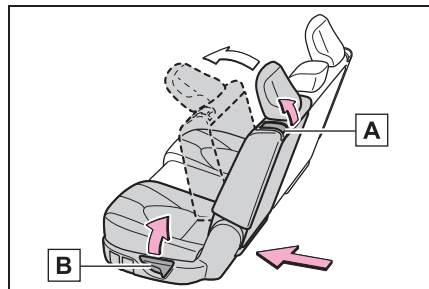
サードシートにアクセスするためにセカンドシートを移動する

■ 車両へ乗り降りするとき

シートバック角度調整レバー **A**

または **B** を引いてシートバックを前方に倒し、その後シートを前方にスライドさせてください。

レバーを操作する前に、セカンドシートの座席に同乗者や障害物がないことを必ず確認してください。



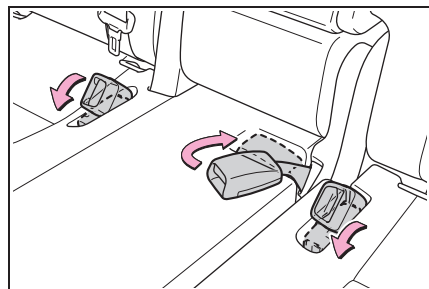
■ 同乗者が車両に乗り降りしたあと

背もたれを持ち上げて、ロックされるまでシートを後方にスライドさせます。

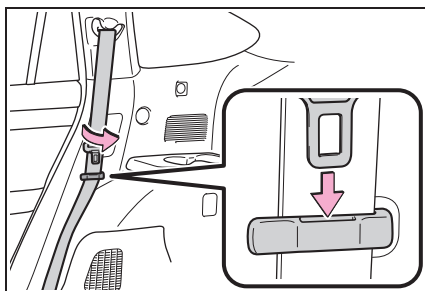
セカンドシートを折りたたむ

■ セカンドシートを折りたたむ前に

- 1 アームレストを収納します。
(→P.290)
- 2 セカンドシートのシートベルトバックルを収納します。



- 3** シートベルトハンガーに外側席シートベルトを格納し、プレートハンガー穴部に挿し込む
シートベルトが損傷するのを防ぎます。

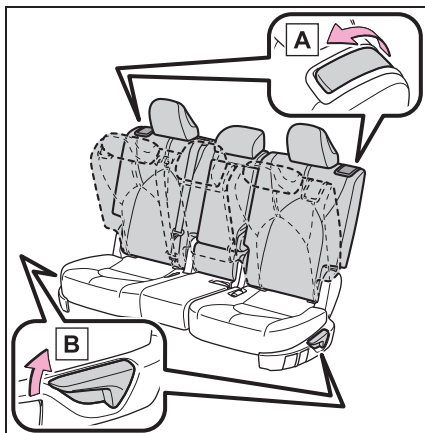


- 4** ヘッドレストをいちばん下まで下げる。(→P.119)

■ セカンドシートの格納のしかた

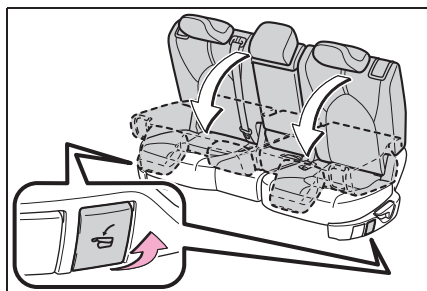
- 1** シートバックリクライニングレバー **A** または **B** を引いて、背もたれを前方に傾けます。

各背もたれは別々に折りたたむことができます。



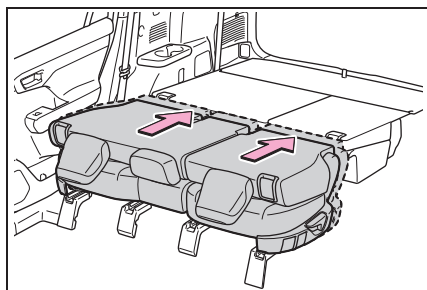
- 2** 背もたれ折りたたみレバーを引いて背もたれのロックを解除し

ます。背もたれが折りたたまれます。



■ セカンドシートを格納したあとは

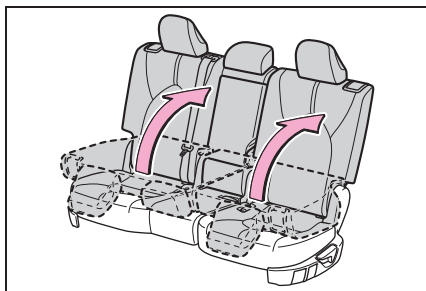
折りたたんだセカンドシートをロックされるまで後方にスライドさせます。



■ セカンドシートをもとにもどすには

ロックされるまで背もたれを持ち上げます。

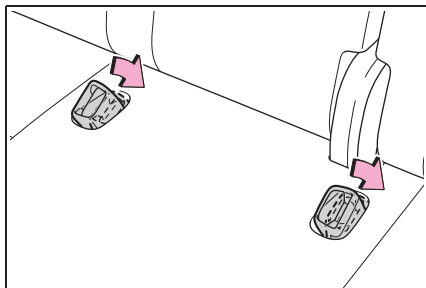
使用する前に、固定されたシートベルトをシートベルトハンガーから取りはずしてください。



■ サードシートの格納のしかた

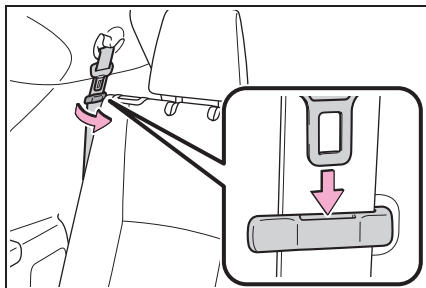
■ サードシートを格納する前に

- 1 サードシートのシートベルトバックルを収納します。



- 2 シートベルトハンガーにシートベルトを格納し、プレートハンガー穴部に挿し込む

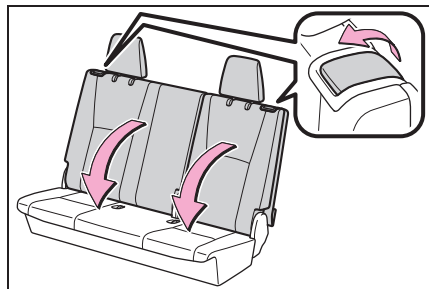
シートベルトが損傷するのを防ぎます。



■ サードシートの格納のしかた

背もたれの角度調整レバーを引きながら、背もたれを倒します。

ヘッドレストは前方に折りたたまれます。

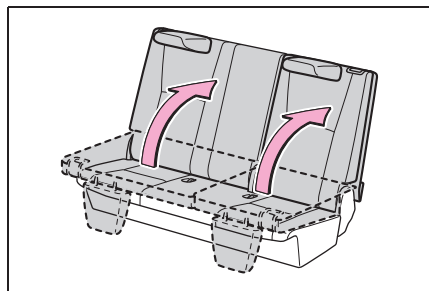


■ サードシートをもとにもどすには

- 1 背もたれをもどします。

▶ 内側から

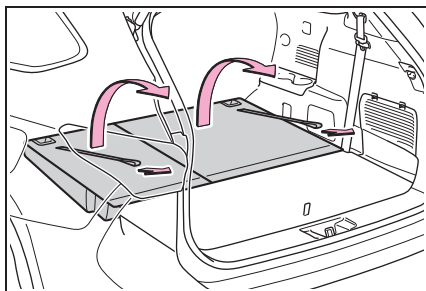
ロックされるまで背もたれを持ち上げます。



▶ 外側から

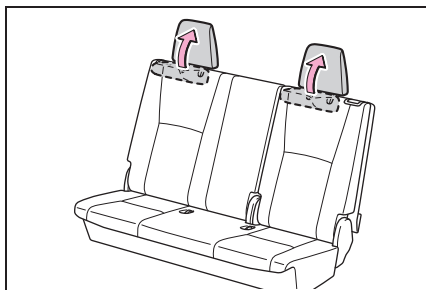
ストラップを引いて、背もたれがロックされるまで持ち上げます。

いずれかのストラップを使用した後、ストラップのベルクロを使用してシートバックに固定します。



2 ヘッドレストをもどします。

使用する前に、固定されたシートベルトをシートベルトハンガーから取り外してください。



ヘッドレスト

ヘッドレストはすべてのシートに装備されています。

⚠ 警告

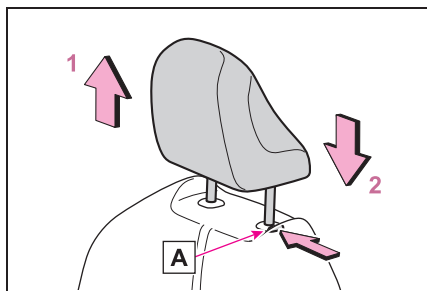
■ ヘッドレストについて

次のことをお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ヘッドレストを必ず正しい位置に調整する
- ヘッドレストを調整したあとは、ヘッドレストを押し下げて固定されていることを確認する
- ヘッドレストをはずしたまま走行しない

上下調整するには

■ フロント席



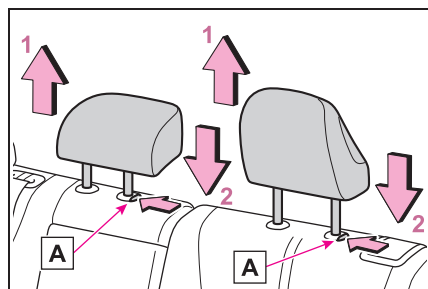
1 上げる

ヘッドレストを引き上げます。

2 下げる

解除ボタン **A** を押しながら、ヘッドレストを押し下げます。

■ セカンドシート



1 上げる

ヘッドレストを引き上げます。

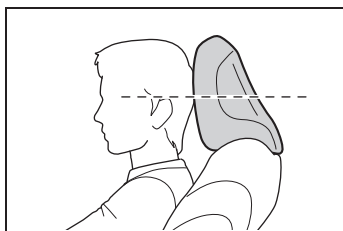
2 下げる

解除ボタン **A** を押しながら、ヘッドレストを押し下げます。



知識

■ ヘッドレストの高さについて



必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上のあたりになるよう調整してください。

■ サードシート使用時

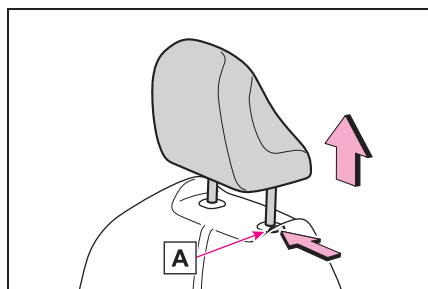
ヘッドレストを前方に倒した場合は、必ず元の位置に戻してください。(→P.118)

ヘッドレストを取りはずすには

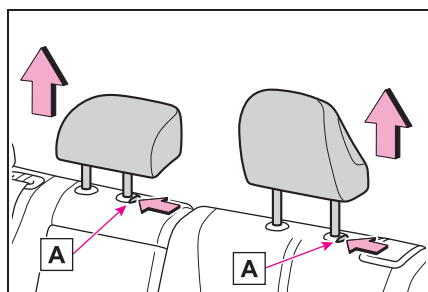
解除ボタン **A** を押しながらヘッドレストを引き上げます。

ヘッドレストが天井にあたって取りはずしにくいときは、シートの高さや角度をかえてください。(→P.114, 115)

▶ フロントシート



▶ セカンドシート

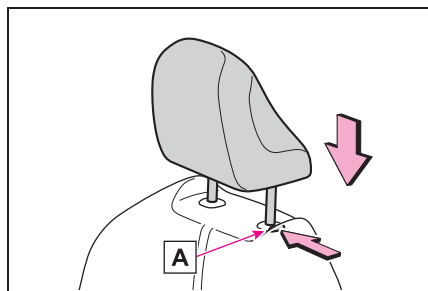


ヘッドレストを取り付けるには

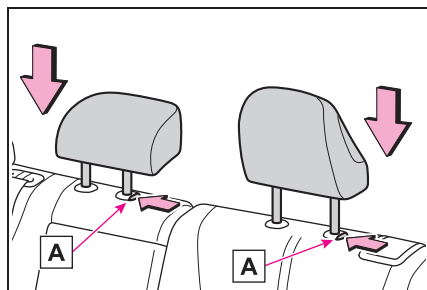
ヘッドレストを取り付け穴に合わせ、ロック位置まで押し下げてください。

さらに下げるときは、解除ボタン **A** を押しながら操作してください。

▶ フロントシート



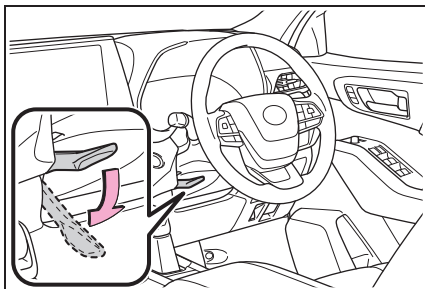
▶ セカンドシート



ハンドル

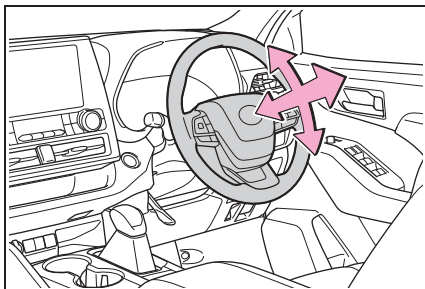
調整のしかた

- 1 ハンドルを持ち、レバーを下げる



- 2 ハンドルを上下・前後に動かし、適切な位置にする

位置が決定したら、レバーを上げてハンドルを固定してください。



⚠ 警告

■ 走行中の留意事項

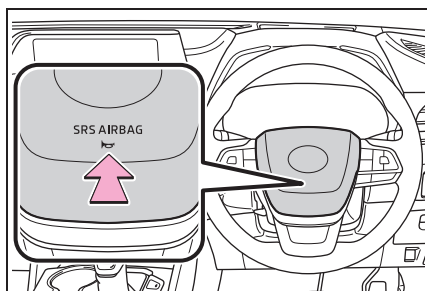
走行中はハンドル位置の調整をしないでください。運転を誤り、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ハンドル位置を調整したあとは

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。固定が不十分だと、ハンドルの位置が突然かわり、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また固定が不十分だとホーンが鳴らない場合があります。

ホーン（警音器）

ハンドルの  周辺部を押すとホーンが鳴ります。



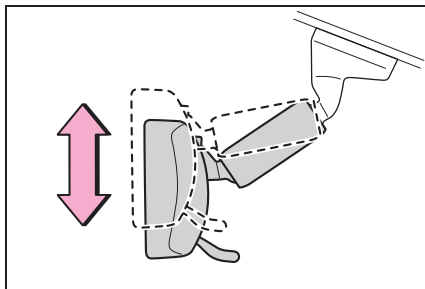
インナーミラー

後方を十分に確認できるようにミラーの位置を調整することができます。

上下調整のしかた

運転姿勢に合わせてインナーミラーの高さを調整することができます。

インナーミラー本体を持って、上下方向に調整する



警告

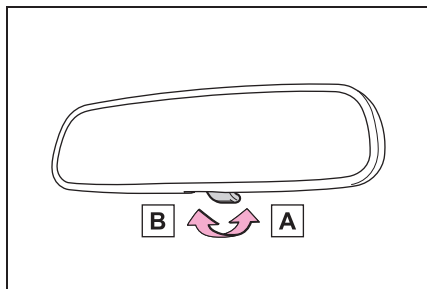
■ 走行中の留意事項

走行中はミラーの調整をしないでください。運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

防眩機能

▶ 手動防眩タイプ装着車

レバーを操作することで、後続車のヘッドランプによる反射光を減少させます。



A 通常使用時

B 防眩時

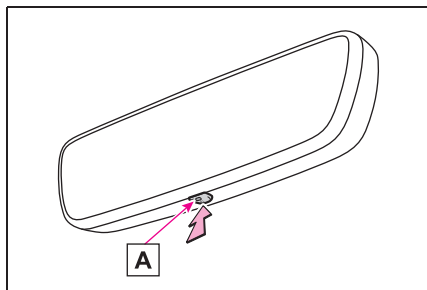
▶ 自動防眩タイプ装着車

後続車のヘッドランプのまぶしさに応じて反射光を自動的に減少させます。

自動防眩機能の切りかえ ON / OFF

ON のときはインジケーター **A** が点灯します。パワースイッチを ON にしたときは、ミラーは常に自動防眩機能が ON になっています。

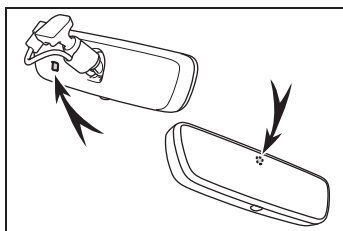
ボタンを押すと OFF になりインジケーター **A** が消灯します。



知識

■ センサーの誤作動防止（自動防眩タイプ装着車）

センサーの誤作動を防ぐため、センサーにふれたりセンサーを覆ったりしないでください。



ドアミラー

安全に運転していただくためには、運転する前に視界が確保できるようにミラーの角度を調整してください。

知識

■ 寒冷時にドアミラーを使用するとき

寒冷時にドアミラーが凍結していると、ドアミラーの格納・復帰や鏡面の調整ができない場合があります。ドアミラーに付着している氷や雪などを取り除いてください。

警告

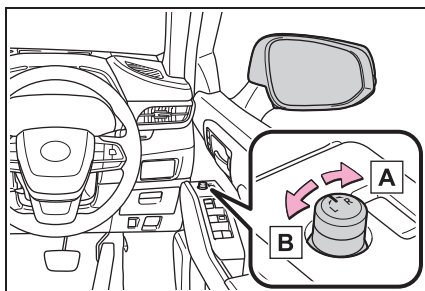
■ 走行中の留意事項

走行中は次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、運転を誤って重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ミラーの調整をしない
- ドアミラーを格納したまま走行しない
- 走行前に必ず、運転席側および助手席側のミラーをもとの位置にもどして、正しく調整する

調整するには

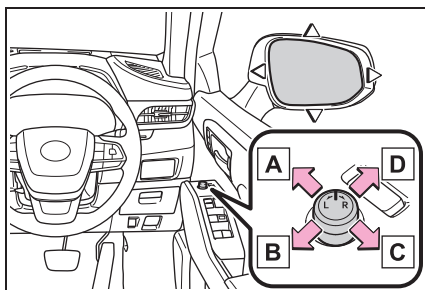
- 1 調整するミラーを選ぶには、スイッチをまわす



A 右

B 左

- 2 ミラーの鏡面を調整するにはスイッチを操作する



A 上

B 左

C 下

D 右



知識

■鏡面調整の作動条件

パワースイッチが ACC または ON のとき

■ミラーが曇ったとき

リヤウインドウデフォグガーを作動させると、ミラーヒーターが同時に作動し、

曇りを取ることができます。(→P.260)

■ミラー角度の自動調整（装備されている場合）

お好みのミラー角度をポジションメモリーに登録すると、自動で調整されます。(→P.136)

■後退時のミラー連動機能（装備されている場合）

ミラー選択スイッチの「L」または「R」のいずれかを選択すると、車両が後退するときに、地面がよく見えるように外側のバックミラーが自動的に下向きになります。

この機能を無効にするには、「L」も「R」も選択しないでください。

車両を後退させるときに使用するミラー角度を設定するには、シフトレバーを R に入れた状態でミラー角度を希望の位置に調整します。

調整した角度は記憶され、次回からシフトレバーを R にすると、ミラーは記憶された角度に自動的に傾きます。

記憶されたミラーの下向き角度は、ノーマル位置（シフトレバーを R 以外の位置で調整した角度）に連動しています。そのため、調整後にノーマル位置を変更すると、ミラーの下向き角度も変更されます。

通常位置が変更された場合は、後進時に角度を再調整してください。

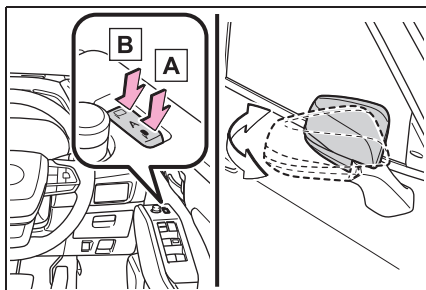
⚠ 警告

■ミラーヒーターが作動しているとき
鏡面が熱くなるのでふれないでください。

ドアミラーを格納・復帰するには

オートモードでは、ミラーの格

納・復帰をドアの施錠／解錠に連動させることができます。



A ミラーを格納する

B ミラーをもとの位置にもどす



■ カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.399)

⚠ 警告

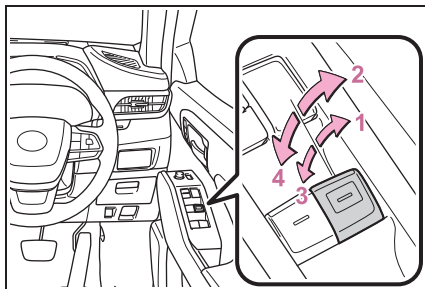
■ ミラーが動いているとき

手をふれないでください。手を挟んでけがや、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

パワーウィンドウ

ドアガラスを開閉するには

スイッチでドアガラスを開閉できます。スイッチを操作すると、ドアガラスを次のように動かします。



- 1 閉める
- 2 自動全閉※
- 3 開ける
- 4 自動全開※

※途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。

知識

■作動条件

パワースイッチが ON のとき

■ハイブリッドシステム停止後の作動

パワースイッチを ACC または OFF にしたあとでも、約 45 秒間ドアガラスを開閉できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■挟み込み防止機能

ドアガラスを閉めているときに、窓枠とドアガラスのあいだに異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。

■巻き込み防止機能

ドアガラスを開けているときに、異物がドアガラスとドアのすき間に巻き込まれ

ると、作動が停止します。

■ドアガラスを開閉することができないときは

挟み込み防止機能や巻き込み防止機能が異常に作動してしまい、ドアガラスを開閉することができないときは、開閉することができないドアのパワーウィンドウスイッチで、次の操作を行ってください。

●車を停止し、パワースイッチを ON の状態で、挟み込み防止機能や、巻き込み防止機能が作動したあと約 4 秒以内に、パワーウィンドウスイッチを自動全閉の位置で引き続ける。または、自動全開の位置で押し続けることでドアガラスを開閉することができます。

●上記の操作を行ってもドアガラスが開閉できない場合、機能の初期化を次の手順で実施してください。

- 1 パワースイッチを ON にする
- 2 パワーウィンドウスイッチを自動全閉の位置で引き続け、ドアガラスを全開にする
- 3 いったんパワーウィンドウスイッチから手を離して、再度パワーウィンドウスイッチを自動全閉の位置で約 6 秒以上引き続ける
- 4 パワーウィンドウスイッチを自動全開の位置で押し続け、ドアガラスを全開にしたあと、さらにスイッチを 1 秒以上押し続ける
- 5 いったんパワーウィンドウスイッチから手を離して、再度パワーウィンドウスイッチを自動全開の位置で約 4 秒以上押し続ける
- 6 再度、パワーウィンドウスイッチを自動全閉の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを 1 秒以上引き続ける

ドアガラス作動途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。以上の操作を行っても反転して閉じ切ら

ない、または全開にならない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ ドアロック連動ドアガラス開閉機能

- メカニカルキーでドアガラスを開閉できます。＊ (→P.377)

- ワイヤレスリモコンでドアガラスを開閉できます。＊ (→P.95)

＊ トヨタ販売店で設定変更が必要です。

■ 窓開警告ブザー

パワースイッチが OFF でドアガラスが開いていると、運転席ドアを開けたときにブザーが鳴り、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■ カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.399)

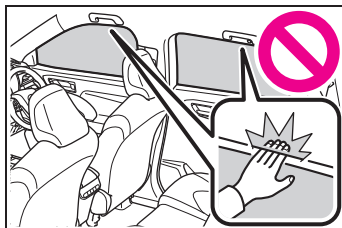
⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ドアガラスを開閉するとき

- 運転者は、乗員の操作を含むすべてのドアガラス開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはドアガラスの操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。また、お子さまが同乗するときはウィンドウロックスイッチを使用することをおすすめします。(→P.129)

- ドアガラスを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。



- ワイヤレスリモコンやメカニカルキーを使ってドアガラスを操作するときは、ドアガラスに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンやメカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

- 車から離れるときはパワースイッチを OFF にし、キーを携帯してお子さまも一緒に車から離れてください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ 挟み込み防止機能

- 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。

- 挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

■ 巻き込み防止機能

- 巻き込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・服などを巻き込ませたりしないでください。

警告

- 巻き込み防止機能は、ドアガラスが完全に開く直前に異物を巻き込むと作動しない場合があります。手・腕・服などが巻き込まないように注意してください。

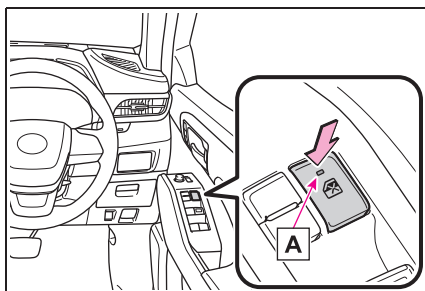
誤操作を防止するには（ウインドロックスイッチ）

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。

スイッチを押します。

インジケーター **A** が点灯し、運転席以外のドアガラスが作動不可になります。

ロックスイッチが ON の場合でも、運転席側のスイッチを使用して助手席側のドアガラスを開閉できます。



知識

■ 作動条件

パワースwitchが ON のとき

■ 補機バッテリーをはずしたとき

ウインドロックスイッチが OFF になるため、補機バッテリーを接続したあと、再度ウインドロックスイッチを ON にする必要があります。

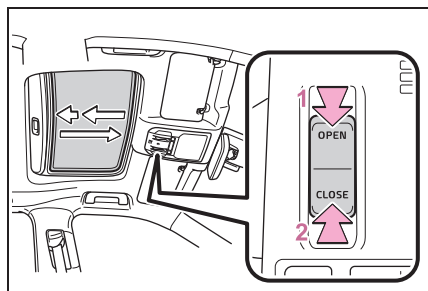
ムーンルーフ ※

※ グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

頭上のスイッチでムーンルーフを開閉・チルトアップ／ダウンできます。

ムーンルーフを操作するには

■ 開閉するには



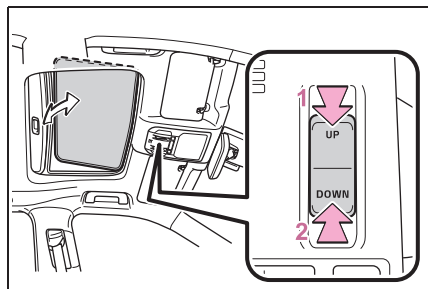
1 ムーンルーフを開く ※

全開の手前の位置で止まります。（風切り音の低減機能）全開にしたいときは、スイッチをもう一度押してください。

2 ムーンルーフを閉める ※

※ 途中で停止するとき、ムーンルーフスイッチを軽く押します。

■ チルトアップ／ダウンするには



1 チルトアップ ※

2 チルトダウン ※

※途中で停止するときは、ムーンルーフスイッチを軽く押します。



■作動条件

パワースイッチが ON のとき

■ハイブリッドシステム停止後の作動

パワースイッチを ACC または OFF にしたあとでも、約 45 秒間は操作できます。ただし、そのあいだにいずれかのフロントドアを開閉すると作動しなくなります。

■挟み込み防止機能

ムーンルーフを閉めるとき、またはチルトダウンするときに、ムーンルーフが異物の挟み込みを感知すると、作動が停止し少し開きます。

■サンシェード

手動で開閉できます。また、ムーンルーフが開くと連動して開きます。

■ドアロック連動ムーンルーフ開閉機能

●メカニカルキーでムーンルーフを開閉できます。※ (→P.377)

●ワイヤレスリモコンでムーンルーフを開閉できます。※ (→P.95)

※トヨタ販売店で設定変更が必要です。

■ムーンルーフが正常に閉まらないとき

次の操作を行ってください。

●閉まるときに反転し、閉じ切らない場合

1 車を停止する

2 “CLOSE” スwitch を押し続ける
※1

ムーンルーフが閉じ、再び開き、10 秒間停止します。※2 その後再び閉じ、チルトアップし、1 秒間停止します。チルトダ

ウン後、いったん開いてから閉じます。

3 ムーンルーフが完全に閉まったことを確認し、スイッチから手を離す

●チルトダウン時に反転し、閉じ切らない場合

1 車を停止する

2 “UP” スwitch を押し続け ※1、ムーンルーフをチルトアップ位置にする

3 スwitch から一度手を離し、再度 “UP” スwitch を押し続ける ※1

ムーンルーフがチルトアップの状態でも 10 秒間停止し ※2、微調節後 1 秒間停止します。チルトダウン後、いったん開いてから閉じます。

4 ムーンルーフが完全に閉まったことを確認し、スイッチから手を離す

※1途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。

※210 秒間停止したあとにスイッチから手を離すと、それ以降オート作動できなくなります。その場合は、“CLOSE” スwitch、または、“UP” スwitch を押し続けてください。ムーンルーフがチルトアップし、1 秒間停止します。その後、チルトダウンし、いったん開いてから閉じます。ムーンルーフが完全に閉まったことを確認したら、スイッチから手を離してください。

以上の操作を行っても反転して閉じ切らない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ムーンルーフ開警告ブザー

パワースイッチが OFF でムーンルーフが開いていると、運転席ドアを開けたときにブザーが鳴り、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.399)

⚠ 警告

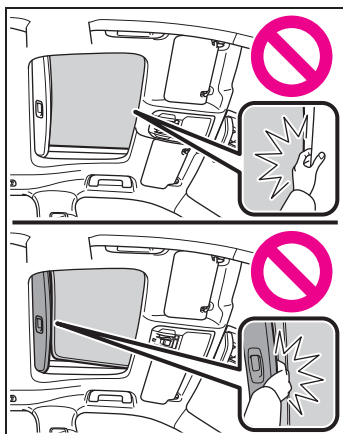
次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ムーンルーフを開けているとき

- 走行中はルーフから手や顔を出さない
- 開口部に腰かけない

■ムーンルーフを開閉するとき

- 運転者は、ムーンルーフの開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはムーンルーフの操作をさせないでください。お子さまや他の人がムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。
- ムーンルーフを開閉や、チルトダウンするときは、乗員の手・腕・頭・首を挟んだり巻き込んだりしないように注意してください。



- ワイヤレスリモコンやメカニカルキーを使ってムーンルーフを操作するときは、ムーンルーフに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンやメカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

- 車から離れるときはパワースイッチを OFF にし、キーを携帯してお子さまと一緒に車から離れてください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■挟み込み防止機能

- 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、ムーンルーフが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを押し続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。

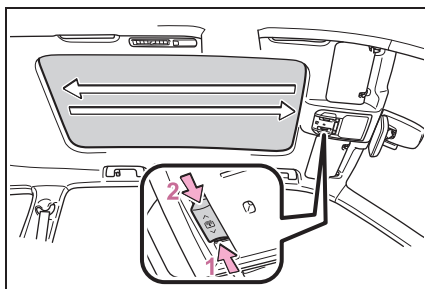
パノラマムーンルーフ※

※ グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

頭上のスイッチでパノラマムーンルーフと電動サンシェードの操作ができます。

パノラマムーンルーフを操作するには

■ 電動サンシェードを開閉する



1 電動サンシェードを開ける※

2 電動サンシェードを閉める※

※ サンシェードスイッチのどちらかの側を軽く押すと、電動サンシェードが途中で停止します。

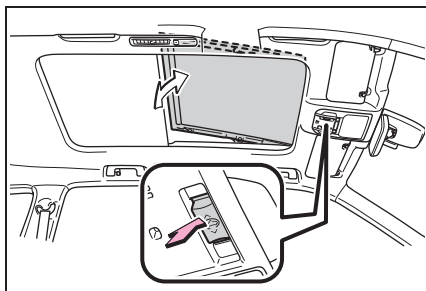
■ パノラマムーンルーフをチルトアップ／ダウンする

チルトアップ（短押し）※

パノラマムーンルーフが開いている場合は、スイッチを押すとチルトアップ位置まで閉じます。

スイッチを押した際にシェードが半開位置を超えて閉じられている場合は、半開位置まで開きます。

※ 途中で操作を止める場合は、スイッチを素早くスライドさせてから離してください。



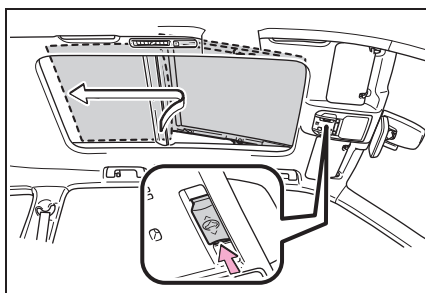
チルトダウン（長押し）

パノラマムーンルーフがチルトアップしている状態のときに、チルトダウンできます。

■ パノラマムーンルーフを開閉する

開ける（後方にスライド）※

※ 途中で操作を止める場合は、スイッチを素早くスライドさせてから離してください。

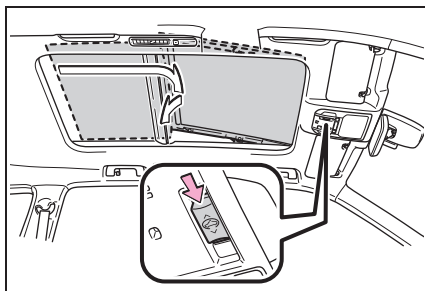


閉める（前方にスライド）※

パノラマムーンルーフがチルトアップ位置で停止します。

もう一度スイッチをスライドさせて押し続けると、パノラマムーンルーフが完全に閉じます。

※ 途中で操作を止める場合は、スイッチを素早くスライドさせてから離してください。



知識

■ 作動条件

パワースイッチが ON のとき

■ ハイブリッドシステム停止後の作動

パワースイッチを ACC または OFF にしたあとでも、約 45 秒間はパノラマムーンルーフ・電動サンシェードの操作ができます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■ パノラマムーンルーフが開いているときにシェードを閉じる

- 1 シェードスイッチを前方にスライドします。

シェードは半閉位置まで閉じ、次にパノラマムーンルーフがチルトアップ位置まで閉じます。

- 2 シェードスイッチをもう一度スライドして押し続けます。

スイッチを押している間、パノラマムーンルーフは閉まります。パノラマムーンルーフが完全に閉じると、シェードも自動的に完全に閉じます。

■ 挟み込み防止機能

次の状況で異物の挟み込みを検知すると、作動が停止し少し開きます。

- パノラマムーンルーフを閉めるとき、またはチルトダウンするとき
- 電動サンシェードを閉めるとき

■ パノラマムーンルーフが正常に閉まらないとき

次の操作を行ってください。

- パノラマムーンルーフが閉じてから再び少し開く場合
- 1 車を停止する
 - 2 パノラマムーンルーフスイッチを前方にスライドさせて、そのまま保持する。*

パノラマムーンルーフは一旦閉じてから再び開き、約 10 秒間停止します。その後、チルトアップ位置まで閉じます。

- 3 スwitchを離し、前方にスライドさせて再度押し続ける。

スイッチを押し続けている間、パノラマムーンルーフは閉じます。

- 4 パノラマムーンルーフが完全に閉まったことを確認し、スイッチから手を離す

- パノラマムーンルーフが下向きに傾き、その後再び上向きに傾く場合

- 1 車を停止する
- 2 パノラマムーンルーフスイッチを前方にスライドさせて、そのまま保持する。*

パノラマムーンルーフは下に傾き、次に上に傾き、約 10 秒間停止します。その後、閉じます。

- 3 パノラマムーンルーフが完全に閉まったことを確認し、スイッチから手を離す

* 途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。

以上の操作を行っても反転して閉じ切らない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ シェードが正常に閉まらないとき

次の操作を行ってください。

- 1 車を停止する

- 2 パノラマムーンルーフを閉じる
- 3 シェードスイッチを前方にスライドさせて押し続ける※

シェードは一度閉じてから再び開き、約10秒間停止します。その後、閉じます。

- 4 シェードが完全に閉じていることを確認してから、スイッチを放します。

※途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。

上記の手順を正しく実行した後でもシェードが閉じたまま少し開き続ける場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■パノラマムーンルーフ開警告ブザー

パワースwitchがOFFでパノラマムーンルーフが開いていると、運転席ドアを開けたときにブザーが鳴り、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

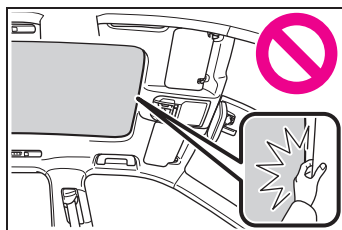
⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■電動サンシェードを開閉するときは

- 電動サンシェードを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首を挟んだり巻き込んだりしないように注意してください。

- お子さまには、電動サンシェードの操作をさせないでください。電動サンシェードに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。



■パノラマムーンルーフを開くときは

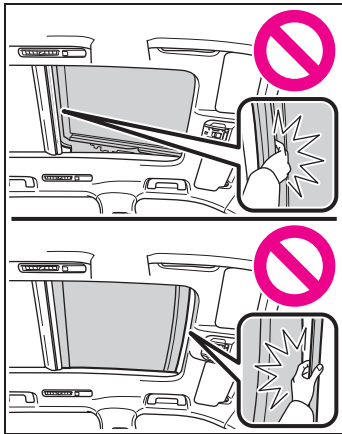
- 車が走行中は、乗員が車外に手や頭を出さないようにしてください。
- パノラマムーンルーフの上に座らないでください。

■パノラマムーンルーフを開閉するときは

- 運転者は、パノラマムーンルーフの開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはパノラマムーンルーフの操作をさせないでください。お子さまや他の人がパノラマムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

⚠ 警告

- パノラマムーンルーフを開閉や、チルトダウンするときは、乗員の手・腕・頭・首を挟んだり巻き込んだりしないように注意してください。



- 車から離れる時はパワースイッチをOFFにし、キーを携帯してお子さまも一緒に車から離れてください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ 挟み込み防止機能

- 挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、パノラマムーンルーフ・電動サンシェードが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを押し続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。

■ やけどやけがを防ぐために

ルーフの下側と電動サンシェードの間にはふれないでください。手を挟んでけがをするおそれがあります。また、車を直射日光のあたる場所に長時間駐車するとルーフの下側が熱くなるため、やけどをするおそれもあります。

⚠ 注意

■ パノラマムーンルーフの損傷を防ぐために

- 開く前は、開口部付近に石や氷などの異物がないことを確認してください。
- パノラマムーンルーフの表面・端面には、固いものをぶつけないでください。

■ 洗車後や雨が降ったあとなどは

パノラマムーンルーフを開く前にルーフに付いた水をふき取ってください。そのまま開くと、車内に水が入るおそれがあります。

ドライビングポジションメモリー ※

※ グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

この機能は、運転席、ドアミラー、ヘッドアップディスプレイを自動的に調整し、車両への乗り降りを容易にしたり、ユーザーの好みに合わせたりします。

ドライビングポジションは、マイセッティングに登録した運転者（3 パターン）を登録できます。

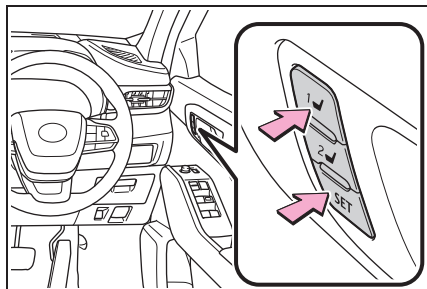
マイセッティングの詳細については、以下を参照してください。
P.138.

ドライビングポジションを登録するには

- 1 シフトポジションが P にあることを確認する
- 2 パワースイッチを ON にする
- 3 運転席・ドアミラー角度・ヘッドアップディスプレイ表示をお好みの位置に調整する
- 4 “SET” ボタンを押しながら、または “SET” ボタンを押したあと 3 秒以内に “1” または “2” のどちらか登録したいボタンをブザーが鳴るまで押す

すでに同じボタンに登録されている場合

は、上書きされます。



知識

■ 登録できるシート位置

腰部位置調整（ランバーサポート）以外の位置が登録できます。

■ ポジションメモリーを正しくお使いいただくために

登録位置がシート各調整位置の最端部にある状態で、さらに同じ方向に操作をすると、呼び出し位置にずれが生じることがあります。

警告

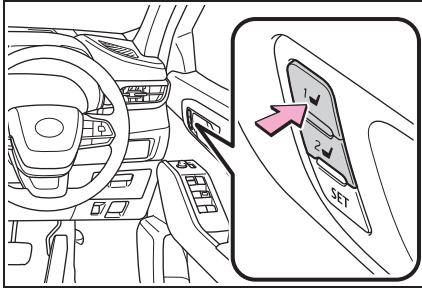
■ シート調整時の警告

シート調整中は、シートがリヤ席乗員にあたったり、運転者の体がハンドルに圧迫されたりしないよう注意してください。

ドライビングポジションを呼び出すには

- 1 シフトポジションが P にあることを確認する
- 2 パワースイッチを ON にする

- 3 呼び出したい運転位置のボタンを、ブザーが鳴るまで押してください。



□ 知識

■ ポジションの呼び出し作動を途中で止めたいとき

次のいずれかの操作をします。

- “SET” ボタンを押す
- “1” または “2” .のボタンを押す
- シート調整スイッチのいずれかを操作する（シートのみ作動停止）

■ パワースイッチ OFF 後の作動

運転席ドアを開けて 180 秒以内、または運転席ドアを閉めて 60 秒以内に呼び出したいポジションのボタンを押すと、シートの位置が調整されます。

■ 登録したシート位置が呼び出せないとき

シート位置を特定の範囲内に登録した場合、状況によってはシート位置を呼び出せないことがあります。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

乗車時にドライビングポジションを自動で呼び出すには（メモリーコール機能）（運転席のみ）

■ マイセッティングを使用してドライバーを特定したとき

マイセッティングに登録した運転者ごとのドライビングポジションを自動で呼び出すことができます。（→P.138）

● ドライビングポジションの登録方法

運転を終了したあとにシフトポジションを P にすると、現在のドライビングポジションが登録されます。

● ドライビングポジションの呼び出し方法

- 1 電子キーで個人を特定：マイセッティングに割り当てを登録している電子キーを携帯し、運転席ドアをスマートエントリー＆スタートシステムまたはワイヤレスリモコンで解錠してドアを開ける

ドライビングポジションが登録された位置へ動きます。

ドライビングポジションがすでに登録された位置にある場合は動きません。

- 2 パワースイッチを ON にする
ヘッドアップディスプレイ表示が登録したドライビングポジションに動きます。

● メモリーコール機能の解除方法

メモリーコール機能の解除方法は認証機器によって異なります。

詳しくは別冊 “Multimedia Owner’s Manual” を参照してください。

 知識**■メモリーコール機能によるドライビングポジションの呼び出しについて**

- 個人を特定するデバイスによっては作動するタイミングが異なる場合があります。
- 電子キーごとにドライビングポジションを登録できるため、携帯するキーによっては呼び出されるドライビングポジションが異なる場合があります。

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.399)

マイセッティング

電子キーなどのデバイスから個人を特定し、運転者ごとのドライビングポジションや車両設定を記憶しておくことで、次回乗車時に再生します。

あらかじめ認証デバイスを割り当てておくことで、運転者に合わせたお好みの設定で乗車することができます。

マイセッティングには、運転者3名分の設定を記憶することができます。

認証デバイスの割り当て／削除、ドライバー名の設定、初期化方法、運転者の手動きりかえ、記憶してあるドライバーの削除については別冊“Multimedia Owner's Manual”を参照してください。

割り当てる認証デバイスの種類

次の認証デバイスから個人を特定します。

●電子キー

スマートエントリー&スタートシステムが電子キーまたはデジタルキーを検出することで個人を特定します。(→P.109)

●Bluetooth® デバイス

ハンズフリー電話で利用する、前回乗車時と同じBluetooth® デバイスがオーディオシステムに接続されることで個人を特定します。

電子キーを検出して個人を認識したときは、Bluetooth® デバイスでの個人の特定はしません。

再生される機能

認証デバイスから個人特定されたとき、次の機能の設定を再生します。

● ドライビングポジションメモリー（メモリーコール機能）※¹

個人が特定されたあとに、以下の操作を行うと前回運転終了時（シフトポジションをPにしたとき）のドライビングポジションを再生します。

・ 電子キーで個人を特定：スマートエントリー&スタートシステムまたはワイヤレスリモコンで解錠して運転席ドアを開けたとき

● メーター表示 ※² / ヘッドアップディスプレイ表示 ※^{1,2} / マルチメディア設定 ※²

個人が特定されると、前回パワースイッチをOFFにしたときの車両設定を再生します。

● センターディスプレイで設定可能な車両設定 ※²

個人が特定されると、前回パワースイッチをOFFにしたときの車両設定を再生します。

※¹ グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※² 一部の設定項目を除く

4-1. 運転にあたって

運転にあたって	142
荷物を積むときの注意	148

4-2. 運転のしかた

パワー（イグニッション）スイッチ	150
EV ドライブモード	154
ハイブリッドトランスミッション	156
方向指示レバー	159
パーキングブレーキ	159
ブレーキホールド	162

4-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方

ランプスイッチ	165
AHB（オートマチックハイビーム）	167
フォグランプスイッチ	170
ワイパー&ウォッシャー（フロント）	171
ワイパー&ウォッシャー（リヤ）	173

4-4. 給油のしかた

給油口の開け方	175

4-5. 運転支援装置について

Toyota Safety Sense	177
PCS（プリクラッシュセーフティ）	182
LTA（レーントレーシングアシスト）	192
レーダークルーズコントロール	201
RSA（ロードサインアシスト）	211

BSM（ブラインドスポットモニター）	214
クリアランスソナー	218
RCTA（リヤクロストラフィックアラート）	226
PKSB（パーキングサポートブレーキ）	231
パーキングサポートブレーキ（後方静止物）	237
パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）	240
ドライブモードセレクトスイッチ	241
トレイルモード	242
運転を補助する装置	244

4-6. 運転のアドバイス

ハイブリッド車運転のアドバイス	250
寒冷時の運転	252
実用車の注意事項	254

運転にあたって

安全運転を心がけて、次の手順で走行してください。

安全に走行するには

■ ハイブリッドシステムを始動する

→P.150

■ 発進する

- 1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーをDにする
(→P.156)
- 2 パーキングブレーキを解除する
(→P.159)

パーキングブレーキがオートモードのときは、自動でパーキングブレーキが解除されます。(→P.160)

- 3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する

■ 停車する

- 1 シフトレバーはDのまま、ブレーキペダルを踏む
- 2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける (→P.159)

長時間停車する場合は、シフトレバーをPにします。(→P.156)

■ 駐車する

- 1 シフトレバーはDのまま、ブレーキペダルを踏む
- 2 パーキングブレーキをかけ (→P.159)、シフトレバーをPにする (→P.156)

- 3 シフトポジションをPにしたあとは、シフトレバーのボタンを押さないでください。

- 4 パワースイッチを押してハイブリッドシステムを停止する

- 5 電子キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

坂道の途中で駐車をする場合は、必要に応じて輪止めを使用してください。

■ 上り坂で発進する

- 1 パーキングブレーキをかけ、シフトレバーをDにする
(→P.156)
- 2 パーキングブレーキスイッチを引くと、パーキングブレーキが手動でかかります
- 3 アクセルペダルをゆっくり踏む
- 4 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除し発進する

急発進および後退速度の抑制 (ドライブスタートコントロール)

アクセルペダルを踏み込んだまま、次のようにシフトポジションを切りかえたとき、ハイブリッドシステム出力を抑制することがあります。

- R に切りかえたとき ※
- P または R から、D などの前進シフトポジションに切りかえたとき ※

この場合、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示された画面の指示に従ってください。

※ 状況によっては、シフト位置を操作できない場合があります。

知識

■坂道を上り始めるとき

ヒルスタートアシストコントロールが作動します。(→P.244)

■燃費を良くする走り方

ハイブリッド車も急加速を抑えるなど、通常のガソリン車と同様の心がけが必要です。(→P.250)

■雨の日の運転について

- 雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなったりするので、慎重に走行してください。
- 雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。
- 雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面のあいだに水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

■エコアクセルガイド (→P.78)

エコアクセルガイドの表示を参考に走行することで、環境に配慮した走行がより容易に行えます。また、エコアクセルガイドを活用することで、エコジャッジの評価も高くなりやすくなります。

- 発進時は：エコアクセルガイドの範囲をこえないように、アクセルペダルをやさしく踏み込み、目的の速度まで加速します。必要以上の急加速を抑えることで、エコ発進の評価が高くなります。
- 走行中は：目的の速度まで加速したらアクセルペダルをもどし、エコアクセルガイドの範囲を目安にして、安定した速度で走行します。エコアクセルガイドの範囲内に収まるように走行し続

けると、安定走行の評価が高くなります。

- 停車時は：停車時は、早めにアクセルペダルをもどすことで、エコ減速の評価が高くなります。

■ハイブリッドシステム出力の抑制について (ブレーキオーバーライドシステム)

- アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたとき、ハイブリッドシステム出力を抑制する場合があります。
- ブレーキオーバーライドシステム作動中は、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■ドライブスタートコントロールについて

TRC の作動を停止 (→P.245) すると、急発進の抑制制御も停止します。急発進の抑制制御が作動してぬかるみや新雪などからの脱出が困難な場合は、TRC の作動を停止してください。(→P.245)

また、急発進の抑制制御は、次の条件では動作しません。

- トレイルモードが ON のとき

■新しいトヨタの慣らし運転

車の寿命を延ばすためには、以下の注意事項を守ることが推奨されます。

- 最初の 300 km について：
急停車を避けてください。
- 最初の 800 km について：
トレーラーを牽引しないでください。
- 最初の 1000 km について：
 - ・ 極端に高速で運転しないでください。
 - ・ 急加速を避けてください。
 - ・ 低いギアで連続して運転しないでください。
 - ・ 長時間一定の速度で運転しないでください。

■外国で車を運転する

関連する車両登録法を遵守し、正しい燃料の利用可能性を確認してください。
(→P.391)

■環境に優しい運転

→P.72

⚠ 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■発進するとき

車が動き出すことによる事故を防ぐため、READY インジケーターが点灯している状態で停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでください。クリープ現象で車が動き出すのを防ぎます。

■運転するとき

- 踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を十分把握した上で運転してください。
- ・ アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ・ 後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるように注意してください。
- ・ 車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。
- ・ ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- ハイブリッド車は電気モーターでの走行時にエンジン音がしないため、周囲の人が車両の接近に気が付かない場合があります。車両接近通報装置が作動していても、周囲の騒音などが大きい場合は車両の接近に気が付かないことがありますので十分注意して運転してください。

- 燃えやすいものの上を走行したり、可燃物付近に車を止めたりしないでください。排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災になるおそれがあります。

- 通常走行時は、走行中にハイブリッドシステムを停止しないでください。走行中にハイブリッドシステムを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、ハンドルの操作力補助がなくなり、ハンドル操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、P.345 を参照してください。

- 急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードをおとしてください。フットブレーキを連続して使わずに、ブレーキが過熱して正常に機能しなくなります。
(→P.156)

- 走行中はハンドル・シート・ドアミラー・インナーミラーの調整をしないでください。運転を誤るおそれがあります。

- すべての乗員は頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。

 警告

- オフロード走行をしないでください。本格的なオフロード走行を目的とした4WD車ではありません。やむを得ずオフロードを走行するときは、慎重に運転してください。
- 渡河などの水中走行はしないでください。電装品のショートやハイブリッドシステムの破損など、重大な車両故障の原因になるおそれがあります。
- **すべりやすい路面を運転するとき**
 - 急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなるおそれがあります。
 - 急激なアクセル操作、シフト操作によるエンジンブレーキやエンジン回転数の変化は、車が横すべりするなどして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
 - 水たまり走行後はブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルをとられるおそれがあります。
- **シフトレバーを操作するとき**
 - シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れたまま惰性で後退したり、Rに入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。
 - 車両が動いているあいだは、シフトレバーをPに入れないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

- 車両が前進しているあいだは、シフトレバーをRに入れないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が後退しているあいだは、シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 走行中にシフトレバーをNにすると、ハイブリッドシステムの動力伝達が解除され、エンジンブレーキが効かなくなります。
- アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。シフトレバーがPまたはN以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。
- **継続的にブレーキ付近から警告音（キーキー音）が発生したとき**

できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。必要なときにパッドの交換が行われないと、ディスクローターの損傷につながる場合があります。

パッドやローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限度をこえて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあります。
- **停車するとき**
 - 不必要にアクセルペダルを踏み込まないでください。シフトレバーがPまたはN以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。

 警告

● 車が動き出すことによる事故を防ぐため、READY インジケーターが点灯しているときは常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

● 坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながることを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

● 停車中に空ぶかしをしないでください。排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあります。

■ 駐車するとき

● 炎天下では、メガネ・ライター・スプレー缶や炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。放置したまましていると、次のようなことが起こるおそれがあります。

・ ライターやスプレー缶からガスがもれたり、出火したりする

・ プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす

・ 炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートしたりする原因になる

● ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターをグローブボックスなどに入れておいたり、車内に落としたままにしたりすると、荷物を押し込んだりシートを動かしたりしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあります。

● ウインドウガラスなどには吸盤を取り付けしないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。吸盤や容器がレンズの動きをして、車両火災につながるおそれがあります。

● シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウインドウを開けたまま放置しないでください。直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの動きをして火災につながるおそれがあります。

● 車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトレバーをPに入れ、ハイブリッドシステムを停止し、施錠してください。READY インジケーターが点灯しているあいだは、車から離れないでください。パーキングブレーキをかけずにシフトレバーをPにした状態では、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあります。

● READY インジケーターが点灯しているとき、またはハイブリッドシステム停止直後は排気管にふれないでください。やけどをするおそれがあります。

■ 仮眠するとき

必ずハイブリッドシステムを停止してください。READY インジケーターが点灯した状態のまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やハイブリッドシステムの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場に停めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告**ブレーキをかけるとき**

- ブレーキがぬれているときは、普段よりも注意して走行してください。ブレーキがぬれていると、制動距離が長くなり、ブレーキのかかりに、左右の違いが出るおそれがあります。また、パーキングブレーキがしっかりとかけられないおそれもあります。
- 電子制御ブレーキシステムが機能しないときは、他の車に近付かないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。この場合ブレーキは作動しますが、通常よりも強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。
- ブレーキシステムは2つ以上の独立したシステムで構成されており、1つの油圧システムが故障しても、残りは作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

万一脱輪したとき

駆動輪が宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。駆動系部品の損傷や、車両の飛び出しによる思わぬ事故につながるおそれがあります。

注意**運転しているとき**

- 運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏むと、ハイブリッドシステム出力を抑制する場合があります。

- 坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

駐車するとき

必ずパーキングブレーキをかけシフトレバーをPにしてください。パーキングブレーキをかけシフトレバーをPにしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進したりするおそれがあります。

部品の損傷を防ぐために

- パワーステアリングの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けないでください。
- ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

走行中にタイヤがパンクしたら

次のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかりと持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

- ハンドルがとられる
- 異常な音や振動がある
- 車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合の対処法は(→P.363)を参照してください。

冠水路走行に関する注意

大雨などで冠水した道路では、次のような重大な損傷を与えるおそれがあるため、走行しないでください。

- エンストする
- 電装品がショートする
- 水を吸い込んだエンジン破損

 注意

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときや、泥や砂に埋もれてしまったときは必ずトヨタ販売店で次の点検をしてください。

- ブレーキの効き具合
- エンジン・トランスミッション・ディファレンシャルなどのオイルやフルードの量および質の変化
- 各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは次のこととお守りください。

 警告

■ 積んではいけないもの

次のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

- 燃料が入った容器
- スプレー缶

■ 荷物を積むとき

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、ブレーキペダル・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- できるだけ荷物はラゲージルームに積んでください。
- シート背もたれより高いものをラゲージルームに積まないでください。
- 後席のシート背もたれを折りたたんで、寸法が長い荷物を積むときは、できるだけ前席シート背もたれの真うしろには積まないでください。
- ラゲージルームに人を乗せないでください。乗員用には設計されていません。乗員は、適切にシートベルトを着用させ、座席に座らせてください。
- 次の場所には荷物を積まないでください。
 - ・ 運転席足元
 - ・ 助手席やリヤ席（荷物を積み重ねる場合）

 警告

- ・ パッケージトレイ
- ・ インストルメントパネル
- ・ ダッシュボード

- 室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。

■ 荷物の重量・荷重のかけ方について

- 荷物を積み過ぎないでください。
- 荷重を不均等にかけないようにしてください。

これはタイヤや駆動系部品に負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ルーフレールを使用するときは（ルーフレール装着車）

次のことをお守りください。

- 車両に荷重が均等になるように荷物を積んでください。
- 車両の大きさ（全長、全幅）を超える荷物を積まないでください。
- 走行する前に、荷物が確実に固定されていることを確認してください。
- ルーフラゲージキャリアに荷物を積むと、車両の重心が高くなります。高速走行、急加速、急旋回、急ブレーキなどは避けてください。車両を適切に操作することができなくなることで横転し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 長距離走行、荒れた路面での走行、高速走行をするときは、時おり車両を止めて、荷物が固定した位置にあることを確認してください。

- ルーフラゲージキャリアの貨物重量は 75kg を超えないようにしてください。

 注意**■ 貨物を積み込むとき（ムーンルーフまたはパノラマムーンルーフ装着車）**

ムーンルーフやパノラマムーンルーフの表面を傷つけないように注意してください。

パワー（イグニッション）スイッチ

電子キーを携帯して次の操作を行うことで、ハイブリッドシステムの始動またはパワースイッチのモードを切りかえることができます。

ハイブリッドシステムを始動するには

- 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認するため、パーキングブレーキスイッチを引く
- 2 シフトレバーがPの位置にあることを確認する
- 3 ブレーキペダルをしっかりと踏む
マルチインフォメーションディスプレイに  とメッセージが表示されます。

表示されないと、ハイブリッドシステムは始動しません。

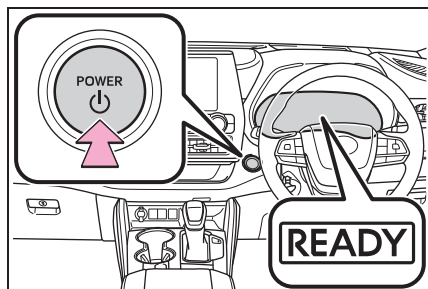
- 4 パワースイッチを短く確実に押す

短く確実に押せば、押し続ける必要はありません。

READY インジケーターが点灯すれば、ハイブリッドシステムは正常に始動しています。

READY インジケーターが点灯するまでブレーキペダルを踏み続けてください。
パワースイッチのどのモードからでもハ

イブリッドシステムを始動できます。



- 5 READY インジケーターが点灯したことを確認する

READY インジケーターが消灯している状態では走行できません。

知識

■ハイブリッドシステムが始動しないとき

- イモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。(→P.61) トヨタ販売店へご連絡ください。
- 始動操作に関するメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されている場合は、画面の指示に従ってください。

■外気温が低いときは

ハイブリッドシステム始動時に READY インジケーターの点滅時間が長くなることがあります。READY インジケーターが点灯すれば走行可能になりますので点灯するまでそのままお待ちください。

■ハイブリッド車特有の音と振動について

→P.56

■補機バッテリーがあがったときは

スマートエントリー&スタートシステムでハイブリッドシステムを始動することができません。ハイブリッドシステムを始動するには、P.378 を参照してください。

い。

■電子キーの電池の消耗について

→P.92

■スマートエントリー&スタートシステムが正常に働かないおそれのある状況

→P.111

■ご留意いただきたいこと

→P.111

■万一、READY インジケーターが点灯しないときは

正しい手順で始動操作を行っても
READY インジケーターが点灯しない場合は、ただちにトヨタ販売店へご連絡ください。

■ハイブリッドシステムに異常があるときは

→P.60

■電子キーの電池交換

→P.330

■パワースイッチの操作について

- スイッチを短く確実に押せていない場合は、モードの切りかえやハイブリッドシステムの始動ができない場合があります。
- パワースイッチ OFF 後、すぐに再始動した場合は、ハイブリッドシステムが始動しない場合があります。パワースイッチ OFF 後の再始動は、数秒待ってから操作してください。

■カスタマイズ機能

カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムを非作動にしたときは、P.376 を参照してください。

⚠ 警告

■ハイブリッドシステムを始動するとき

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■ハイブリッドシステムを始動するとき

もしハイブリッドシステムが始動しにくい場合は、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■パワースイッチの操作について

パワースイッチ操作時に引っかけりなどの違和感があるときは、故障のおそれがあります。すみやかにトヨタ販売店にご連絡ください。

ハイブリッドシステムを停止するには

- 1 車両を完全に停止させる
- 2 パーキングブレーキをかけて (→P.159)、シフトレバーを P の位置にする
メーター内のパーキングブレーキ表示灯が点灯していることを確認します。
- 3 シフトレバーを P にしたあとは、シフトレバーのボタンを押さないでください。
- 4 パワースイッチを押す
ハイブリッドシステムが停止し、メーター表示が消えます。
- 5 ブレーキペダルから足を離してマルチインフォメーションディスプレイの“ACCESSORY”

または“IGNITION ON”の表示が消灯していることを確認する

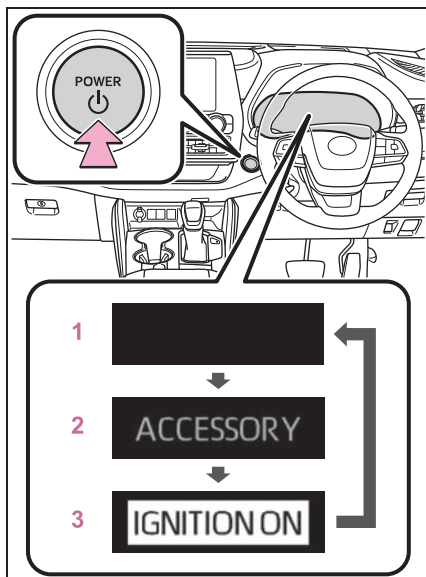
⚠ 警告

■ 緊急時のハイブリッドシステム停止方法

- 走行中にハイブリッドシステムを緊急停止したい場合には、パワースイッチを2秒以上押し続けるか、素早く3回以上連続で押ししてください。(→P.345) ただし、緊急時以外は走行中にパワースイッチにふれないでください。走行中にハイブリッドシステムを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、ハンドルの操作力補助がなくなり、ハンドル操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。
- 走行中にパワースイッチを操作すると、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示され、警告ブザーが鳴ります。
- 走行中にハイブリッドシステムを緊急停止したあと、走行中にハイブリッドシステムを再始動させる場合は、シフトレバーをNにし、パワースイッチを押してください。

パワースイッチを切りかえるには

ブレーキペダルを踏まずにパワースイッチを押すと、モードを切りかえることができます。(スイッチを押すごとにモードが切りかわります)



1 OFF※

非常点滅灯が使用できます。

2 ACC

オーディオなどの電装品が使用できます。マルチインフォメーションディスプレイに“ACCESSORY”が表示されます。

3 ON

すべての電装品が使用できます。

マルチインフォメーションディスプレイに“IGNITION ON”が表示されます。

※ シフトレバーがP以外またはシフトレバーのボタンを押しているときはONになり、OFFになりません。

□ 知識

■ 自動電源 OFF 機能

シフトレバーがPにあり、シフトレバーのボタンを押していないとき、20分以上ACCかON(ハイブリッドシステムが作動していない状態)にしたままにしておくと、パワースイッチが自動でOFFになります。ただし、自動電源OFF機能は、補機バッテリーあがりを完全に防ぐもの

ではありません。ハイブリッドシステムが作動していないときは、パワースイッチを ACC、または ON にしたまま長時間放置しないでください。

注意

■ 補機バッテリーあがりを防止するために

- ハイブリッドシステム停止中は、パワースイッチを ACC または ON にしたまま長時間放置しないでください。
- ハイブリッドシステム停止中に、マルチインフォメーションディスプレイの“ACCESSORY” または“IGNITION ON” の表示が消灯していない場合、パワースイッチが OFF になっていません。パワースイッチを OFF にしてから車両を離れてください。

シフトレバーが P 以外でハイブリッドシステムを停止したとき

シフトレバーが P 以外またはシフトレバーのボタンを押しているときにハイブリッドシステムを停止させた場合、ハイブリッドシステムは停止しますが、パワースイッチのモードは OFF にはなりません。次の手順で OFF にしてください。

- 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する
- 2 シフトレバーを P の位置にする
- 3 シフトレバーを P にしたあとは、シフトレバーのボタンを押さないでください。
- 4 マルチインフォメーションディスプレイに“ACCESSORY”が表示されていることを確認

し、パワースイッチを短く確実に押す

- 5 マルチインフォメーションディスプレイの“ACCESSORY”または“IGNITION ON” の表示が消灯していることを確認する

注意

■ 補機バッテリーあがりを防止するために

シフトレバーが P 以外またはシフトレバーのボタンを押している状態でハイブリッドシステムを停止させないでください。シフトレバーが P 以外またはシフトレバーのボタンを押している状態でハイブリッドシステムを停止させた場合、パワースイッチが ON となるため、そのまま放置すると補機バッテリーあがりの原因となります。

EV ドライブモード

EV ドライブモードは、駆動用電池から電力を供給し、電気モーターのみを使って走行するモードです。

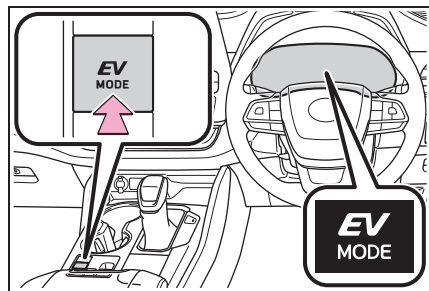
早朝、深夜の住宅街や屋内の駐車場などで、騒音や排気ガスを気にすることなく走行することができます。

ただし、音響車両警報システムがアクティブな場合、車両から音が鳴る場合があります。

EV ドライブモードの切りかえ

EV ドライブモードスイッチを押す

EV ドライブモードになると、EV ドライブモード表示灯が点灯します。もう一度スイッチを押すと通常走行（ガソリンエンジンと電気モーターによる走行）にもどります。



■EV ドライブモードの切りかえについて

次のときはEV ドライブモードに切りかわらない場合があります。EV ドライブモードに切りかわらないときはブザーが鳴り、マルチインフォメーションディス

プレイにメッセージが表示されます。

- ハイブリッドシステムが高温のとき炎天下に駐車したあとや登降坂、高速走行後など
- ハイブリッドシステムが低温のとき低温下に長時間駐車したあとなど
- ガソリンエンジンが暖機運転中のとき
- 駆動用電池の充電量が低いときエネルギーモニターに表示される駆動用電池の残量が少ない状態（→P.87）
- 車速が高いとき
- アクセルペダルを大きく踏み込んだときや坂道など
- フロントウインドウガラスの曇り取りを使用しているとき

■ガソリンエンジンが冷えているときのEV ドライブモードの切りかえについて

ガソリンエンジンが冷えているときにハイブリッドシステムを始動した場合、しばらくすると暖機運転のためガソリンエンジンが自動的に始動し、EV ドライブモードに切りかえることができなくなります。

ハイブリッドシステム始動操作後、READY インジケーターが点灯したら、ガソリンエンジンが始動する前にEV ドライブモードスイッチを押してください。

■EV ドライブモードの自動解除について

EV ドライブモードで走行中、次のときは自動的に通常走行（ガソリンエンジンと電気モーターによる走行）になることがあります。EV ドライブモードが解除されるときは、ブザーが鳴り、EV ドライブモード表示灯が点滅し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

- 駆動用電池の充電量が低下したときエネルギーモニターに表示される駆動用電池の残量が少ない状態（→P.87）

- 車速が高いとき
- アクセルペダルを大きく踏み込んだときや坂道など

■ EV ドライブモードの走行可能距離

EV ドライブモードの走行可能距離は数百 m から約 1km 程度です。ただし、車両の状況によっては EV ドライブモードが使用できない場合があります。（走行距離は、駆動用電池の充電量や走行状態によって異なります）

■ 燃費について

ハイブリッドシステムは、通常走行（ガソリンエンジンと電気モーターによる走行）において、最も燃費がよくなるように制御されています。EV ドライブモードを多用すると、燃費が悪くなることがあります。

■ マルチインフォメーションディスプレイに“EV Mode Unavailable”と表示されたときは

EV ドライブモードを使用できません。EV ドライブモードを使用できない理由（暖機中／電池充電不足／EV 速度域超過／アクセル踏み過ぎ）が表示される場合があります。EV ドライブモードが使用できる状況になってから使用してください。

■ マルチインフォメーションディスプレイに“EV Mode Deactivated”と表示されたときは

EV ドライブモードが自動解除されています。EV ドライブモードを使用できない理由（電池充電不足／EV 速度域超過／アクセル踏み過ぎ）が表示される場合があります。しばらく走行してから使用してください。

⚠ 警告

■ 走行中の警告

EV ドライブモードではエンジン音がしないため、周囲の人が車両の発進や接近に気が付かない場合があります。車両接近通報装置が作動していても、周囲の騒音などが大きい場合は、車両の接近に気が付かない場合がありますので、十分注意して運転してください。

ハイブリッドトランスミッション

目的や状況に応じてシフトポジションを選択してください。

シフトポジションの使用目的について

シフトポジション	目的および状態
P	駐車またはハイブリッドシステムの始動
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行 ※ ¹
S	S モード走行 ※ ² (→P.157)

※¹燃費向上や騒音の低減のために、通常は D ポジションを使用してください。

※²S モードはシフトレンジを選択することで、加速力やエンジブレーキ力を切りかえることができます。

知識

■レーダークルーズコントロールを全速度域で作動させて運転しているとき

エンジブレーキを目的に走行モードをスポーツモードにしても、レーダークルーズコントロールが解除されないため、エンジブレーキは作動しません。

■急発進の抑制について（ドライブスタートコントロール）

→P.143

警告

■すべりやすい路面を走行するとき

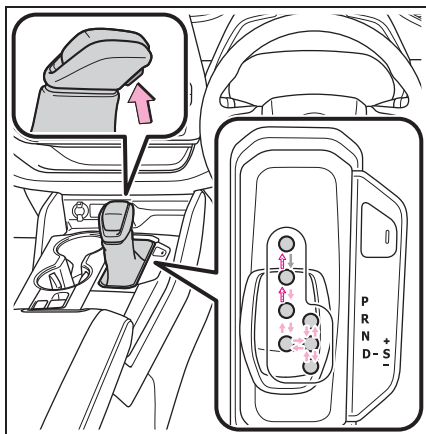
急なアクセル操作や、シフト操作を行わないでください。エンジブレーキ力の急激な変化が横すべりやスピンの原因になりますので注意してください。

注意

■駆動用電池の充電について

シフトレバーが N では、ガソリンエンジンが回転していても駆動用電池は充電されないため、N で一定時間放置すると駆動用電池の残量が低下し、走行不能になるおそれがあります。

シフトレバーの動かし方



←：パワースイッチが ON の状態で、ブレーキペダルを踏んだままシフトレバーのボタンを押しながら操作します。※

←：シフトレバーのボタンを押しながら操作します。

←：シフトレバーのボタンを押さずそのまま操作します。

P と D のあいだの操作は、ブレーキペダルを踏み、車を完全に止めてから行ってください。

※ シフトレバーのボタンを押す前にブレーキペダルを踏んでください。シフトレバーのボタンを始めに押してもシフトロックは解除されません。

知識

■シフトロックシステム

シフトロックシステムは、発進時のシフトレバーの誤操作を防ぐシステムです。

パワースイッチが ON でブレーキペダルを踏んだ状態でなければ、シフトレバーを P からシフトできません。

■シフトレバーをPからシフトできないとき

ブレーキペダルを踏んでいることを確認してください。

ブレーキペダルを踏んだ状態でシフトレバーがシフトできない場合、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

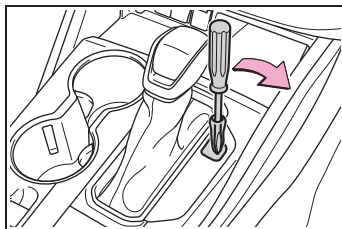
ただし一時的な処置として、次の方法でシフトレバーをシフトすることができます。

シフトロックの解除のしかた：

- 1 パーキングブレーキをかける
(→P.152, 159)
- 2 パワースイッチを OFF にする
- 3 ブレーキペダルを踏む
- 4 マイナスドライバーなどを使ってカバーを取りはずす

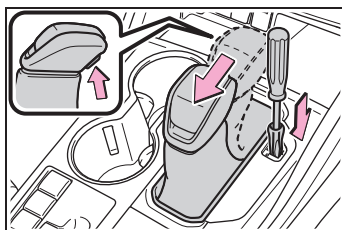
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してく

ださい。



- 5 シフトロック解除ボタンを押しながらシフトレバーのボタンを押す

シフトロック解除ボタンを押しているあいだは、レバーをシフトできます。



⚠ 警告

■シフトロック解除時の事故を防ぐために

シフトロック解除ボタンを押すときは、必ずパーキングブレーキをかけブレーキペダルを踏んでください。

誤ってアクセルペダルを踏んでいると、シフトロック解除ボタンを押してシフトレバーを操作したときに、車が急発進して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

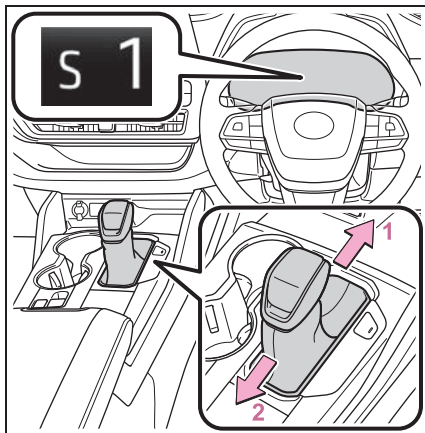
走行モードの選択

→P.241

S モードでシフトレンジ選択するには

シフトポジションを S ポジション

にすると、S モードに切りかわります。パドルシフトスイッチまたはシフトレバーの操作で思い通りのシフトレンジを選択し、運転することができます



1 シフトアップ

2 シフトダウン

S1 から S6 レンジのあいだで選択されているシフトレンジがメーターに表示されます。

S モードの初期変速範囲は、車速に応じて自動的に S4 または S5 に設定されます。



知識

■S モードについて

- 加速力とエンジンブレーキ力は6段階から選択できます。
- 低いシフトレンジは、高いシフトレンジよりも大きな加速力とエンジンブレーキ力を提供し、エンジン回転数も増加します。
- エンジンの過回転を防ぐために、自動的にシフトアップする場合があります。
- S4 レンジ以下のとき、パドルシフトスイッチを “+” 側へ保持すると S6 レンジに設定されます。

■シフトダウン制限警告ブザー

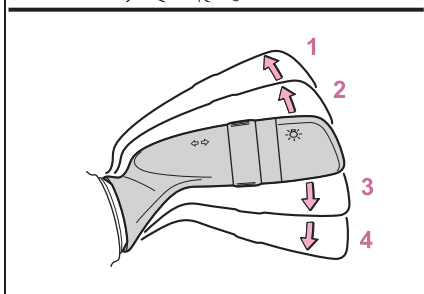
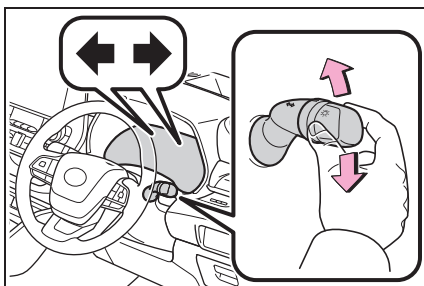
安全や走行性能を確保するため、シフトダウン操作には制限があり、パドルシフトスイッチを操作してもシフトダウンできない場合があります。(このときブザーが2回鳴ります)

■シフトレバーをSにシフトしてもSインジケーターが点灯しない、またはDインジケーターが表示される場合

システム異常のおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。この場合、シフトレバーをDにしているときと同じ制御になります。

方向指示レバー

操作のしかた



- 1 左折
- 2 左側へ車線変更（レバーを途中で動かして離す）
左側方向指示灯が3回点滅します。
- 3 右側へ車線変更（レバーを途中で動かして離す）
右側方向指示灯が3回点滅します。
- 4 右折



知識

■ 作動条件

パワースイッチがONのとき

■ 表示灯の点滅が異常に速くなったとき

すべての方向指示灯が点滅しているか、確認してください。（→P.335）

すべての方向指示灯が点滅しているのに点滅が異常に速いときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

パーキングブレーキ

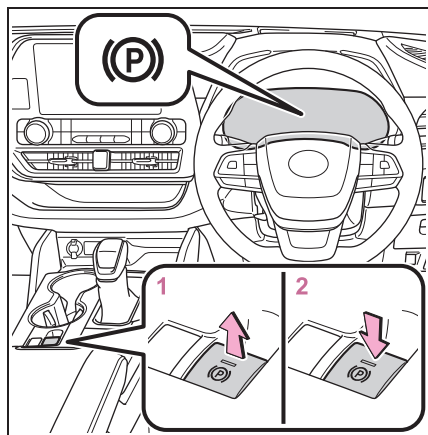
自動または手でパーキングブレーキをかける・解除することができます。

オートモードのときは、シフトレバーの操作に応じてパーキングブレーキが自動で作動します。また、オートモードのときでも手でパーキングブレーキをかける・解除することができます。

操作のしかた

■ マニュアルモード

手でパーキングブレーキをかける・解除することができます。



- 1 スイッチを引き、パーキングブレーキをかける

パーキングブレーキ表示灯とパーキングブレーキランプが点灯します。

緊急時、走行中にパーキングブレーキをかける必要があるときは、スイッチを引き続けてください。

- 2 スイッチを押し、パーキングブレーキを解除する

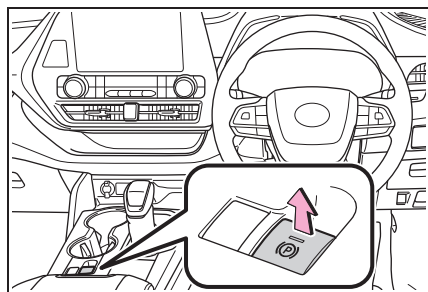
- ・ブレーキペダルを踏みながら操作してください。
- ・パーキングブレーキ自動解除機能 (→P.160)

パーキングブレーキ表示灯とパーキングブレーキランプが消えることを確認してください。

パーキングブレーキ表示灯とパーキングブレーキランプが点滅した場合は、再度スイッチを操作してください。
(→P.357)

■ オートモードを ON にする

停車中に、ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが出るまでスイッチを引き続ける。



オートモードを ON にすると、パーキングブレーキが次のように作動します。

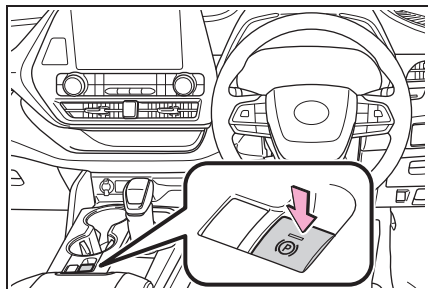
- シフトレバーをPからP以外にすると、パーキングブレーキが解除され、パーキングブレーキ表示灯とパーキングブレーキランプが消灯します。
- シフトレバーをP以外からPにすると、パーキングブレーキがかかり、パーキングブレーキ表示灯とパーキングブレーキランプが点灯します。

シフトレバーは、停車した状態で

ブレーキペダルを踏みながら操作してください。

■ オートモードを OFF にする

停車中に、ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが出るまでスイッチを押し続ける。



□ 知識

■ パーキングブレーキの作動

- パワースイッチが ON 以外では、パーキングブレーキスイッチによる解除はできません。
- パワースイッチが ON 以外では、オートモード (かける・解除する) は作動しません。

■ パーキングブレーキ自動解除機能について

次の条件をすべて満たしたとき、アクセルペダルを踏むことによりパーキングブレーキを解除することができます。

- 運転席ドアが閉まっているとき
- 運転席シートベルトを着用しているとき
- シフトレバーが前進もしくは後退の位置にある
- エンジン警告灯やブレーキ警告灯が消灯している。

アクセルペダルを踏んでもパーキングブレーキが解除しない場合は、手動で解除

してください。

■ マルチインフォメーションディスプレイに “Parking Brake Temporarily Unavailable” と表示されたときは

短時間に作動をくり返すと、システム過熱防止のために作動制限することがあります。その場合は、操作を控えてください。1 分程度でもとの状態にもどります。

■ マルチインフォメーションディスプレイに “Parking Brake Unavailable” と表示されたときは

パーキングブレーキスイッチを操作してください。何度か操作してもメッセージが消えない場合は、システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ パーキングブレーキの作動音

パーキングブレーキが作動するとき、モーターの音（“ウィーン” という音）が聞こえることがあります。異常ではありません。

■ パーキングブレーキ表示灯とパーキングブレーキランプについて

- パーキングブレーキをかけたとき、パワースイッチのモードによって、次のようにパーキングブレーキ表示灯とパーキングブレーキランプが点灯します。
ON：パーキングブレーキを解除するまで点灯します。
ON 以外：約 15 秒間点灯します。
 - パーキングブレーキをかけた状態でパワースイッチを OFF にしたとき、パーキングブレーキ表示灯とパーキングブレーキランプが約 15 秒間点灯したままになりますが、異常ではありません。
- #### ■ パーキングブレーキスイッチが故障したとき

自動的にオートモードが ON になります。

■ 駐車するとき

→P.142

■ パーキングブレーキ未解除警告ブザー

パーキングブレーキをかけたまま走行すると、警告ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに “Parking Brake ON” と表示されます。

■ 警告メッセージとブザー

警告メッセージやブザーは、システムの故障を知らせたり、運転者に注意の必要性を伝えるために使用されます。マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示された場合は、メッセージを読み、指示に従ってください。

■ ブレーキ警告灯が点灯したときは

→P.352

■ 冬季のパーキングブレーキの使用について

→P.252

警告

■ 駐車するとき

お子さまだけを車の中に残したままにしないでください。お子さまが誤ってパーキングブレーキを解除し、車が動き出して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ パーキングブレーキスイッチについて

パーキングブレーキスイッチの周辺にものを置かないでください。ものとスイッチが干渉して、思わぬパーキングブレーキの作動につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■ 駐車するとき

車から離れるときは、シフトレバーを P にし、パーキングブレーキをかけてください。車が動かないことを確認してください。

■ システムに異常が発生したら

安全な場所に車を止め、警告メッセージを確認してください。

■ 故障などでかかったままになったとき

パーキングブレーキがかかったまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。

この場合は、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

ブレーキホールド

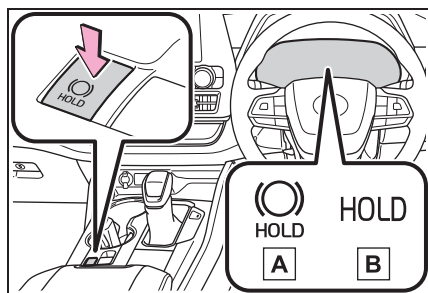
シフトレバーが D・S または N でブレーキホールドシステムが ON のとき、ブレーキペダルを踏んで停車するとブレーキがかかったまま保持されます。シフトレバーが D または S のとき、アクセルペダルを踏むと同時に解除され、スムーズに発進できます

システムを作動させるには

スイッチを押して、ブレーキホールドシステムを ON にする

ブレーキホールドスタンバイ表示灯（緑）

A が点灯します。ブレーキ保持中はブレーキホールド作動表示灯（黄）**B** が点灯します。



□ 知識

■ システムの作動条件

次のときはブレーキホールドシステムを ON にできません。

- 運転席ドアが閉まっていない
 - 運転席シートベルトを着用していない
 - パーキングブレーキがかかっています。
- ブレーキホールドシステムが ON のとき

に上記いずれかを検出したときは、システムが OFF になり、ブレーキホールドスタンバイ表示灯が消灯します。ブレーキ保持中に検出した場合は、さらに警告音と共にマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、自動的にパーキングブレーキがかかります。

■ ブレーキ保持について

- ブレーキ保持中にブレーキペダルが踏まれていない状態が約 3 分継続すると、自動的にパーキングブレーキがかかります。このときはブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。
- ブレーキ保持中にシステムを OFF にするときは、ブレーキペダルをしっかり踏み、もう一度スイッチを押してください。
- 急坂路ではブレーキ保持できないことがあります。その場合運転者が、ブレーキをかける必要があります。このときはブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示された画面の指示に従ってください。

■ ブレーキ保持中にパーキングブレーキが自動的にかかったとき

発進時は次のいずれかの操作でパーキングブレーキを解除してください。

- 運転席シートベルトを着用した状態でアクセルペダルを踏む
- ブレーキペダルを踏みながら、パーキングブレーキスイッチを操作して手動で解除する

操作したあとパーキングブレーキ表示灯が消灯したことを確認してください。(→P.159)

■ トヨタ販売店で点検が必要なとき

ブレーキホールドシステムの作動条件を満たしているときに、ブレーキホールド

スイッチを押してもブレーキホールドスタンバイ表示灯（緑）が点灯しないときはシステムの異常が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ マルチインフォメーションディスプレイに “Brake Hold Malfunction Press Brake to Deactivate Visit Your Dealer” または “Brake Hold Malfunction Visit Your Dealer” が表示されたときは

システムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ 警告メッセージ・警告ブザーについて

操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。

■ ブレーキホールド作動表示灯が点滅したときは

→P.357

⚠ 警告

■ 急坂路では

急坂路でブレーキホールドシステムを使用するときは注意してください。急坂路ではブレーキホールドシステムにてブレーキを保持できないことがあります。また、勾配によってはシステム自体が作動しないことがあります。

■ すべりやすい路面では

タイヤのグリップ限界をこえて停車させることはできません。すべりやすい路面での使用は控えてください。

**注意****■ 駐車するとき**

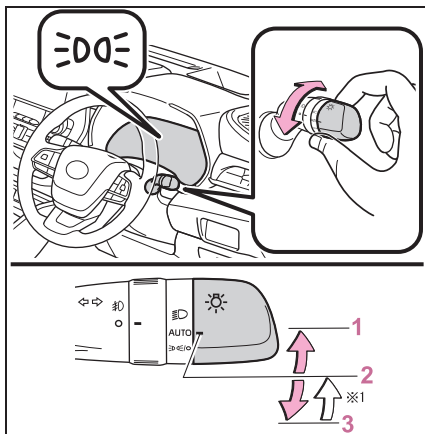
ブレーキホールドは長時間駐車するための機能ではありません。ブレーキ保持中にパワースイッチを OFF にすると、保持が解除されて車が動き出す場合があります。パワースイッチを操作するときは、ブレーキペダルを踏み、シフトレバーを P にして、パーキングブレーキをかけてください。

ランプスイッチ

自動または手動でヘッドランプなどを点灯・消灯できます。

点灯のしかた

次のように  スイッチを操作すると、ランプが点灯します。



- 1  ヘッドランプ・車幅灯・尾灯・番号灯・インストルメントパネルランプが点灯します。
- 2 **AUTO** 上記すべてのランプが自動的に点灯・消灯します。
- 3  車幅灯・尾灯・番号灯・インストルメントパネルランプが点灯します。約 1 秒保持するとすべてのランプが消灯します。^{※2}

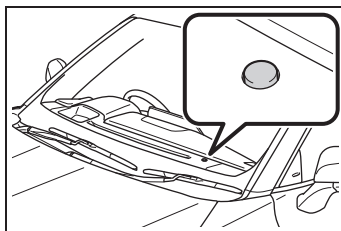
^{※1} スイッチを 3  の位置へ操作し手を離すと、自動的に 2 **AUTO** の位置へ戻ります。

^{※2} 停車中のみ消灯可能。車両を発進させ

ると消灯状態が解除されます。

知識

■ ライトセンサー



センサーの上にものを置いたり、センサーをふさぐようなものをウインドウガラスに貼らないでください。周囲からの光がさえぎられると、自動点灯・消灯機能が正常に働かなくなります。

■ ランプ消し忘れ防止機能

- ヘッドランプが点灯しているとき：パワースイッチが ACC または OFF に切り替えられている場合、ドアを開閉してから 30 秒後にヘッドランプと尾灯が消灯します。（全てのドアを閉めた後にキーの  を押すと、ライトはすぐに消灯します。）
- 尾灯のみが点灯している場合：パワースイッチが ACC または OFF に切り替えられ、運転席ドアが開かれると、尾灯は自動的に消灯します。

照明を再び点灯させるには、電源スイッチを ON に切り替えるか、照明スイッチを **AUTO** に一度切り替えてから、 または  に戻してください。

■ 節電機能

車両の補機バッテリーあがりを防止するため、パワースイッチが ACC または OFF の状態でヘッドランプまたは尾灯が点灯している場合、節電機能が働き約 20 分後にすべてのランプが自動消灯します。

次のいずれかを行った場合、節電機能はいったん解除され、再度節電機能が働き、約 20 分後すべてのランプが自動消灯します。

- ランプスイッチを操作したとき
- ドアを開閉したとき

■ カスタマイズ機能

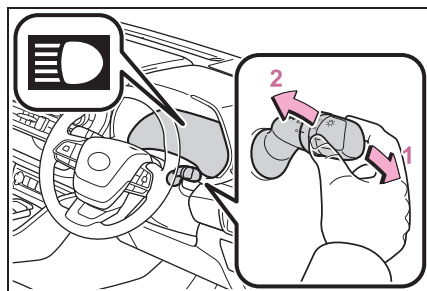
機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.399)

⚠ 注意

■ 補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムを停止した状態でランプ類を長時間点灯しないでください。

ハイビームにするには



1 ヘッドランプ点灯時ハイビームに切りかえ

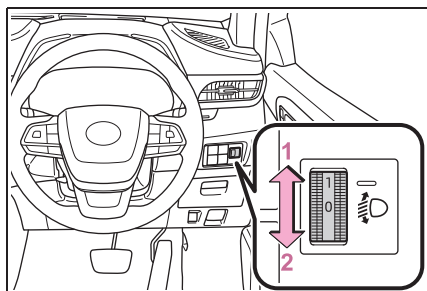
レバーをもとの位置へもどすとロービームにもどります

2 レバーを引いているあいだ、ハイビームを点灯

ランプが消灯していても、ハイビームが点灯します。レバーを離すと、ロービームにもどる、または消灯します。

手動光軸調整ダイヤル

乗車人数や荷物の量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドランプの光軸を調整することができます。



1 上向きに調整

2 下向きに調整

■ 目盛り設定の目安

▶ ドライビングポジションメモリー非装着車

乗員と荷物の条件		ダイヤル位置
乗員	荷物	
運転者	なし	0
運転者と助手席乗員	なし	0
全乗員	なし	1
全乗員	なし	2
全乗員	ラゲージルーム満載時	3
運転者	ラゲージルーム満載時	4

▶ ドライビングポジションメモリー装着車

乗員と荷物の条件		ダイヤル位置
乗員	荷物	
運転者	なし	0
運転者と助手席乗員	なし	0
全乗員	なし	1
全乗員	なし	2
全乗員	ラゲージルーム満載時	2.5
運転者	ラゲージルーム満載時	3.5

AHB (オートマチックハイビーム)

オートマチックハイビームは、フロントウィンドウガラス上部に設置された前方カメラにより前方車両のランプや街路灯などの明るさを判定し、自動的にハイビームとロービームを切りかえます。

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

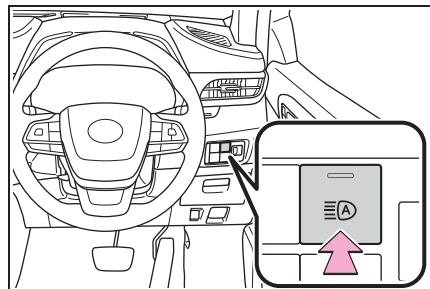
オートマチックハイビームを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

■ オートマチックハイビームの誤作動を防ぐために

荷物を積み過ぎないでください。

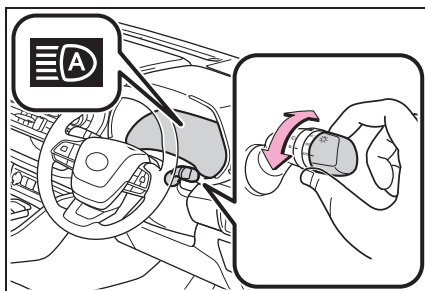
オートマチックハイビームを使うには

- 1 オートマチックハイビームスイッチを押す



- 2 ランプスイッチをAUTOまたはの位置にする

レバーがロービームの位置にあるとき、オートマチックハイビームシステムが作動し、AHB 表示灯が点灯します。



知識

■ハイビームとロービームの自動切り換え条件

- 次の条件をすべて満たすと、ハイビームを点灯します。
 - ・ 車速が約 30km/h 以上
 - ・ 車両前方が暗い
 - ・ 前方にランプを点灯した車両がない
 - ・ 前方の道路沿いの街路灯などの光が少ない
- 次の条件のいずれかのときはロービームが点灯します。
 - ・ 車速が約 25km/h 以下
 - ・ 車両前方が明るい
 - ・ 前方車両がランプを点灯している
 - ・ 前方の道路沿いの街路灯などの光が多い

■前方カメラの検知について

- 次の状況では、ハイビームが自動でロービームに切りかわらない場合があります。
 - ・ 車両が割り込んできたとき
 - ・ 他車が前方を横切ったとき
 - ・ 連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで前方車両が見え隠れするとき
 - ・ 前方車両が離れた車線から接近してきたとき
 - ・ 前方車両が無灯火のとき

- 前方車両のフォグランプにより、ハイビームがロービームに切りかわる場合があります。
- 街路灯や信号・広告などの照明、または標識・看板などの反射物によりハイビームがロービームに切りかわる場合や、ロービームが継続する場合があります。
- 次の原因により、ハイビームとロービームの切りかえのタイミングが変化
 - ・ 前方車両のランプの明るさ
 - ・ 前方車両の動きや向き
 - ・ 前方車両のランプが片側のみ点灯しているとき
 - ・ 前方車両が二輪車のとき
 - ・ 道路の状態（勾配やカーブ、路面状況など）
 - ・ 乗車人数や荷物の量
- ハイビームとロービームが運転者の感覚に合わず切りかわる場合があります。
- 自転車などの軽車両は検知しない場合があります。
- 次の状況では、周囲の明るさが正確に検知されず、ハイビームが歩行者や前方車両などの迷惑になる場合や、ロービームが継続する場合があります。このような場合は、手動でハイビームとロービームを切りかえてください。
 - ・ 悪天候時（雨・霧・雪・砂嵐など）
 - ・ フロントウインドウガラスが汚れているときや、曇っているとき
 - ・ フロントウインドウガラスがひび割れや破損があるとき
 - ・ カメラのセンサーが変形しているか汚れている場合
 - ・ カメラセンサーの温度が非常に高い時
 - ・ 周囲の明るさのレベルがヘッドライト、テールライト、またはフォグライトと同じ場合
 - ・ 前方の車のヘッドライトやテールライトが消えている場合、汚れている場合、色が変わっている場合、または適切に

照射されていない場合

- ・ 前方の車両から水、雪、ほこりなどを受けた場合
- ・ 明暗が断続的に変わる場所を運転しているとき
- ・ 坂道の上下を頻繁かつ繰り返し走行する場合、またはでこぼこした不均一な路面（石畳の道路、砂利道など）の道路を走行する場合
- ・ カーブを頻繁に繰り返し曲がったり、曲がりくねった道を運転したりする場合
- ・ 車両の前方に標識や鏡など非常に反射する物体がある場合
- ・ 前を走る車両の後部が非常に反射しやすい場合、例えばトラックのコンテナなど
- ・ 車のヘッドライトが損傷している、または汚れている、あるいは正しく照準が合っていない場合
- ・ 車両がバンクや牽引中のトレーラーなどのために傾いている場合
- ・ ヘッドライトが異常な方法でハイビームとロービームの間で繰り返し切り替わる場合
- ・ 運転者がハイビームが点滅している、または歩行者や他の運転者をまぶしくさせているかもしれないと考える場合

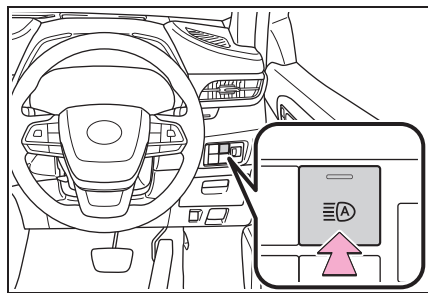
手動制御に切りかえるには

■ ロービームへの切りかえ

オートマチックハイビームスイッチを押す

AHB 表示灯が消灯します。

オートマチックハイビームにもどすには、再度オートマチックハイビームスイッチを押します。

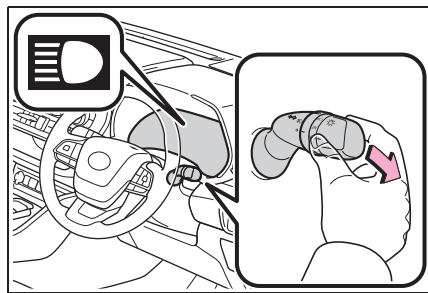


■ ハイビームへの切りかえ

レバーを前方へ押す

AHB 表示灯が消灯し、ハイビーム表示灯が点灯します。

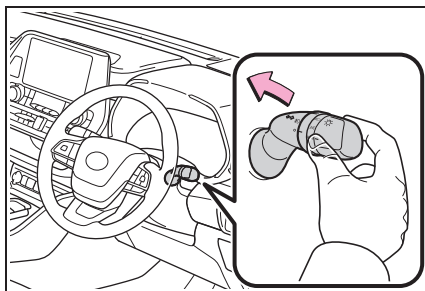
オートマチックハイビームにもどすには、再度レバーをもとの位置にもどします。



■ 一時的なロービームへの切りかえ

レバーを手前に引き、もとの位置にもどす

レバーを引いているあいだはハイビームが点灯しますが、レバーがもとの位置にもどるとしばらくのあいだロービームが点灯します。その後、再度オートマチックハイビームが作動します。



知識

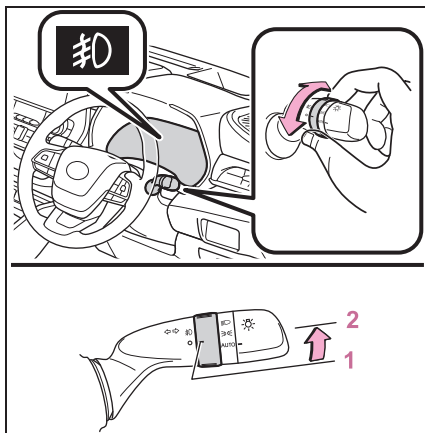
■一時的なロービームへの切りかえ

ハイビームの使用に問題がある、または他の運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるときに使用します。

フォグランプスイッチ

雨や霧などの悪天候下での視界を確保します。

操作のしかた



1 ○ 消灯する

2 ㊦ 点灯する

知識

■点灯条件

ヘッドライトはロービームで点灯しているときに使用できます。

ワイパー&ウォッシャー (フロント)

レバー操作でワイパーを作動させたり、ウォッシャーを作動させたりすることができます。

⚠ 注意

■ フロントウィンドウガラスが乾いているとき

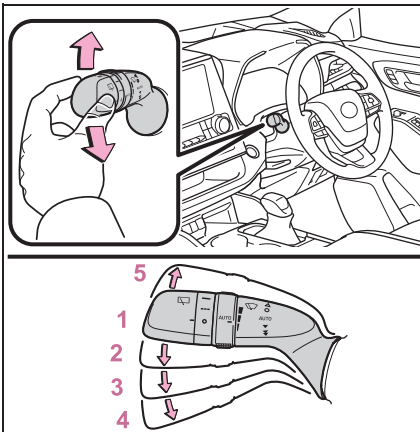
ワイパーを使わないでください。ガラスを傷付けるおそれがあります。

操作のしかた

次のように  レバーを操作すると、ワイパーまたはウォッシャーが作動します。

「AUTO」を選択したときは、雨滴量や車速に応じてワイパーが自動で作動します。

「AUTO」が選択されているとき、センサーの感度を調整できます。



1 ○ 停止

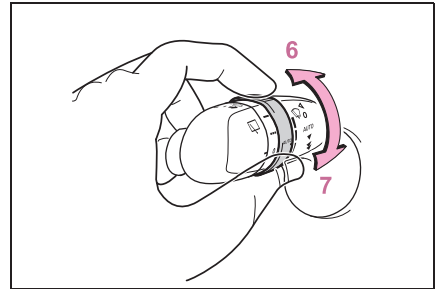
2 AUTO 雨滴感知オート作動 (AUTO)

3 ▼ 低速作動 (LO)

4 ▼ 高速作動 (HI)

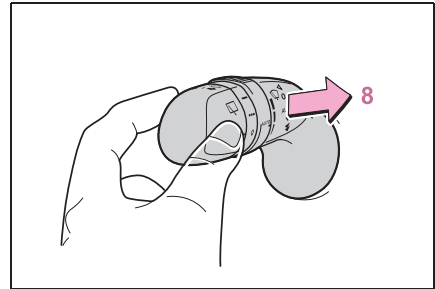
5 ▲ 一時作動 (MIST)

AUTO モードが選択されているときは、次のようにツマミをまわして、雨滴センサーの感度を調整できます。



6 雨滴センサーの感度調整（高）

7 雨滴センサーの感度調整（低）



8  ウォッシャー液を出す

レバーを手前に引くとワイパーと連動してウォッシャーが作動します。

ワイパーは、ウォッシャーが噴射した後に自動で数回作動します。

知識

■ 作動条件

パワースイッチが ON のとき

■ 滴防止ワイパースイープ

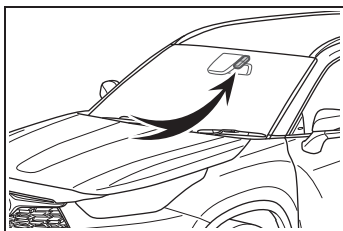
数回作動したあと、液だれ防止としてさらに 1 回作動します。ただし、走行中は液だれ防止作動は行いません。

■ 車速による作動への影響

車速により間欠時間調整式ワイパーの間欠時間がかわります。

■ 雨滴感知センサー

- 雨滴感知センサーが雨滴量を判定します。光学センサーを使用しているため、フロントウインドウガラスに朝日や夕日が断続的にあたるときや、虫などで汚れたときに、正しく作動しないことがあります。



- パワースイッチが ON のときに AUTO モードにすると、動作確認のためワイパーが 1 回作動します。
- センサー感度リングを「AUTO」位置で高に回すと、ワイパーが一度作動してセンサー感度が強化されたことを示します。
- 雨滴感知センサーの温度が 85℃ 以上または -15℃ 以下のときは、AUTO 作動しないことがあります。その場合は、AUTO モード以外でワイパーを使用してください。

■ ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャー液量が不足していないのに

ウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

■ ドア開連動ワイパー停止機能

“AUTO” が選択され、フロントドアが開かれると、ワイパーの水しぶきが乗降者にかからないように、ワイパーの動作が停止します。ただし、車両が停止しているか、パーキングブレーキが作動しているか、シフトレバーが P にある場合に限ります。フロントドアが閉じられると、ワイパーの動作は再開されます。

警告

■ AUTO モード時のワイパー作動について

AUTO モードでは、センサーにふれたり、フロントウインドウガラスに振動があるなどの要因で不意にワイパーが作動するおそれがあります。ワイパーで指などを挟まないように注意してください。

■ ウォッシャー使用時の警告

寒冷時はフロントウインドウガラスが暖まるまでウォッシャー液を使用しないでください。ウォッシャー液がフロントウインドウガラスに凍りつき、視界不良を起こして思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■ ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャースイッチを操作し続けしないでください。ポンプが故障するおそれがあります。

■ ノズルがつまったとき

ノズルがつまったときはトヨタ販売店へご連絡ください。ピンなどで取り除かないでください。ノズルが損傷するおそれがあります。

ワイパー&ウォッシャー (リヤ)



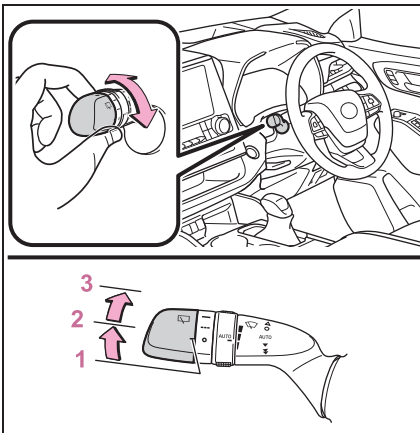
注意

■ リヤウインドウガラスが乾いている とき

ワイパーを使わないでください。ガラスを傷付けるおそれがあります。

操作のしかた

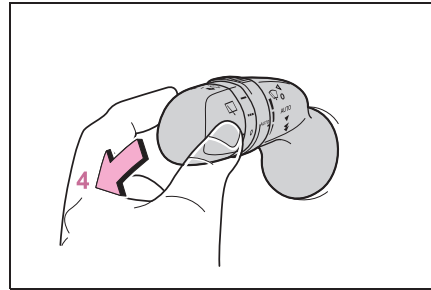
次のように  スイッチを操作すると、リヤワイパーまたはウォッシャーが作動します。



1 ○ 停止

2 ■■■ 間欠作動 (LO)

3 — 通常作動 (HI)



4 ウォッシャー液を出す

レバーを前方へ押すとワイパーと連動してウォッシャーが作動します。

ワイパーは、ウォッシャーが噴射した後に自動で数回作動します。

ワッシャーは自動的に作動し、リヤカメラ※を清掃します。

※ “Multimedia Owner’s Manual” を参照してください。

知識

■ 作動条件

パワースイッチが ON のとき

■ ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

■ リバース連動リヤワイパー機能

フロントワイパーが作動している状態でシフトレバーを R に入れると、リヤワイパーが一度作動します。

■ カスタマイズ

リバース連動リヤワイパー機能の設定を変更できます。(→P.399)

**注意****■ ウォッシャー液が出ないとき**

ウォッシャースイッチを操作し続けな
いでください。ポンプが故障するおそ
れがあります。

給油口の開け方

給油口を開けるには、手順に従ってください。

給油する前に

- ドアとドアガラスを閉め、パワースイッチを OFF にしてください。
- 燃料の種類を確認してください。

知識

■ 燃料の種類について

→P.398

■ 無鉛レギュラーガソリン用の燃料タンク開口部について

誤った給油を防ぐために、車両には無鉛燃料ポンプの専用ノズルのみを収容できる燃料タンク開口部があります。

警告

■ 給油するとき

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと火災を引き起こすなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 給油前にボデーなどの金属部分にふれて体の静電気を除去してください。給油中に静電気による火花により燃料蒸気が発火する可能性があるため、給油前に静電気を除去してください。

- キャップはツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けてください。また、キャップをゆるめたときに、“シュー” という音がある場合は、その音が止まるまでキャップを保持してください。すぐに開けると、気温が高いときなどに、給油口から燃料が噴き出るおそれがあります。
 - 給油口に静電気を除去していない人を近づけないでください。
 - 気化した燃料を吸わないようにしてください。燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。
 - 喫煙しないでください。
 - 車内にもどったり、他の人やものにふれないでください。放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。
- #### ■ 給油するときは
- 燃料タンクから燃料があふれるのを防ぐために、次の注意事項を守ってください。
- 給油口にノズルを確実に挿入してください。
 - 継ぎ足し給油をしないでください。
 - 燃料タンクを満タンにしないでください。

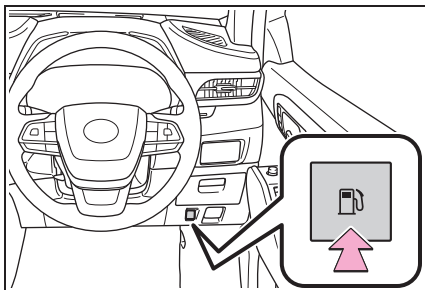
注意

■ 給油するとき

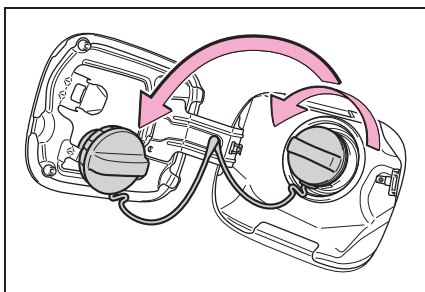
給油中に燃料をこぼさないでください。燃料をこぼすと、排出ガス制御システムの異常作動や燃料系部品・車両塗装面の損傷など、車両にダメージを与える可能性があります。

給油口を開けるには

- 1 スイッチを押して燃料給油口のドアを開けてください。



- 2 キャップをゆっくりまわして開け、ハンガーにかけろ

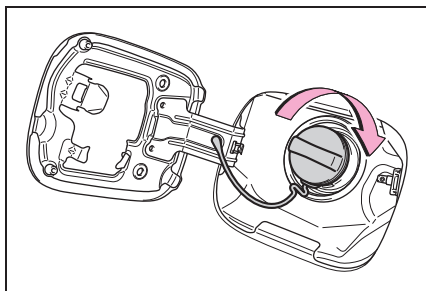


■ 燃料給油口のドアが開かない場合

→P.375

給油口の閉め方

キャップを“カチッ”と音がするまでまわして閉める。手を離すと、キャップが逆方向に少しもどります



⚠ 警告

■ キャップが正常に閉まらないとき

必ずトヨタ販売店へご連絡ください。正常に閉まらないキャップをそのまま使用したり、純正品以外のキャップを使用すると、火災などを引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

Toyota Safety Sense

Toyota Safety Sense は、運転支援装置によって運転者を補助し、安全で快適なドライブを支援します

運転支援装置

- PCS (プリクラッシュセーフティ)
→P.182
- LTA (レーントレーシングアシスト)
→P.192
- AHB (オートマチックハイビーム)
→P.167
- RSA (ロードサインアシスト)
→P.211
- レーダークルーズコントロール
→P.201

⚠ 警告

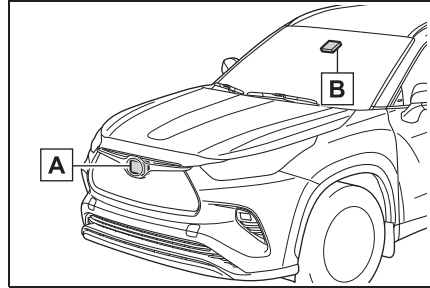
■ Toyota Safety Sense について

Toyota Safety Sense は運転者の安全運転を前提としたシステムであり、事故被害や運転負荷の軽減に寄与することを目的としています。

本システムは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

Toyota Safety Sense で使用するセンサー

複数のセンサーにより、システムの作動に必要な情報を認識します。



A レーダーセンサー

B 前方カメラ

⚠ 警告

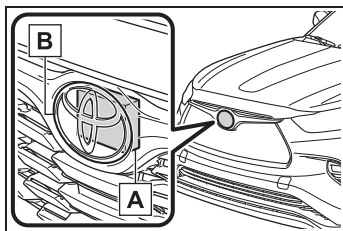
■ レーダーの故障や誤作動を防ぐために

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、レーダーが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

- レーダーとレーダー専用カバーは常にきれいにしておく



A レーダー

B レーダー専用カバー

レーダー前面やレーダー専用カバー前後面に汚れ・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。

お手入れをする際は、レーダーやレーダー専用カバーを傷付けないよう、やわらかい布で汚れをふき取ってください。

- レーダーやレーダー専用カバー周辺にアクセサリを付けたり、ステッカー（透明なものを含む）などを貼ったりしない

- レーダー周辺への衝撃を避ける
レーダー／フロントグリル／フロントバンパーに衝撃を受けた際は、必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。

- レーダーを分解しない

- レーダーやレーダー専用カバーを改造、塗装したりしない。純正部品以外に交換しない。

- 次のようなときは、レーダーの再調整が必要です。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

- ・ レーダーを脱着や交換したとき
- ・ フロントバンパー／フロントグリルを交換したとき

■ 前方カメラの故障や誤作動を防ぐために

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、前方カメラが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

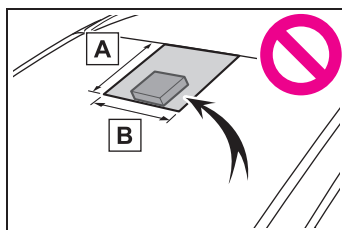
- フロントウィンドウガラスは常にきれいにしておく

- ・ フロントウィンドウガラス外側に汚れ／油膜／水滴／雪などが付着した場合は、取り除いてください。

- ・ フロントウィンドウガラスにガラスコーティング剤を使用しても、前方カメラ前部に水滴などが付着した場合は、ワイパーでふき取ってください。

- ・ フロントウィンドウガラス内側の前方カメラ取り付け部が汚れた場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

- フロントウィンドウガラスの前方カメラ前部（図に示す範囲内）にステッカー（透明なものを含む）などを貼り付けない



A フロントウィンドウガラス上端から
前方カメラ下端より下約 1cm まで

B 約 20cm（前方カメラ中心から左
右約 10cm）

 警告

- 前方カメラ前部のフロントウインドウガラスが曇ったり、結露したり、凍結したりした場合は、エアコンの機能を使用する (→P.259)
- 前方カメラ前部のフロントウインドウガラスの水滴をワイパーが正しくふき取れないときは、ワイパーゴムまたはワイパーブレードを交換する
- フロントウインドウガラスにフィルムを貼らない
- フロントウインドウガラスに傷・ひびなどが生じた場合は、そのまま放置せずに交換する
フロントウインドウガラスの交換後は、前方カメラの再調整が必要です。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。
- 前方カメラに液体をかけない
- 前方カメラに強い光を照射しない
- 前方カメラのレンズを汚したり、傷を付けたりしない
フロントウインドウガラス内側を掃除するときは、ガラスクリーナーがレンズに付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。レンズに汚れ・傷がある場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- 前方カメラに強い衝撃を加えない
- 前方カメラの取り付け位置や向きを変更したり、取りはずしたりしない
- 前方カメラを分解しない
- インナーミラーなどの前方カメラ周辺部品や天井を改造しない

- ボンネット・フロントグリル・フロントバンパーに、前方カメラの視界をさえぎる可能性のあるアクセサリを取り付けない
詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。
- ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボードなど）を積むときは、前方カメラの視界をさえぎらないようにする
- ヘッドランプなどのランプ類を改造しない



知識

■ マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示される場合

システムが一時的に利用できない場合や、システムに不具合が発生している場合があります。

- 次の状況では、表に指定された操作を実行してください。通常の動作条件が検出されると、メッセージは消え、システムは稼働状態になります。

メッセージが消えない場合は、トヨタ販売店にお問い合わせください。

状況	行動
カメラ周辺の領域が汚れ、湿気（曇り、結露、氷など）やその他の異物で覆われている場合	ワイパーとエアコンの機能を使用して、汚れやその他の付着物を取り除いてください。（→P.259）
フロントカメラ周辺の温度が作動範囲外の場合（車両が直射日光にさらされている場合や極端に寒い環境にある場合など）	フロントカメラが熱くなっている場合（例えば、車が日光の下に駐車されていた後など）は、エアコンシステムを使用してフロントカメラ周辺の温度を下げてください。 車両を駐車中にサンシェードを使用した場合、その種類によっては、サンシェードの表面から反射する日光によりフロントカメラの温度が過度に上昇することがあります。 フロントカメラが冷えている場合、例えば車両が極寒の環境に駐車されていた後などは、エアコンシステムを使用してフロントカメラ周辺の温度を上げてください。
フロントカメラの前の領域が遮られている場合、例えばボンネットが開いているときや、フロントカメラの前の風防ガラスにステッカーが貼られている場合など。	ボンネットを閉め、ステッカーなどを取り除いて、障害物を取り除いてください。
“Pre-Collision System Radar InSelf Calibration Unavailable See Owner'sManual” と表示された場合。	レーダーセンサーおよびレーダーセンサーカバーに付属物があるかどうかを確認し、付属物がある場合は取り外してください。

- 以下の状況では、状況が変化した場合（または車両がしばらく運転された場合）に通常の動作条件が検出されると、メッセージは消え、システムは作動状態になります。メッセージが消えない場合は、トヨタ販売店にお問い合わせください。
- ・ レーダーセンサー周辺の温度が動作範囲外の場合、例えば車両が直射日光にさらされている場合や極端に寒い環境にある場合
- ・ フロントカメラが車両前方の物体を検知できない場合、例えば暗闇、雪、霧の中での走行時や、強い光がフロントカメラに当たっている場合

- ・ 車両周辺の条件によっては、レーダーが周囲の環境を正しく認識できないと判断する場合があります。その場合、“Pre-Collision System Unavailable See Owner's Manual” と表示されます。

PCS（プリクラッシュセーフティ）

進路上の作動対象（→P.182）をセンサーで検出し、衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに、警報やブレーキ力制御により運転者の衝突回避操作を補助します。また、衝突の可能性がさらに高まったと判断したときは、自動的にブレーキを作動させることで、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与します。

必要に応じて、プリクラッシュセーフティの ON/OFF や、警報タイミングを切りかえることができます。（→P.185）

システムの作動対象

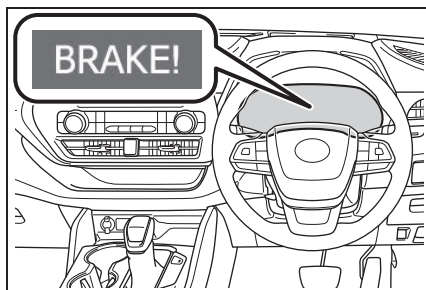
システムは次のものを作動対象として検出しています。（機能によって、作動対象が異なります）

- 車両
- 自転車
- 歩行者

機能一覧

■ 衝突警報

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、“ピピピ・・・”とブザー音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにアイコンとメッセージを表示し、回避操作をうながします。



■ プリクラッシュブレーキアシスト

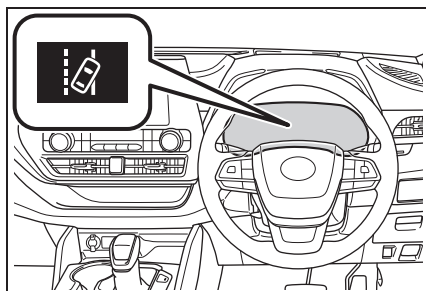
衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、運転者のブレーキ操作で不足しているブレーキ力を増強します。

■ プリクラッシュブレーキ

衝突の可能性が高いとシステムが判断したときは、ブレーキが自動でかかり、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与します。

■ 緊急時操舵支援

システムが前面衝突の可能性が高いと判断し、かつ車線内に十分な操舵スペースがあり、かつドライバーが回避操作または操舵を開始した場合、緊急操舵アシストが操舵操作を補助し、車両の安定性向上と車線逸脱防止を支援します。作動中はインジケーターが緑色に点灯します。

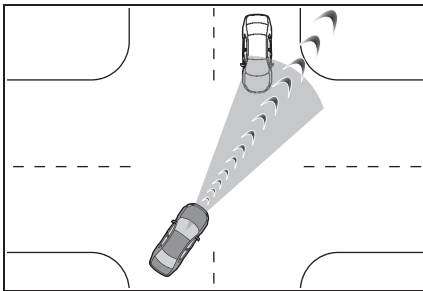


■ 交差点衝突回避支援（右左折）

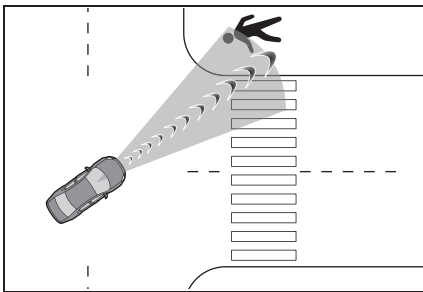
次のような状況において衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、衝突警報およびプリクラッシュブレーキによる支援を行います。

交差点の形状によっては正しく支援できない場合があります。

- 交差点で右折して対向車の進路を横切るとき



- 右左折時に前方に歩行者を検知し、進路に入ると推定します（自転車は検知しません）。



⚠ 警告

■ 衝突回避システムの限界

- 安全運転は運転者の責任です。常に周囲の状況に注意し、安全運転を心がけてください。いかなる状況においても、プリクラッシュセーフティシステムを通常のブレーキ操作の代わりに使用しないでください。このシステムは、あらゆる状況において衝突を回避したり、衝突による被害や傷害を軽減したりするものではありません。このシステムを過度に信頼しないでください。過度の信頼は事故につながり、死亡または重傷につながる可能性があります。
- このシステムは衝突の回避または衝突時の衝撃軽減を目的として設計されていますが、その効果は様々な状況によって変化するため、常に一定の性能を発揮できるとは限りません。以下の注意事項をよくお読みください。このシステムを過信せず、常に安全運転を心がけてください。
- ・ 衝突の可能性がない場合でもシステムが作動する可能性がある条件
→P.188
- ・ システムが正常に動作しない可能性がある条件 →P.189
- 衝突回避システムの作動テストはご自身で行わないでください。テストに使用する物体（ダミー人形、検知対象物を模した段ボールなど）によっては、システムが正常に作動せず、事故につながる可能性があります。

■ プリクラッシュブレーキについて

- プリクラッシュブレーキが作動したときは、強いブレーキがかかります。

⚠ 警告

- ブリクラッシュブレーキは停止状態を保持する機能ではありません。ブリクラッシュブレーキの作動により車両が停止したときは、必要に応じて速やかに運転者自らブレーキをかけてください。
 - ブリクラッシュブレーキは運転者の操作状態によっては作動しません。運転者がアクセルペダルを強く踏んでいた、ハンドルを操作したりしていると、運転者の回避操作とシステムが判断し、ブリクラッシュブレーキが作動しない、または作動が解除される場合があります。
 - 衝突回避ブレーキ作動中に、アクセルペダルを強く踏み込んだり、ハンドルを切ったりして、運転者が回避操作を行っているときシステムが判断した場合、衝突回避ブレーキの作動がキャンセルされることがあります。
 - ブレーキペダルを踏んでいるときは、運転者の回避操作とシステムが判断し、ブリクラッシュブレーキの作動開始タイミングが遅れる場合があります。
- 緊急時操舵支援について
- 緊急時操舵支援は車線逸脱抑制制御が完了したときシステムが判断した段階で作動を解除します。
 - 緊急時操舵支援は運転者の操作状態によっては作動しない、または作動中に解除される場合があります。
 - ・ 運転者がアクセルペダルを強く踏んでいた、ハンドルを大きく操作したり、ブレーキを踏んでいた、方向指示レバーを操作すると、運転者の回避操作とシステムが判断し、緊急時操舵支援が作動しない場合があります。

- ・ 緊急時操舵支援作動中に、アクセルペダルを強く踏んだり、ハンドルを大きく操作したり、ブレーキを踏んでいると、運転者の回避操作とシステムが判断し、緊急時操舵支援の作動が解除される場合があります。
- ・ 緊急時操舵支援作動中に、ハンドルを保持したりシステムと逆方向にハンドル操作した場合には、緊急時操舵支援の作動が解除されます。

■ 衝突回避システムを無効にするタイミング

次の状況では、システムが正常に動作せず、死亡または重傷につながる事故につながる可能性があるため、システムを無効にしてください。

- 車両が牽引されているとき
- あなたの車が他の車を牽引しているとき
- トラック、船、電車などの輸送手段で車両を輸送する場合
- ハイブリッドシステムをONにした状態でリフトで車両を持ち上げ、タイヤを自由に回転させるとき
- シャシーダイナモメーターやスピードメーターテスターなどのドラムテスターを使用して車両を検査する場合、または車載ホイールバルンサーを使用する場合
- 事故などによりフロントバンパーやフロントグリルに強い衝撃が加わった場合
- 事故や故障などで車両が安定して走行できない場合
- オフロード走行やスポーツ走行をするとき
- タイヤの空気圧が適切でないとき
- タイヤがひどく摩耗している場合

⚠ 警告

- 指定サイズ以外のタイヤを装着した場合
- タイヤチェーンを装着する場合
- コンパクトスペアタイヤや緊急パンク修理キットを使用する場合
- レーダーセンサーやフロントカメラを遮る可能性のある装置（除雪車など）が車両に一時的に取り付けられている場合

PCS の設定を変更する

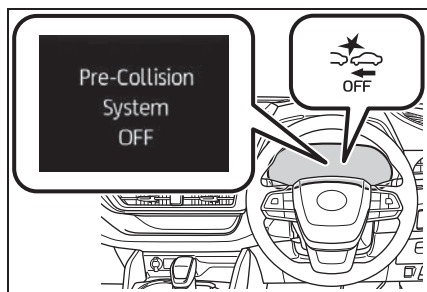
■ 衝突回避システムの有効化/無効化

衝突回避システムは、マルチインフォメーションディスプレイ上

 (→P.81) で有効 / 無効を切り替えることができます。

パワースイッチが ON になるとシステムは ON になります。

システムを OFF にすると、PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。



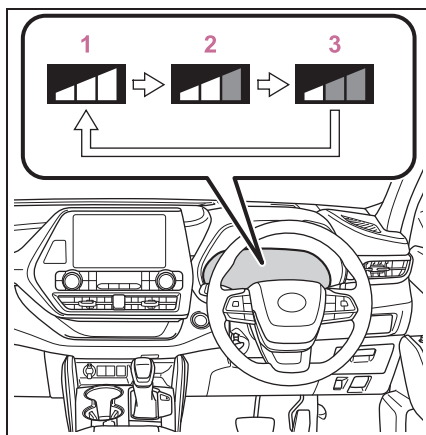
■ 衝突前警報タイミングの変更

衝突被害軽減ブレーキの作動タイミングは、マルチインフォメーションディスプレイ上 

(→P.81) で変更することができません。

パワースイッチを OFF にしても警報タイミングの設定は保持されます。ただし、プリクラッシュセーフティシステムを OFF にした後、再度 ON にすると、作動タイミングはデフォルト設定（中間）に戻ります。

プリクラッシュ警報のタイミングを変更すると、それに応じて緊急ステアリングアシストのタイミングも変更されます。遅めが選択されている場合、緊急時にステアリングアシストが作動しない可能性があります。



1 早い

2 真ん中

これがデフォルト設定です。

3 遅い

知識

■ ブリクラッシュセーフティ各機能の作動条件

ブリクラッシュセーフティが ON で、前方の作動対象と衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに作動します。

ただし、次のときシステムは作動しません。

- ・ 補機バッテリー端子を脱着したあと、しばらく走行するまでのあいだ
- ・ シフトレバーが R のとき

各機能の作動速度、作動解除は次のとおりです。

● 衝突警報

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両、静止車両	約 10 ～ 180 km / h	約 10 ～ 180 km / h
対向車両	約 10 ～ 180 km / h	約 20 ～ 180 km / h
自転車と歩行者	約 10 ～ 80 km / h	約 10 ～ 80 km / h

衝突警報が作動中にハンドルを大きく操作するか、すばやく操作すると、衝突警報が解除される場合があります。

● ブリクラッシュブレーキアシスト

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両、静止車両	約 30 ～ 180 km / h	約 30 ～ 180 km / h
自転車と歩行者	約 30 ～ 80 km / h	約 30 ～ 80 km / h

● ブリクラッシュブレーキ

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両、静止車両	約 10 ～ 180 km / h	約 10 ～ 180 km / h
対向車両	約 10 ～ 180 km / h	約 20 ～ 180 km / h
自転車と歩行者	約 10 ～ 80 km / h	約 10 ～ 80 km / h

ブリクラッシュブレーキ作動中に次の操作をすると、ブリクラッシュブレーキの作動が解除される場合があります。

- ・ アクセルペダルを強く踏み込む
- ・ ハンドルを大きく操作する、またはすばやく操作する

● 緊急時操舵支援

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両、静止車両、自転車、歩行者	約 40 ～ 80 km / h	約 40 ～ 80 km / h

以下の状況では緊急ステアリングアシストは作動しません。

- ・ LTA OFF インジケータが点灯している場合
- ・ LTA OFF インジケータが点灯している場合
- ・ TRC システムが無効になっている場合

VSC OFF インジケータが点灯しているときは、緊急操舵アシストは作動しません。

緊急時操舵支援作動中に次の操作をすると、緊急時操舵支援の作動が解除される場合があります。

- ・ アクセルペダルを強く踏み込む
- ・ ハンドルを大きく操作する、またはすばやく操作する
- ・ ブレーキペダルを踏む

● 交差点衝突回避支援（右左折）

作動対象	自車速度	対向車速度	相対速度
対向車両	約 10 ～ 25 km / h	約 30 ～ 55 km / h	約 40 ～ 80 km / h
歩行者	約 10 ～ 25 km / h	—	約 10 ～ 25 km / h

方向指示灯が点滅していないときは、対向車に対する交差点右左折支援が作動しません。

● 交差点右左折支援（衝突回避ブレーキ）

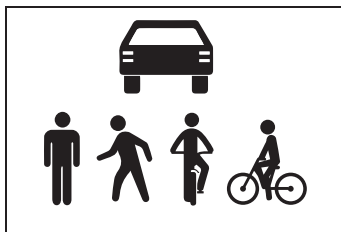
作動対象	自車速度	対向車速度	相対速度
対向車両	約 15 ～ 25 km / h	約 30 ～ 45 km / h	約 45 ～ 70 km / h
歩行者	約 10 ～ 25 km / h	—	約 10 ～ 25 km / h

方向指示灯が点滅していないときは、対向車に対する交差点右左折支援が作動しません。

■ 作動対象の検出

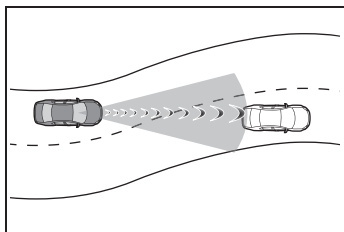
大きさ・輪郭・動きなどから検出します。
周囲の明るさや、作動対象の動き・姿勢・
角度などによっては、作動対象を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。(→P.189)

図は作動対象として検出する対象のイメージです。

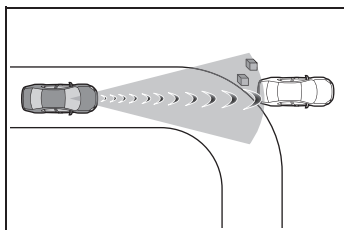


■衝突の可能性が高なくてもシステムが作動するおそれがあるとき

- 例えば次のような状況では、システムが衝突の可能性が高いと判断し、作動するおそれがあります。
- ・作動対象などのすぐそばを通過するとき
- ・車線を変更して作動対象などを追いこすとき
- ・走行コースを変更するときや曲がりくねった道路を走行しているときなど、隣接車線または道路脇の検出可能な物体に近づくとき



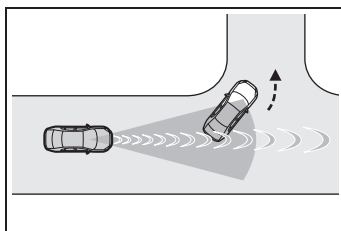
- ・作動対象などに急接近したとき
- ・道路脇の作動対象や物体（ガードレール・電柱・木・壁など）に近付いたとき
- ・カーブ入り口の道路脇に作動対象や物体などが存在するとき



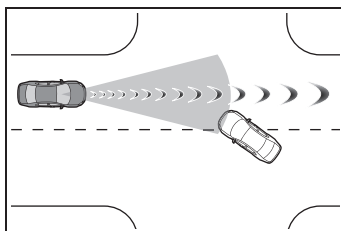
- ・自車の前方に作動対象との区別が付き

にくい模様・ペイントがあるとき

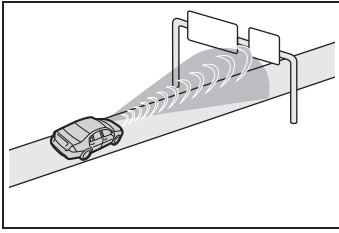
- ・車両の前面が水、雪、ほこりなどにさらされたとき。
- ・車線変更や右左折している作動対象などを追い抜くとき



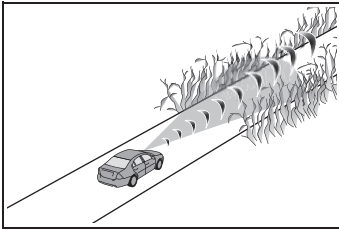
- ・右左折待ちの作動対象などとすれ違うとき



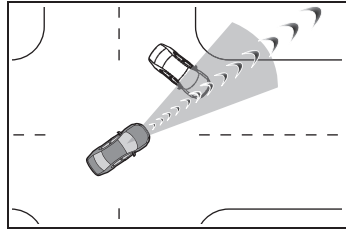
- ・作動対象などが自車進路内に入る手前で停止または進路変更したとき
- ・道路上方に物体（道路標識や看板など）がある場所を走行するとき
- ・トンネルや鉄橋など、構造物に囲まれた道路を運転する場合
- ・車両の前方に金属物（マンホールの蓋、鋼板など）、段差、突起物がある場合
- ・物体（道路標識、看板など）の下を通過するとき



- ・ ETC ゲートや駐車場のゲートなどの開閉バーに接近したとき
- ・ 自動洗車機を使用する場合
- ・ 草むら、木の枝、垂れ幕など、車両に接触する可能性のある物体を通過したり、その下を走行したりする場合



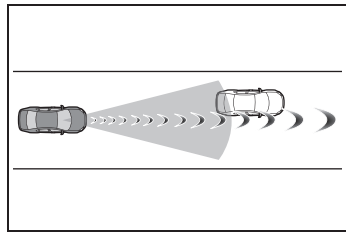
- ・ 蒸気や煙の中を運転するとき
- ・ 大型トラックやガードレールなど、電波を反射する物体の近くを運転している場合
- ・ テレビ塔、放送局、発電所、レーダー搭載車両などの近く、または強い電波や電気ノイズが発生する可能性のある場所を運転しているとき
- ・ 周囲にレーダーの電波を反射するものが多い場合（トンネル、トラス橋、砂利道、轍のある雪道など）
- ・ 右左折時に、対向車や横断歩行者が既に車両の進路から外れている場合
- ・ 右左折中に、対向車や横断歩行者の手前を通過しようとしたとき
- ・ 右左折中に、対向車や横断歩行者が自車進路に入る手前で停止や進路変更したとき
- ・ 交差点内で右折中、対向車が右折しているとき、または左折しているとき



- ・ 対向車の進路に接近するようにハンドルを操作したとき

■ システムが正常に作動しないおそれがあるとき

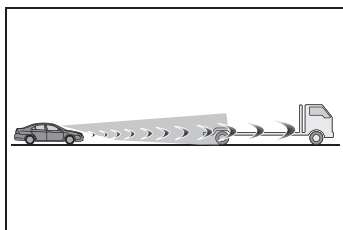
- 例えば次のような状況では、前方センサーが作動対象を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。
- ・ 自車に向かって作動対象が近付いてくるとき
- ・ 自車や作動対象がふらついているとき
- ・ 作動対象が急な動きをしたとき（急ハンドル・急加速・急減速など）
- ・ 作動対象に急接近したとき
- ・ 検知可能な物体が車両の正面にない場合



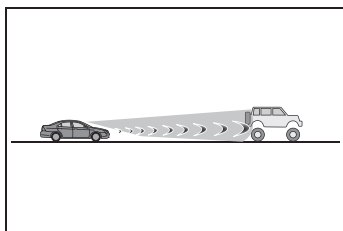
- ・ 作動対象が壁やフェンス・ガードレール・マンホール・路面の鉄板、他の車両などのそばにいますとき
- ・ 上方に構造物がある場所の下に作動対象がいるとき
- ・ 作動対象の一部が他のもので隠れているとき（大きな荷物や傘、またはガードレールなど）
- ・ 周囲にレーダーの電波を反射するものが多い場合（トンネル、トラス橋、砂利道、轍のある雪道など）
- ・ 他の車両に搭載されているレーダーへ

の電波に影響を及ぼす場合

- ・ 作動対象が複数重なっているとき
- ・ 作動対象が太陽光などの強い光を反射しているとき
- ・ 作動対象の色合いが白系統で、極端に明るく見えるとき
- ・ 作動対象の色合いや明るさが背景に溶け込んでいるとき
- ・ 作動対象が割り込んできたり、飛び出してきたりしたとき
- ・ 車両の前面が水、雪、ほこりなどにさらされたとき。
- ・ 太陽や対向車のヘッドライトなど、前方の非常に明るい光がフロントカメラに直接当たる場合
- ・ 前方の車両の側面または前面に近づくとき
- ・ 前方の車両がバイクの場合
- ・ 前方の車両が狭い場合（パーソナルモビリティ車両など）
- ・ 前方の車両が、荷物を積んでいないトラックなど、後部が小さい場合
- ・ 先行車が低床トレーラーなど後端が低い場合



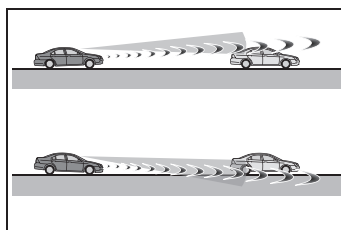
- ・ 前方の車両の地上高が非常に高い場合



- ・ 前方の車両が後部バンパーから突き出た荷物を積んでいる場合
- ・ 前方の車両がトラクターやサイドカー

など不規則な形状の場合

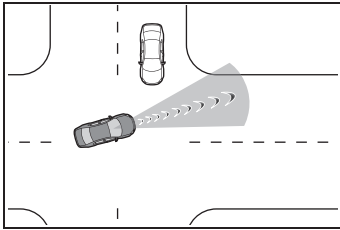
- ・ 子供用自転車、大きい荷物を載せた自転車、2人以上乗車している自転車、前傾姿勢で乗車している自転車、または特殊な形状の自転車（チャイルドシート装着車・タンデム自転車など）
- ・ 歩行者・自転車の大きさが約1m以下、または約2m以上のとき
- ・ 歩行者・自転車の全身の輪郭があいまいなとき（レインコート・ロングスカートを着用している場合など）
- ・ 歩行者が前かがみになっている、またはしゃがんでいるとき
- ・ 歩行者・自転車の移動速度が速いとき
- ・ 歩行者がベビーカー・車いす・自転車などを押しているとき
- ・ 大雨、霧、雪、砂嵐などの悪天候での運転時
- ・ 蒸気や煙の中を運転するとき
- ・ 周囲が薄暗い（朝方・夕方など）、または周囲が暗い（夜間やトンネル内など）など、作動対象が背景に溶け込んでいるとき
- ・ トンネルの出入り口など、周囲の明るさが急に変化する場所を運転しているとき
- ・ ハイブリッドシステムを始動したあと、走行を開始してしばらくのあいだ
- ・ 右左折中および右左折後の数秒間
- ・ カーブ走行中およびカーブを曲がりきってから数秒間
- ・ 車が横滑りしている場合
- ・ 車両の前部が上がったり下がったりする場合



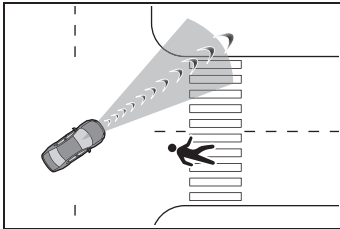
- ・ 車輪の位置がずれている場合
- ・ ワイパーブレードがフロントカメラを

遮っている場合

- ・車両は非常に高速で運転されている
- ・坂道を運転するとき
- ・レーダーセンサーまたはフロントカメラの位置がずれている場合
- ・対向車が右左折しながら走行している、複数の車線で区切られた車線を走行している場合
- ・右左折時に、対向車と大きくずれている場合



- ・右左折中に、歩行者や自転車が自車の後方から追い抜くように前方にでくるとき



- 上記に加えて、例えば次のような状況では緊急時操舵支援が作動しないおそれがあります。
- ・白線（黄線）が薄くなったり、分岐・合流したり、影がかかっていたりして見えにくいとき
- ・車線が通常より広い、または狭い場合
- ・道路補修などにより路面に明暗の模様がある場合
- ・作動対象に近づきすぎたとき
- ・回避するための十分なスペースがない、または回避先に物があるとき
- ・対向車がいるとき
- ・VSC機能が作動している場合
- 次のような状況では、十分な制動力や

操舵力が得られず、システムが正常に作動しない場合があります。

- ・ブレーキ部品が極端に寒い、極端に暑い、または濡れているなど、ブレーキ機能が最大限に作動しない場合
- ・車両のメンテナンスが適切に行われていない場合（ブレーキやタイヤが過度に摩耗している、タイヤの空気圧が適切でないなど）
- ・車両が砂利道やその他の滑りやすい路面を走行しているとき
- ・路面に深い轍がある場合
- ・坂道を運転するとき
- ・左または右に傾斜のある道路を運転する場合

■VSCが無効の場合

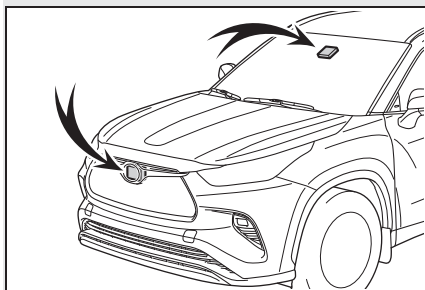
- VSCが無効になっている場合（→P.245）、緊急操舵アシスト機能も無効になります。
- PCS警告灯が点灯します。

LTA（レーントレーシングアシスト）

白（黄）線が整備された道路を走行中、車線または走路※からの逸脱の可能性を警告するとともに、車線または走路※からの逸脱を避けるためのハンドル操作の一部を支援します。また、レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）（→P.201）の作動中は、車線維持に必要なハンドルの操作を支援します。

白（黄）線または走路※を前方カメラで認識します。また、先行車を前方カメラやレーダーで認識します。

※ アスファルトと道路の端（芝生、土、縁石など）の境界



⚠ 警告

■ LTA をお使いになる前に

- LTA を過信しないでください。LTA は自動で運転する装置でも前方への注意を軽減する装置でもないため、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。また、長時間の運転などによる疲労時は適切に休憩をとってください。
- 適切な運転操作をしなかったり、注意を怠ったりすると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ LTA システムに適さない状況

次の状況では、LTA スイッチでシステムを OFF にしてください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 雨天時や積雪・凍結などで、すべりやすい路面を走行しているとき
- 雪道を走行しているとき
- 水たまりや雨・雪・霧・砂ぼこりなどで白（黄）線が見えにくいとき
- 工事によって規制された車線・仮設の車線を走行しているとき
- 工事区間を走行しているとき
- 応急用タイヤ・タイヤチェーンなどを装着しているとき
- タイヤの残り溝が十分でないとき、または空気圧が不足しているとき
- 車両けん引時

■ LTA システムの誤動作や誤操作の防止

- ヘッドライトを改造したり、ライトの表面にステッカーなどを貼ったりしないでください。

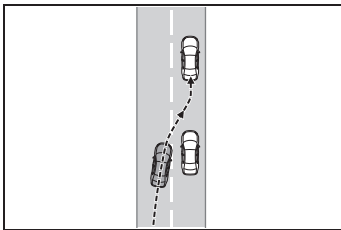
⚠ 警告

- サスペンション等の改造はしないでください。サスペンション等の交換が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- ボンネットやグリルの上には何も取り付けたり、置いたりしないでください。また、グリルガード（ブルバー、カンガルーバーなど）も取り付けないでください。
- フロントガラスの修理が必要な場合は、トヨタ販売店にご連絡ください。

■ 機能が正常に作動しないおそれのある状況

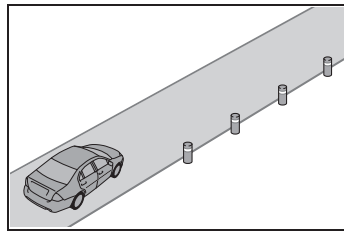
次のような状況では、各機能が正しく作動せず車線から逸脱するおそれがあります。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、本機能を過信せずにハンドル操作で進路を修正してください。

- 追従巡航表示が表示され（→P.197）、先行車／周辺車が車線変更したとき（先行車／周辺車の動きに合わせて自車も車線変更するおそれがあります）

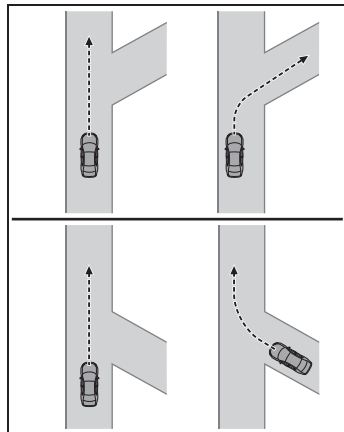


- 追従巡航表示が表示され（→P.197）、先行車／周辺車がふらついたとき（先行車／周辺車の動きに合わせて自車もふらついて走行しレーンをはみ出すおそれがあります）

- 追従巡航表示が表示され（→P.197）、先行車／周辺車が車線から逸脱したとき（先行車／周辺車の動きに合わせて自車も車線から逸脱するおそれがあります）
- 追従巡航表示が表示され（→P.197）、先行車／周辺車がレーン内を右、または左に片寄って走行したとき（先行車／周辺車の動きに合わせて自車も片寄って走行しレーンをはみ出すおそれがあります）
- 急カーブを走行しています。
- 道路脇に白線（黄線）と間違えられるような物体や模様（ガードレール、反射ポールなど）があります。

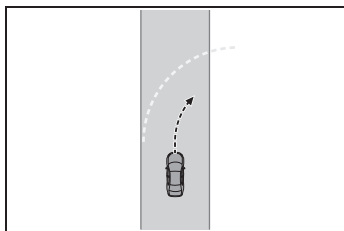


- 車両は道路が分岐したり、合流したりする場所で運転されます。



警告

- 道路補修に伴いアスファルトの補修跡、白線（黄線）等がございます。



- 道路上に白線（黄線）と平行に走る影、または白線（黄線）を覆う影があります。
- 料金所や検問所の前、交差点などの白線（黄線）のない場所を走行しているとき。
- 白（黄）線が割れていたり、「盛り上がった路面マーカ―」や石が散乱している。
- 砂などで白（黄）線が見えなかったり見えにくかったりする。
- 雨や水たまりなどで濡れた路面を走行します。
- 交通線は黄色です（白い線よりも認識しにくい場合があります）。
- 白線（黄線）が縁石などを横切っている。
- 車両はコンクリートなどの明るい路面上を走行します。
- 道路の端がはっきりしていなかったり、まっすぐでなかったりする場合。
- 反射光などにより明るい路面を走行する場合。
- トンネルの出入り口など明るさが急に变化する場所を走行する場合
- 対向車のヘッドライトや太陽などの光がカメラに入ります。

- 車両は坂道で走行します。
- 車両は左右に傾いた道路や曲がりくねった道路を走行します。
- 車両は未舗装道路または悪路を走行します。
- 交通車線が極端に狭い、または広い。
- 重い荷物を積んでいるか、タイヤの空気圧が適切でないために、車両が極端に傾いています。
- 先行車との距離が極端に短い。
- 走行中に道路状況（路面状態が悪い、路面の継ぎ目がある）により車両が大きく上下動する。
- トンネル内や夜間にヘッドライトを消した状態で運転しているとき、またはレンズの汚れや位置ずれによりヘッドライトが暗いとき。
- 横風を受けているときなど、周辺車両の走行によって発生する風の影響を受けているとき。
- 車両は車線を変更したか、交差点を横断したばかりです。
- 構造、メーカー、ブランド、トレッドパターンなどが異なるタイヤが使用されます。
- 指定サイズ以外のタイヤを装着した場合。
- スノータイヤ等も装備しております。
- 車両は非常に高速で運転されています。

LTA システムに含まれる機能

■ 車線逸脱警報機能

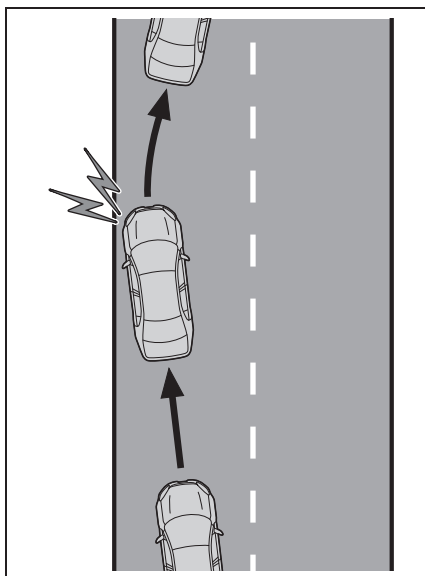
車両が車線または走路[※]から逸脱する可能性がある場合にディスプレイの表示および、警報ブザーまたはハンドルの振動により注意を

うながします。

道路状況を確認の上、ハンドルを慎重に操作して、車線または走路※内の中央付近にもどってください。

方向指示灯の点滅中であっても、となりの車線を走行中の車両と衝突する可能性があるとしてシステムが判断した場合、車線逸脱警報機能が作動します。

※ アスファルトと草・土などの境界や、縁石、ガードレールなどの構造体

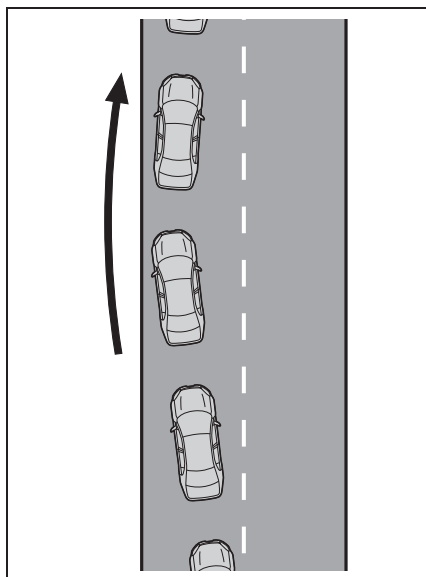


■ 車線逸脱抑制機能

車両が車線または走路※から逸脱する可能性がある場合に、逸脱を避けるために必要なハンドル操作の一部を支援します。

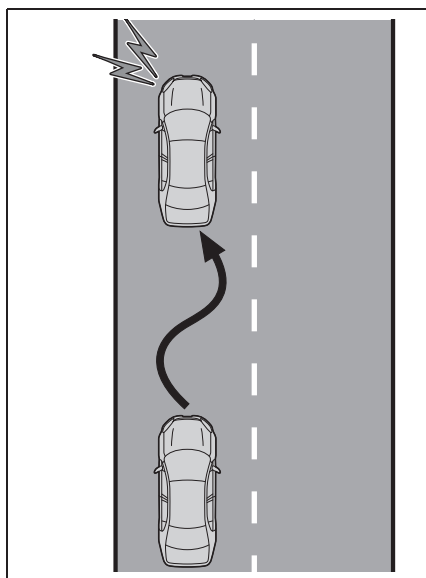
方向指示灯の点滅中であっても、となりの車線を走行中の車両と衝突する可能性があるとしてシステムが判断した場合、車線逸脱抑制機能が作動します。

※ アスファルトと草・土などの境界や、縁石、ガードレールなどの構造体



■ 休憩提案機能

車両がふらついて走行しているときに、ディスプレイの表示および警報ブザーにより休憩をうながします。

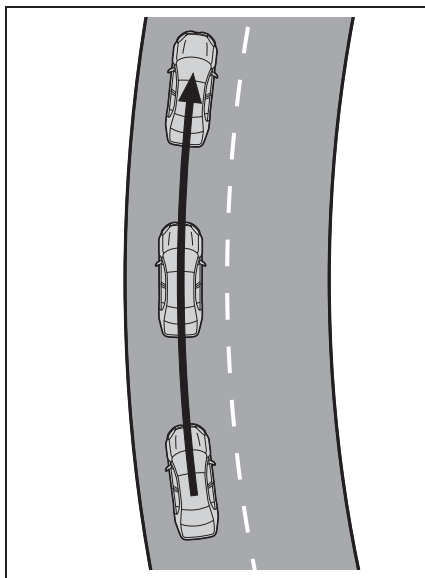


■ 車線中央維持機能

この機能は、全速度域でのレーダー クルーズ コントロールと連動しており、ステアリング ホイールを操作することで、車両を現在の車線に維持するために必要な支援を提供します。

全車速域レーダークルーズコントロールが作動していないときは、車線中央維持機能は作動しません。

渋滞時など、白線（黄線）が見えにくい、または見えない状況で、先行車の位置を監視し、追従走行を支援する機能が作動します。

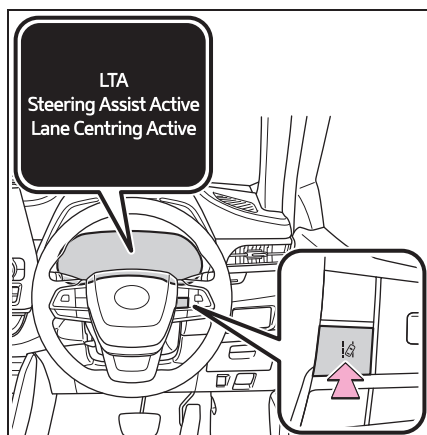


LTA システム設定

■ システムの ON / OFF を変更する

LTA の ON/OFF を切り替えるには LTA スイッチを押す

スイッチを押すたびにレーンセンタリング機能の ON/OFF が切り替わります。



- レーンセンタリング機能 ON :
“LTA Steering Assist Active Lane CentringActive” と表示されます。
- LTA システムを ON にすると、次回ハイブリッドシステムを起動した際にも同じ状態で LTA システムの動作が継続されます。

■ LTA システムを OFF にする

LTA スイッチを長押しします

LTA を OFF にすると、LTA インジケータ ライトが消灯します。

LTA が OFF になると、LTA OFF インジケータが点灯します。(→P.67)

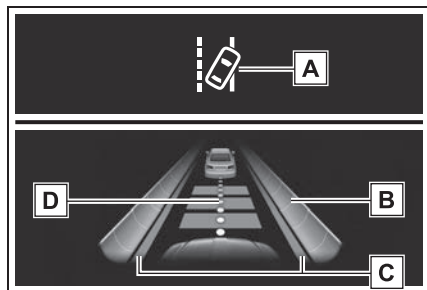
スイッチをもう一度押すと、システムが ON になります。

パワースイッチを ON にするたびに、LTA も ON になります。

ただし、レーンセンタリング機能は、パワースイッチを OFF する前の ON/OFF のいずれかの状態を維持します。

LTA OFF インジケータが点灯すると、緊急ステアリングアシストが無効になります。(→P.182)

マルチインフォメーションディスプレイの表示



A LTA インジケータ

インジケータの点灯状態により、運転者にシステムの動作状態を知らせます。
白く点灯：LTA システムが作動しています。

緑色に点灯：ステアリングアシスト機能またはレーンセンタリング機能のステアリングアシストが作動しています。

オレンジ色点滅：車線逸脱警報機能が作動しています。

B ステアリングホイール操作支援の操作表示

マルチインフォメーションディスプレイを運転支援システム情報表示に切り替えたときに表示されます。

ステアリングアシスト機能またはレーンセンタリング機能のステアリングホイールアシストが作動していることを示します。

車線両外側が表示されている場合：車線中央維持機能のステアリングアシストが作動していることを示します。

車線の片側外側が表示されている場合：ステアリングアシスト機能のステアリングアシストが作動していることを示します。

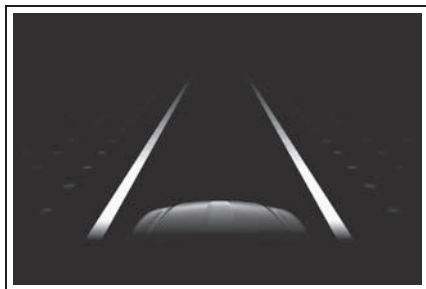
車線の両外側が点滅：車線の中央に留まるためにドライバーの操作が必要であることを警告します（車線センタリング機

能）。

C 車線逸脱警報機能表示

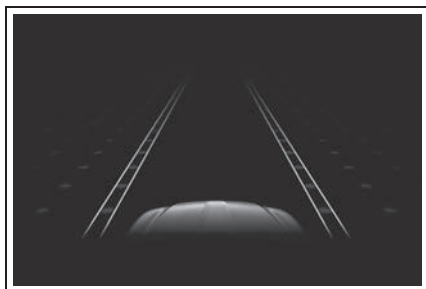
マルチインフォメーションディスプレイを運転支援システム情報表示に切り替えたときに表示されます

▶ 表示された線の内側は白です



システムが白線（黄線）または進路※を認識していることを示します。車両が車線を逸脱すると、逸脱側の白線がオレンジ色に点滅します。

▶ 表示された線の内側は黒です



システムが白線（黄線）またはコース※を認識できない、または一時的にキャンセルされていることを示します。

※ アスファルトと道路の端（芝生、土、縁石など）の境界

D フォローアップ巡航表示

マルチインフォメーションディスプレイを運転支援システム情報表示に切り替え

たときに表示されます。

先行車の位置を監視して、レーンセンタリング機能のステアリングアシストが作動していることを示します。

追従走行表示中は、先行車が動き出すと、自車も同じように動くことがあります。常に周囲の状況に注意し、必要に応じてステアリングを操作して進路を修正し、安全を確保してください。

知識

■各機能の作動条件

●車線逸脱警報／抑制機能

次の条件をすべて満たしたときに作動します。

- ・ LTA が ON になっている。
- ・ 車速が約 50km/h 以上のとき ※¹
- ・ システムが白線（黄線）または進路 ※² を認識します。（白線（黄線）または進路 ※² を片側のみ認識した場合は、認識した側のみ作動します。）
- ・ 車線の幅が約 3m 以上のとき
- ・ 方向指示器を操作していない。（方向指示器を操作した側の車線に他車がいる場合を除く）
- ・ 急カーブを走行していないとき
- ・ システムの不具合は検出されません。（→P.200）
- ・ VSC または TRC を OFF にしていない

※¹車線中央維持機能が作動しているときは、車速が約 50 km/h 未満であってもこの機能は作動します。

※²アスファルトと草・土などの境界や、縁石、ガードレールなどの構造物

●ステアリングアシスト機能

この機能は、車線逸脱警報機能の作動条件に加え、以下の条件をすべて満たした場合に作動します。

- ・ 車両が一定量以上加速または減速されない。

- ・ 車線変更に適した操舵力でステアリングホイールが操作されていない。
- ・ ABS、VSC、TRC、PCS が作動していません。
- ・ VSC または TRC を OFF にしていない

●休憩提案機能について

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

- ・ マルチインフォメーション表示  の “Sway Warning” の設定が “On” に設定されています。（→P.81）
- ・ 車速が約 65 km/h 以上のとき
- ・ 車線の幅が約 3 m 以上のとき
- ・ システムの不具合は検出されません。（→P.200）
- ・ メーターコントロールスイッチ  を押すと、メッセージが消えます。
- ・  を押さない限り、休憩提案機能のメッセージは表示されたままになります。

●車線センタリング機能

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

- ・ LTA が ON になっている。
- ・ マルチインフォメーション表示  の “Lane Centre” の設定が “On” に設定されています。（→P.81）
- ・ 白線（黄線）または先行車の位置を認識する機能です（先行車がバイクなどの小型車両を除く）。
- ・ 全速度域でのダイナミックレーダークルーズコントロールは、車間距離制御モードで作動しています。
- ・ 交通車線の幅は約 3 ～ 4 メートルです。
- ・ ウインカーレバーが操作されていない。
- ・ 急カーブを走行していないとき
- ・ システムの不具合は検出されません。（→P.200）

- ・一定以上の加減速がないとき
- ・車線変更に相当する程度の操舵力でハンドルを操作していないとき
- ・ABS、VSC、TRC、PCS が作動していません。
- ・VSC または TRC を OFF にしていない
- ・ハンドルから手を離す警告が表示されません。(→P.199)
- ・車は車線の中央を走行しています。
- ・ステアリングアシスト機能が作動していません。

■機能の一時解除

- 作動条件が満たされなくなった場合、一時的に機能が解除されますが、ふたたび作動条件が満たされると、自動的に復帰します。(→P.198)
- 車線中央維持機能作動中に作動条件(→P.198)を満たさなくなった場合、機能が一時的に解除されたことを知らせるブザーが鳴ることがあります。

■ステアリングアシスト機能/レーンセンタリング機能

- 車速や路面の状況、逸脱の程度などにより、車線逸脱抑制機能の作動を感じなかったり、車線逸脱抑制機能が作動しなかったりすることがあります。
- 機能のステアリング制御は、ドライバーのステアリングホイール操作によって上書きされます。
- ステアリングアシスト機能の動作をテストしないでください。

■車線逸脱警報機能

- 警告ブザーは外部の騒音や音声再生などにより聞こえにくい場合があります。
- 走路^{*} がはっきり見えない場合、または直線的でない場合は走路逸脱に対する警報、抑制が作動しない場合があります。
- 隣接車線の車両との衝突の危険がある

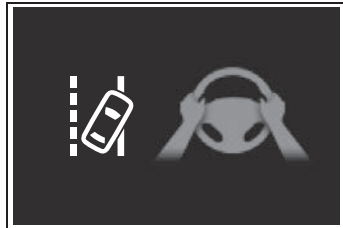
かどうかをシステムが判断できない場合があります。

- 車線逸脱警報機能の動作をテストしないでください。

※ アスファルトと草・土などの境界や、縁石、ガードレールなどの構造物

■手放し運転に対する注意喚起について

次の状況では、ハンドル操作をうながすメッセージとアイコンのディスプレイの表示、および警報ブザーにより注意喚起を行います。システムを使用する際は注意喚起にかかわらず、常にハンドルをしっかりと握ってください。



- 車線逸脱抑制機能によるハンドル操舵支援中にハンドル操作をしなかったり、ハンドルをしっかりと握っていない状態だとシステムが判断したとき

ドライバーがステアリングホイールから手を離れたままの状態が続くと、ブザーが鳴り、ドライバーに警告を発し、機能が一時的に解除されます。この警告は、ドライバーがステアリングホイールをわずかに操作し続けた場合にも同様に作動します。

- 車線中央維持機能が作動中にカーブを走行中に、車両が車線から逸脱する可能性があるとしてシステムが判断した場合。

車両の状態や道路状況によっては警報が作動しない場合があります。

- ステアリングアシスト機能のステアリングアシスト作動中に、運転者がステアリングホイールを握らずに運転しているとシステムが判断した場合。

ステアリングアシスト作動中に、ドライバーがハンドルから手を離れたままの状態が続くと、ブザーが鳴り、ドライバーに注意を促します。ブザーが鳴るたびに、ブザーの継続時間が長くなります。

■ 休憩提案機能について

車両ふらつき警報機能が作動中に、車両がふらついているとシステムが判断すると、ブザーが鳴るとともに、マルチインフォメーションディスプレイに休憩を促す警告メッセージと図のようなシンボルが同時に表示されます。



車両や道路状況によっては警告が作動しない場合があります。

■ 警告メッセージ

マルチインフォメーションディスプレイに以下の警告メッセージが表示され、LTA インジケーターがオレンジ色に点灯した場合は、適切なトラブルシューティング手順に従ってください。また、異なる警告メッセージが表示された場合は、画面に表示される指示に従ってください。

- “LTA Malfunction Visit Your Dealer”

システムが正常に作動していない可能性があります。トヨタ販売店で車両を点検してください。

- “LTA Unavailable”

フロントカメラ以外のセンサーの故障により、LTA システムが一時的に解除されています。LTA システムを OFF にし、しばらく待ってから LTA システムを再度 ON にしてください。

- “LTA Unavailable at Current Speed”

車速が LTA 作動範囲を超えているため、この機能は使用できません。速度を落としてください。

■ カスタマイズ

機能設定を変更できます。(カスタマイズ可能な機能: →P.399)

レーダークルーズコントロール

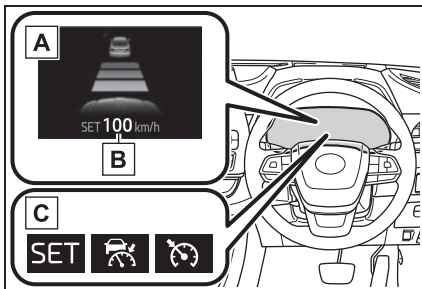
アクセルペダルを踏まなくても、車間制御モードでは、先行車の車速変化に合わせた追従走行を行い、自動的に加速・減速・停止をします。定速制御モードでは、一定の車速で走行できます。

高速道路や自動車専用道路で使用してください。

- 車間制御モード (→P.203)
- 定速制御モード (→P.207)

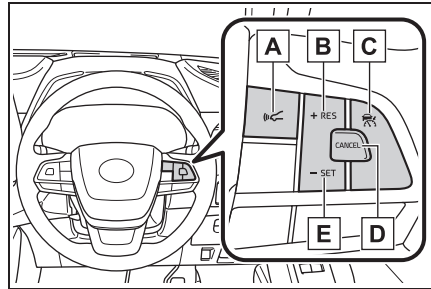
システムの構成部品

■ メーター表示



- A** マルチインフォメーションディスプレイ
- B** 設定速度
- C** 表示灯

■ 操作スイッチ



- A** 車間距離切りかえスイッチ
- B** “+RES” スイッチ
- C** クルーズコントロールメインスイッチ
- D** キャンセルスイッチ
- E** “-SET” スイッチ

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
- レーダークルーズコントロールは運転者の操作の一部を支援し、操作負担を軽減するためのシステムで、支援の範囲には限りがあります。次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。
 - ・ システムが正しく作動しないおそれのある状況：→P.209
 - ・ 車間距離制御モードが正常に機能しない可能性がある条件：→P.210
- 設定速度は、制限速度・交通の流れ・路面環境・天候などを考慮して適切に設定してください。設定速度の確認は、運転者が行う必要があります。

！警告

● システムが正常に機能していても、運転者が認識している先行車の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。従って注意義務・危険性の判断・安全の確保は運転者が行う必要があります。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● 使用していないときは、クルーズコントロールメインスイッチを使用して、全速度範囲設定のレーダークルーズコントロールを OFF に切り替えます。

■ システムの支援内容に関する注意点

システムの支援には限界があるため、次の点に注意してください。システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● 運転者が見る過程での支援内容

レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離を検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容するシステムでも、視界不良を補助するシステムでもありません。

走行中に限らず、運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。

● 運転者が判断する過程での支援内容

レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離が適正かどうかを判断しており、それ以外の判断はしません。このため、危険性があるかどうかなど運転者は自ら安全の判断をする必要があります。

● 運転者が操作する過程での支援内容
レーダークルーズコントロールは、先行車への追突を防止する機能はありません。このため、危険性があれば運転者自らが安全を確保する必要があります。

■ レーダークルーズコントロールを使用してはいけない状況

次の状況では、レーダークルーズコントロールを使用しないでください。適切な制御が行われず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● 歩行者や自転車等が混在している道

● 交通量の多い道

● 急カーブのある道路

● 曲がりくねった道

● 雨天時や、凍結路・積雪路などのすべりやすい路面

● 急な下り坂や急で勾配の変化が激しい坂急な下り坂では車速が設定速度以上になることがあります。

● 高速道路や自動車専用道路の出入り口

● センサーが正しく検知できないような悪天候時（霧・雪・砂嵐・激しい雨など）

● レーダー前面または、前方カメラ前面に雨滴や雪などが付着しているとき

● ひんぱんに加速・減速をくり返すような交通状況のとき

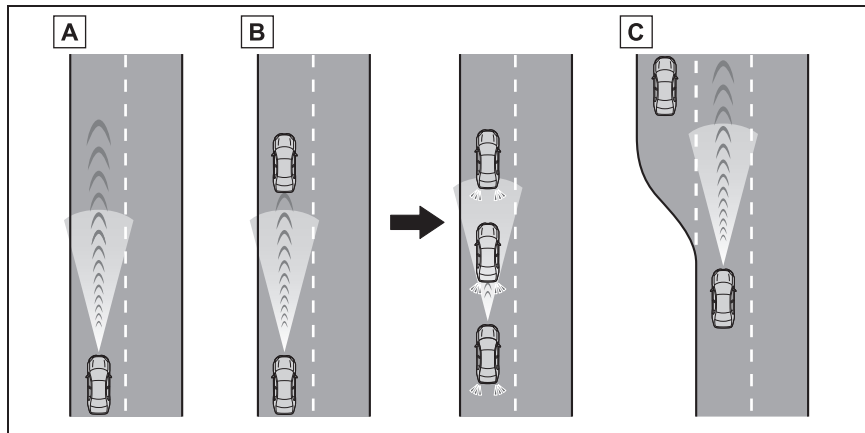
● 車両けん引時

● 接近警報がひんぱんに鳴るとき

車間距離制御モードでの運転

このモードでは、レーダーを用いて最大約 100 m 前方の車両を検知し、現在の車間距離を算出し、先行車との適切な車間距離を維持するように作動します。車間距離切りかえスイッチを操作することで、希望する車間距離を設定することもできます。

下り坂を走行する場合、車間距離が短くなる場合があります。



A 定速走行：

先行車がないとき

運転者が設定した速度で定速走行します。

B 減速走行—追従走行：

設定した速度より、遅い先行車が現れたとき

先行車を検知すると自動で減速し、より大きな減速が必要な場合はブレーキがかかります（このとき制動灯が点灯します）。先行車の車速変化に合わせて、運転者の設定した車間距離になるように追従走行します。十分に減速できない状態で先行車に接近した場合は、接近警報を鳴らします。

先行車が停止したときは、続いて停止します（制御停車）。先行車の発進後、“RES”スイッチを押すか、アクセルペダルを踏むと追従走行にもどります（発進操作）。自車が発進操作を行わなかった場合は、制御停車を続けます。

時速 80 km 以上で走行中に方向指示器レバーを操作して追い越し車線に移動すると、車両は加速して追い越し車両を追い越しを補助します。

追い越し車線がどこであるかのシステムの識別は、車両のハンドルの位置（左側の運転者の位置と右側の運転者の位置）に基づいてのみ決定される場合があります。車両が、通常走行する場所とは異なる側に追い越し車線がある領域に運転されている場合、方向指示器レバーを追い越し車線と反対方向に操作すると、車両が加速する可能性があります（たとえば、運転者が通常、追い越し車線が右側の領域で車両を操作し、その後、追い越し車線が左側の領域に運転する場合、右方向指示器がアクティブになると、車両が

加速する可能性があります)。

【C】加速走行：

設定した速度より、遅い先行車がいなくなったとき
設定速度まで加速し、定速走行にもどります。

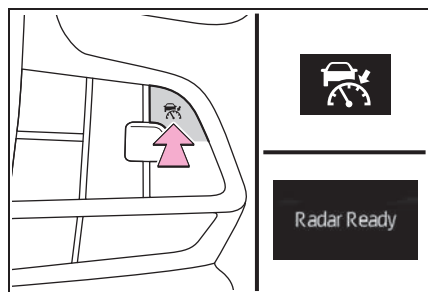
速度の設定（車間距離制御モード）

- クルーズコントロールのメインスイッチを押してクルーズコントロールを作動させます。

レーダークルーズコントロールインジケータが点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。スイッチをもう一度押すと、クルーズコントロールが解除されます。

クルーズコントロールメインスイッチを1.5秒以上押し続けると、定速制御モードでシステムがONになります。

(→P.207)

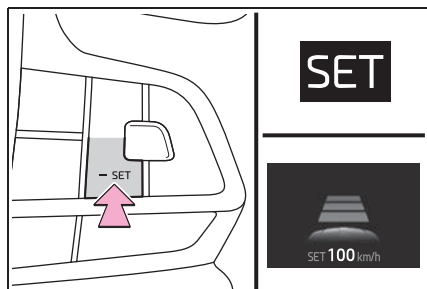


- 希望の车速（約30km/h以上）までアクセルペダル操作で加速／減速し、“-SET”を押して速度を設定する

クルーズコントロールの“SET”インジケータが点灯します。

スイッチを離れたときの车速で定速走行

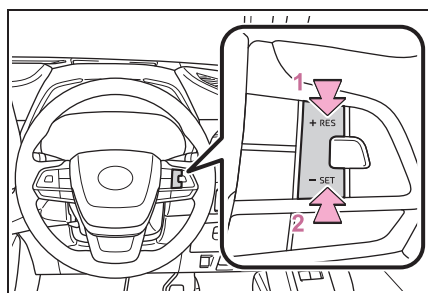
できます。



設定速度をかえる

- スイッチで設定速度をかえる

設定速度をかえるには、希望の速度が表示されるまで“+RES”スイッチまたは“-SET”スイッチを押します。



- 速度を上げる（車間距離制御モード時にシステム制御により車両が停止している場合を除く）

- 速度を下げる

微調整：スイッチを押します。

大きな調整：速度を変更するにはスイッチを押し続け、希望の速度に達したら離

します。

設定速度は、次のとおりに増減されます：

微調整：スイッチを押すたびに 1 km/h^{*1} または 1.6 km/h^{*2} ずつ増減します。大調整：スイッチを押している間、5 km/h^{*1} または 8 km/h^{*2} ずつ増減します。

定速制御モードでは (→P.207)、設定速度は次のように増加または減少します。

微調整：スイッチを押すごとに 1 km/h^{*1} または 1.6 km/h^{*2}

大きい調整：スイッチを押している間、速度が変化し続けます。

^{*1} 設定速度が “ km/h ” で表示されているとき

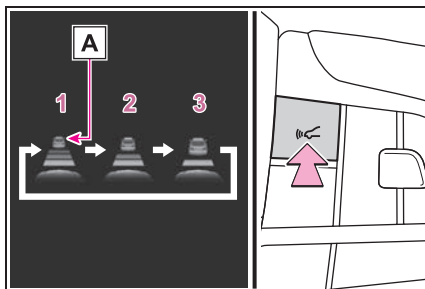
^{*2} 設定速度が “ MPH ” で表示されているとき

● アクセルペダルで設定速度を上げる

- 1 設定したい車速になるまで、アクセルペダルを踏んで加速する
- 2 “ -SET ” スイッチを押す

車間距離の変更（車間距離制御モード）

スイッチを押すと車間距離が次のように変化します。



- 1 長い
- 2 中程度
- 3 短い

前方に車両が走行している場合は、先行車マーク **A** も表示されます。

車間距離設定（車間距離制御モード）

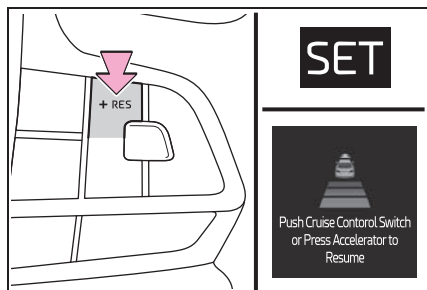
下の表から距離を選択してください。表示されている距離は、車速 80km/h 時の値です。車間距離は車速に応じて増減します。システム制御により車両が停止する場合は、状況に応じて一定の車間距離で停止します。

距離オプション	車車間距離
長い	約 50 m
中程度	約 40 m
短い	約 30 m

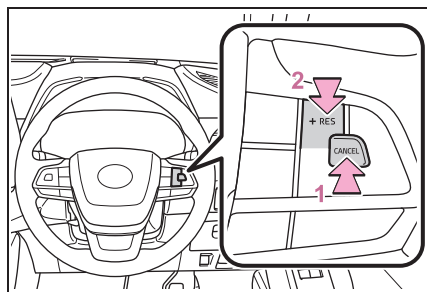
システム制御により車両が停止した状態で追従走行を再開する（車間距離制御モード）

前の車が発進したら、“ +RES ” スイッチを押してください。

先行車が発進した後にアクセルペダルを踏むと、追従走行を再開します。



速度制御のキャンセルと再開



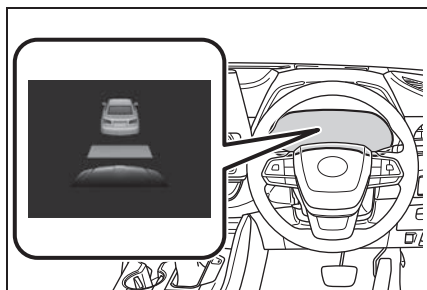
1 キャンセルスイッチを押すと速度制御がキャンセルされます。

ブレーキペダルを踏んだ場合も速度制限は解除されます。(システム制御により車両が停止している場合は、ブレーキペダルを踏んでも設定は解除されません。)

2 “+RES” スイッチを押すとクルーズコントロールが再開され、車速が設定速度に戻ります。

接近警報（車間距離制御モード）

追従走行中の他車の割り込みなど、十分な減速ができない状態で先行車に接近したときは、表示の点滅とブザーで運転者に注意をうながします。その場合は、ブレーキペダルを踏むなど適切な車間距離を確保してください。



■ 警報されないとき

車間距離が短くても、次のような場合は警報されないことがあります。

- 先行車と自車の車速が同じか先行車の方が速いとき
- 先行車が極端な低速走行をしているとき
- 速度を設定した直後
- アクセルペダルを踏んだとき

カーブ速度抑制機能

車間距離制御モードで走行中に、必要と判断された場合に車速を低減する機能です。

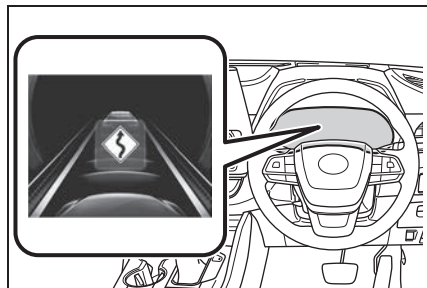
■ システム作動例

ハンドルを回し始めると、車速が低下し始めます。ハンドルを中央位置に戻すと、車速低下は終了します。

状況に応じて、車速は車間距離制御モードの設定速度に戻ります。

先行車が自車前方に割り込むなど、車間距離制御を操作する必要がある状況では、カーブ減速機能が解除されます。

■ 操作表示



車速が低下しているときに表示されます。

車速の減速が終了すると表示が消えます。

■ カーブ速度低減機能の設定変更

マルチインフォメーションディスプレイ  (→P.74) でカーブ減速機能の有効 / 無効や車速減速の強さを調整することができます。

メーターコントロールスイッチ  を押すたびに設定が変わります。

定速制御モードの選択

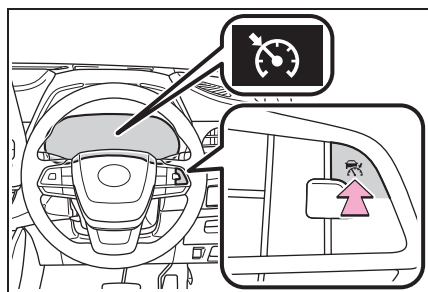
定速制御モードを選択すると、車間距離制御を行わずに設定速度を維持します。レーダーの汚れなどにより車間距離制御モードが正常に機能しない場合にのみ、このモードを選択してください。

- 1 クルーズコントロールが OFF の状態で、クルーズコントロールメインスイッチを 1.5 秒以上押し続けます。

スイッチを押すとすぐにレーダークルーズコントロールインジケータが点灯し、その後クルーズコントロールインジケータ

ターに切り替わります。

定速制御モードへの切り替えは、クルーズコントロールを OFF にした状態でスイッチを操作した場合にのみ可能です。



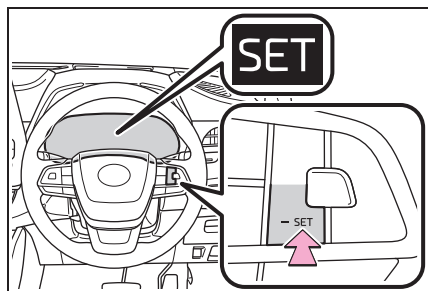
- 2 アクセルペダルを操作して希望の車速 (約 30 km/h 以上) まで加速または減速し、“-SET” スwitchを押して速度を設定します。

クルーズコントロールの“SET”インジケータが点灯します。

スイッチを離した瞬間の車速が設定速度になります。

速度設定の調整：→P.204

速度設定のキャンセルと再開：→P.206

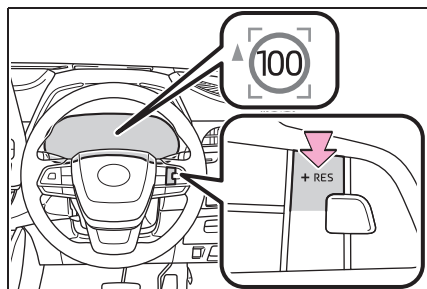


レーダークルーズコントロール (ロードサインアシスト付き)

この機能が有効で、システムが車間距離制御モード (→P.203) で作動している場合、制限速度標識を

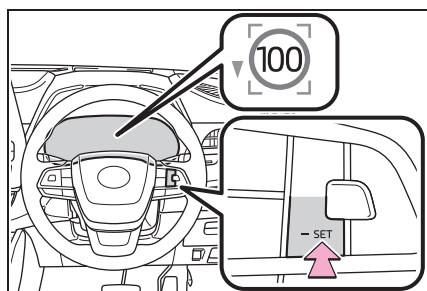
検知すると、認識した制限速度が上下矢印とともに表示されます。“+RES” / “-SET” スイッチを長押しすることで、設定速度を認識速度まで増減できます。

- 現在の設定速度が認識された速度制限よりも低い場合



“+RES” スイッチを押し続けます。

- 現在の設定速度が認識された速度制限よりも高い場合



“-SET” スイッチを押し続けます。

道路標識アシスト付きレーダークルーズコントロールの有効化 / 無効化

レーダー クルーズ コントロール (ロードサインアシスト付き) は、マルチインフォメーションディスプレイ  で有効 / 無効を切り替え

ることができます。(→P.81)

レーダークルーズコントロール(ロードサインアシスト付)作動中、降坂時に車速が設定速度を超える場合があります。その場合、表示されている設定速度がハイライト表示され、ブザーが鳴ってドライバーに注意を促します。

知識

■設定条件について

- シフトポジションがDのとき設定できます。
- 車速が約 30km/h 以上のとき、希望の設定速度に設定できます。
車速が約 30km/h 未満のときに設定すると、約 30km/h に設定されます。

■車速設定後の加速について

通常走行と同様にアクセルペダル操作で加速できます。加速後、車速が設定速度にもどります。ただし、車間制御モード時は先行車との距離を保持するため車速が設定速度以下になることもあります。

■追従走行中の停車制御について

- 制御停車中に“+RES”スイッチを押した場合、約 3 秒以内に先行車が発進すれば追従走行にもどります。
- 先行車に続いて停車したあと約3秒以内に先行車が発進した場合、追従走行にもどります。

■車間制御モードの自動解除

次のとき、自動的に車間制御モードが解除されます。

- VSC が作動したとき
- TRC が一定時間作動したとき
- TRC または VSC を OFF にしたとき
- センサーが何かでふさがれて正しく検知できないとき

●運転支援装置によるブレーキ制御、出力抑制が作動したとき（例：プリクラッシュセーフティ、ドライブスタートコントロール）

●パーキングブレーキが作動したとき

●急坂路で制御停車したとき

●制御停車中に次を検出したとき

- ・運転席シートベルトを着用していない
- ・運転席ドアが開いた
- ・車両が停止したあと約 3 分経過した

上記以外の理由で車間制御モードが自動解除される場合は、システムが故障している可能性があります。トヨタ販売店にご相談ください。

■定速制御モードの自動解除

次のとき、自動的に定速制御モードが解除されます。

- 設定速度より車速が約 16km/h 以上低下したとき
- 車速が約 30km/h 未満になったとき
- VSC が作動したとき
- TRC が一定時間作動したとき
- TRC または VSC を OFF にしたとき
- 運転支援装置によるブレーキ制御、出力抑制が作動したとき（例：プリクラッシュセーフティ、ドライブスタートコントロール）

●パーキングブレーキが作動したとき

上記以外の理由で定速制御モードが自動的に解除された場合は、システムの故障が考えられますので、トヨタ販売店にご相談ください。

■カーブ速度抑制機能が作動しないおそれがある状況

次のような状況では、カーブ速度抑制機能が作動しない場合があります。

- 車両が緩やかなカーブを走行しているとき

●アクセルペダルを操作しているとき

●極端に短いカーブを走行しているとき

■道路標識アシスト付きレーダークルーズコントロールは、以下の場合には正常に作動しないことがあります。

レーダークルーズコントロール（ロードサインアシスト付）は、RSA が作動または正しく検知できない状況では正常に作動しない場合がありますので（→P.212）、この機能を使用する際は、表示されている速度制限標識を必ず確認してください。

以下の状況では、“+RES” / “-SET” スイッチを長押ししても設定速度が認識された速度制限に変更されない場合があります。

●速度制限情報が入手できない場合

●認識された速度制限が設定速度と同じ場合

●認識された速度制限がレーダークルーズコントロールシステムが作動できる速度範囲外である場合

■ブレーキが作動したとき

ブレーキの作動音が聞こえたり、ブレーキペダルの踏み応えがかわったりすることがありますが異常ではありません。

■レーダークルーズコントロールの警告メッセージ・警告ブザー

走行操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。（→P.180, 359）

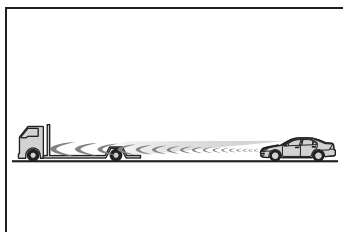
■センサーが正しく検知しないおそれのある先行車

以下の場合や状況に応じて、システムの減速が不十分なときはブレーキペダルを操作し、加速が必要なときはアクセルペ

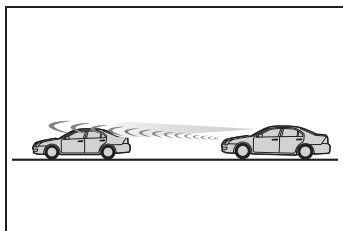
ダルを操作してください。

センサーがこれらの種類の車両を正しく検出できない可能性があるため、接近警告（→P.206）が作動しない場合があります。

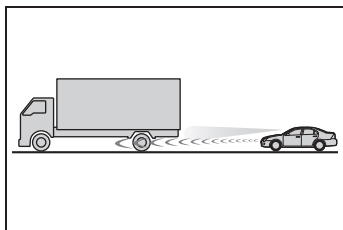
- 先行車が急に割り込んできたとき
- 先行車が低速で走行中のとき
- 同じ車線に停車中の車がいるとき
- 先行車の後部分が小さすぎるとき（荷物を積んでいないトレーラーなど）



- 同じ車線を二輪車が走行中のとき
- 周囲の車より水や雪がまき散らされ、レーダーの検知のさまたげになる場合
- 自車の車両姿勢が上向きになる場合（重い荷物を積んだときなど）



- 先行車の車高が極端に高いとき

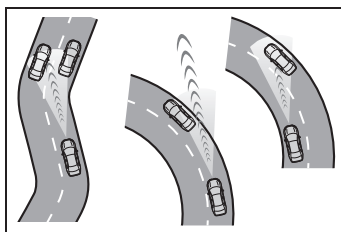


■ 車間距離制御モードが正しく機能しない可能性がある条件

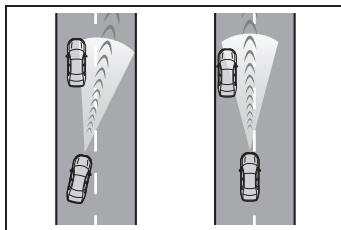
次の状況では、必要に応じてブレーキペダルで減速（場合によってはアクセルペダルを操作）してください。

センサーが正常に車両を検知できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

- カーブや車線幅が狭い道路などを走行する場合



- ハンドル操作が不安定な場合や、車線内の自車の位置が一定でない場合



- 先行車が急ブレーキをかけた場合
- 道路脇に構造物がある道（トンネル・橋など）を走行する場合
- アクセルペダルを踏んで加速したあと、車速が設定速度にもどるとき

■ カーブ速度抑制機能が正しく作動しないおそれのある状況

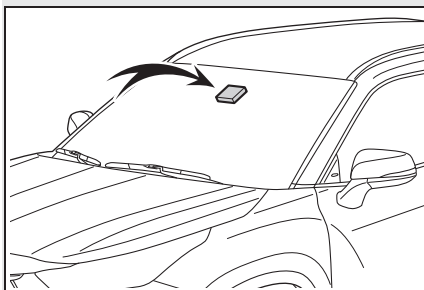
次のような状況では、カーブ速度抑制機能が正しく作動しない場合があります。

- 上り坂、または下り坂のカーブを走行しているとき
- カーブの形状とは異なる経路で走行しているとき

- カーブへの進入速度が過度に高いとき
- 急なハンドル操作を行ったとき

RSA（ロードサインアシスト）

前方カメラまたはナビゲーションシステム（情報を取得した場合）を使って特定の道路標識や信号などを認識し、ディスプレイ表示やブザーで運転者にお知らせします。



システムが認識した道路標識に応じて、車両が制限速度を超えていると判断した場合、表示と通知ブザーでドライバーに知らせます。

⚠ 警告

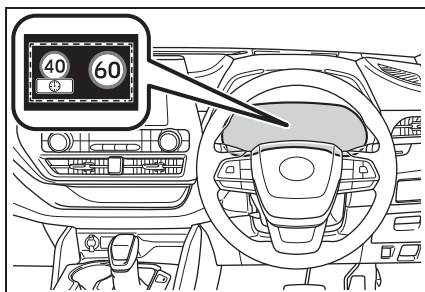
■ RSA を使用する前に

安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

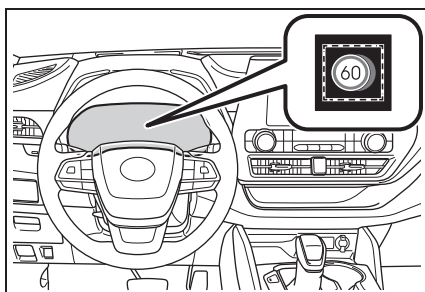
ディスプレイ表示機能

前方カメラまたはナビゲーションシステム（情報を取得した場合）によって道路標識などを認識すると、ディスプレイに表示します。

- 複数の道路標識を表示できます。（→P.74）



● 速度制限標識



速度制限標識以外の標識が認識された場合、現在の速度制限標識の下に重ねて表示されます。

サポートされている道路標識の種類

電子標識や点滅標識など、以下の種類の道路標識が表示されます。

非公式の交通標識や最近導入された交通標識は表示されない場合があります。



制限速度 ※



条件付き速度制限標識（スクールゾーン）

※ 速度制限標識情報が利用できない場合



は、速度制限情報は表示されません。

告知機能

次の状況では、システムが運転者に告知（例えば、強調表示やブザー吹鳴）します。

- 表示されている速度制限標識の速度告知閾値を車速が超えると、標識表示が強調され、ブザーが鳴ります。

状況によっては通知機能が正常に動作しない場合があります。

知識

■ 設定手順

→P.81

■ RSA 標識表示

以下の状況では、最高速度・はみ出し通行禁止・車両進入禁止の標識表示が消えます。

- 一定の距離を走行中、新しい標識が認識されないとき
- 右左折等により走行する道路が変わったとシステムが判定したとき

■ 機能が正しく動作しない、または検出されない可能性がある条件

次のような状況では、システムが正常に標識を認識できず、正しい標識の表示がされない場合があります。

- センサーに強い衝撃が加わるなどしてフロントカメラの位置がずれているとき
- 汚れ・雪・ステッカー等がフロントウインドウの前方カメラの近くにあって
- 悪天候時（霧・雪・砂嵐・大雨など）
- 強い光（太陽光や対向車のヘッドランプ光など）が前方カメラに直接あたっているとき

- 標識に汚れ・色あせ・傾きや曲がりがあるとき
- 電光標識のコントラストが低いとき
- 標識の全体または一部が、木・電柱などで隠れているとき
- 前方カメラが標識を認識する時間が短いとき
- 運転の状況（曲がる・車線変更等）が誤って判断されたとき
- 標識が高速道路の分岐した直後、または合流直前の隣の車線にあるとき
- 先行車の後部分にステッカーが貼ってあるとき
- システムが対応している標識と類似した標識が認識されたとき
- 側道の速度標識が前方カメラの認識範囲に入ったとき
- ロータリー（環状交差路）を走行しているとき
- 重い荷物を積むなど車両が傾いているとき
- 十分な光がなかったり、明るさが急激に変化したりしたとき
- トラックなどの車両を対象にした標識を認識したとき
- ナビゲーションシステムの地図情報が古いとき

■ 速度制限標識表示

マルチインフォメーションディスプレイに最高速度標識が表示されているときに、パワースイッチを OFF にすると、次回パワースイッチを ON モードにしたときには再度同じ標識が表示されます。

■ “RSA Malfunction Visit Your Dealer” と表示されたら

システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ カスタマイズ

一部の機能はカスタマイズ可能です。（カスタマイズ可能な機能：→P.399）

BSM (ブラインドスポットモニター)

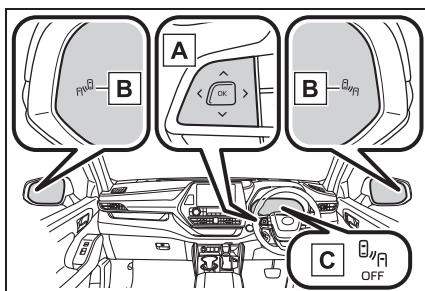
ブラインドスポットモニターは、リヤバンパー内側にある後側方レーダーセンサーを使用し、運転者による車線変更時の判断を支援するシステムです。

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
 - ブラインドスポットモニターは、ドアミラーの死角領域に入った車両の存在とその死角領域に急速に接近してくる車両の存在を運転者に提供する、補助的なシステムです。本システムだけで安全な車線変更の可否を判断できるものではないため、システムを過信すると思われ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視とミラーによる安全確認をおこなう必要があります。

システムの構成部品



A メーター操作スイッチ

ブラインドスポットモニターの ON / OFF を切りかえます。

B ドアミラーインジケーター

運転時：

ドアミラーの死角領域に車両を検知したとき、または後方からその死角領域に急速に接近してくる車両を検知したときは、検知した側のドアミラーインジケーターが点灯します。検知した側に方向指示レバーを操作している場合は、ドアミラーインジケーターが点滅します。

C BSM OFF インジケーター

ブラインドスポットモニターが無効のときに点灯します。

□ 知識

■ ドアミラーインジケーターの視認性について

強い日差しのもとでは、ドアミラーインジケーターが見えづらいことがあります。

■ マルチインフォメーションディスプレイに “Blind Spot Monitor Unavailable See Owner’s Manual” と表示されている場合

センサー周辺のリヤバンパーには、氷、雪、泥などが付着している場合があります。リヤバンパーに付着した氷、雪、泥などを取り除くと、システムは正常に動作するようになります。また、極端に高温または低温の環境では、センサーが正常に動作しない場合があります。

■ マルチインフォメーションディスプレイに “Blind Spot Monitor Malfunction Visit Your Dealer” と表示された場合

センサーの故障または位置ずれの可能性があります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.399)

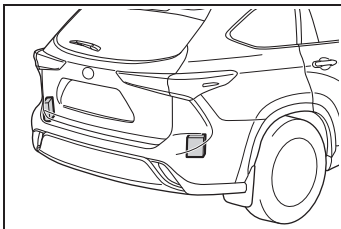
⚠ 警告

■ システムを正しく作動させるために

ブラインドスポットモニターのセンサーは、車両リヤバンパー内側に左右ひとつずつ設置されています。システムを正しく作動させるために次のことをお守りください。

- センサー周辺のリヤバンパーは常にきれいにしておく

センサー周辺のリヤバンパーに汚れや着雪がある場合、警告表示とともにシステムが作動しなくなることがあります。(→P.214) その場合、汚れや雪を落とした後、ブラインドスポットモニターの作動条件でしばらく走行してください(目安: 約 60 分)。それでも警告表示が消えない場合はトヨタ販売店にて点検を受けてください。



- センサーやセンサー周辺のリヤバンパーにアクセサリを付けたり、ステッカー（透明なものを含む）やアルミテープなどを貼ったりしない

- センサー周辺のリヤバンパーへの強い衝撃を避ける

センサーの位置や向きが少しでもずれると、車両を正しく検知できなくなったり、装置が正常に動作しなくなるおそれがあります。

次のような場合には、必ずトヨタ販売店にて点検を受けてください。

- ・ センサーやセンサー周辺に強い衝撃を受けた
- ・ センサー周辺のリヤバンパーなどに傷や凹みがある、一部が外れている

- センサーを分解しない

- センサーやセンサー周辺のリヤバンパーを改造しない

- センサーやリヤバンパーの脱着や交換が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

- リヤバンパーの塗装修理の際にはトヨタ設定色以外への変更は行わないでください

ブラインドスポットモニターの ON / OFF を切りかえるには

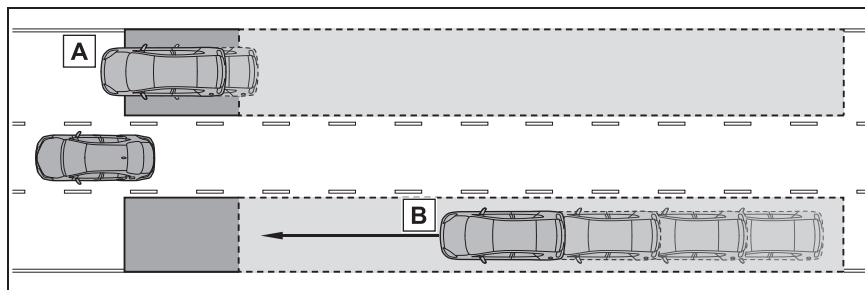
ブラインドスポットモニター 
の ON / OFF は、マルチインフォメーションディスプレイの  から切りかえることができます。(→P.399)

ブラインドスポットモニターが OFF になると、BSM OFF インジケーターが点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。パワースイッチが ON になるたび、ブラインドスポットモニターは ON になります。

ブラインドスポットモニターの作動

■ 走行中に検知できる車両

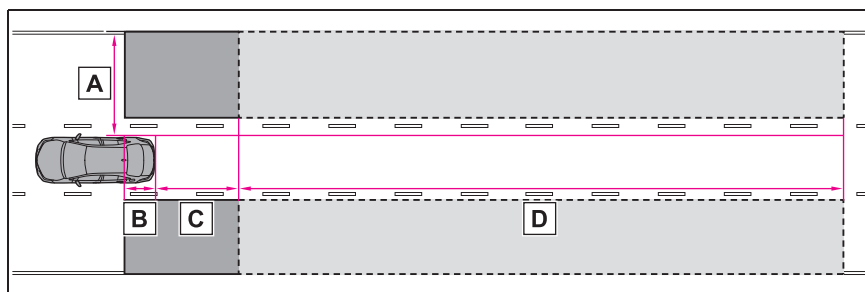
ブラインドスポットモニターは後側方レーダーセンサーにより隣の車線を走行する次の車両を検知し、ドアミラーのインジケーターによってその車両の存在を運転者に知らせます。



- A** ドアミラーに映らない領域（死角領域）を併走する車両
- B** 後方からドアミラーに映らない領域（死角領域）に急速に接近してくる車両

■ 走行中に検知できる範囲

次の範囲に入った車両を検知します。



検知できる範囲：

- A** 車両の両側面について、側面から約 0.5m 離れた面から約 3.5m の領域^{※1}
- B** リヤバンパーから約 1m 前方の領域
- C** リヤバンパーから約 3m 後方の領域
- D** リヤバンパーから後方約 3m ～ 60m の領域^{※2}

^{※1} 車両側面から外側に約 0.5m は検知しません。

^{※2} 自車と他車の速度差が大きいほど、ドアミラーインジケーターは他車がより遠くに

いる状況で点灯・点滅します。

知識

■ 作動条件

次の条件をすべて満たしているときに作動します。

- パワースイッチが ON のとき
- ブラインドスポットモニターが ON のとき
- シフトレバーが R 以外のとき
- 車速が約 10km/h 以上のとき

■ センサーが車両を検知する条件

ブラインドスポットモニターは、次のような状況で検知範囲に入った車両を検知します。

- 隣の車線を走行する他車に自車が追いこされるとき
- 小さい速度差で隣の車線を走行する他車を追いこすとき
- 他車が車線変更中に検知範囲に進入するとき

■ システムが検知しない条件

ブラインドスポットモニターは、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

- 小型のオートバイ・自転車・歩行者など※
- 対向車
- ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物※
- 同じ車線を走行する後続車※
- 2 つ隣の車線を走行する他車※
- 大きい速度差で自車が追い越す他車※

※ 状況によっては検知をすることがあります。

■ システムが正しく作動しないおそれがある状況

- 次のような状況では車両を正しく検知しないおそれがあります。
 - ・ センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
 - ・ 泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき
 - ・ 大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどの濡れた路面を走行するとき
 - ・ 複数台の他車が狭い間隔で連続して接近するとき
 - ・ 自車と後続車の車間距離が短いとき
 - ・ 検知範囲に入る他車と自車の速度差が大きすぎるとき
 - ・ 自車と他車の速度差に変化があるとき
 - ・ 検知範囲に入る他車と自車の速度がほとんど等しいとき
 - ・ 停止状態から発進した際に、検知範囲に他車が存在し続けたとき
 - ・ 急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみ等を走行しているとき
 - ・ きついカーブや連続したカーブ、起伏がある場所を走行するとき
 - ・ 車線の幅が広い、もしくは車線の端を走行するなど、隣の車線の他車が自車から離れすぎているとき
 - ・ 車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーを装着しているとき
 - ・ 検知範囲に入る他車と自車の高さに差がありすぎるとき
 - ・ ブラインドスポットモニターを ON にした直後
 - ・ けん引しているとき
- 特に次のような状況では不要な検知が増えることがあります。
 - ・ センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
 - ・ ガードレールや壁などとの距離が短い

状況で、それらが検知範囲に入ったとき

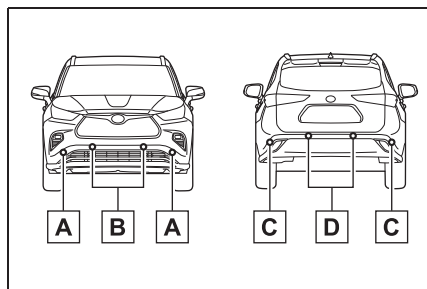
- ・急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみ等を走行しているとき
- ・車線の幅が狭い、もしくは車線の端を走行するなど、隣の車線以外を走行する車両が検知範囲に入ったとき
- ・きついカーブや連続したカーブ、起伏がある場所を走行するとき
- ・タイヤがスリップ（空転）しているとき
- ・自車と後続車の車間距離が短いとき
- ・車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリを装着しているとき
- ・けん引しているとき

クリアランスソナー

クリアランスソナーは、車両と壁などの静止物とのおよその距離を超音波センサーによって検知して、マルチメディア画面の距離表示とブザー音、音声案内で運転者にお知らせします。

システムの構成部品

■ センサーの種類



A フロントコーナーセンサー

B フロントセンターセンサー

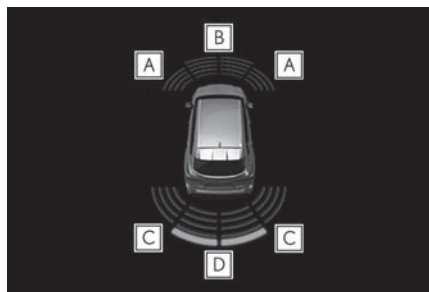
C リヤコーナーセンサー

D リヤセンターセンサー

■ クリアランスソナーの表示のしかた

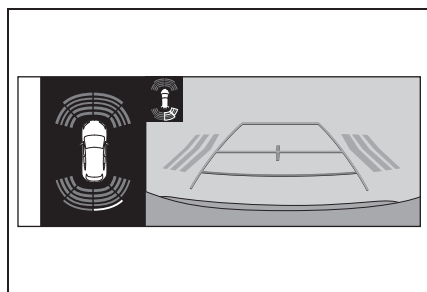
センサーが壁などの物体を検知すると、その位置と距離に応じてマルチインフォメーションディスプレイとオーディオ画面にグラフィックが表示されます。

- マルチインフォメーションディスプレイの表示

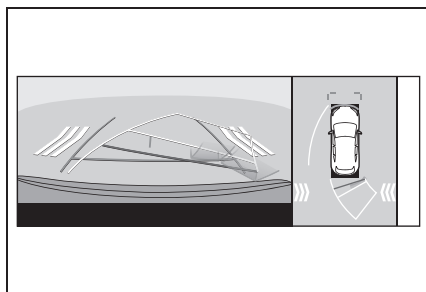


- A** フロントコーナースエンサー作動表示
- B** フロントセンタースエンサー作動表示
- C** リヤコーナースエンサー作動表示
- D** リヤセンタースエンサー作動表示
- オーディオシステム画面（パノラミックビューモニター非装着車）

Rシフトレバーを選択すると、オーディオ画面に簡易画像が表示されます。



- オーディオシステム画面（パノラミックビューモニター装着車）
- オーディオシステム画面にグラフィックが表示されます。



クリアランスソナーの ON/OFF を切りかえるには

メーターコントロールスイッチを使用して、クリアランスソナーを有効 / 無効にします。（→P.81）

- 1 マルチインフォメーションディスプレイの を選択し、 を押します。
- 2 または を押して を選択し、 を押します。

クリアランスソナー機能が OFF のときは、クリアランスソナー OFF 表示灯（→P.67）が点灯します。

システムを再度有効にするには、マルチインフォメーションディスプレイで を選択し、 を選択して電源を入れてください。システムが無効になっている場合は、パワースイッチを OFF にした後、パワースイッチを ON にしてもシステムは OFF のままになります。

⚠ 警告

■安全にお使いいただくために

本システムは認識性能／制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

■システムを正しく作動させるために

必ず次のことをお守りください。正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- センサーに傷を付けたりせずに、常にきれいにしておいてください。
- センサー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート・フォグランプ・フェンダーポール・無線アンテナなど）を取り付けしないでください。
- センサー周辺へ衝撃を与えないでください。衝撃を受けた際はトヨタ販売店で点検を受けてください。前後のバンパーやグリルの脱着や交換が必要な場合はトヨタ販売店にご相談ください。
- 改造・分解・塗装をしないでください。
- ライセンスプレートカバーを取り付けしないでください。
- 適正なタイヤ空気圧を維持してください。

■クリアランスソナーを OFF にするとき

次のときはシステムを OFF にしてください。クリアランスソナーが正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 上記の内容が守られないとき
- トヨタ純正品以外のサスペンションを取り付けたとき

■洗車時の注意

- 高圧洗車機を使用して洗車するときは、センサー部に直接水をあてないでください。強い水圧により衝撃が加わり、正常に作動しなくなるおそれがあります。
- スチームを使用した洗車機などで洗車するときは、スチームをセンサー部に近付けすぎないようにしてください。スチームにより、正常に作動しなくなるおそれがあります。

□ 知識

■動作条件

- パワースイッチが ON のとき
- クリアランスソナー機能が ON のとき
- 車両の速度が約 10km/h 以下のとき
- シフトポジションが P 以外にあるとき

■マルチインフォメーションディスプレイに “Parking Assist Unavailable” と表示されている場合

センサー表面に水が断続的に流れている可能性があります。システムが正常と判断した場合に復帰します。

■マルチインフォメーションディスプレイに “Clean Parking Assist Sensor” と表示されている場合

クリアランスソナーのセンサーに氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。この場合はセンサーの氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。

また、低温時にはセンサーの凍結などにより異常表示が出たり、静止物があっても検知しないことがあります。氷が解ければ、正常に復帰します。

氷・雪・泥がないのに異常表示が出ている場合は、センサーの異常が考えられますので、トヨタ販売店で点検を受けてく

ださい。



■補機バッテリー端子が外されて再接続された場合

システムを初期化する必要があります。システムを初期化するには、車両を約 35 km/h 以上の速度で 5 秒以上直進させてください。

■センサーの検知について

- 使用中に以下のような状況が発生する場合があります。
 - ・センサーの検知範囲は車両前部と後部のバンパー周辺に限られます。
 - ・静止物の形状・条件によって検知できる範囲が短くなることや、検知できないことがあります。
 - ・センサーが静止物に近づきすぎると検知できないことがあります。
 - ・静止物を検知してから、表示が出る（ブザーが鳴る）までに多少時間がかかります。低速走行時の場合でも表示が出る（ブザーが鳴る）までに、静止物まで約 30cm 以内に接近するおそれがあります。
 - ・オーディオ・エアコン使用時は、音楽やファンの音などにより、ブザーの音が聞き取りづらくなる場合があります。
 - ・他システムのブザー音などにより本システムの音が聞き取りづらくなる場合があります。

■システムが正しく検知できないことがある静止物

静止物の形状・条件によっては検知できる範囲が短くなることや、次のようなものは検知しないことがあります。注意し

て運転してください。

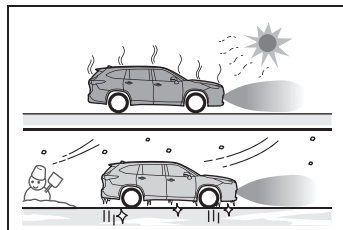
- 針金・フェンス・ロープなどの細いもの
- 綿・雪などの音波を吸収しやすいもの
- 鋭角的な形のもの
- 背の低いもの
- 背が高く上部が張り出しているもの

特に人は衣類の種類によっても検知できない場合がありますので、常に目視で確認してください。

■システムが正常に作動しないおそれがある状況

次のような状況では、センサーが正常に作動しないことがあります。

- センサーに水滴・氷・雪・泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）
- センサー部が凍結したとき（解ければ、正常に復帰します）特に低温時には凍結などにより異常表示が出たり、壁などの静止物があっても検知しないことがあります。
- 炎天下や寒冷時

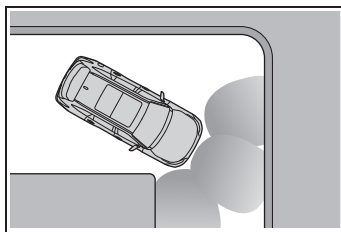


- 凸凹道・坂道・砂利道・草むら走行時など
- 他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・他車のセンサーなど超音波を発生するものが近付いたとき
- 大雨や水しぶきがかかったとき
- センサーに静止物が近付きすぎたとき

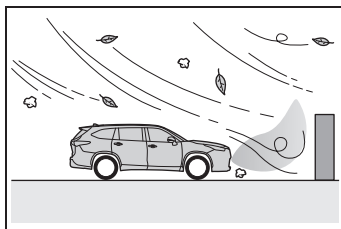
- 超音波を反射しにくい歩行者（例：ギャザーやフリルの多いスカートなど）
- 地面に対して垂直でないもの、車両進行方向に対して直角でないもの、凹凸なもの、波打っているものが検知範囲にあるとき
- 風が強いとき
- 霧・雪・砂嵐などの悪天候のとき
- 作動対象物と車両の間に検知できない対象物があるとき
- 車・オートバイ・自転車・歩行者などの作動対象が車両の横から割り込んだり、飛び出してきたとき
- 衝突などで、センサーの方向がずれたとき
- センサー付近にけん引フック・輸送用フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノーブラウ）などを取り付けたとき
- 積載状況などにより車高が著しく変化したとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- タイヤチェーン・応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき
- **衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況**

次のような状況では、衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。

- 狭い道路を走行するとき

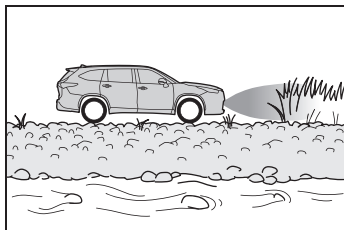


- 垂れ幕や旗やのれん、垂れ下がった枝、遮断機（踏切のバー・ETCのバー・駐車場のバーなど）に向かって走行するとき
- 地面にわだちや穴がある場合
- 排水溝などの金属のフタ（グレーチング）走行時
- 急な登坂路や降坂路を走行するとき
- 冠水している道路でセンサーに水がかぶったとき
- センサーに水滴・氷・雪・泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）
- 大雨や水しぶきがかかったとき
- 霧・雪・砂嵐などの悪天候のとき
- 風が強いとき



- 他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・他車のセンサーなど超音波を発生するものが近付いたとき
- 積載状況などにより車高が著しく変化したとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
- 衝突などで、センサーの方向がずれたとき

- 背の高い縁石や直角の縁石に向かって進んだとき
- 立体駐車場や工事現場などで柱（H 形鋼など）の付近を走行するとき
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- 凸凹道・坂道・砂利道・草むら走行時など



- タイヤチェーン・応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき

ブザーの音量を設定する

■ ブザーの音量を調整する

ブザーの音量はマルチインフォメーションディスプレイで調整できます。

メーターコントロールスイッチを使用して設定を変更します。
(→P.81)

- 1 マルチインフォメーションディスプレイの を選択し、 を押します。
- 2 または を押して 選択し、 を長押しします。
- 3 音量を選択して、 を押します。

スイッチを押すたびに音量レベルが 1、2、3 の間で切り替わりま

す。

■ ブザーを一時的にミュートする

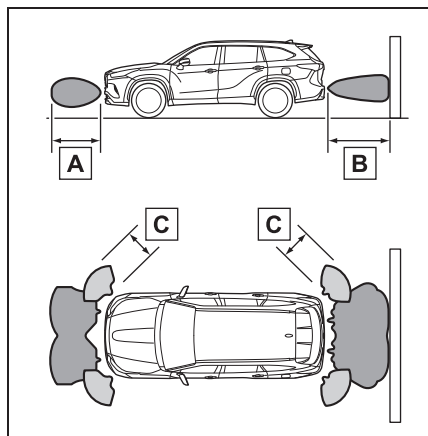
物体を検知すると、マルチインフォメーションディスプレイにミュートボタンが表示されます。ブザーを消音するには、 ボタンを押してください。

以下の状況ではミュートは自動的に解除されます。

- シフトレバーを変更したとき。
- 車両の速度が一定速度を超えた場合。
- センサーに不具合がある場合、またはシステムが一時的に利用できない場合。
- 操作機能を手動で無効にした場合。
- パワースイッチを切ったとき。

距離表示の見方

■ 静止物を検知できる範囲



A 約 100cm

B 約 150cm

C 約 60cm

検知できる範囲は図のとおりです。ただし、静止物がセンサーに近付きすぎると検知できません。

静止物の形状・条件によっては、検知できる距離が短くなることや、検知できないことがあります。

■ マルチインフォメーションディスプレイとオーディオシステム画面

センサーが物体を検知すると、マルチインフォメーションディスプレイとオーディオ画面に物体までのおおよその距離を表示します。（物体までの距離が短くなると、距離表示が点滅する場合があります。）

- 対象物までの距離：約 150cm ～ 60cm※（リヤセンターセンサー）

マルチインフォメーションディスプレイ	オーディオシステム画面
	

※ 自動ブザーミュート機能が有効になります。（→P.225）

- 対象物までの距離：約 100cm ～ 60cm※（フロントセンターセンサー）

マルチインフォメーションディスプレイ	オーディオシステム画面
	

※ 自動ブザーミュート機能が有効になります。（→P.225）

- 対象物までの距離：約 60cm ～ 45cm※

マルチインフォメーションディスプレイ	オーディオシステム画面
	

※ 自動ブザーミュート機能が有効になります。（→P.225）

- 対象物までの距離：約 45cm ～約 30cm※

マルチインフォメーションディスプレイ	オーディオシステム画面
	

※ 自動ブザーミュート機能が有効になります。(→P.225)

- 対象物までの距離：約 30cm ～約 15cm※¹

マルチインフォメーションディスプレイ ※2	オーディオシステム画面 ※1
	

※¹ 自動ブザーミュート機能は無効です。(→P.225)

※² 距離セグメントがゆっくり点滅します。

- 対象物までのおおよその距離：15cm 未満 ※¹

マルチインフォメーションディスプレイ ※2	オーディオシステム画面 ※2
	

※¹ 自動ブザーミュート機能は無効です。(→P.225)

※² 距離セグメントが高速で点滅します。

■ 音声案内とブザー音

静止物を検知すると、ブザーが鳴ります。ブザー音と同時に音声案内を行います。

- 静止物との距離が近付くと、ブザーの断続時間が短くなります。静止物との距離が約 30cm 以下のとき、ブザーは断続音「ピピ」から連続音「ピー」になります。

- 複数のセンサーが同時に静止物

を検知しているときは、もっとも近い静止物との距離に合わせたブザー音が鳴ります。

- ブザー吹鳴後、静止物との距離が近づかない場合は、自動でブザーが消音されます。(自動ミュート機能)

ブザー音の音量は調整可能です。(→P.223)

RCTA (リヤクロストラフィックアラート)

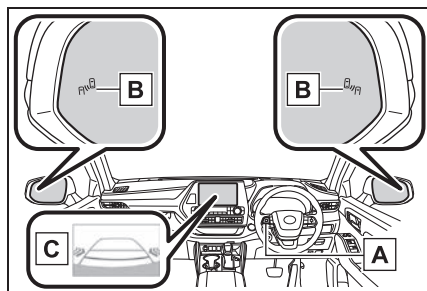
RCTA (リヤクロストラフィックアラート) 機能はリヤバンパー内側にあるブラインドスポットモニターの後側方レーダーセンサーを使用し、運転者の目視だけでは感知しづらい領域の確認を補助する機能です。後退時に運転者を支援します。

警告

■安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。RCTA 機能は自車の右後方または左後方から接近してくる車両の存在を運転者に提供する補助的なシステムです。RCTA 機能を使用しても状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視による安全確認をおこなう必要があります。システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

システムの構成部品



A メーター操作スイッチ

RCTA 機能の ON / OFF を切りかえま

す。

RCTA 機能が無効になっている場合、RCTA OFF インジケーターが点灯します。

B ドアミラーインジケーター

自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、両側のドアミラーインジケーターが点滅し、ブザーが鳴ります。

C センターディスプレイ

自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、センターディスプレイに検知した側の RCTA アイコン (→P.227) が点灯します。イラストは両後方から車両が接近している例です。

設定のしかた

RCTA の ON / OFF は、マルチインフォメーションディスプレイの  から切りかえることができます。(→P.399)

RCTA 機能が OFF のとき、運転支援情報灯 (→P.67) が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。パワースイッチが ON になるたび、RCTA 機能は ON になります。

知識

■ドアミラーインジケーターの視認性について

強い日差しのもとでは、ドアミラーインジケーターが見えづらいことがあります。

■RCTA ブザー音の聞こえ方について

大音量のオーディオなど大きな音がする場合、RCTA ブザー音が聞こえづらくなる場合があります。

■ マルチインフォメーションディスプレイに “Rear Cross Traffic Alert Unavailable” と表示されたとき

リアバンパーのセンサー周辺には、氷、雪、泥などが付着している場合があります。(→P.215) リアバンパーのセンサー周辺に付着した氷、雪、泥などを取り除いて正常な状態に戻してください。

また、極端に暑いまたは寒い環境で使用すると、機能が正常に動作しない場合があります。

■ マルチインフォメーションディスプレイに “Rear Cross Traffic Alert Malfunction Visit Your Dealer” と表示されたら

センサーの故障または位置ずれの可能性があります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

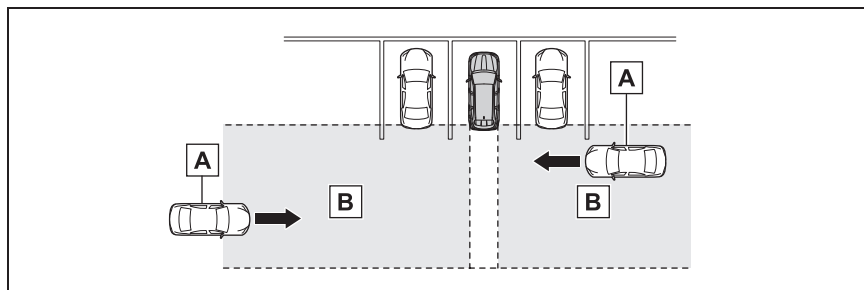
■ 後側方レーダーセンサーについて

→P.215

RCTA 機能

■ RCTA 機能の作動

RCTA 機能は後側方レーダーセンサーにより自車の右後方または左後方から接近している車両を検知し、ドアミラーのインジケーターとブザーによってその車両の存在を運転者に知らせます。



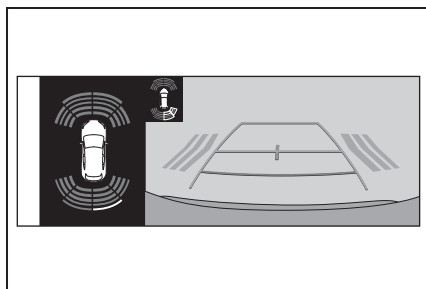
A 接近車両

B 接近車両を検知できる範囲

■ RCTA アイコンの表示

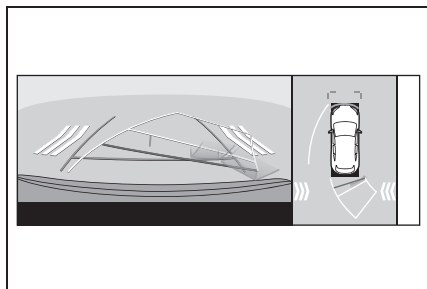
自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、センターディスプレイ画面上に次の表示をします。

- 例(トヨタ駐車アシストモニター)(装備されている場合): 両方向から車両が接近しているとき



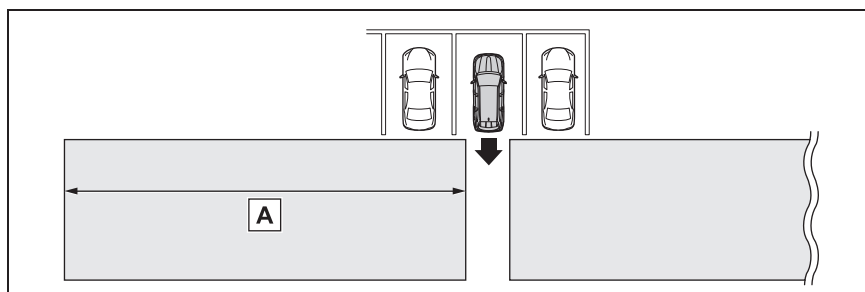
- 例(パノラマビューモニター)(装備されている場合): 両方向から

車両が接近しているとき



■ RCTA 機能で検知できる範囲

次の範囲に入った車両を検知します。



速度が速い車両に対しては、より離れた位置で警報ブザーを鳴らします。

例：

接近車両の速度	A 警報距離（概算）
56km/h(速い)	30m
8km/h (遅い)	4m



知識

■ RCTA 機能の作動条件

RCTA 機能は、次の条件をすべて満たしているときに作動します。

- パワースイッチが ON のとき
- RCTA 機能が ON のとき
- シフトポジションが R のとき
- 自車の車速が約 15km/h 以下のとき

- 接近する他車の車速が約 8km/h ～ 56km/h のあいだのとき

■ ブザーの音量調整について（クリアランスソナー装着車）

マルチインフォメーションディスプレイの  から、RCTA、クリアランスソナー、RCD の音量を一括で切り換えることができます。（→P.399）

■ ブザー音の一時ミュート（消音）（クリアランスソナー装着車）

作動対象を検知した場合、マルチインフォメーションディスプレイ上に一時ミュート（消音）スイッチ  が表示されます。

RCTA、クリアランスソナーのブザー音が一括でミュート（消音）されます。

一時ミュート（消音）が解除されるとき：

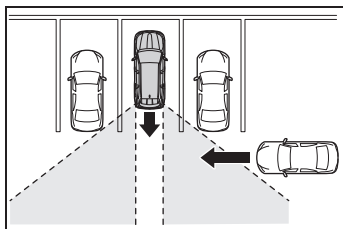
- シフトポジションを切りかえたとき

- 車速が一定値以上になったとき
- センサー異常やシステムが一時使用不可となったとき
- 使用中の機能を OFF にしたとき
- パワースイッチを OFF にしたとき

■システムが検知しない車両について

RCTA 機能は、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

- 真後ろから接近する車両
- 自車の隣の駐車スペースで後退する車両
- 障害物のためにセンサーが検知できない車両



- ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物※
- 小型のオートバイ・自転車・歩行者など※
- 自車から遠ざかる車両
- 自車の隣の駐車スペースから接近する車両※
- センサーと接近車両との距離が近すぎる場合

※状況によっては検知をすることがあります。

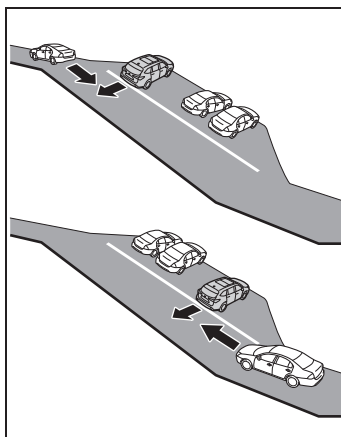
■システムが正常に作動しないおそれがある状況

RCTA 機能は、次のような状況では車両を有効に検知しないおそれがあります。

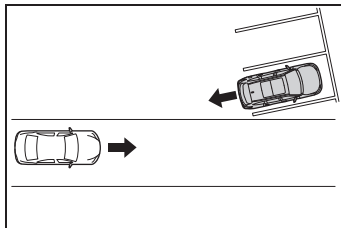
- センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きが

ずれているとき

- 泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき
- 大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどのぬれた路面を走行するとき
- 複数台の他車が狭い間隔で連続して接近するとき
- 車両が高速で接近するとき
- センサー付近にけん引フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノーブラウ）などを取り付けたとき
- 勾配の変化が激しい坂で後退しているとき

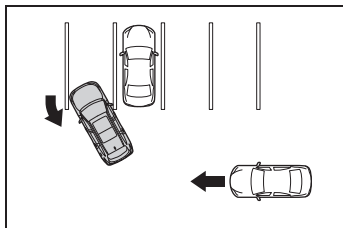


- 斜めの駐車場から出庫するとき

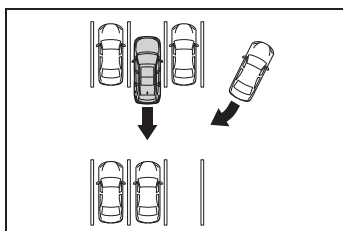


- RCTA 機能を ON にした直後
- RCTA 機能を ON にした状態で、ハイブリッドシステムを始動した直後

- 障害物のためにセンサーが車両を検知できないとき
- けん引しているとき
- 検知範囲に入る他車と自車の高さに差がありすぎるとき
- 炎天下や寒冷時
- ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けたとき
- 車高が極端に変化しているとき（ノーズアップ、ノーズダウンなど）
- 自車が旋回しているとき



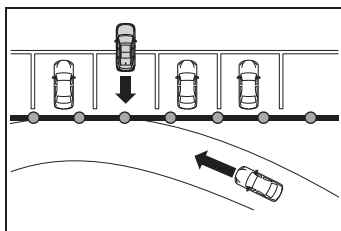
- 旋回しながら車両が近づいてきたとき



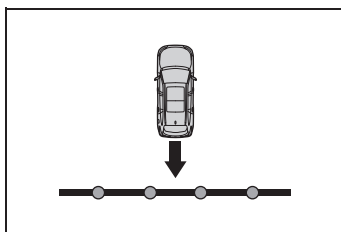
- 衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

RCTA 機能は、特に次のような状況では不要な検知が増えることがあります。

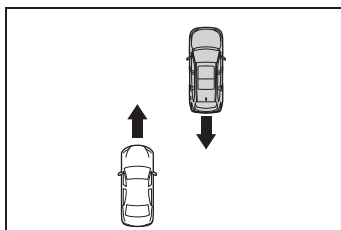
- 駐車場に面した道を車両が走行しているとき



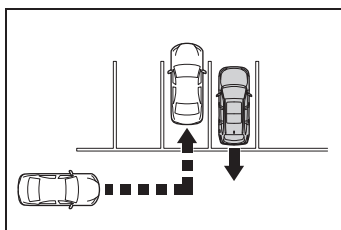
- 車両後方に電波の反射しやすい金属（ガードレール・壁・標識・駐車車両など）が存在するとき



- センサー付近にけん引フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノーブラウ）などを取り付けたとき
- 車両が自車の横を通過するとき



- 自車の近くで旋回していく移動物が存在するとき



- 自車近くに室外機などの回転体があるとき

- センサーに向けてスプリンクラーなどによる水の飛散があったとき
- 動いているもの（旗・排気ガス・大粒の雨や雪、路面の雨水など）
- ガードレールや壁などとの距離が短い状況で、それらが検知範囲に入ったとき
- グレーチングや側溝
- 炎天下や寒冷時
- ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けたとき
- 車高が極端に変化しているとき（ノーズアップ、ノーズダウンなど）

PKSB（パーキングサポートブレーキ）

PKSB（パーキングサポートブレーキ）は、駐車時などの低速走行時に作動対象を検知した場合、警報と自動ブレーキ制御で作動対象との衝突被害の軽減に寄与するシステムです。

駐車支援機能

■ パーキングサポートブレーキ（後方静止物）

超音波センサーは、後退時に検知エリア内の壁などの静止物体を検知するために使用されます。（→P.237）

■ パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）

後方レーダーセンサーは、車両後退時に後方の検知エリアに接近する車両を検知するために使用されます。（→P.240）

警告

■ 安全にお使いいただくために

システムを過信しないでください。システムを過信すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

必ず車両周辺の安全を確認しながら運転してください。

道路状況、車両状態および天候など、状況によっては作動しない場合があります。

センサー、レーダーでの検知には限界があります。必ず車両周辺の安全を確認しながら運転してください。

⚠ 警告

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。PKSB（パーキングサポートブレーキ）は作動対象への衝突を緩和し、衝突被害軽減に寄与できる場合がありますが、状況によっては作動しない場合もあります。
 - PKSB（パーキングサポートブレーキ）は、完全に車両を停止させるシステムではありません。また、車両を停止させることができたとしても、ブレーキ制御は約2秒で解除されるため、すぐにブレーキペダルを踏んでください。
 - 故意に車や壁に向かって走行するなど、システムの作動を確認する行為は大変危険です。絶対におやめください。
- **パーキングサポートブレーキを OFF にするとき**
- 次のときは、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF にしてください。衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。
- 点検などで、シャシーローラー・シャシーダイナモ・フリーローラーなどを使用する場合
 - 船舶・トラックなどへ積載する際の進入時
 - ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けた場合
 - 積載状況などにより車高が著しく変化した場合（ノーズアップ、ノーズダウンなど）

- センサー付近にけん引フック・輸送用フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノープラウ）などを取り付けたとき
- 自走式洗車機を使用する場合
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- オフロード走行やスポーツ走行をするとき
- タイヤの空気圧が適正でないとき
- 著しく摩耗したタイヤを装着しているとき
- タイヤチェーン・応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき
- けん引しているとき

⚠ 注意

- **マルチインフォメーションディスプレイに“PKSB Unavailable”と表示され、PKSB OFF インジケータが点灯している場合**

パワースイッチを ON にした直後にこのメッセージが表示された場合は、周囲の状況に注意し、慎重に運転してください。システムが正常に戻るまで、一定時間走行する必要がある場合があります。（しばらく走行してもシステムが正常に戻らない場合は、バンパーのセンサーとその周辺を清掃してください。）

システムを作動させるには

パーキングサポートブレーキは、マルチインフォメーションディスプレイで有効 / 無効を切り替えることができます。パーキングサ

ポートブレーキの全機能（後方静止物および後方接近車両）の有効／無効は同時に切り替わります。

メーターコントロールスイッチを使用してパーキングサポートブレーキを有効／無効にします。

(→P.81)

1 マルチインフォメーションディスプレイの  を選択し、 を押します。

2  または  を押して  押し、 を押します。

パーキング サポート ブレーキが無効になっている場合、インストルメントクラスターに PKSB OFF インジケーター (→P.67) が点灯します。

システムを無効にした場合、再度有効にするには、マルチインフォメーションディスプレイで  を選択し、 選択して電源を入れてください。システムが無効になっている場合、パワースイッチを OFF にした後、パワースイッチを ON にしてもシステムは OFF のままです。

ハイブリッドシステム出力抑制制御・ブレーキ制御の表示・ブザーについて

ハイブリッドシステム出力抑制制御・ブレーキ制御が作動したときは、ブザーでお知らせするとともに、オーディオシステム画面、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

出力抑制制御は状況により、加速制限制御か出力最大抑制制御のいずれかが作動します。

● ハイブリッドシステム出力抑制制御作動中（加速制限制御）

一定以上の加速をシステムが制限しているとき：

オーディオシステム画面（トヨタパーキングアシストモニターまたはパノラマビューモニター装着車）画面表示：表示なし

マルチインフォメーションディスプレイ：“Object Detected Acceleration Reduced”

運転支援情報表示灯：消灯のまま

ブザー：吹鳴なし

● ハイブリッドシステム出力抑制制御作動中（出力最大抑制制御）

通常よりやや強めのブレーキ操作が必要だとシステムが判断したとき：

オーディオシステム画面（トヨタパーキングアシストモニターまたはパノラマビューモニターを搭載した車両）：“BRAKE!”

マルチインフォメーションディスプレイ表示／ヘッドアップディスプレイ（装備されている場合）表示：“BRAKE!”

運転支援情報表示灯：消灯のまま

ブザー：ピー（単発音）

● ブレーキ制御作動中

急ブレーキが必要だとシステムが判断したとき：

オーディオシステム画面（トヨタパーキングアシストモニターまたはパノラマビューモニターを搭載した車両）：“BRAKE!”

マルチインフォメーションディスプレイ表示／ヘッドアップディスプレイ（装備されている場合）表示：“BRAKE!”

運転支援情報表示灯：消灯のまま

ブザー：ピー（単発音）

● システム作動により車両停止
ブレーキ制御作動後に車両が停止したと

き：

オーディオシステム画面（トヨタパーキングアシストモニターまたはパノラマビューモニターを搭載した車両）：

“Press Brake Pedal”

マルチインフォメーションディスプレイ表示 / ヘッドアップディスプレイ（装備

されている場合）表示：“Switch to Brake” アクセルが踏まれていない場合は“Press Brake Pedal”が表示されます。

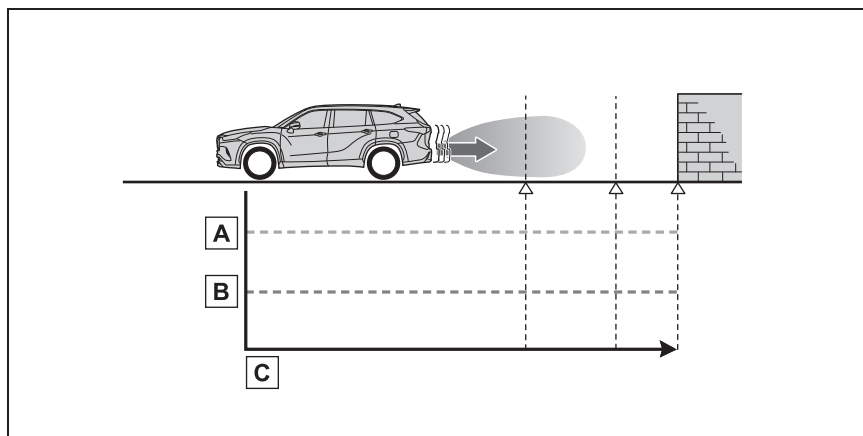
運転支援情報表示灯：点灯

ブザー：ピー（単発音）

PKSB（パーキングサポートブレーキ）の作動について

PKSB（パーキングサポートブレーキ）は、衝突の可能性がある作動対象（壁などの静止物や後方接近車両や後方歩行者）を検知したとき、ハイブリッドシステムの出力を抑制することにより車速の上昇を抑えます。（ハイブリッドシステム出力抑制制御：図 2）また、そのままアクセルペダルを踏み続けた場合は、ブレーキをかけ減速させます。（ブレーキ制御：図 3）

● 図 1（PKSB［パーキングサポートブレーキ］非作動時）

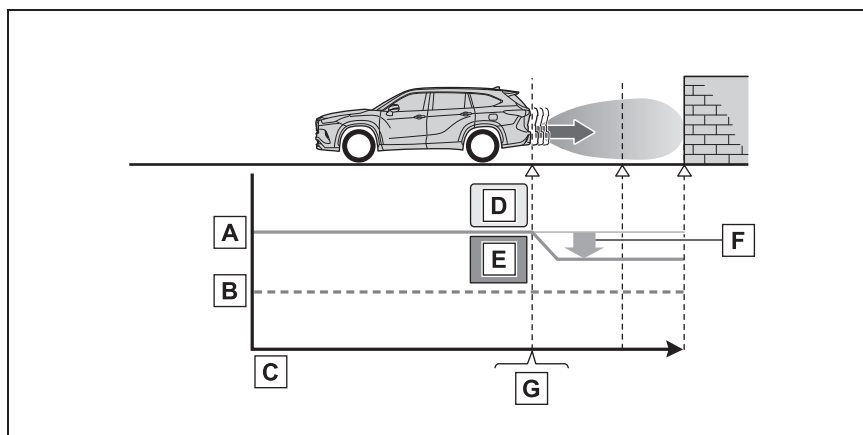


A ハイブリッドシステム出力

B 制動力

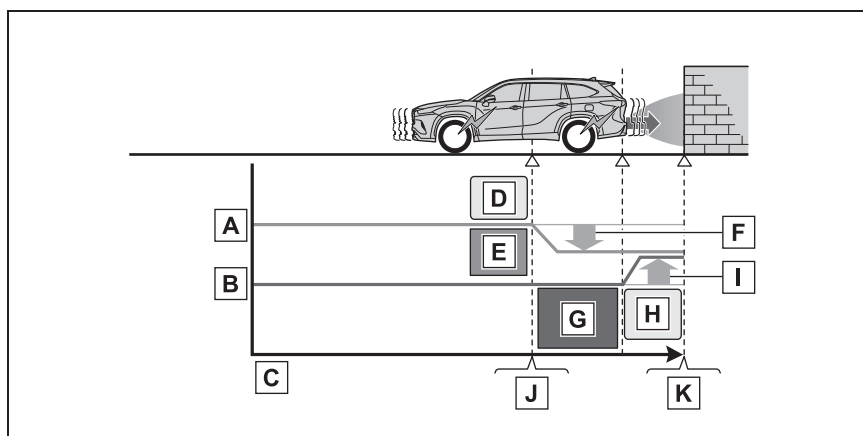
C 時間

● 図 2（ハイブリッドシステム出力抑制制御時）



- A** ハイブリッドシステム出力
 - B** 制動力
 - C** 時間
 - D** ハイブリッドシステム出力抑制制御開始
 - E** 作動対象と衝突の可能性があるとしてシステムが判断したとき
 - F** ハイブリッドシステムの出力が減少
 - G** 例：マルチインフォメーションディスプレイ表示：“BRAKE!”
- 図 3 (ハイブリッドシステム出力抑制制御かつブレーキ制御時)

● 図 3 (ハイブリッドシステム出力抑制制御かつブレーキ制御時)



- A** ハイブリッドシステム出力
B 制動力
C 時間

- D** ハイブリッドシステム出力抑制制御開始
- E** 作動対象と衝突の可能性があるときシステムが判断したとき
- F** ハイブリッドシステムの出力が減少
- G** 作動対象と衝突の可能性が非常に高いときシステムが判断したとき
- H** ブレーキ制御開始
- I** ブレーキ制御の強度が向上
- J** 例：マルチインフォメーションディスプレイ表示：“BRAKE!”
- K** 例：マルチインフォメーションディスプレイ表示：“Switch to Brake”

知識

■PKSB（パーキングサポートブレーキ）が作動したときは

システム作動により車両が停止した場合、PKSB（パーキングサポートブレーキ）が停止して、運転支援情報表示灯が点灯します。また、PKSB（パーキングサポートブレーキ）が作動した場合でもブレーキ制御は約 2 秒で解除されるため、そのまま発進できます。また、ブレーキペダルを踏んでも解除されるため、再度アクセルペダルを踏むと発進できます。

■PKSB（パーキングサポートブレーキ）作動後の復帰について

システム作動により PKSB（パーキングサポートブレーキ）が停止したときに、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を復帰させたい場合は、再度 PKSB（パーキングサポートブレーキ）を ON にするか、パワースイッチをいったん OFF にしてから、再度 ON にしてください。

また、次の状況でも自動的に PKSB（パーキングサポートブレーキ）が復帰し、運転支援情報表示灯が消灯します。（→P.67）

- PKSB（パーキングサポートブレーキ）を ON にする（→P.232）
- シフトポジションを P にする

- 進行方向の作動対象がなくなった状態で走行する

- 車両の進行方向を切りかえる

■マルチインフォメーションディスプレイに“PKSB Unavailable”と表示され、PKSB OFF インジケータが点灯している場合

- “Parking Assist Unavailable Clean Parking Assist Sensor” が同時に表示された場合は、センサーに氷、雪、泥などが付着している可能性があります。この場合、センサーに付着した氷、雪、泥などを取り除いてシステムを正常に戻してください。センサーの汚れを取り除いてもこのメッセージが表示される場合、またはもともと汚れていないのにこのメッセージが表示される場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。
- 同時に“Parking Assist Unavailable”と表示される場合は、大雨などによりセンサー面が水が流れ続けている可能性があります。システムが正常と判断すると、システムは正常状態に戻ります。

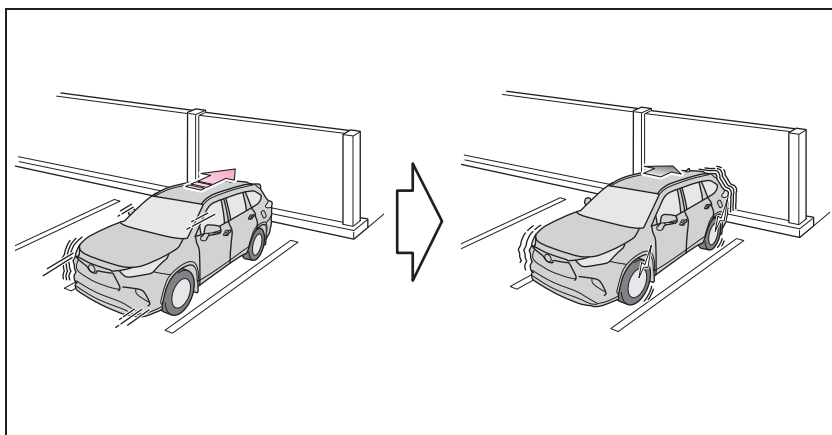
パーキングサポートブレーキ（後方静止物）

車両の進行方向にある壁などの静止物をセンサーが検知し、アクセルペダルの踏み間違いによる車両の急激な後退、シフトレバーの操作ミスによる車両が意図しない方向への移動、駐車時などにより衝突の恐れがあるとシステムが判断した場合、検知した静止物との衝撃を緩和し、被害を軽減するシステムが作動します。

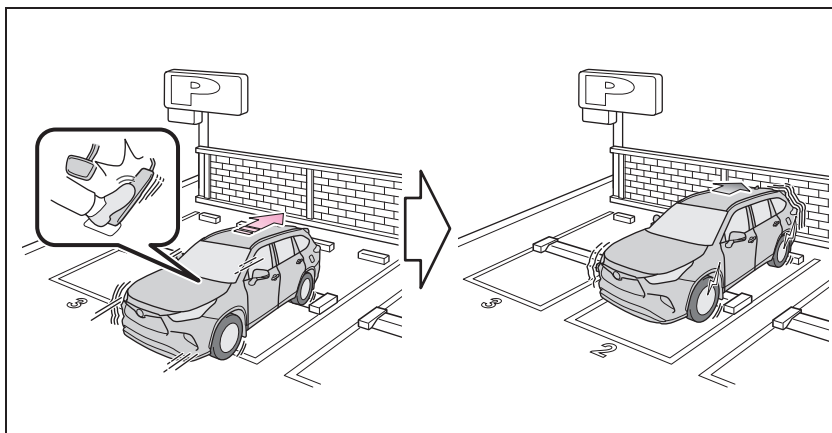
システム作動例

この機能は、車両の進行方向に物体を検知した場合など、以下のような状況で作動します。

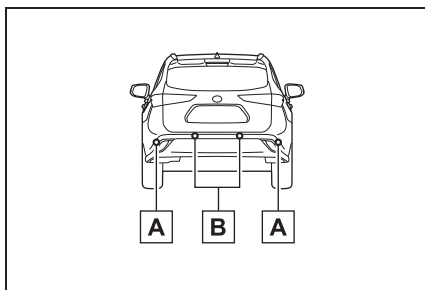
- 低速で後退する際にブレーキペダルを踏んでいない、または遅れて踏んでいる場合



■ アクセルペダルを踏みすぎた場合



センサーの種類



A リヤコーナーセンサー

B リヤセンターセンサー

⚠ 警告

■ システムが適切に動作することを保証するため

→P.220

■ 踏切などでパーキングサポートブレーキ（後方静止物）が不必要に作動した場合

→P.236

■ 洗車時の注意点

→P.220

□ 知識

■ パーキングサポートブレーキ（後方静止物体）は、以下の場合に作動します。

この機能は、PKSB OFF インジケーターが点灯しておらず（→P.66, 67）、以下の条件がすべて満たされている場合に動作します。

- ハイブリッドシステム出力制限制御
 - ・ パーキングサポートブレーキが有効になります。
 - ・ 車速は約 15 km/h 以下です。
 - ・ 車両の進行方向に約 2 ～ 4 メートル離れたところに静止物体があります。
 - ・ パーキングサポートブレーキは、衝突を回避するために通常よりも強いブレーキ操作が必要であると判断します。
- ブレーキ制御
 - ・ ハイブリッドシステム出力制限制御が作動しています。
 - ・ パーキングサポートブレーキは、衝突を回避するために即時のブレーキ操作が必要であると判断します。

■ **パーキングサポートブレーキ（後方静止物）は、以下の場合に作動を停止します。**

以下のいずれかの条件が満たされた場合、機能は動作を停止します。

- **ハイブリッドシステム出力制限制御**
 - ・ パーキングサポートブレーキが無効になります。
 - ・ 通常のブレーキ操作で衝突が回避可能になったとシステムが判断します。
 - ・ 静止物体が車両から約 2 ～ 4 メートル離れていないか、車両の進行方向にありません。
- **ブレーキ制御**
 - ・ パーキングサポートブレーキが無効になります。
 - ・ ブレーキ制御により車両が停止してから約 2 秒経過しました。
 - ・ ブレーキ制御により車両が停止した後、ブレーキペダルを踏みます。
 - ・ 静止物体が車両から約 2 ～ 4 メートル離れていないか、車両の進行方向にありません。

■ **パーキングサポートブレーキの検知範囲（後方静止物）**

パーキングサポートブレーキ（後方静止物）の検知範囲は、クリアランスソナーの検知範囲と異なります。（→P.223）そのため、クリアランスソナーが物体を検知して警報を発した場合でも、パーキングサポートブレーキ（後方静止物）が作動しない場合があります。

■ **システムが正常に動作しない可能性がある状況**

→P.221

■ **衝突の可能性がない場合でもシステムが作動する可能性がある状況**

→P.222

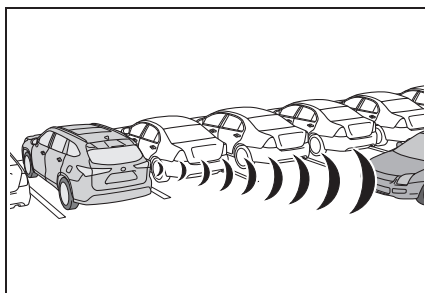
パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）

後側方レーダーセンサーで自車の右後方または左後方から接近している車両を検知し、システムが衝突の危険性があると判断した場合にブレーキ制御をすることで、接近車両への衝突を緩和し衝突被害軽減に寄与します。

システム作動例

次のようなときに進行方向の車両を検知してシステムが作動します。

- 後退時、近接車両接近中にブレーキペダルを踏み損なってしまった、または踏み遅れてしまったとき



センサーの種類

→P.215



警告

- システムを正しく作動させるために

→P.215



知識

- パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）の作動開始条件

運転支援情報表示灯が点灯（→P.66, 67）しておらず、次の条件をすべて満たすと作動します。

- ハイブリッドシステム出力抑制制御
 - ・ PKSB（パーキングサポートブレーキ）を ON（作動）にしているとき
 - ・ 車速が約 15km/h 以下
 - ・ 後側方から接近する車両の車速が約 8km/h 以上
 - ・ シフトポジションが R のとき
 - ・ 後側方からの接近車両への衝突回避には、通常よりやや強めのブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき
- ブレーキ制御
 - ・ ハイブリッドシステム出力抑制制御作動中
 - ・ 後側方からの接近車両への衝突回避には、急ブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき
- パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）の作動終了条件

次のいずれかの条件のときに作動が終了します。

 - ハイブリッドシステム出力抑制制御
 - ・ PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
 - ・ 通常のブレーキ操作で衝突回避が可能になったとき
 - ・ 自車後側方への接近車両がなくなったとき
 - ブレーキ制御
 - ・ PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
 - ・ ブレーキ制御により車両が停止して約 2 秒が経過したとき

- ・ ブレーキ制御により車両が停止したあとに、ブレーキペダルを踏んだとき
- ・ 車両の後方右側または左側から接近車両がなくなったとき

■ パーキングサポートブレーキ機能の検知範囲（後方接近車両）

パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）の検知範囲は、RCTA（自動追突防止装置）の検知範囲と異なります。（→P.228）そのため、RCTA が車両を検知して警報を発しても、パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）が作動しない場合があります。

■ システムが正常に作動しないおそれのある状況

→P.229

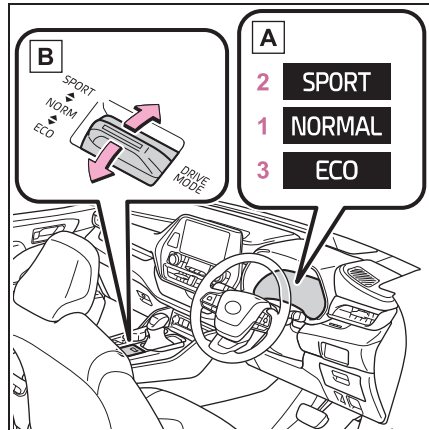
■ 衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

→P.230

ドライブモードセレクトスイッチ

走行・使用状況に合わせて次のモードを選択できます。

走行モードを選択するには



A マルチインフォメーションディスプレイ

B ドライブモードセレクトスイッチ

ドライビングモードセレクトスイッチを前後に操作して、マルチインフォメーションディスプレイで希望のドライビングモードを選択します。

1 ノーマルモード

燃費性能、静粛性、運動性能のバランスがよく、通常の走行に適しています。

2 スポーツモード

ハイブリッドシステムを制御し、力強く素早い加速を実現します。また、ステアリングフィールも変化するため、カーブの多い道路など、俊敏なドライビングレスポンスが求められるシーンに適しています。

スポーツモードを選択すると、スポーツ

モードインジケータが点灯します。

3 エコドライブモード

アクセル操作に対する駆動力を穏やかにすると同時に、エアコン（暖房／冷房）の作動を抑えます。燃費の向上を意識した走行に適しています。

エコドライブモード表示灯が点灯します。



知識

■エコドライブモード時のエアコン作動について

エコドライブモードは、暖房／冷房の作動や風量を抑制して、燃費向上を図っています。空調の効きをよりよくしたいときは、次の操作を行ってください。

- 12.3 インチオーディオスクリーン装着車：エコ空調モードを OFF にする（→P.262）
- 風量を調整する（→P.259）
- エコドライブモードを解除する

■走行モードの自動解除

- スポーツモードは、パワースイッチを OFF にすると自動的に解除され、ノーマルモードにもどります。
- ノーマルモード、エコドライブモードは、ほかの走行モードに切りかえるまで解除されません。（パワースイッチを OFF にしても自動では解除されません）

トレイルモード

トレイルモードは、4WD、ブレーキ、駆動力制御システムを統合制御し、凸凹道などでの駆動力をアシストするシステムです。

⚠ 警告

■トレイルモードを正しく作動させるために

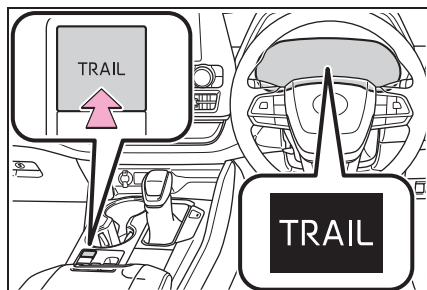
次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 運転前にトレイルモードインジケータが点灯していることを確認してください。インジケータが消灯している場合、トレイルモードは作動しません。
- トレイルモードは車両の限界があります。路面状況を十分に確認し、慎重に運転してください。
- 運転前に路面状況を十分にご確認ください。トレイルモードは凹凸のある路面での走行に適していますが、他の路面状況では必ずしも最適ではない可能性があります。

トレイルモードを ON にする

トレイルモードスイッチを押す
スイッチを押すとトレイルモードがオンになり、マルチインフォメーションディスプレイにトレイルモードインジケータが点灯します。

スイッチをもう一度押すと、トレイルモード インジケータが消灯します。



知識

■トレイルモード

- トレイルモードは、凹凸のある路面を走行する際に使用するモードです。それ以外の状況ではスイッチを ON にしないでください。
- トレイルモードは、凹凸のある路面を走行する際に最大限の駆動力を発揮するように車両を制御します。そのため、トレイルモードを OFF にした状態での走行と比較して燃費が低下する場合があります。
- トレイルモードを長時間継続して使用すると、関連部品への負荷が増大し、システムが有効に動作しなくなる可能性があります。

■トレイルモードがキャンセルされたとき

以下のときは、トレイルモードが ON になっていても自動的にキャンセルされます。

- 運転モードが変更されたとき
(→P.241)
- パワースイッチを OFF にすると

■トレイルモード動作中

以下の状況が発生する場合がありますが、故障ではありません。

- 車全体やハンドルに振動が感じられるとき

- エンジンルームから作動音が聞こえるとき

■トヨタ販売店で点検が必要なとき

次の場合は、システムに不具合が生じている可能性があります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

- トレイルモードが ON のときにスリップインジケータが点灯したとき
- トレイルモードスイッチを押してもトレイルモードインジケータが点灯しないとき

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を確保するため、走行状況に応じて次の装置が自動で作動します。ただし、これらの装置は補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

運転を補助する装置について

■ ECB(電子制御ブレーキシステム)

電子制御システムはブレーキ操作に応じた制動力を発生する。

■ ABS(アンチロックブレーキシステム)

急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロックを防ぎ、スリップを抑制します。

■ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などに、より大きなブレーキ力を発生させます。

■ VSC(ビークルスタビリティコントロール)

急なハンドル操作や、すべりやすい路面で旋回するときに横すべりを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

ABS・TRC・VSC・EPSを協調して制御します。すべりやすい路面などの走行で急なハンドル操作をした際に、ハンドル操作力を制御することで、車両の方向安定性確保に貢献します。

■ トレーラー横揺れ制御

トレーラーの揺れが検出されると、

個々の車輪にブレーキ圧力を選択的にかけ、駆動トルクを低減することで、運転者がトレーラーの揺れを制御できるようにします。

■ TRC(トラクションコントロール)

すべりやすい路面での発進時や加速時にタイヤの空転を抑え、駆動力確保に貢献します。

■ アクティブコーナリングアシスト(ACA)

旋回中に加速しようとするとき、内輪にブレーキ制御を行うことで、車両が外側に膨らむことを抑制します。

■ ヒルスタートアシストコントロール

上り坂で発進するときに、車が後退するのを緩和します。

■ EPS(エレクトリックパワーステアリング)

モーターを利用して、ハンドル操作を補助します。

■ E-Four(電気式4WDシステム)(4WD車)

通常走行時からコーナリング時、登坂時、発進時、加速時や雪や雨などによりすべりやすい路面などでさまざまな走行状況に応じてFF(前輪駆動)走行状態から4WD(4輪駆動)走行状態まで自動的に制御し、安定した操作性、走行安定性に寄与します。

■ VDIM(車両ダイナミクス統合管理)

ABS、ブレーキアシスト、TRC、VSC、ヒルスタートアシストコン

トロール、EPS システムを統合制御します。ブレーキ、ハイブリッドシステムの出力、ステアリングアシストを制御することで、滑りやすい路面での旋回時に車両の安定性を維持します。

■ 緊急ブレーキシグナル

急ブレーキ時に非常点滅灯を自動的に点滅させることにより、後続車に注意をうながし、追突される可能性を低減させます。

■ セカンダリーコリジョンブレーキ

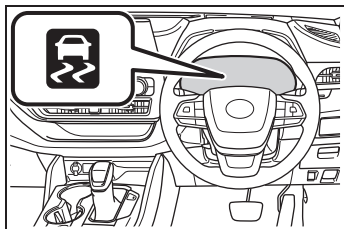
SRS エアバッグのセンサーが衝突を検知して作動したとき、自動的にブレーキと制動灯を制御することで、車両を減速させ、二次衝突による被害の軽減に寄与します。



知識

■ TRC・VSC・ABS・トレーラースウェイコントロールシステムが作動しているとき

TRC・VSC・ABS・トレーラースウェイコントロールシステムが作動しているときは、スリップ表示灯が点滅します。



■ TRC を停止するには

ぬかるみや砂地、雪道などから脱出するときに、TRC が作動していると、アクセルペダルを踏み込んでハイブリッドシステムの出力が上がらず、脱出が困難な

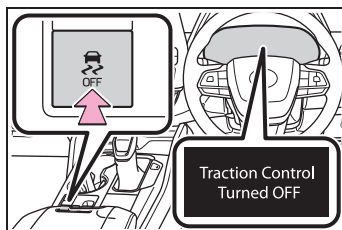
場合があります。このようなときに  スイッチを押すことにより、脱出しやすくなる場合があります。

TRC を停止するには  スイッチを押す

マルチインフォメーションディスプレイに “Traction Control Turned OFF” と表示されます。*

もう一度  スイッチを押すと、システム作動可能状態にもどります。

* TRC が停止すると、緊急ステアリングアシストも停止します。(→P.182)



■ TRC、VSC とトレーラールの揺れ制御システムを停止するには

TRC と VSC を停止するには、停車時に  スイッチを押し 3 秒以上押し続けます。

VSC OFF 表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに “Traction Control Turned OFF” と表示されます。*

もう一度  スイッチを押すと、システム作動可能状態にもどります。

* 緊急ステアリングアシストも停止し、PCS 警告灯が点灯します。(→P.182)

■ スイッチを押さなくてもマルチインフォメーションディスプレイに TRC OFF 表示がされたとき

TRC が一時的に作動できない状態になっ

ています。表示が継続する場合はトヨタ販売店にご相談ください。

■ヒルスタートアシストコントロールの作動条件

次のときにシステムが作動します。

- 前進での上り坂発進時にシフトレバーが D などの前進シフトのとき、後退での上り坂発進時にシフトレバーが R のとき

- 車両停止状態
- アクセルペダルを踏んでいない
- パーキングブレーキがかかっている

■ヒルスタートアシストコントロールの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

- 前進での上り坂発進時にシフトレバーが D などの前進シフト以外のとき
- アクセルペダルを踏んだ
- パーキングブレーキをかけた
- ブレーキペダルから足を離して最大2秒経過した

■ABS・ブレーキアシスト・VSC・トラレーサスウェイコントロール・TRC・ヒルスタートアシストコントロールの作動音と振動

- ハイブリッドシステム始動時や発進直後、ブレーキペダルをくり返し踏んだときなどに、エンジンルームから作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。
- 上記のシステムが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。
 - ・車体やハンドルに振動を感じる
 - ・車両停止後もモーター音が聞こえる

■ECBの作動音

以下の場合にはECB作動音が聞こえるこ

とがありますが、故障ではありません。

- ブレーキペダルを操作した時にエンジンルームから聞こえる作動音。
- 運転席ドアを開けた際に車両前方から聞こえるブレーキシステムのモーター音。
- ハイブリッドシステムの停止後、1～2分経過するとエンジンルームから作動音が聞こえます。

■アクティブコーナリングアシストの作動音と振動

アクティブコーナリングアシストが作動したときに、ブレーキシステムから作動音や振動が発生することがありますが、異常ではありません。

■EPSの効果が下がるとき

停車中か極低速走行中に長時間ハンドルをまわし続けると、EPSシステムのオーバーヒート为了避免するため、EPSの効果が下がりハンドル操作が重く感じられるようになります。その場合は、ハンドル操作を控えるか、停車し、ハイブリッドシステムを停止してください。10分程度でもとの状態にもどります。

■TRC、トラレーサスウェイコントロールやVSCの自動復帰について

TRC、トラレーサスウェイコントロールやVSCを作動停止にしたあと、次のときはシステム作動可能状態にもどります。

- パワースイッチをOFFにしたとき
- (TRCのみを作動停止にしている場合)車速が高くなったときただし、TRCとVSCの作動を停止している場合は、車速による自動復帰はありません。

■アクティブコーナリングアシストの作動条件

次のときシステムが作動します。

- TRC・VSCが作動可能状態
- 旋回中に加速しようとするとき

- 車両が外側に膨らんでいるとシステムにより判断された
- ブレーキを踏んでいない

■緊急ブレーキシグナルの作動条件

次のときシステムが作動します。

- 非常点滅灯が点滅していないこと
- 車速 55km/h 以上
- 車両の減速度から急ブレーキだとシステムにより判断された

■緊急ブレーキシグナルの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

- 非常点滅灯を点滅させた
- 車両の減速度から急ブレーキではないとシステムにより判断された

■マルチインフォメーションディスプレイに 4WD システムに関するメッセージが表示されたとき (4WD 車)

次のように対処してください。

- “AWD System Over-heated Switching to 2WD Mode.” 4WD システムが過熱しています。ハイブリッドシステムを作動させたまま安全な場所に停車してください。＊しばらくして表示が消えれば問題ありません。表示が消えないときは、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。
- “AWD System Over-heated 2WD Mode Engaged.” 過熱のため 4WD システムが一時解除され、前輪駆動走行に切りかかりました。ハイブリッドシステムを作動させたまま安全な場所に停車してください。＊しばらくして表示が消えれば、4WD システムが自動的に復帰します。表示が消えないときは、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。
- “AWD system Malfunction 2WD

Mode Engaged Visit Your Dealer.” 4WD システムに異常が発生しています。すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

※ 停車時は表示が消えるまでハイブリッドシステムを停止しないでください。

■セカンダリーコリジョンブレーキの作動条件

走行中に SRS エアバッグのセンサーが衝突を検知して作動したとき。ただし構成部品が破損した場合システムは作動しません

■セカンダリーコリジョンブレーキの解除条件

次のいずれかのとき自動的にシステムが解除されます

- 車速が約 0 km/h になったとき
- 作動して一定時間経過したとき
- アクセルペダルを大きく踏み込んだとき

警告

■ABS の効果を発揮できないとき

- タイヤのグリップ性能の限界をこえたとき（雪に覆われた路面を過剰に摩耗したタイヤで走行するときなど）
- 雨でぬれた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

■ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなる可能性があるとき

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。特に次の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

- 泥・砂利の道路や積雪路を走行しているとき

 警告

- タイヤチェーンを装着しているとき
- 道路のつなぎ目など、段差をこえたとき
- 凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

■ TRCやVSCの効果を発揮できないとき

すべりやすい路面では、TRC や VSC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の方向安定性や駆動力を失うような状況では、特に慎重に運転してください。

■ アクティブコーナリングアシストの効果を発揮できないとき

- アクティブコーナリングアシストを過信しないでください。下り坂での加速中やすべりやすい路面などでは、アクティブコーナリングアシストが効かないことがあります。
- アクティブコーナリングアシストが頻繁に作動したときは、ブレーキ・TRC・VSC を正常に機能させるために、アクティブコーナリングアシストが一時的に作動しないことがあります。

■ ヒルスタートアシストコントロールの効果を発揮できないとき

- ヒルスタートアシストコントロールを過信しないでください。急勾配の坂や凍った路面ではヒルスタートアシストコントロールが効かないことがあります。

- ヒルスタートアシストコントロールはパーキングブレーキのように車を長時間駐車するための機能ではありませんので、同機能を坂道での駐車車のために使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ スリップ表示灯が点滅しているときは

TRC・ABS・VSC・トレーラースウェイコントロール が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅したら特に慎重に運転してください。

■ TRC・VSC・トレーラースウェイコントロールをOFFにするときは

- TRC・VSC・トレーラースウェイコントロール は駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。そのため、必要なとき以外はTRC・VSC を作動停止状態にしないでください。
- トレーラースウェイ コントロールはVSC システムの一部であり、VSC が OFF になっているか故障している場合は作動しません。

■ タイヤまたはホイールを交換するときは

4 輪とも指定されたサイズで、同じメーカー・ブランド・トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。

異なったタイヤを装着すると、ABS・TRC・VSC など、運転を補助するシステムが正常に作動しません。タイヤ、またはホイールを交換するときは、トヨタ販売店に相談してください。

 警告**■ タイヤとサスペンションの取り扱い**

問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、運転を補助するシステムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

■ トレーラー横揺れ防止対策

トレーラースウェイコントロールシステムは、あらゆる状況でトレーラーの横揺れを軽減できるわけではありません。車両、トレーラー、路面状況、運転環境など、様々な要因によっては、トレーラースウェイコントロールシステムが効果を発揮しない場合があります。トレーラーの適切な牽引方法については、トレーラーの取扱説明書をご参照ください。

■ トレーラーの横揺れが発生した場合

以下の注意事項を守ってください。守らないと、死亡または重傷を負う可能性があります。

- ハンドルをしっかりと握り、まっすぐ前に進んでください。ハンドルを切ってトレーラーの揺れを抑えようとししないでください。
- アクセルペダルをすぐに、しかしゆっくりと離して減速してください。速度を上げないでください。ブレーキをかけないでください。

ステアリングやブレーキを極端に修正しなければ、車両とトレーラーは安定するはずです。

■ セカンダリーコリジョンブレーキについて

セカンダリーコリジョンブレーキを過信しないでください。本システムは、二次衝突による被害軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。システムを過信すると重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

ハイブリッド車運転のアドバイス

環境に配慮した経済的な運転のためには、次のことを心がけてください。

エコドライブモードの利用

エコドライブモードを使用すると、通常にくらべてアクセルペダルの踏み込みに対するトルクの発生がゆるやかになります。また、エアコン（暖房／冷房）の作動を抑え、燃費向上につながります。

(→P.241)

ハイブリッドシステムインジケーターの利用

メーター内のハイブリッドシステムインジケーターのバー表示をエコエリアの範囲に保つことで、環境に配慮した走行が可能です。

(→P.72)

シフトレバーの操作

信号待ちや渋滞のときなどは、シフトレバーをDにしましょう。また、駐車するときは、シフトレバーをPにしましょう。シフトレバーをNにしても、燃費向上の効果はありません。Nでは、ガソリンエンジンが回転していても駆動用電池は充電されないため、エアコンなどを使用していると駆動用電池の残量が低下します。

アクセルペダル・ブレーキペダルの操作

- 急加速・急減速を抑え、スムーズな運転を心がけましょう。ゆるやかに加速・減速することで、より効果的に電気モーターを使用でき、余分なガソリン消費を抑えることができます。
- 加速のくり返しは、駆動用電池の残量を低下させ、結果、燃費が悪化するため控えましょう。走行中、アクセルペダルを少しもどすことで駆動用電池の残量を回復させることができます。

減速時のブレーキ操作

減速時は、早めに、ゆるやかなブレーキ操作を行いましょう。減速時に発生する電気エネルギーをより多く回収することができます。

渋滞

加速・減速のくり返しや、長い信号待ちは燃費を悪化させます。お出かけ前に交通情報を確認するなどして、なるべく渋滞を回避するようにしましょう。また渋滞の際は、ブレーキペダルをゆるめて微前進し、アクセルペダルをあまり踏まないようにしましょう。余分なガソリン消費を抑えることができます。

高速道路での運転

速度を抑え、一定速度で走行しましょう。また、料金所手前では早めにアクセルペダルをもどし、ゆ

るやかなブレーキ操作を行いましょう。減速時に発生する電気エネルギーをより多く回収することができます。

エアコンの ON / OFF

必要時以外はエアコンスイッチを OFF にしましょう。余分なガソリン消費を抑えることができます。

夏季：外気温が高いときは、内気循環モードに設定しましょう。エアコンへの負荷が減り燃費向上につながります。

冬季：ガソリンエンジン・車室内が暖まるまで、ガソリンエンジンが自動停止しないので、燃料を消費します。また、過剰な暖房を避けると、燃費向上につながります。

タイヤ空気圧の点検

タイヤ空気圧はこまめに点検しましょう。タイヤ空気圧が適切でないと、燃費の悪化につながります。

また、冬用タイヤは転がり抵抗が大きいため、乾燥した路面では燃費の悪化につながります。季節、道路状況に応じて適切なタイミングでタイヤを交換しましょう。

荷物

重い荷物が積まれていると、燃費が悪化します。不要な荷物は、積んだままにせずに降ろしましょう。また、大型ルーフキャリアの装着も重い荷物と同様に燃費の悪化につながります。

走行前の暖機運転

ガソリンエンジンが冷えているときは、ガソリンエンジンの始動／停止を自動的に行いますので、暖機運転は必要ありません。なお、短距離走行のくり返しは、暖機運転のためのガソリンエンジン始動がひんぱんに行われることとなりますので、燃費の悪化につながります。

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいた上で適切に運転してください。

冬を迎える前の準備について

- 次のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。
 - ・ エンジンオイル
 - ・ 冷却水
 - ・ ウォッシャー液
- 補機バッテリーの点検を受けてください。
- 冬用タイヤ（4 輪）やタイヤチェーン（前部タイヤ用）を使用してください。

タイヤは 4 輪とも同一サイズで同一銘柄のものを、タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを使用してください。

警告

■ 冬用タイヤ装着時の警告

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

- 指定サイズのタイヤを使用する
- 空気圧を推奨値に調整する
- 装着する冬用タイヤの最高許容速度や制限速度をこえる速度で走行しない
- 冬用タイヤを装着する際は、必ず 4 輪とも装着する

■ タイヤチェーン装着時の警告

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、安全に車を運転することができずに、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 装着したチェーンに定められた制限速度、もしくは 50km/h のどちらか低い方をこえる速度で走行しない
- 路面の凹凸や穴を避ける
- 急加速、急ハンドル、急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避ける
- カーブの入り口手前で十分減速して、車のコントロールを失うのを防ぐ
- LTA（レーントレーシングアシスト）を使用しない

注意

■ スノータイヤの修理または交換

スノータイヤの修理または交換は、トヨタ販売店または正規タイヤ販売店にご依頼ください。スノータイヤの脱着は、タイヤ空気圧警告バルブとトランスミッターの動作に影響を与えるためです。

運転する前に

状況に応じて次のことを行ってください。

- ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を溶かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。
- フロントウインドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファン

を正常に作動させるために、雪を取り除いてください。

- 外装ランプ・ドアミラー・ドアガラス・車両の屋根・タイヤの周辺やブレーキ装置に雪や氷が付いているときは、取り除いてください。
- 乗車する前に靴底に付いた雪をよく落としてください。

運転するときは

ゆっくりスタートし、車間距離を十分にとって控えめな速度で走行してください。

駐車するときは

- パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。パーキングブレーキはかけずに、シフトレバーをPに入れて駐車し、必ず輪止めをしてください。輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあります。

パーキングブレーキがオートモードのときは、シフトレバーをPに入れたあとにパーキングブレーキを解除してください。(→P.159)

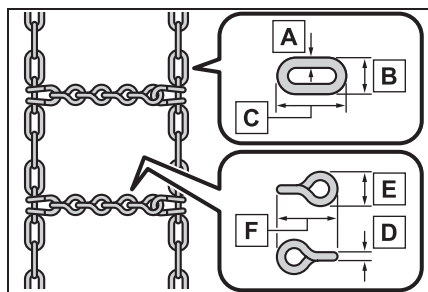
- パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、シフトレバーをPに入れた状態でシフトレバーが動かないこと※を確認してください。

※ ブレーキペダルを踏まないでPからシフトするときにロックがかかります。シフトできる場合は、シフトロックシ

ステムなどの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

タイヤチェーンの選択

タイヤチェーンを装着する際は、正しいタイヤチェーンサイズをご使用ください。チェーンサイズはタイヤサイズごとに規定されています。



- 【A】サイドチェーン (直径 3 mm)
- 【B】サイドチェーン (幅 10mm)
- 【C】サイドチェーン (長さ 30 mm)
- 【D】クロスチェーン (直径 4 mm)
- 【E】クロスチェーン (幅 14 mm)
- 【F】クロスチェーン (長さ 25 mm)

タイヤチェーンの使用に関する規制

タイヤチェーンの使用に関する規制は、地域や道路の種類によって異なります。チェーンを取り付ける前に、必ず地域の規制をご確認ください。

知識

■ タイヤチェーンについて

取り付け・取りはずし・取り扱い方法に

ついては次の指示に従ってください。

- 安全に作業できる場所で行う
- タイヤチェーンは前輪のみに取り付けてください。後輪には取り付けないでください。
- 取り付け後約 0.5 ～ 1.0km 走行したら締め直しを行う
- タイヤチェーンに付属の取扱説明書に従う

注意

■タイヤチェーンの取り付け

タイヤチェーンが装着されている場合、タイヤ空気圧警告バルブとトランスミッターが正しく機能しない場合があります。

実用車の注意事項

この車両は、重心の高さに比べて地上高が高く、トレッドが狭い実用車クラスに属します。

実用車の特徴

- 特殊な設計特性により、通常の乗用車よりも重心が高くなっています。この車両設計上の特徴により、このタイプの車両は横転する可能性が高くなります。また、ユーティリティビークルは他のタイプの車両よりも横転率が著しく高くなります。
- 地上高が高いことの利点は、道路の見通しがよくなり、問題を予測できることです。
- 車高の低いスポーツカーがオフロードで十分な性能を発揮するように設計されていないのと同様に、この車は一般乗用車と同じ速度でのコーナリングを想定して設計されていません。そのため、速度超過時に急旋回を行うと、車両が横転する可能性があります。

警告

■実用車の注意事項

死亡、重傷、または車両の損傷のリスクを最小限に抑えるために、常に次の注意事項を守ってください。

⚠ 警告

- 横転事故では、シートベルトを着用していない人は、シートベルトを着用している人よりも死亡する可能性が大幅に高くなります。そのため、運転手とすべての乗客は常にシートベルトを着用する必要があります。
- 可能な限り、急旋回や急な操作は避けてください。車両を正しく操作しないと、制御不能や横転につながり、死亡または重傷につながる可能性があります。
- ルーフキャリア（装備されている場合）に荷物を積載すると、車両の重心が高くなります。高速走行、急発進、急旋回、急ブレーキ、急な操作は避けてください。正しく操作しないと、制御不能や横転につながる可能性があります。
- 突風が吹いている時は必ず減速してください。車体の形状と重心の高さにより、通常の乗用車よりも横風の影響を受けやすくなります。減速することで、より安定した操縦が可能になります。
- 急斜面を横切って走行しないでください。まっすぐ上るか、まっすぐ下るかのどちらかの方法で走行してください。車両（または同様のオフロード車両）は、前進または後退よりも横転しやすくなります。

オフロード走行

この車両はオフロード走行を想定して設計されていません。ただし、やむを得ずオフロード走行が必要な場合は、以下の注意事項をお守りいただき、車両通行禁止区域を回避してください。

- オフロード車両の走行が許可さ

れているエリアでのみ車両を運転してください。

- 私有財産を尊重してください。私有地に入る前に、必ず所有者の許可を得てください。
- 閉鎖されている場所には入らないでください。通行を制限している門、柵、標識を守ってください。
- 整備された道路を走行してください。路面が濡れている場合は、道路の損傷を防ぐため、運転方法を変えるか、出発を遅らせる必要があります。

⚠ 警告**■ オフロード運転時の注意事項**

死亡、重傷、または車両の損傷のリスクを最小限に抑えるために、常に次の注意事項を守ってください。

- 道路外では慎重に運転してください。危険な場所で運転して不必要なリスクを負わないでください。
- オフロード走行中は、ハンドルのスポークを握らないでください。大きな衝撃を受けると、ホイールがガクンと揺れて手を怪我する可能性があります。両手、特に親指はリムの外側に添えてください。
- 砂、泥、水、雪の中で運転した後は、必ずすぐにブレーキの効き具合を確認してください。

 警告

- 背の高い草、泥、岩、砂、川などを走行した後は、車体の下部に草、茂み、紙、ぼろ布、石、砂などが付着または挟まっていないことを確認してください。これらの異物は必ず車体の下部から取り除いてください。これらの異物が車体の下部に挟まったり、挟まったりしたまま車両を使用すると、故障や火災の原因となる可能性があります。
- オフロードや起伏の多い地形を走行する際は、スピードを出し過ぎたり、ジャンプしたり、急旋回したり、物体に衝突したりしないでください。制御不能や横転を引き起こし、死亡または重傷につながる可能性があります。また、車両のサスペンションやシャーシに高額な損傷が発生するリスクもあります。

 注意**■ 水害を防ぐため**

ハイブリッドバッテリー（駆動用バッテリー）、ハイブリッドシステム、またはその他のコンポーネントに水による損傷が発生しないように、必要なすべての安全対策を講じてください。

- エンジンルームに水が浸入すると、ハイブリッドシステムに重大な損傷を与える可能性があります。また、車内に水が浸入すると、後部座席下に収納されているハイブリッドバッテリー（駆動用バッテリー）がショートする恐れがあります。
- ハイブリッドトランスミッションに水が入ると、トランスミッションの品質が低下します。故障表示灯が点灯し、車両が走行不能になる場合があります。

- 水はホイールベアリングからグリースを洗い流し、錆や早期故障の原因となるだけでなく、ハイブリッドトランスミッションケースに入り込み、ギアオイルの潤滑性を低下させる可能性もあります。

■ 水の中を運転するとき

浅い川を渡るなど、水辺を走行する場合は、まず水深と川底の硬さを確認してください。ゆっくりと運転し、深い水たまりを避けてください。

■ オフロード走行後の点検

- ブレーキドラムやブレーキディスクの周囲に砂や泥が堆積すると、ブレーキ効率に影響を及ぼし、ブレーキシステムのコンポーネントを損傷する可能性があります。
- オフロードで荒れた地形、砂、泥、水の中を走行した後は、必ず毎日メンテナンス点検を行ってください。

5-1. エアコンとデフォグガーの使い方

フロントオートエアコン 258

リヤオートエアコン 265

シートヒーター / シートベンチレーター 269

5-2. 室内灯のつけ方

室内灯一覧 271

5-3. 収納装備

収納装備一覧 274

ラゲージルーム内装備 279

5-4. その他の室内装備の使い方

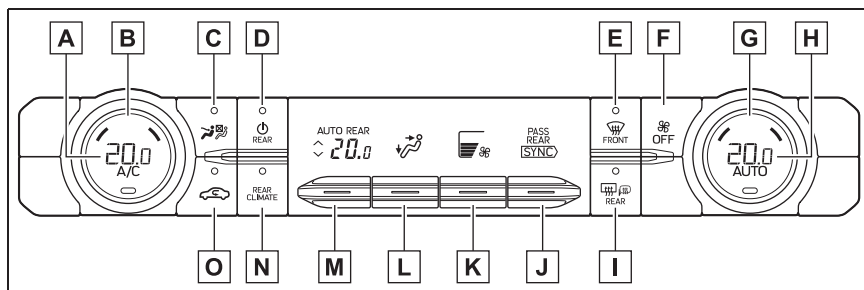
その他の室内装備 284

フロントオートエアコン

設定温度に合わせて吹き出し口と風量を自動で調整します。

空調システムは、オーディオシステムの画面に表示および操作できます。

エアコン操作について



- A** A/C スイッチ
- B** 左側温度制御スイッチ
- C** フロント席集中送風モード (S-FLOW) スイッチ (→P.263)
- D** リアエアコンシステムの ON/OFF スイッチ (→P.266)
- E** フロントデフロスタースイッチ
- F** OFF スイッチ
- G** 右側温度制御スイッチ
- H** AUTO スイッチ (→P.262)
- I** リアウインドウデフォグガー&ミラーヒータースイッチ
- J** SYNC スイッチ (各席連動モード)
- K** 風量切りかえスイッチ
- L** 吹き出し口切りかえスイッチ
- M** 後部座席温度制御スイッチ (→P.266)
- N** REAR CLIMATE スイッチ (→P.266)
- O** 内外気切りかえスイッチ

■ 温度調整スイッチ

設定温度を上げるときは温度調整

スイッチを右へまわし、下げるときは左へまわす

A/C スイッチが押されていない場合は、

送風または暖房で使用できます。

運転席、助手席、後部座席の温度は、次の場合に個別に調整できます。

- SYNC スイッチ（各席連動モード）を上下に動かしたとき。
（“PASS” と “REAR” の表示が消えます）
- 助手席側の温度制御スイッチを上下に動かしたとき。
（“PASS” 表示が消えます）
- 後部座席側の温度制御スイッチを上下に動かしたとき。
（“PASS” 表示が消えます）

空調システムを個別モードと同時モードの間で切り替えるには、SYNC スイッチ（各席連動モード）を上下に動かします。

■ 風量を切りかえる

ファン速度を設定するには、ファン速度コントロールスイッチを上下に動かします。

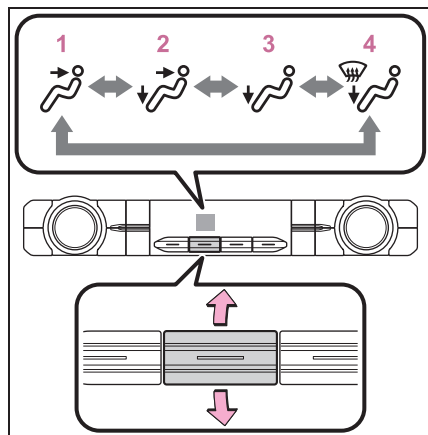
上向き：風量を上げます

下向き：風量を下げます

OFF スイッチを押すとファンが止まります。

■ 吹き出し口を切りかえる

吹き出し口を切りかえるには、吹き出し口切りかえスイッチを上下に動かします。



- 1 上半身に送風
- 2 上半身と足元に送風
- 3 足元に送風
- 4 足元に送風・フロントウィンドウガラスの曇りを取る

■ 内気循環／外気導入を切りかえる

内外気切りかえスイッチを押す

押すたびに外気導入・内気循環が切りかわります。内気循環を選択しているときは、表示灯が点灯します。

内気循環空気モードを選択すると、外気導入・内気循環空気モードスイッチのインジケーターが点灯します。

■ 冷房・除湿機能

A / C スイッチを押します。

ON のときは、作動表示灯が点灯します

■ フロントウィンドウガラスの曇りを取る

曇り止めは、フロントガラスとフロントサイドウィンドウの曇り止めに使用されます。

フロントデフロスタースイッチを押す

内気循環にしている場合は、外気導入にしてください。(自動的に外気導入に切りかわることがあります。)

風量を強くし、設定温度を上げると、より早く曇りを取ることができます。

曇りが取れたら再度フロントデフロスタースイッチを押すと前のモードにもどります。

フロントデフロスタースイッチが ON のときは、作動表示灯が点灯します。

■ リヤウインドウデフォグガー&ミラーヒーター

リヤウインドウガラスの曇りを取るときや、ドアミラーから雨滴や霜を取るときに使用してください。

リヤウインドウデフォグガー&ミラーヒータースイッチを押す

リヤウインドウデフォグガー&ミラーヒータースイッチが ON のときは、作動表示灯が点灯します。

リヤウインドウデフォグガーとミラーヒーターは、しばらくすると自動的に OFF になります。



知識

■ ガラスの曇りについて

- 車室内の湿度が高いときはガラスが曇りやすくなります。その場合は、A/C を ON にすると、吹き出し口から除湿された風が出るため、効果的に曇りを取ることができます。
- A/C を ON から OFF にすると、ガラスが曇りやすくなります。
- 内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■ ほこりの多い道路を運転する場合

すべての窓を閉めてください。窓を閉めた後でも車両が巻き上げたほこりが車内

に入ってくる場合は、外気導入に設定し、ファンの風量は OFF 以外の任意の設定にすることをおすすめします。

■ 外気導入・内気循環について

- 汚れた外気を車内に入れたくないときや、外気温度が高いときに冷房効果を高めたい場合は、内気循環にすると効果的です。
- 外気導入・内気循環は設定温度や室内温度により、自動的に切りかわる場合があります。

■ エコドライブモードでの空調システムの運転

- エコドライブモードでは、燃費を優先するためにエアコンシステムを次のように制御します。
 - ・ エンジン回転数とコンプレッサーの運転を制御して、冷暖房能力を制限します
 - ・ オート設定を選択するとファン速度が制限されます
- 空調の性能を向上させるには、次の操作を実行します。
 - ・ 風量を調整する
 - ・ エコドライブモードを OFF にする (→P.241)

■ 外気温が低いとき

除湿機能は“A/C”スイッチを押しても作動しない場合があります。

■ 換気とエアコンの臭いについて

- 車室外の空気を車室内に取り入れたいときは、外気導入にしてください。
- エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。
- 潜在的な臭気の発生を減らすには：
 - ・ エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしてお

くことをおすすめします。

- ・ エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。
- 駐車時に自動的に外気導入に切りかわることにより駐車中の換気をうながし、始動時に発生するにおいを緩和します。

■ エアコンフィルターについて

→P.326

■ カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.399)

⚠ 警告

■ フロントウインドウガラスの曇りを防止するために

外気の湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、フロントデフロスタースイッチを押さないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。

■ リヤウインドウデフォグラー&ミラーヒーター作動中の警告

ドアミラーの鏡面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

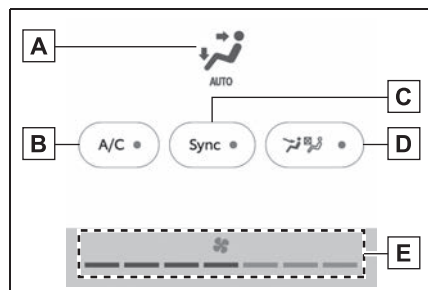
⚠ 注意

■ 補機バッテリーあがりを防ぐために
ハイブリッドシステムが OFF のときは、エアコンシステムを必要以上に ON のままにしないでください。

フロントエアコンコントロール画面（オーディオ画面）

■ メイン画面

- 1 メインメニューの  をタッチします。
- 2 Climate を選択します。
- 3 Front を選択します。



A 吹き出し口切り替えを選択します

 : 上半身に送風

 : 上半身と足元に送風

 : 足元に送風

 : 足元に送風・フロントウインドウガラスの曇りを取る

B 冷房・除湿機能

A / C スイッチが押されていない場合、周囲温度の空気または加熱された空気を送風します。

C Sync(各席連動モード)スイッチ

Sync スイッチのインジケーターが OFF の場合、運転席、助手席、後部座席の温度を個別に調整できます。

D フロント席集中送風モード (S-FLOW) を選択 (→P.263)

E 風量を設定する

■ オプション画面

- 1 メインメニューの  をタッチします。
- 2 “Climate” を選択します。
- 3 “Option” を選択します。



A エコ空調モードの ON/OFF を設定します。(→P.241)

燃費を優先するため冷房／暖房の効きを抑えます



知識

■ ガラスの曇りについて

- 車室内の湿度が高いときはガラスが曇りやすくなります。その場合は、冷房・除湿機能を ON にすると、吹き出し口から除湿された風が出るため、効果的に曇りを取ることができます。
- 冷房・除湿機能を ON から OFF にすると、ガラスが曇りやすくなります。

■ エコ空調モード

ドライブモードセレクトスイッチのエコドライブモードを選択すると、エコ空調モードが ON になります。

エコドライブモード以外を選択したときは、エコ空調モードが OFF になる場合があります。

■ エコドライブモードのエアコン作動について

- エコドライブモードは燃費性能を優先

させるため、空調システムが次のように制御されます。

- ・ エンジン回転数やコンプレッサーの作動を制御し、暖房／冷房の能力を抑制します。
- ・ オート設定での使用時、ファンの風量を抑制します。

- 空調の効きをよりよくしたいときは、次の操作を行ってください。
 - ・ 風量を調整する
 - ・ エコドライブモードを解除する(→P.241)
 - ・ エコ空調モードを OFF にする
- ドライブモードをエコドライブモードに設定すると、空調のエコモードが自動的に ON になります。この場合でも、エコ空調モードスイッチを押すことで空調エコモードを OFF にすることができます。

■ 外気温が低いとき

A/C を押しても除湿機能が作動しない場合があります。

オート設定で使用する

1 AUTO スイッチを押す

除湿機能が作動し始めます。吹き出し口と風量は、温度設定と湿度に応じて自動的に調整されます。

2 温度設定を設定する。

3 ファンを止めたいときは、OFF スイッチを押す

風量や吹き出し口を切りかえると、AUTO スイッチの作動表示灯が消灯しますが、操作した機能以外のオート設定は継続します。



知識

■ オート設定の作動について

風量は温度設定と外気の状態により自動

で調整されるため、AUTO スイッチを押した直後、温風や冷風の準備ができるまでしばらく送風が停止する場合があります。

フロント席集中送風モード (S-FLOW)

エアコンの送風がフロント席に優先されるよう、送風を自動的に制御する機能です。無駄な冷暖房を抑えることで、燃費の向上に貢献します。

フロント席集中送風モードは、次のような状況で作動します。

- リヤ席に乗員を検知していない
- フロントウインドウガラスの曇り取りが作動していない

作動中は、S-FLOW モードスイッチのインジケーターが点灯します。

■ 手でフロント席集中送風モードの作動／非作動を切りかえる

フロント席集中送風モードは、スイッチ操作によりフロント席のみへの送風と全席への送風を切りかえることができます。このとき、送風の自動制御は作動しなくなります。

メインコントロール画面で

 選択するか、エアコン操作パネルの S-FLOW モードスイッチを押して、送風を切り替えます。

- 表示灯が点灯：フロント席のみへの送風
- 表示灯が消灯：全席への送風

□ 知識

■ 送風の自動制御について

- 車室内を快適に保つために、ハイブリッドシステム始動直後や外気温によっては、乗員がいないシートにも送風されることがあります。
- ハイブリッドシステム始動後に乗員が車室内を移動した場合や乗降した場合は、乗員の有無を正しく検知できず、送風の自動制御は作動しません。

■ 送風の手動制御について

手でフロント席のみへの送風に切りかえた場合でも、リヤ席に乗員がいると自動的に全席に送風されることがあります。

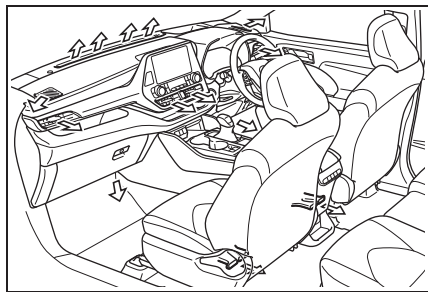
■ 送風を自動制御にもどすには

- 1 表示灯が消灯している状態で、パワースイッチを OFF にします。
- 2 60 分以上経過したら、パワースイッチを ON にします。

吹き出し口の配置・操作

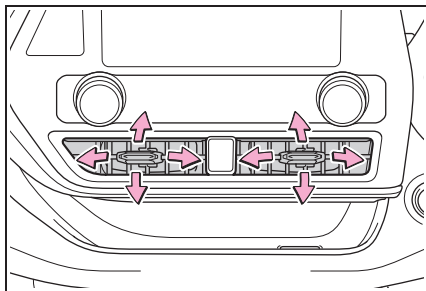
■ 吹き出し口の位置

吹き出し口の切りかえ設定により、風が出る位置や風量が変化します。



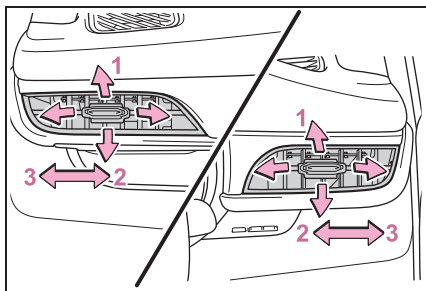
■ 風向きの調整と吹き出し口の開閉

▶ フロントセンター



風向きを調整する

▶ フロントサイド

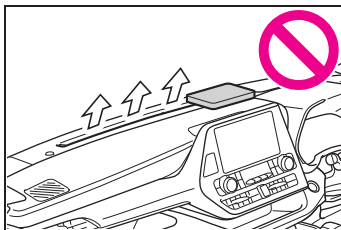


- 1 風向きを調整する
- 2 吹き出し口を開ける
- 3 吹き出し口を閉じる

⚠ 警告

■ フロントウィンドウガラスの曇り取りをさまたげないために

フロントウィンドウガラスの曇り取りをさまたげないために、吹き出し口をさえぎるようなものを置かないでください。送風がさえぎられ、曇りが取れにくくなる可能性があります。



リヤオートエアコン

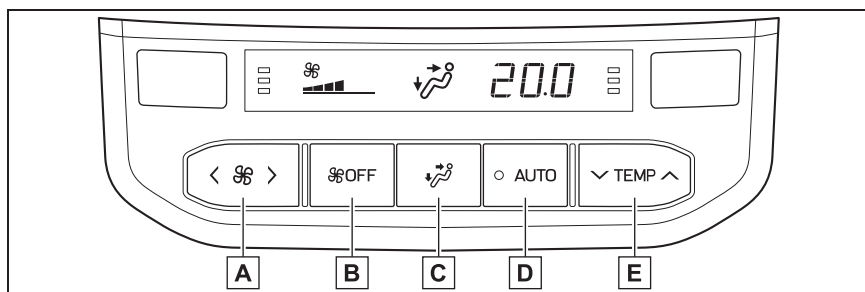
設定温度に合わせて吹き出し口と風量を自動で調整します。

リヤオートエアコンは、フロントエアコンコントロールパネルとリヤエアコンコントロールパネルを使用して操作できます。フロントエアコンコントロールパネルの“REAR CLIMATE”スイッチを押して、リヤエアコンコントロールモードを変更します。

リヤオートエアコンはオーディオ画面でも操作できます。

リヤエアコン操作スイッチについて

■ リヤエアコンコントロールパネル



A 後部座席の風量を調整する

を押して風量を上げ、 を押して風量を下げます。

B “OFF” スイッチ

“OFF” スイッチを押すとファンが停止します。

C 吹き出し口切りかえスイッチ

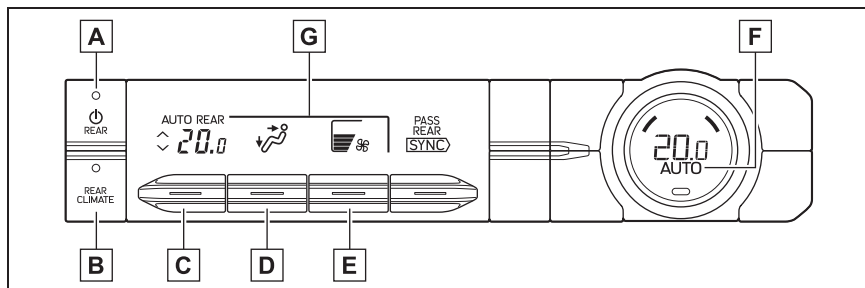
D AUTO スイッチ（オート設定）

機能が ON の場合、コントロール画面のインジケーターが点灯します。

E 後部座席温度調整スイッチ

を押すと温度が上がり、 を押すと温度下がります。

■ フロントエアコンコントロールパネル



A リヤエアコンシステムの ON/OFF スイッチ

B “REAR CLIMATE” スイッチ

“REAR CLIMATE” スイッチを押すたびに、リヤエアコン制御モードとフロントエアコン制御モードを切り替えます。

C 後部座席温度調節スイッチ

温度を設定するには、後部座席の温度調節スイッチを上下に動かします。

上向き：温度を上げます

下向き：温度を下げます

D 吹き出し口操作スイッチ

吹き出し口操作スイッチは、リヤエアコンコントロールインジケーターが表示された状態で操作できます。

E 後部座席の風量設定を調整する

後部座席の風量設定は、リヤエアコン制御インジケーターが表示されている間に調整できます。

風量速度を設定するには、風量速度コントロールスイッチを上下に動かします。

上向き：風量を上げます

下向き：風量を下げます

F AUTO スイッチ（オート設定）（→P.267）

自動モードスイッチは、リヤエアコン制御インジケーターが表示されている間に調整できます。

G リヤエアコンコントロールインジケーター

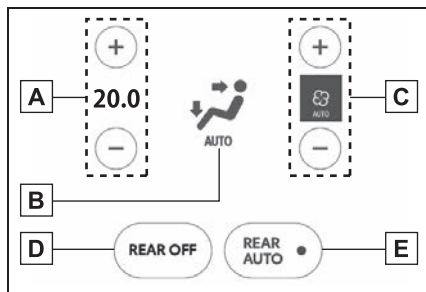
“REAR CLIMATE” スイッチを押すと、リヤエアコンコントロールインジケーターが数秒間表示されます。

■ リヤエアコンコントロール画面（オーディオシステム画面）

2 “Climate” を選択します。

3 “Rear” を選択します。

1 メインメニューの をタッチします。

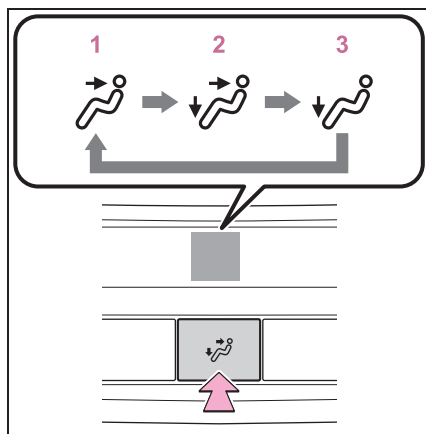


- A** 後部座席の温度設定を調整します
- B** 吹き出し口操作スイッチ
- C** 後部座席の風量を調整する
- D** “OFF” スイッチ
“OFF” スイッチを押すとファンが停止します。
- E** 自動モード切り替え

吹き出し口を切りかえる

■ リアエアコンコントロールパネル

吹き出し口切りかえスイッチを押す
押すたびに吹き出し口が切りかわります。



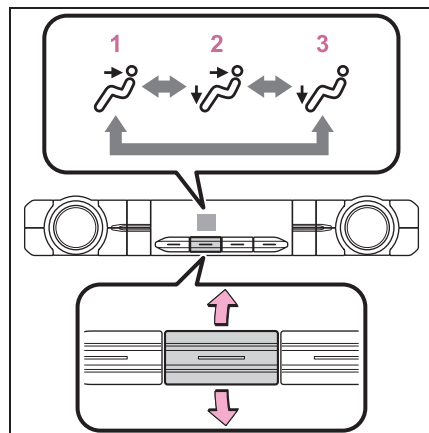
- 1** 上半身に送風

- 2** 上半身と足に送風

- 3** 足元に送風

■ フロントエアコンコントロールパネル

吹き出し口を変更するには、吹き出し口切りかえスイッチを上下に動かします。



- 1** 上半身に送風

- 2** 上半身と足に送風

- 3** 足元に送風

■ リアエアコンコントロール画面

吹き出し口を変更するには、吹き出し口切りかえスイッチを選択します。

使用する空気出口は、スイッチを選択するたびに切りかわります。

: 上半身に送風

: 上半身と足に送風

: 足元に送風

オート設定で使用する

- 1** AUTO スイッチを押す

- 2 温度を調整する
- 3 ファンを止めたいときは、OFF スイッチを押す

風量や吹き出し口を切りかえると、ディスプレイ上の AUTO スイッチ 作動表示灯が消灯しますが、操作した機能以外のオート設定は継続します。



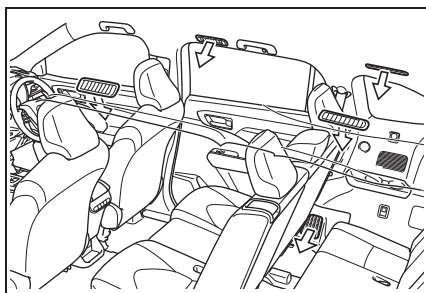
■ オート設定の作動について

風量は温度設定と外気の状態により自動で調整されるため、AUTO スイッチを押した直後、温風や冷風の準備ができるまでしばらく送風が停止する場合があります。

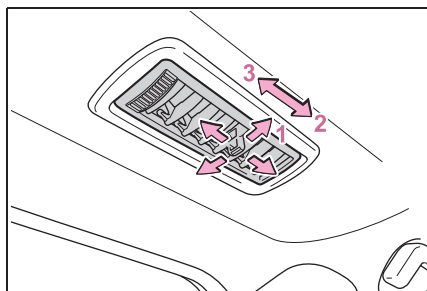
吹き出し口について

■ 吹き出し口の位置

吹き出し口の切りかえ設定により、風が出る位置や風量が変化します。



■ 風向きの調整と吹き出し口の開閉



- 1 風向きの調整
- 2 吹き出し口を開ける
- 3 吹き出し口を閉じる



注意

■ 補機バッテリーあがりを防ぐために

ハイブリッドシステムが OFF のときは、エアコンシステムを必要以上に ON のままにしないでください。

シートヒーター ※ / シートベンチレーター ※

※ グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

● シートヒーター

シートの表面を暖めることができます。

● シートベンチレーター

シート内部に装備されたファンで換気することにより、シート表面の通気をよくすることができます。

⚠ 警告

■ 低温やけどについて

次の方がステアリングヒーター／シートヒーターにふれないようにご注意ください。

- 乳幼児・お子さま・お年寄り・病人・体の不自由な方
- 皮膚の弱い方
- 疲労の激しい方
- 深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬、風邪薬など）を服用された方

⚠ 注意

■ シートヒーターの損傷を防ぐために

凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針などの鋭利なものを突き刺したりしないでください。

■ 補機バッテリーあがりを防ぐために

ハイブリッドシステムが OFF のときは使用しないでください。

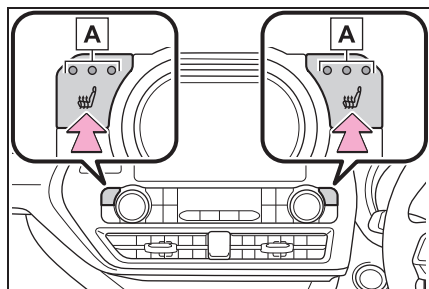
シートヒーターを使うには

スイッチを押すたびに、作動状態が次のように切りかわります。

強（3 個点灯）→ 中（2 個点灯）→ 弱（1 個点灯）→ OFF

動作中はレベルインジケーター（橙色）

A が点灯します。



📖 知識

■ 作動条件

パワースイッチが ON のとき

⚠ 警告

■ 異常加熱や低温やけどを防ぐために

シートヒーターを使用するときは次のことを守りください。

- 毛布・クッションなどを使用しない
- 長時間連続使用しない

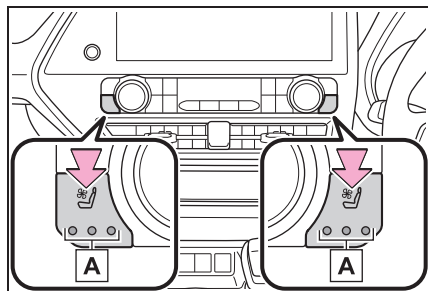
シートベンチレーターを使うには

スイッチを押すたびに、作動状態が次のように切りかわります。

強（3 個点灯）→ 中（2 個点灯）→ 弱（1 個点灯）→ OFF

動作中はレベルインジケーター（緑色）

A が点灯します。



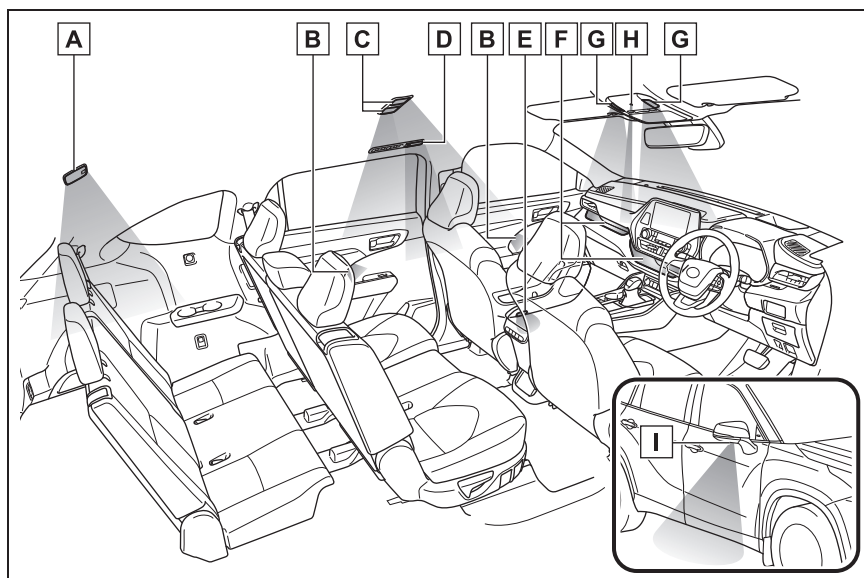
 知識

■ 作動条件

パワースイッチが ON のとき

室内灯一覧

室内灯の位置

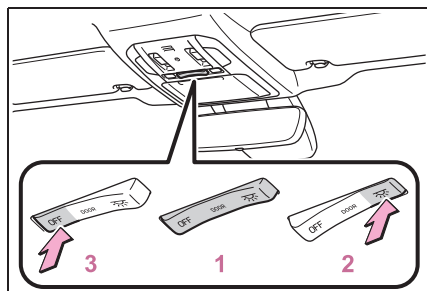


- A** リヤインテリアランプ (→P.272)
- B** アンビエントランプ ※
- C** リヤパーソナルランプ ※ (→P.272)
- D** リヤパーソナルランプ ※ (→P.272)
- E** ドアカーテシランプ
- F** オープントレイランプ ※
- G** フロントパーソナルランプ (→P.272)
フロントインテリアランプ (→P.272)
- H** シフトレバーランプ
- I** ドアミラー照明 ※

※ グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

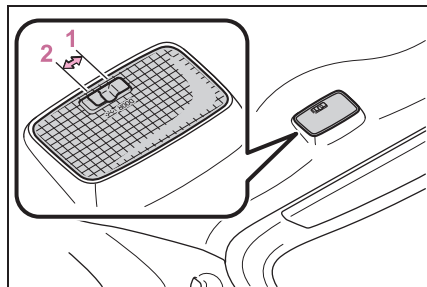
インテリアランプを操作するには

■ フロントインテリアランプ



- 1 ドアの開閉に連動してランプの点灯・消灯が切りかわります。
- 2 ランプを点灯します
- 3 ランプを消灯します

■ リヤインテリアランプ



1 ドア連動 ON

リヤインテリアランプは、フロントインテリアランプと連動して点灯・消灯します。

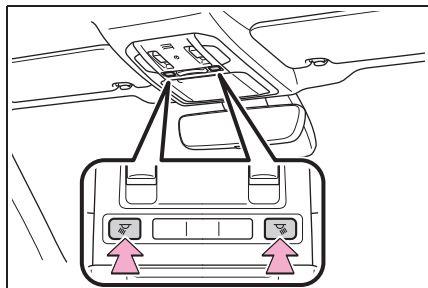
フロントインテリアランプのドアポジション（ドア連動）がONでドアの開閉を行うと、ドアの開閉に連動してランプの点灯・消灯が切りかわります。

2 ランプを点灯します

パーソナルライトの操作

■ フロントパーソナルランプ

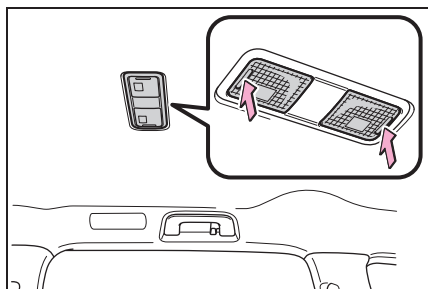
ランプの点灯・消灯を切りかえます



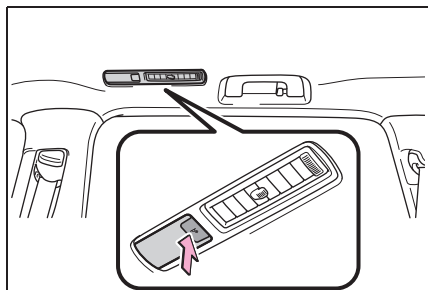
■ リヤパーソナルランプ

ランプの点灯・消灯を切りかえます

▶ パノラマムーンルーフ非装着車



▶ パノラマムーンルーフ装着車



 知識

■ イルミネーテッドエントリーシステム

電子キーの検知・ドアの施錠／解錠・ドアの開閉・パワースイッチのモードにより、各部の照明が自動的に点灯・消灯します。

■ 補機バッテリーあがりを防ぐために

パワースイッチを OFF にしたときに、室内灯が点灯したままの場合、約 20 分後に自動消灯します。

■ 室内灯の自動点灯について

SRS エアバッグの作動時または後方から強い衝撃を受けたときは、室内灯が約 20 分間自動で点灯します。

手動操作で消灯することもできますが、二次災害を防ぐため、安全が確保できるまでは消灯しないことをおすすめします。(衝撃の度合いや事故の状況によっては点灯しないことがあります。)

■ カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.399)



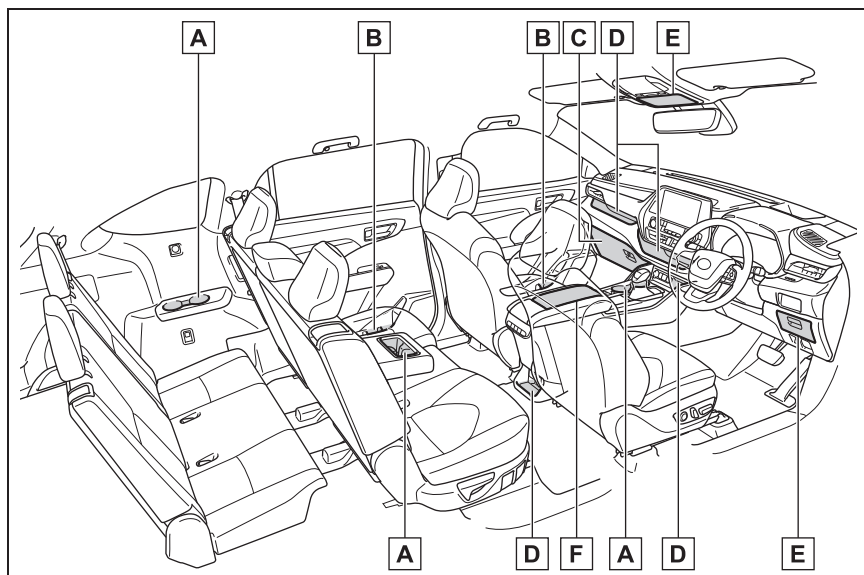
注意

■ 補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

収納装備一覧

収納装備の位置



- A** カップホルダー (→P.276)
- B** ボトルホルダー (→P.276)
- C** グローブボックス (→P.275)
- D** オープントレイ ※ (→P.277)
- E** 小物入れ (→P.277)
- F** コンソールボックス (→P.275)

※ グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■ 収納装備に放置してはいけないもの

メガネ、ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。放置したまましていると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

- 室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こすことがあります。
- 室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして火災につながる場合があります。

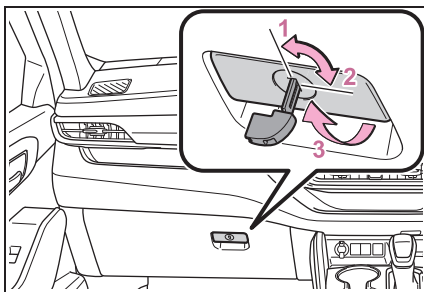
警告

■ 収納装備を使用しないときは

運転中や収納装備を使用しないときは、フタを閉じてください。

急ブレーキや急旋回時などに、開いたふたが体に当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

グローブボックスを使うには



- 1 メカニカルキーで解錠
- 2 メカニカルキーで施錠
- 3 開ける（ノブを引く）

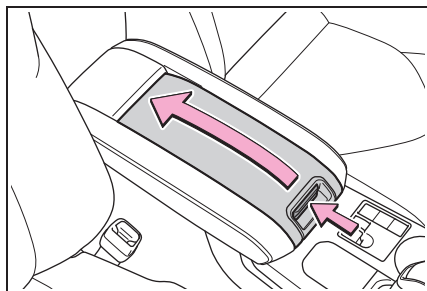
知識

■ グローブボックスランプ

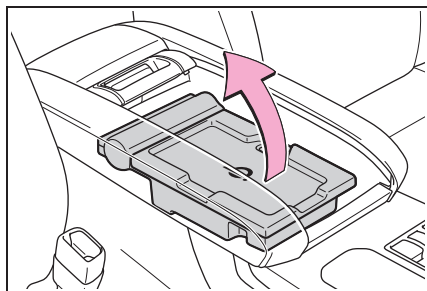
テールランプが点灯するとグローブボックスランプが点灯します。

コンソールボックスを使うには

- 1 ボタンを押して、コンソールボックスのフタをスライドさせます。



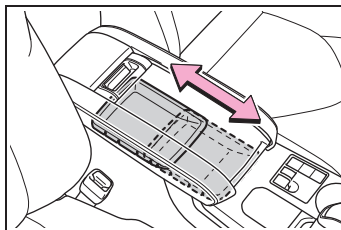
- 2 ワイヤレス充電器を搭載した車両：ワイヤレス充電器を持ち上げます。



知識

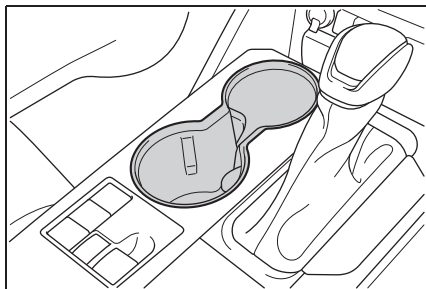
■ コンソールボックス内のトレイについて

トレイは前後にスライドさせることができます。



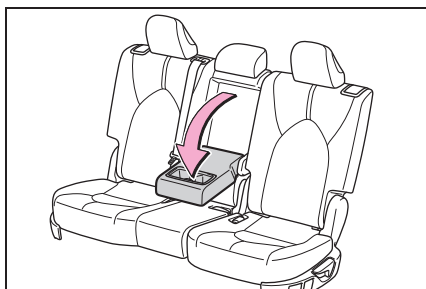
カップホルダーを使うには

▶ フロントシート

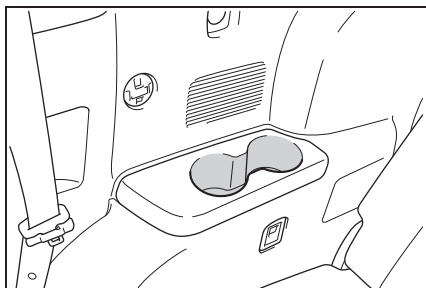


▶ セカンドシート

アームレストを引き下げます。



▶ サードシート



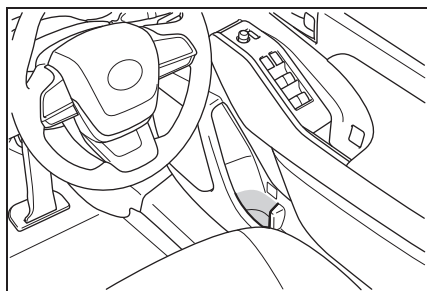
⚠ 警告

■ 収納してはいけないもの

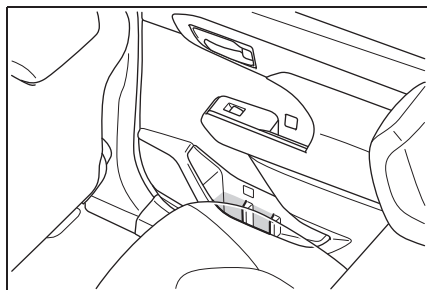
カップホルダーにはカップや缶、水筒以外は入れないでください。急ブレーキや事故により収納していたものが飛び出し、けがをするおそれがあります。やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタを閉めておいてください。

ボトルホルダーを使うには

▶ フロントドア



▶ リヤドア



□ 知識

■ ボトルホルダーについて

- ボトルを保管するときは、キャップを閉めてください。
- ボトルのサイズや形状によっては保管できない場合があります。

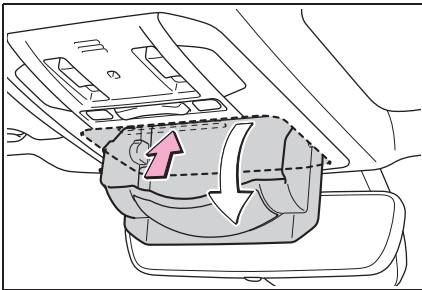
⚠ 注意

■ 収納してはいけないもの

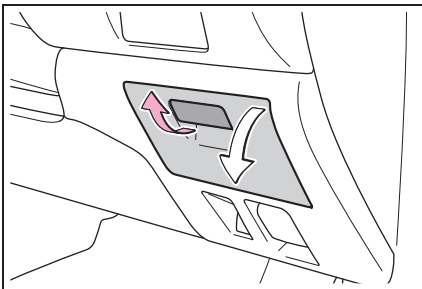
ボトルホルダーには、ジュースなどが入っている紙コップ・ガラス製のコップなどを収納しないでください。ジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。

小物入れを使うには

- ▶ オーバーヘッドコンソール
フタを押します。



- ▶ 運転席側インストルメントパネル
タブを引いて開きます。



⚠ 警告

■ 収納してはいけないもの（オーバーヘッドコンソール）

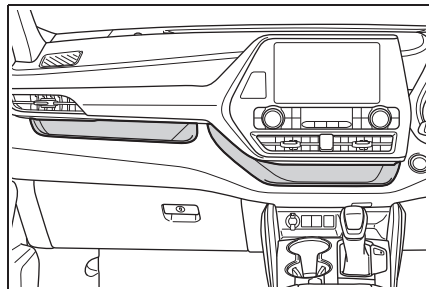
200 g を超えるアイテムは保管しないでください。小物入れが開き、中のあるものが落ちて思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ 運転中の注意（運転席側インストルメントパネル）

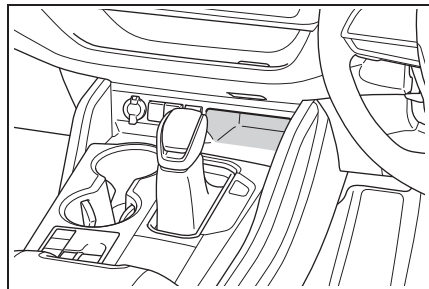
運転中は補助ボックスを閉じたままにしてください。走行中の思わぬ事故や急停止により、けがをするおそれがあります。

トレイを開く

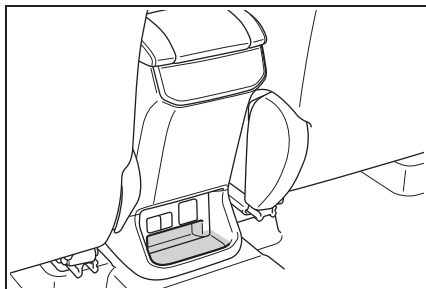
- ▶ インストルメントパネル



- ▶ フロントコンソール



▶ リヤ※



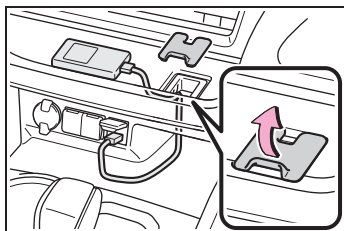
※ グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 知識

■ ケーブルパススルー（インストルメントパネル）

オープントレイには、USB ポート、USB 充電ポート、または電源コンセントからトレイにケーブルを通すための穴が設けられています。

カバーを取り外します。



- 簡単にずれたり転がったりする可能性のあるアイテムをトレイに保管しないでください。
- トレイの端よりも高い位置に物を積み重ねないでください。
- トレイの端からはみ出す可能性のあるものをトレイに入れないでください。

⚠ 警告

■ オープントレイに適さないもの

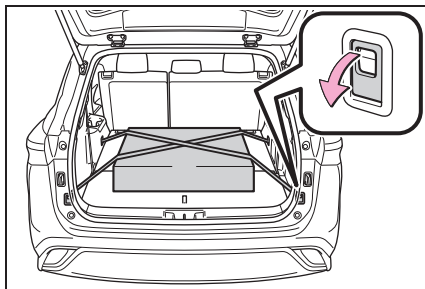
オープントレイにものを置くときは、次の注意事項を守ってください。急ブレーキや急ハンドル時などに収納していたものが飛び出し、ペダル操作のさまたげとなるおそれがあるほか、運転者の注意力がにぶり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

ラゲージルーム内装備

デッキフック

フックを引き下げて使用します。

フックを使って荷物を固定することができます。

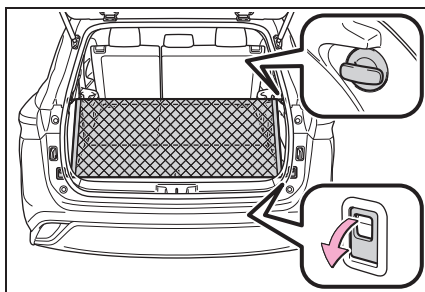


警告

■ デッキフックを使用しないときは必ずデッキフックをもとの位置にもどしておいてください。

カーゴネットフック

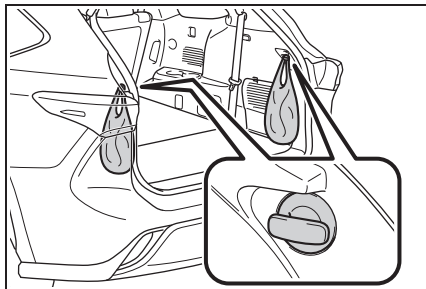
カーゴネットを吊るすには、買い物フックとデッキフックを使用します。



警告

■ カーゴネットを使用しないときは必ず買い物フックをもとの位置にもどしておいてください。

買い物フック



注意

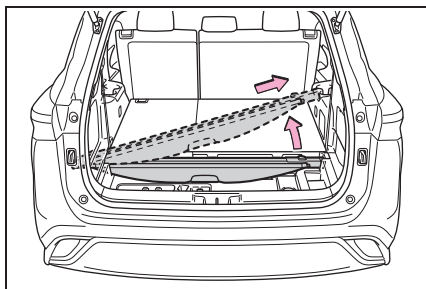
■ 買い物フックの損傷を防ぐためフックに 3 kg を超える重さの物体を吊るさないでください。

ラゲージトレイを使うには

■ ラゲージカバーユニットの取り外し（サイドデッキボード非装着車）

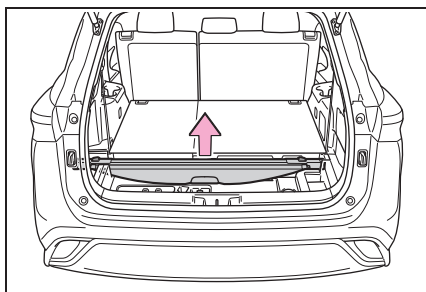
- 1 サードシートを折りたたむ。（→P.118）

- 2 センターデッキボードを取り外し、ラゲージカバーユニットを取り出します。(→P.365)



■ ラゲージカバーユニットの取り外し (サイドデッキボード装着車)

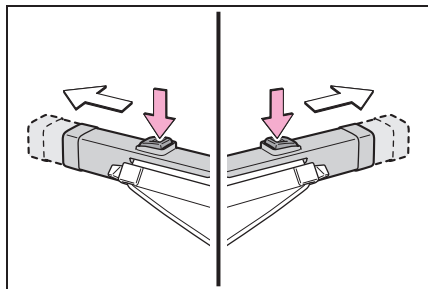
- 1 サードシートを折りたたむ。(→P.118)
- 2 センターデッキボードとサイドデッキボードを取り外し、ラゲージカバーユニットを取り出します。(→P.365) (→P.282)



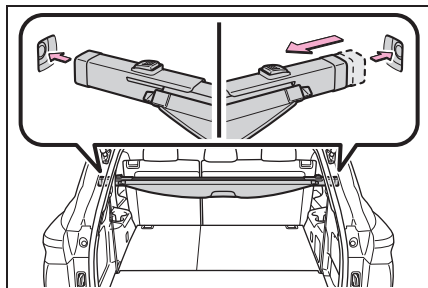
■ ラゲージカバーの取り付け

- 1 サードシートを折りたたむ。(→P.118)

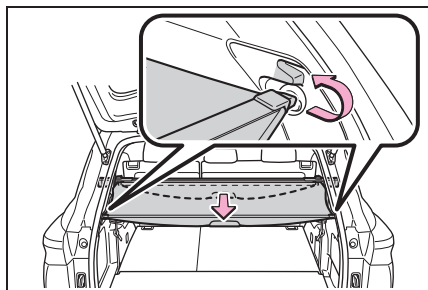
- 2 ロックリリースボタンを押して、ラゲージカバーユニットの端を伸ばします。



- 3 ラゲージカバーユニットを取り付けるには、ロックリリースボタンを上に向けて、一方の端をくぼみに挿入し、もう一方の端を圧縮してもう一方のくぼみに挿入します。

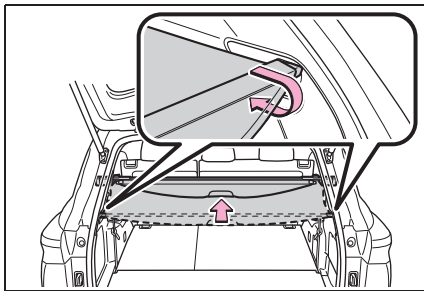


- 4 ラゲージカバーを引き出し、アンカーに引っ掛けます。

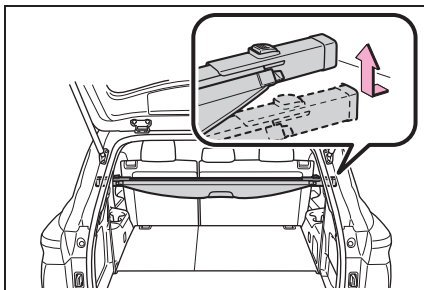


■ ラゲージカバーの取り外し

- 1 左右のアンカーからカバーを外し、格納します。



- 2 ラゲージカバーの端を圧縮し、ラゲージカバーを持ち上げます。

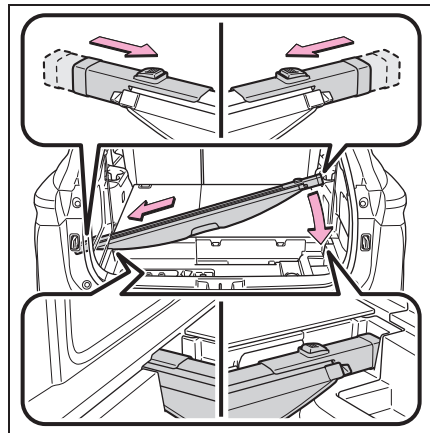


■ ラゲージカバーの収納（サイドデッキボード装着車）

- 1 センターデッキボードを取り外します。（→P.365）
- 2 ラゲージカバーユニットを保管するには、両端がロックされるまで圧縮します。

ロック解除ボタンを上にし、カバー部分

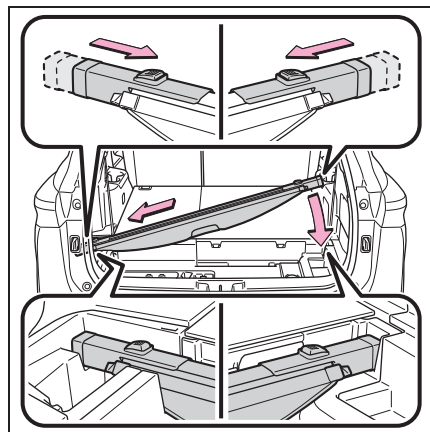
を車両後部に向けて保管してください。



■ ラゲージカバーの収納（サイドデッキボード付き車両）

- 1 センターデッキボード（→P.365）とサイドデッキボード（→P.282）を取り外します。
- 2 ラゲージカバーユニットを保管するには、両端がロックされるまで圧縮します。

ロック解除ボタンを上にし、カバー部分を車両後部に向けて保管してください。



⚠ 警告

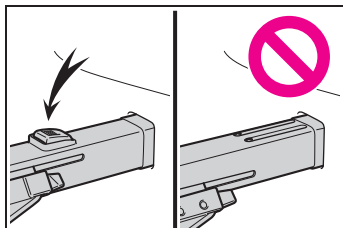
■ ラゲージカバーを使用するときは

- ラゲージカバーを取り付け/収納するときは、ラゲージカバーがしっかりと取り付け/収納されていることを確認してください。そうしないと、急ブレーキや衝突時に重傷を負う可能性があります。
- ラゲージカバーの上に何も置かないでください。急ブレーキや急旋回の場合、アイテムが飛び散り、乗員に衝突する可能性があります。予期せぬ事故につながり、死亡や重傷を負う可能性があります。
- お子さまが荷物カバーに登らないようにしてください。ラゲージカバーに登ると、ラゲージカバーが損傷し、お子さまが死亡または重傷を負う可能性があります。
- ラゲージカバーユニットを顔や体に向けてるとしないでください。カバーの端が急に伸びると怪我をする恐れがあります。

⚠ 注意

■ ラゲージカバーを使用するときは

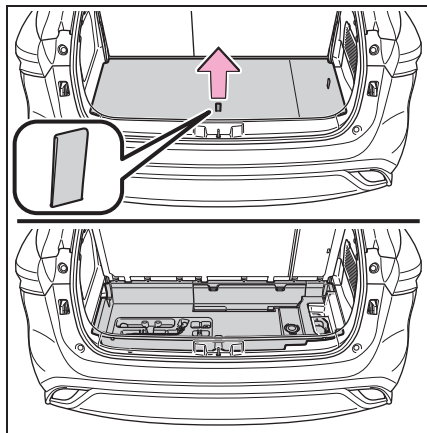
- ラゲージカバーの上に重いものを置かないでください。
- ロック解除ボタンが上を向くように、カバーユニットを正しい方向に取り付けます。



補助ボックス

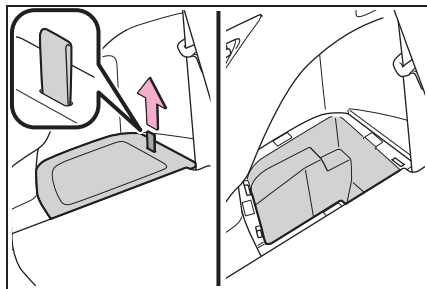
▶ トレイ下のセンターデッキ

ストラップを上を引いてセンターデッキボードを開きます。



▶ デッキサイドボックス ※

ストラップを上を引いてサイドデッキボードを開きます。



※ グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

**警告****■ 運転中の注意**

デッキボードを閉じたままにしてください。急ブレーキの場合、乗員がデッキボードやデッキボードの下に収納されたものにぶつかり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

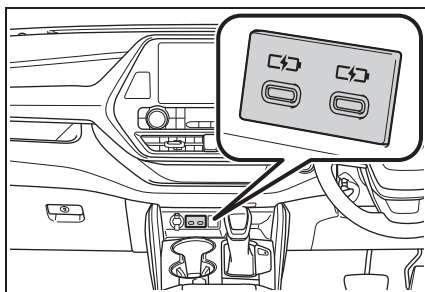
その他の室内装備

充電用 USB 端子

DC5V/3A（消費電力 15.75W）の電源としてお使いください。この USB 端子は充電専用でありデータ転送などは行えません。また、使用する機器によっては、正常に充電できない場合があります。ご使用になる機器に付属の取扱説明書もお読みください。

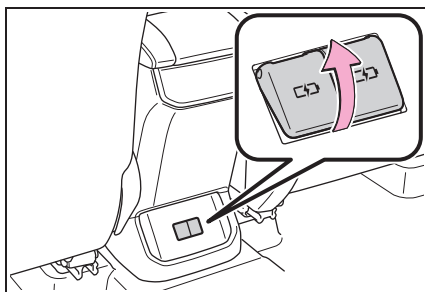
■ 充電用 USB 端子を使用するには

▶ インストルメントパネル



▶ リヤ

フタを開けて使用する



■ 充電用 USB 端子の作動条件

パワースイッチが ACC、ON のとき

■ 充電用 USB 端子が正常に働かないおそれのある状況

- DC5V/3A（消費電力 15.75W）をこえる電力を要求する機器を接続したとき
- パソコンと通信を行う機器を接続したとき
- 接続機器の電源が OFF のとき（機器により異なります）
- 炎天下に駐車したあとなど、車室内の温度が高いとき

■ 使用する外部機器について

一部の機器では、充電中に充電がいったん停止後、再充電を開始する場合がありますが、故障ではありません。

⚠ 注意

■ 充電用 USB 端子の損傷を防ぐために

- 端子部に異物を入れないでください。
- 水や液体をかけないでください。
- コンソールボックスの背面:USB 充電ポートを使用しないときは、フタを閉めてください。ポートに異物や液体が入ると、ショートの原因になります。
- 強い力や衝撃を加えないでください。
- 分解や改造、取りはずしをしないでください。

■ 外部機器の損傷を防ぐために

- 機器を車室内に放置しないでください。車室内が高温となり、故障の原因となります。
- 機器が接続されているときに、外部機器や外部機器のケーブルを押し下げたり、不要な力を加えたりしないでください。

⚠ 注意

■ **補機バッテリーあがりを防ぐために**
ハイブリッドシステムが停止した状態で、充電用 USB 端子を長時間使用しないでください。

ワイヤレス充電器※を使うには

※ グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ワイヤレスパワーコンソーシアム (WPC) によるワイヤレス充電規格 Qi に適合したスマートフォンやモバイルバッテリーなどの携帯機器を充電エリアに置くだけで、携帯機器を充電することができます。

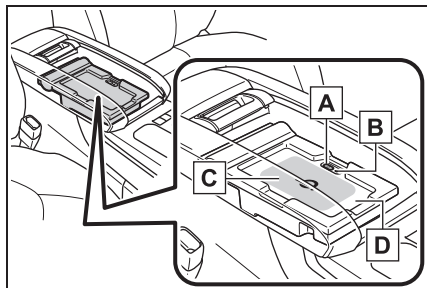
充電トレイより大きい携帯機器には本機能を使用できません。また、携帯機器によっては、正常に作動しない場合があります。ご使用になる携帯機器に付属の取扱説明書もお読みください

■ 「Qi」マークについて

「Qi」、Qi マークは、ワイヤレスパワーコンソーシアム (WPC) の登録商標です。



■ 各部の名称



A 電源スイッチ

B 作動表示灯

C 充電エリア

D 充電トレイ

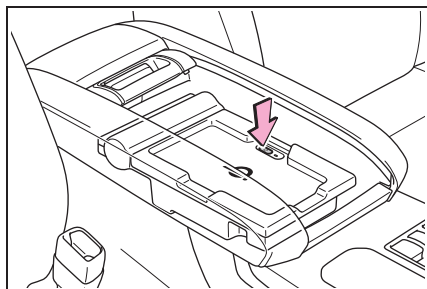
■ 充電する

1 タブを押して、コンソールボックスのフタをスライドさせます。(→P.275)

2 ワイヤレス充電器の電源スイッチを押します。

スイッチをもう一度押すと、ワイヤレス充電器の電源が切れます。

電源を入れると、作動表示灯 (緑色) が点灯します。



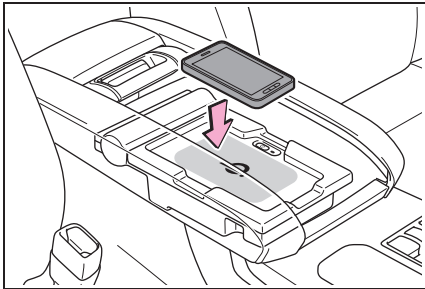
3 携帯機器の充電面を下にして、機器の下端が充電トレイの下端に来るように置いてください。携帯機器によっては、充電コイルがデバイスの中央にない場合

があります。この場合、充電コイルが充電領域の中央になるように携帯機器を配置します。

充電中は、動作表示灯（橙色）が点灯します。

充電が開始されない場合は、携帯機器を充電エリアの中央にできるだけ近づけてください。充電を行わないと、動作表示灯が緑色とオレンジ色に交互にゆっくりと点灯し、充電コイルの動作音が繰り返し聞こえる場合があります。

充電が完了すると、動作表示灯（緑色）が点灯します。



■ 作動表示灯の点灯状況

作動表示灯	状況
消灯	充電不可
緑色（点灯）	待機中（充電可能状態）
	充電完了時※
橙色（点灯）	充電エリアに携帯機器が置かれている（携帯機器を識別）
	充電中

※ 携帯機器によっては、充電完了後も表示灯が橙色に点灯し続ける場合があります。

■ ワイヤレス充電器が正しく作動しない状況

ワイヤレス充電器が正しく作動しない状況と、想定される原因の対処方法は次のとおりです。

■ 再充電機能

- 充電が完了し、充電停止状態が一定時間経過すると充電を再開します。
- 充電エリア内で携帯機器を大きく動かすと、充電コイルが外れ、充電が一時的に停止することがあります。ただし、充電エリア内で充電コイルが検出されると、ワイヤレス充電器内の充電コイルがもう一方のコイルの近くに移動し、充電が再開されます。

作動表示灯	想定される原因・対処方法
橙色（1 秒間に 1 回の点滅をくり返す）	車両とワイヤレス充電器の通信不良 →ハイブリッドシステムが始動しているときは、一度ハイブリッドシステムを停止し、再始動してください。 パワースイッチのモードが ACC のときは、一度ハイブリッドシステムを始動してください。
緑色（点灯）	スマートエントリー&スタートシステムがキーの検出を行っている →キーの検出が完了するのを待ちください。
橙色（3 回連続点滅）	異物検知： 充電エリア内に金属製の異物があり、異物の異常検知機能が働いた →充電エリア内にある異物を取り除いてください。
	携帯機器のすれ： →携帯機器の充電用コイルの中心が充電エリアからはずれたため、充電用コイルの異常過熱防止機能が働いた
橙色（4 回連続の点滅をくり返す）	ワイヤレス充電器内の温度が一定値をこえたことによる安全停止： →いったん充電を停止し、携帯機器を充電トレイから取り出して、温度が下がるまでしばらく待ってから充電を開始してください。



知識

■ワイヤレス充電器は、次の場合に操作できます。

パワースイッチが ACC または ON のとき

■使用できる携帯機器について

- ワイヤレス充電規格 Qi 準拠機器を使用できます。ただし、Qi ワイヤレス充電規格を満たすすべてのデバイスとの互換性を保証しているものではありません。
- 携帯電話やスマートフォンをはじめと

する携帯機器を対象とした 5W 以下の低電力給電を対象としています。

■携帯機器にカバーやアクセサリを付けるときは

携帯機器に、「Qi」非対応のカバーやアクセサリを付けた状態で充電しないでください。カバー（一部メーカー純正品を含む）やアクセサリの種類によっては充電できない場合があります。充電エリアに携帯機器を置いても充電が行われなときは、カバーやアクセサリをはずしてください。

■充電中に、AM ラジオにノイズが入るときは

ワイヤレス充電器の電源を切り、ノイズが小さくなっているか確認してください。ノイズが少なくなったら、ワイヤレス充電器の電源スイッチを2秒間押し続けてください。ワイヤレス充電器の周波数を変更し、ノイズを低減する場合があります。周波数を変更すると、作動表示灯が2回点滅（橙色）します。

■充電についての留意事項

- 車内で電子キーが検出されない場合は、充電ができません。ドアを開閉すると、充電が一時的に停止する場合があります。
- 充電中は、ワイヤレス充電器と携帯機器が温かくなりますが、異常ではありません。充電中に携帯機器が温かくなったときは、携帯機器側の保護機能により、充電が停止することがあります。この場合、携帯機器の温度が十分に下がってから、再度、充電を行ってください。

■作動中に発生する音

電源スイッチがONになっているとき、またはポータブル機器を識別しているときに、操作音が聞こえることがあります。これは誤動作ではありません。

■清掃について

→P.299



警告

■運転中の注意

携帯機器を充電する場合、安全のため、運転者は運転中に携帯機器本体の操作をしないでください。

■走行中の注意

コードレスヘッドフォンなど小型軽量の携帯機器は、走行中に充電しないでください。非常に軽量のため充電トレイから飛び出し、思わぬ事故の原因になるおそれがあり危険です。

■電波がおよぼす影響について

植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器などの医療用電気機器を装着されている方は、ワイヤレス充電器のご使用にあたっては医師とよくご相談ください。ワイヤレス充電器の動作が医療用電気機器に影響を与えるおそれがあります。

■故障ややけどを防ぐために

次のことをお守りください。

お守りいただかないと装置の故障や損傷、発火、発熱によるやけど、または感電につながるおそれがあります。

- 充電中に、充電トレイと携帯機器のあいだに金属物を挟まない
- 充電トレイにアルミなどのシールや金属製のものを貼り付けない
- 携帯機器本体および外付けのケースやカバーなどに対して、充電エリアと接触する側にアルミなどのシールや金属製のものを貼り付けたまま充電しない
- 小物入れがわりにものを置かない
- 強い力や衝撃をかけない
- 分解や改造、取りはずしをしない
- 指定された携帯機器以外は充電しない
- 磁気を帯びたものを近付けない
- 充電エリアに、ほこりがかぶった状態で充電しない

警告

- 布などをかぶせて充電しない

注意**■機能が正常に働かないおそれのある状況**

次のような場合は正常に充電しない場合があります。

- 携帯機器が満充電のとき
- 有線接続で携帯機器を充電中のとき
- 充電エリアと携帯機器のあいだに異物があるとき
- 充電により、携帯機器の温度が高温になっているとき
- 炎天下などにより、充電トレイ付近の温度が 35℃以上になっているとき
- 携帯機器の充電面を上にして置いたとき
- 携帯機器の充電コイルが充電エリアからはずれているとき
- 携帯機器が充電トレイより大きいとき
- 折りたたみ式等の小型の携帯機器の充電コイルが充電エリアからはずれているとき
- カメラレンズが携帯機器の表面から 3 mm 以上突き出ている
- 近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
- 携帯機器の充電面と充電エリアのあいだに、次のような 2mm 以上の厚みがあるものが挟まれたり、装着されたりしているとき
 - ・ 厚みがあるケースやカバー

- ・ 充電面が平らでないように、凹凸または傾いた表面で取り付けられたケースまたはカバー
- ・ 厚みがあるデコレーション
- ・ 指リング（ポップソケット含む）やストラップなどのアクセサリ
- 携帯機器が、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき
 - ・ アルミ箔などの金属の貼られたカード
 - ・ アルミ箔を使用したタバコの箱
 - ・ 金属製の財布やかばん
 - ・ 小銭
 - ・ カイロ
 - ・ CD や DVD などのメディア
 - ・ 金属製のアクセサリ
 - ・ 金属製のケースまたはカバー
 - ・ 携帯機器の充電面側に磁石が入った手帳型ケース
- 近くで電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき
- 電子キーが車内にないとき
- 2 つ以上の携帯機器を同時に充電トレイに置いているとき

充電が異常だったり、その他の理由で作動表示灯が点滅し続ける場合は、ワイヤレス充電器が故障している可能性があります。トヨタ販売店にお問い合わせください。

⚠ 注意

■故障やデータ破損を防止するために

- 充電中に、充電エリアにクレジットカード、その他の磁気カードや磁気記録メディアなどを近付けると、磁気の影響によりデータが消えるおそれがあります。また、腕時計などの精密機器を充電エリアに近づけると、故障の原因となりますので、近づけないでください。
- 携帯機器の充電面と充電エリアの間に、交通系 IC カードなど非接触型 IC カードを挟んだまま充電しないでください。IC チップが非常に高温になり、携帯機器や IC カードが破損するおそれがあります。特に、非接触型 IC カードを収納できるケースやカバーを携帯機器に装着したまま充電しないようにご注意ください。
- 携帯機器は車室内に放置しないでください。炎天下など車室内が高温となり、内蔵電池の故障の原因となります。

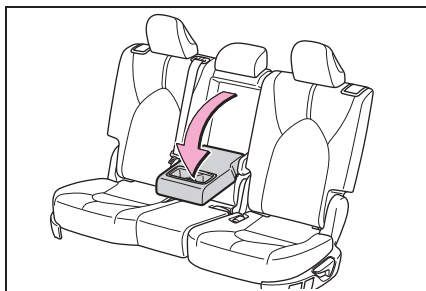
■スマートフォンのOSを更新したとき

スマートフォンの OS バージョンを更新したとき、充電の仕様が大きく変更されることがあります。詳しくは各メーカーのホームページ情報等でご確認ください。

ハイブリッドシステムを停止した状態で、ワイヤレス充電器を長時間使用しないでください。

リヤアームレスト

手前に倒して使用します。



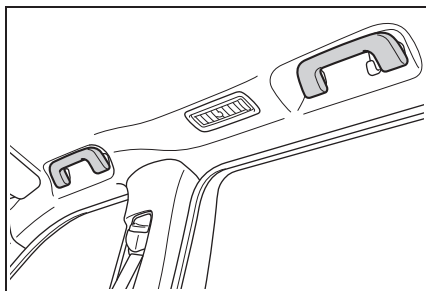
⚠ 注意

■アームレストの破損を防ぐために

過度の負荷をかけないでください。

アシストグリップ

天井に取り付けられているアシストグリップは、走行中にシートに座っている状態で体を支えるときにお使いください。



⚠ 警告

■アシストグリップについて

アシストグリップは、乗降時やシートから立ち上がるときなどに使用しないでください。

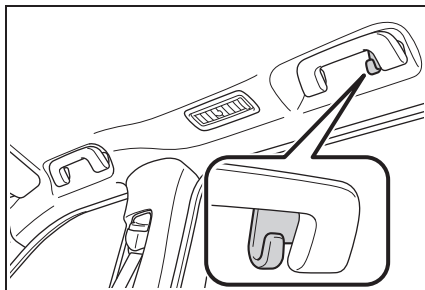
⚠ 注意

■破損を防ぐために

アシストグリップに重いものをかけたり、過度の負荷をかけないでください。

コートフックを使うには

コートフックは、リヤのアシストグリップに付いています。



警告

■ コートフックへかけてはいけないもの

ハンガーや他の硬いもの、鋭利なものをかけないでください。SRS カーテンシールドエアバッグがふくらんだときにそれらのものが飛び、重大な傷害または死亡につながるおそれがあります。

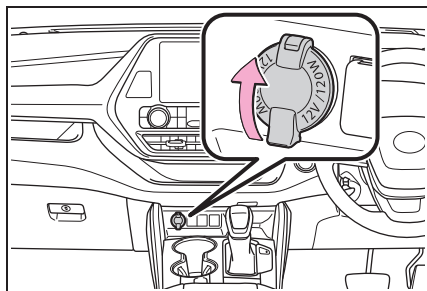
アクセサリースocketを使うには

DC12V で最大電流 10A（最大消費電力 120W）以下の電気製品を使用するときの電源としてお使いください。

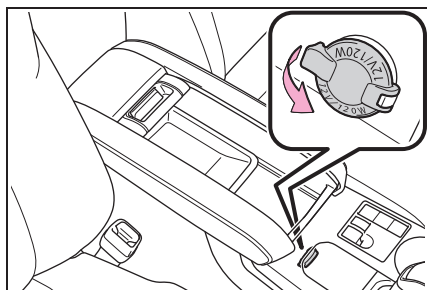
電気製品の使用時は、車両に装着されているすべてのアクセサリースocketの合計で、最大消費電力が 120W 以下になるようにしてください。

▶ フロント

フタを開ける。



▶ コンソールボックスの中
フタを開ける。



知識

■ 作動条件

パワースイッチが ACC または ON のとき

■ パワースイッチを OFF にするとき

モバイルバッテリーなどの、充電機能を備えた電気製品をはずしてください。接続したままにしておくと、パワースイッチを正常に OFF することができなくなる場合があります。

注意

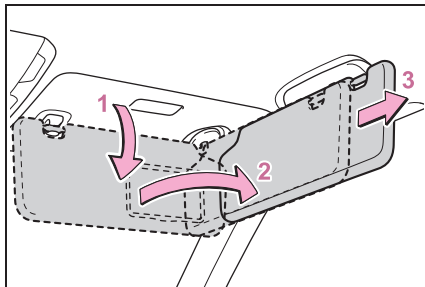
■ アクセサリースocketを使用しないときは

ショートや故障を防ぐために、アクセサリースocketに異物が入ったり、飲料水などがかかったりしないように、使用しないときは、フタを閉めておいてください

⚠ 注意

■補機バッテリーあがりを防ぐために
ハイブリッドシステムが停止した状態で
アクセサリソケットを必要以上に
使用しないでください。

サンバイザーを使うには

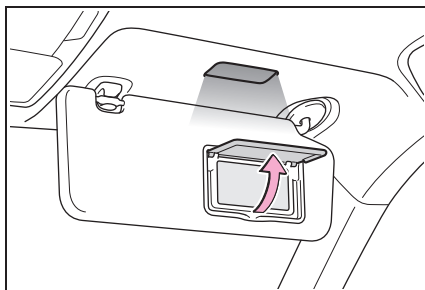


- 1 前方をさえぎるには、バイザーを下ろす
- 2 側方をさえぎるには、バイザーを下ろした状態でフックからはずし、横へまわす
- 3 エクステンダーを使用するには、バイザーを横にした状態からうしろへ引く

バニティミラーを使うには

カバーを開けます。

カバーを開けるとランプが点灯します。



☐ 知識

■補機バッテリーあがりを防止するために

パワースイッチが OFF の場合、バニティランプが点灯したままのときは約 20 分後に自動消灯します。

⚠ 注意

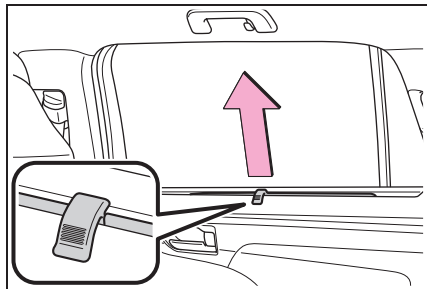
■補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムが停止した状態で長時間ランプを点灯しないでください。

リヤドアサンシェード※

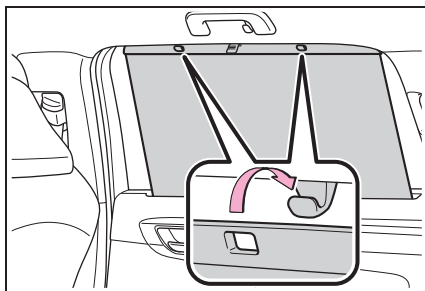
※ グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

- 1 タブを引き上げます。



- 2 サンシェードをアンカーに引っ掛けます。

サンシェードを下げるには、タブを少し引き上げてシェードをアンカーから外し、ゆっくりと下げます。



 注意

■ サンシェードの正常な動作を保証するには

- リヤドアサンシェードの操作を妨げる可能性のある場所に物を置かないでください。
- リヤドアサンシェードの損傷を防ぐため、リヤドアサンシェードに過度の負荷をかけたり、物を取り付けたりしないでください。

6-1. お手入れのしかた

外装の手入れ 296

内装の手入れ 299

6-2. メンテナンス

メンテナンス要件 302

6-3. 簡単な点検・部品交換

セルフサービスの注意事項 304

ボンネット 306

ガレージジャッキ 307

エンジンルーム 308

12 ボルトバッテリー 313

タイヤについて 316

タイヤ空気圧について 323

ホイールについて 324

エアコンフィルターの交換 326

駆動用電池冷却用吸入口の清掃
..... 327

電子キーの電池交換 330

ヒューズの点検・交換 332

電球（バルブ）の交換 335

外装の手入れ

お手入れは、部位や素材にあった適切な方法で実施してください。

手入れの作業要領

- 水を十分かけながら車体・足まわり・下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす
- 車体はスポンジやセーム皮のようなやわらかいもので洗う
- 汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す
- 水をふき取る
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックスがけを行う

清潔な表面に水が玉状にならない場合は、車体が冷えている時にワックスを塗布してください。



知識

■自動洗車機を使うとき

- お車を洗う前に：
 - ・ ドアミラーを格納する
 - ・ パワーバックドアを停止する（装備されている場合）

洗車は車の前方から始めてください。運転する前にミラーを広げてください。

- 自動洗車機で使用されるブラシは、車両表面や部品（ホイールなど）に傷をつけ、塗装を損傷する恐れがあります。
- 洗車機によっては、リヤスポイラーが引っかかり洗車できない場合や、傷付いたり破損したりするおそれがあります。

■高圧洗浄機を使うとき

室内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアやガラスの開閉部に近付けすぎたり、同じ場所に連続してあてたりしないでください。

■洗車などで車に水をかけたとき

キーを携帯して洗車などで水をドアハンドルにかけた場合、施錠／解錠動作をくり返すことがあります。その場合は次のような処置をして、洗車などをしてください。

- 電子キーを車両から2m以上離れた場所に保管する（電子キーの盗難に注意してください）
- 電子キーを節電モードに設定し、スマートエントリー&スタートシステムの作動を停止する（→P.110）

■ホイール・ホイールキャップについて

- 中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。
- 洗剤を使用したあとは放置せずに水で十分洗い流してください。
- 塗装の損傷を防ぐため、次のことを必ずお守りください。
 - ・ 酸性・アルカリ性および研磨剤の入った洗剤を使用しない
 - ・ 硬いブラシを使用しない
 - ・ 夏場の走行後や駐車後でホイールが熱いときは、洗剤を使用しない

■ブレーキパッドやディスクローターについて

水に濡れた状態のまま駐車しておくと、錆びて貼り付くことがあります。洗車後は低速で走行し、ブレーキを数回かけて乾燥させてから駐車してください。

■バンパーについて

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

■メッキ部品のお手入れについて

メッキ部品の汚れが落ちにくい場合は、次の方法でお手入れをしてください。

- 中性洗剤を水で約5%に薄めてやわらかい布に含ませふき取る
- 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取る
- 油分を含んだ汚れはアルコール系ウェットティッシュなどで油を浮かせてからふき取る

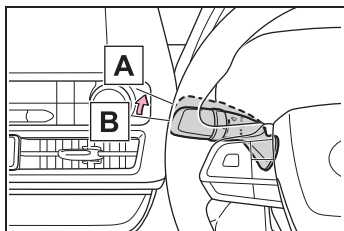
⚠ 警告

■洗車をするとき

エンジンルーム内に水をかけないでください。電気部品などに水がかかると、車両火災につながるおそれがあり危険です。

■フロントウインドウガラスを清掃するとき

ワイパースイッチを OFF にしてください。“AUTO” モードになっていると、次のようなときにワイパーが不意に作動し、指などを挟み重大な傷害を受けたり、ワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。



A Off

B AUTO

- 雨滴センサー上部のフロントウインドウガラスに手でふれたとき
- 水分を含んだ布などを雨滴センサーに近付けたとき

- フロントウインドウガラスに衝撃を与えたとき

- 車内から雨滴センサー本体にふれるなどして衝撃を与えたとき

■排気管について

排気管は排気ガスにより高温になります。洗車などでふれる場合は、十分に排気管が冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

■リヤバンパーについて

リヤバンパーの塗装に傷がつくと、次のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。トヨタ販売店にご相談ください。

- BSM
- RCTA
- PKSB
- クリアランスソナー

⚠ 注意

■塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために

- 次のような場合は、ただちに洗車してください。
 - ・海岸地帯を走行したあと
 - ・凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
 - ・コールトールまたは樹液が付着したとき
 - ・虫の死がい・虫のふん・鳥のふんなどが付着したとき
 - ・ばい煙・油煙・粉じん・鉄粉・化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
 - ・ほこり・泥などで激しく汚れたとき

 注意

- ・塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき

● 塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。

● ホイール保管時は、腐食を防ぐために汚れを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

■ ランプの清掃

● 注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。ランプを損傷させるおそれがあります。

● ランプにワックスがけを行わないでください。レンズを損傷するおそれがあります。

■ 自動洗車機を使用するとき

ワイパースイッチを OFF にしてください。“AUTO” モードになっていると、不意にワイパーが作動してワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。

■ 高圧洗浄機を使用するときは

● 洗浄時に高圧洗浄機でカメラやカメラ周辺に直接水を当てないでください。高い水圧により衝撃が加わり、装置が正常に作動しなくなるおそれがあります。

● エンブレム裏に搭載されているレーダーに直接水をかけないでください。部品故障の原因になるおそれがあります。

● ノズルの先端を、下記部品の結合部やブーツ類（ゴムまたは樹脂製のカバー）、コネクタ類に近付けすぎないでください。高い水圧がかかることにより、部品が損傷するおそれがあります。

- ・ 駆動系部品
- ・ ステアリング部品
- ・ サスペンション部品
- ・ ブレーキ部品

● モール、バンパーなど樹脂部分は変形、損傷するおそれがあるため、洗浄ノズルと車体との距離を 30cm 以上離してください。

また、同じ場所へ連続して水をあてないでください。

● フロントウインドウガラス下部へ連続して水をあてないでください。

エアコンの空気取り入れ口があり、エアコンが正常に作動しなくなるおそれがあります。

● 高圧洗浄機で車両の下まわりを洗浄しないでください。

内装の手入れ

お手入れは、部位や素材に合った適切な方法で実施してください。

室内の手入れをするには

- 掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る
- 汚れが落ちない場合は、中性洗剤を水で約 1%に薄めてやわらかい布に含ませふき取る水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る。



知識

■カーペットの洗浄について

カーペットは常に乾いた状態を保つことをおすすめします。洗浄には、市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げ、円を描くように塗り込んでください。直接水をかけたりせず、ふき取ってから乾燥させてください。

■シートベルトの取り扱いについて

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布やスポンジを使って洗ってください。シートベルトのすり切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。

⚠ 警告

■車両への水の浸入

- 床・ラゲージルーム内・駆動用電池冷却用吸入口など、車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。
駆動用電池や電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。
- SRS エアバッグの構成部品や電気配線をぬらさないでください。
(→P.28)
電気の不具合により、SRS エアバッグが作動したり、正常に機能しなくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ワイヤレス充電器装着車：ワイヤレス充電器（おくだけ充電）(→P.285)をぬらさないでください。発熱によるやけど、または感電により重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■内装の手入れをするときは（特にインストルメントパネル）

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■ 清掃するとき使用する溶剤について

- 変色・しみ・塗装はがれの原因になるため、次の溶剤は使用しないでください。
 - ・ シート以外：ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸性またはアルカリ性の溶剤・染色剤・漂白剤
 - ・ シート：シンナー・ベンジン・アルコール、その他の酸性やアルカリ性の溶剤
- 艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

■ 革の傷みを避けるために

皮革の表面の劣化や損傷を避けるために、次のことをお守りください。

- 革に付着したほこりや砂はすぐに取り除く
- 直射日光に長時間さらさないようにする特に夏場は日陰で車を保管する
- ビニール製・プラスチック製・ワックス含有のものは、車内が高温になると革に張り付くおそれがあるため、革張りの上に置かない

■ 床に水がかかると

水で洗わないでください。オーディオやフロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因となったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

■ フロントウインドウガラスの内側を掃除するときは

前方カメラのレンズに、ガラスクリーナーが付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。(→P.177)

■ リヤウインドウガラスの内側を掃除するときは

- 熱線やアンテナを損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線やアンテナにそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。
- 熱線やアンテナを引っかいたり、損傷させないように気を付けてください。

本革部分の手入れをするには

- 掃除機などでほこりや砂を取り除く
- 薄めた洗剤をやわらかい布に含ませ、汚れをふき取る
ウール用の中性洗剤を水で約 5% に薄めて使用してください
- 水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤をふき取る
- 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取り、風通しのよい日陰で乾燥させる

知識

■ 本革部分のお手入れの目安

品質を長く保つため、年に 2 回程度の定期的なお手入れをおすすめします。

合成皮革部分の手入れをするには

- 掃除機などでほこりを取り除く
- 中性洗剤を水で約 1%に薄めて
やわらかい布に含ませふき取る
- 水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

メンテナンス要件

安全で経済的な運転を確保するためには、日常的なケアと定期的なメンテナンスが不可欠です。トヨタでは、以下のメンテナンスを推奨しています。

知識

■ 整備サービスはどこで受けるべきですか？

お車の定期メンテナンスやその他のメンテナンス・修理は、最寄りのトヨタ販売店に依頼してください。

トヨタの整備士は、技術情報速報、サービスヒント、販売店内での研修プログラムを通じて、最新のサービス情報を常に習得している、十分に訓練された専門スタッフです。彼らは、お客様の車両を整備する前にトヨタ車の作業方法を学んでおり、作業中に学ぶことはありません。

トヨタ販売店では、専用のトヨタ工具やサービス機器に多額の投資を行っています。これにより、より高品質な作業を、より低コストで実施することが可能です。

トヨタ販売店のサービス部門では、お客様の車両に必要なすべての定期メンテナンスを、確実かつ経済的に実施します。

警告

■ 車両が適切に整備されていない場合

不適切な整備は、車両に重大な損傷を与えるだけでなく、死亡または重傷につながるおそれがあります。

■ 補機バッテリーの取り扱いについて

補機バッテリーの端子や関連部品には、脳障害を引き起こすことが知られている鉛および鉛化合物が含まれています。取り扱い後は必ず手を洗ってください。(→P.313)

定期メンテナンス

定期メンテナンス整備は、メンテナンススケジュールに従って指定された間隔で実施してください。

メンテナンス項目やスケジュールの詳細については、“Warranty and Service Booklet” を参照してください。

ご自身で行うメンテナンス

自分でメンテナンスするのはどうですか？

多くのメンテナンス項目は、多少の機械的知識と基本的な自動車用工具があれば、ご自身で簡単に行うことができます。本章では、それらの作業方法を簡単に説明しています。

ただし、一部のメンテナンス作業には特殊な工具や技術が必要です。これらは、資格を持つ整備士が行うのが最適です。たとえご自身で行うメンテナンスが経験豊富であっても、修理やメンテナンスはトヨタ販売店に依頼することをお勧めします。販売店では、お客様の車両のメンテナンス記録を保管します。この記録は、保証サービスを受ける際に役立つ場合があります。

知識

■ あなたの車は修理が必要ですか？

性能や音の変化、そして修理が必要であることを示す視覚的な手がかりに注意してください。重要な兆候には次のような

ものがあります：

- エンジンの失火、息継ぎ、または異常な金属音（ピン音）
- 顕著なパワーの低下
- エンジンからの異音
- 車両の下に液体の漏れ（ただし、エアコン使用後に水が滴るのは正常です。）
- 排気音の変化（これは危険な一酸化炭素漏れを示している可能性があります。窓を開けて走行し、すぐに排気システムをメンテナンスしてください。）
- タイヤが平らに見える、カーブ時に過度なタイヤのきしみ音、タイヤの不均一な摩耗
- 平坦な道路を直進しているときに車両が片側に寄る
- サスペンションの動きに関連する異音
- ブレーキの効きが悪い、ブレーキペダルが柔らかい感触、ペダルが床に近づく、ブレーキ時に車両が片側に寄る
- エンジン冷却水の温度が常に通常より高い（→P.69）

これらの兆候のいずれかに気づいた場合は、できるだけ早くお車をトヨタの販売店にお持ちください。お車には調整や修理が必要な可能性があります

セルフサービスの注意事項

ご自身でメンテナンスを行う場合は、必ずこのセクションに記載された正しい手順に従ってください。

メンテナンス

項目	部品と工具
補機バッテリーの 状態 (→P.313)	・ グリース ・ 通常のレンチ（端子クランプボルト用）
エンジン／パワーコントロールユニットの冷却水量 (→P.311)	・ “Toyota Super Long Life Coolant” または、同等の高品質なエチレングリコール系で、非シリケート、非アミン、非亜硝酸塩、非ホウ酸塩の長寿命ハイブリッド有機酸技術を採用したクーラント ・ “Toyota Super Long Life Coolant” は、クーラント 50%と純水 50%のブレミックスです。 ・ じょうご（冷却水の補充専用）
エンジンオイルの量 (→P.310)	・ “Toyota Genuine Motor Oil” または同等品 ・ 布またはペーパータオル ・ じょうご（エンジンオイルの補充専用）

項目	部品と工具
ヒューズ (→P.332)	・ 元のヒューズと同じアンペア定格のヒューズ
ハイブリッドバッテリー（駆動用バッテリー） 吸気口 (→P.328)	・ 掃除機など ・ プラスドライバー
電球 (→P.335)	・ 元の電球と同じ番号・ワット数の電球 ・ プラスドライバー ・ マイナスドライバー ・ レンチ
ラジエーターとコンデンサー (→P.312)	—
タイヤの空気圧 (→P.323)	・ タイヤ空気圧計 ・ 圧縮空気源
ウォッシャー液 (→P.312)	・ 水、または不凍液を含むウォッシャー液（冬季用） ・ じょうご（水またはウォッシャー液の補充専用）

警告

エンジンルームには、突然動く可能性のある機構や、熱くなる部品、電気が流れる部品、液体が多数あります。死亡や重傷を防ぐため、次の注意事項を守ってください。

 警告**■ エンジンルームで作業する場合**

- マルチインフォメーションディスプレイの“ACCESSORY”または“IGNITION ON”表示、および“READY”インジケーターが両方とも消灯していることを確認してください。
- 走行直後は、エンジン、パワーコントロールユニット、ラジエーター、排気マニホールドなどに触れないよう注意してください。これらは高温になっている場合があります。オイルやその他の液体も熱い場合があります。
- 紙や布など、燃えやすいものをエンジンルームに置かないでください。
- 燃料に火を近づけたり、火花を発生させたり、喫煙しないでください。燃料の蒸気は引火性があります。
- ブレーキ液は手や目に害を及ぼし、塗装面を傷めることがありますので注意してください。ブレーキ液が手や目に付着した場合は、すぐにきれいな水で洗い流してください。違和感が残る場合は、医師に相談してください。

■ 電動冷却ファンやラジエーターグリル付近で作業する場合

必ずパワースイッチが OFF になっていることを確認してください。

パワースイッチが ON の場合、エアコンが作動している、または冷却水温が高いと、電動冷却ファンが自動的に回転を始めることがあります。

(→P.312)

■ 保護メガネ

飛散物や落下物、液体の飛び散りなどが目に入るのを防ぐため、保護メガネを着用してください。

 注意**■ エアクリーナーフィルターを取り外した場合**

エアクリーナーフィルターを取り外した状態で走行すると、空気中の汚れによりエンジンの摩耗が過度に進む可能性があります。

■ 液量が低い場合または高い場合

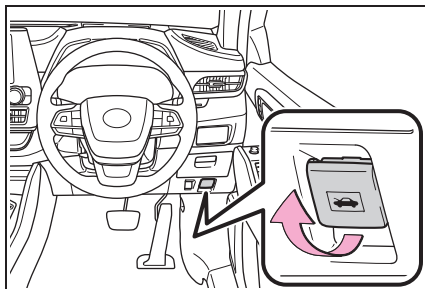
ブレーキパッドの摩耗やアキュムレーター内の液量が高い場合、ブレーキ液の液量がわずかに減少するのは正常です。

リザーバタンクの補充が頻繁に必要な場合は、重大な問題を示している可能性があります。

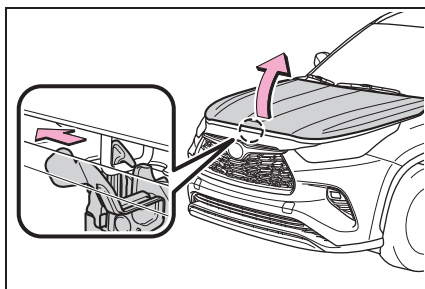
ボンネット

ボンネットを開けるには

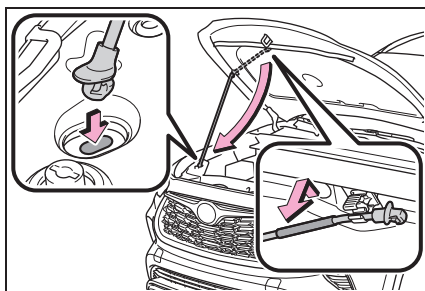
- 1 ボンネット解除レバーを引く
ボンネットが少し浮き上がります。



- 2 レバーを引き上げてボンネットを開ける



- 3 ボンネットステーをステー穴に差し込む



⚠ 警告

■ 走行前の確認

ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ けがを防ぐために

走行後のボンネットステーは高温になっています。熱くなったボンネットステーにさわるとやけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

■ ボンネットステーをステー穴に差し込んだあとは

ボンネットが頭や体の上に落ちてこないように、正しく差し込まれているか確認してください。

⚠ 注意

■ ボンネットを閉めるときは

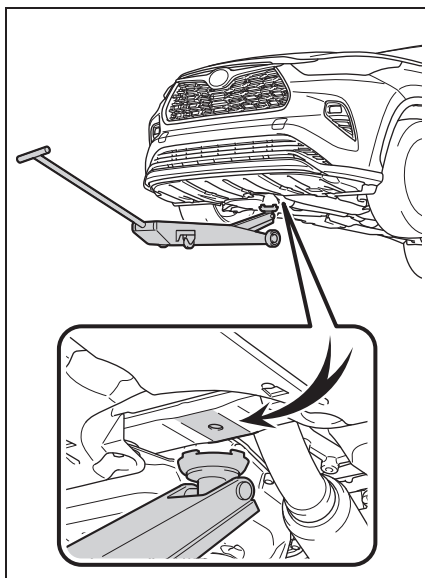
ボンネットステーをステー穴から取りはずし、クリップに正しくもどしてください。ボンネットステーが差し込まれた状態で閉めると、ボンネットが損傷するおそれがあります。

ガレージジャッキ

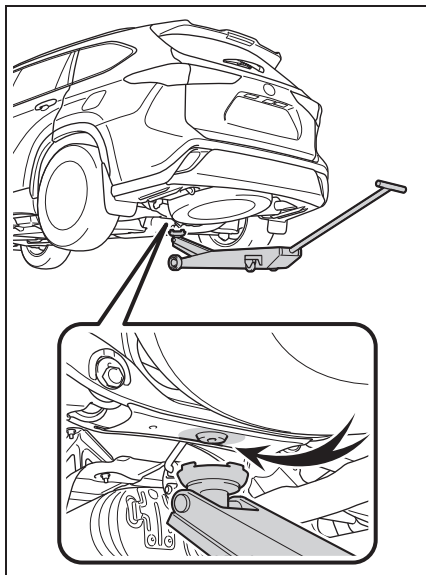
ガレージジャッキを使用するときは、ガレージジャッキに付属の取扱説明書に従って、安全に作業してください。ガレージジャッキを使用して車両を持ち上げるときは、正しい位置にガレージジャッキをセットしてください。正しい位置にセットしないと、車両が損傷したり、けがをするおそれがあります。

ジャッキポイントの位置を確認する

■ フロント側

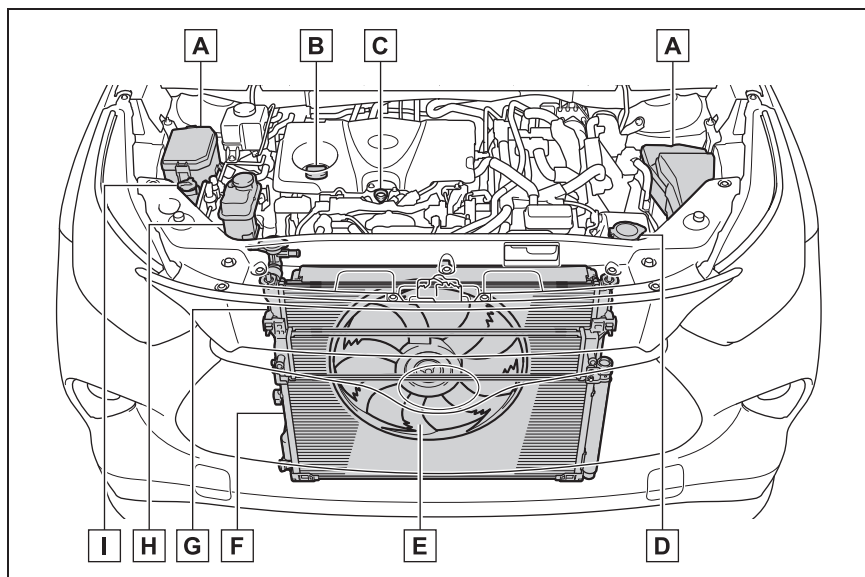


■ リヤ側



エンジンルーム

構成部品



- A** ヒューズボックス (→P.332)
- B** エンジンオイル注入口キャップ (→P.310)
- C** エンジンオイルレベルゲージ (→P.308)
- D** ウォッシャー液タンク (→P.312)
- E** 電動冷却ファン
- F** コンデンサー (→P.312)
- G** ラジエーター (→P.312)
- H** パワーコントロールユニット冷却水リザーバー (→P.311)
- I** エンジン冷却水リザーバー (→P.311)

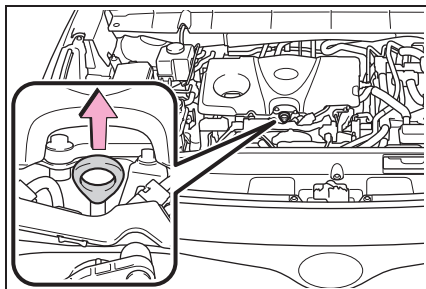


■ 12 ボルトバッテリー
→P.313

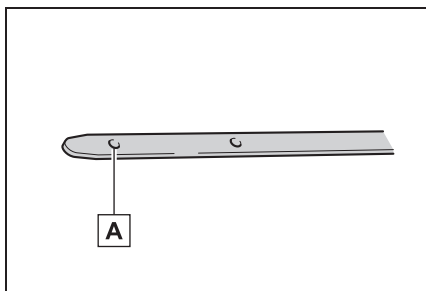
エンジンオイルの点検

エンジンが作動温度に達し、エンジンを切った状態で、オイルレベルゲージでオイルレベルを確認してください。

- 1 車両を平坦な場所に駐車してください。エンジンを暖機した後、ハイブリッドシステムを停止し、オイルがエンジン底部に戻るまで約 5 分間待ちます。
- 2 オイルレベルゲージの先端に布を当てた状態で引き抜きます。



- 3 オイルレベルゲージをきれいに拭き取ります。
- 4 オイルレベルゲージを完全に挿し込みます。
- 5 端を布で押さえながらオイルレベルゲージを引き抜き、オイルレベルが低レベルマークより上にあるか確認してください。



A 低レベルマーク

オイルレベルゲージの形状は、車両やエンジンの種類によって異なる場合があります。

- 6 オイルレベルゲージを拭き、完全に挿しもどしてください。

⚠ 注意

■ エンジンの重大な損傷を防ぐため

定期的にオイルレベルを確認してください。

📖 知識

■ エンジンオイルの消費量

運転中は一定量のエンジンオイルが消費されます。以下の状況では、オイル消費量が増加し、オイルメンテナンス間隔の間にエンジンオイルの補充が必要になる場合があります。

- エンジンが新品のとき（例えば、車両購入直後やエンジン交換後など）
- 低品質のオイルや不適切な粘度のオイルを使用したとき
- 高回転運転、高負荷運転、加減速運転を頻繁に行ったとき
- 長時間のアイドリング運転、渋滞運転を頻繁に行ったとき

■ エンジンオイルレベルの上昇

エンジンを暖機せずに繰り返し走行すると、エンジン内部の結露による水分や未燃焼燃料がエンジンオイルに混入し、エンジンオイルレベルが上昇することがあります。ただし、これは故障ではありません。例えば、以下の状況ではエンジンの暖機が困難になる場合があります。

- 短距離を走行するとき
- 低速で走行するとき
- 外気温が低いとき

エンジンオイルを点検するときは、エンジンが暖機していることを確認してください。エンジンオイルレベルが補充上限マークを超えた場合は、トヨタ販売店にお問い合わせください。

エンジンオイルの補充

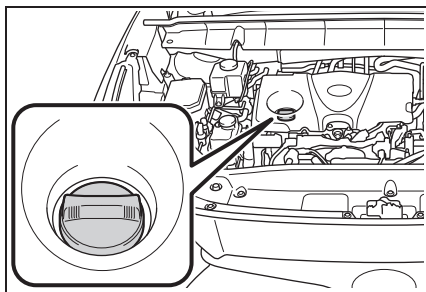
■ オイルの種類を確認し、必要なものを準備する

オイルを補充する前に、オイルの種類を確認し、必要なものを準備してください。

- エンジンオイルの選択
→P.392
- オイル量（低レベルマーク → 補充上限マーク）
1.5 L
- 必要なもの
洗浄漏斗

■ エンジンオイルの補充

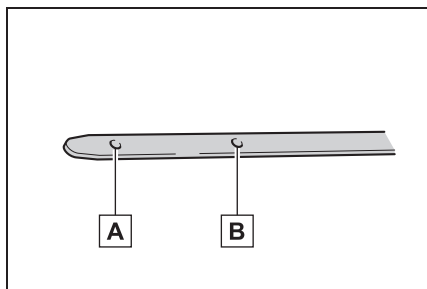
オイルレベルが低レベルマークより下またはそれに近い場合は、エンジンにすでに入っているオイルと同じ種類のエンジンオイルを補充してください。



- 1 エンジンオイル注入口キャップを反時計回りに回して取り外します。
- 2 オイルレベルゲージでオイルレベルを確認しながら、ゆっくりとエンジンオイルを補充してください。

オイルレベルが補充上限マークを超えず、低レベルマークと補充上限マークの間に

あることを確認してください。



A 低レベルマーク

B 補充上限マーク

オイルレベルゲージの形状は、車両のエンジンの種類によって異なる場合があります。

- 3 エンジンオイル注入口キャップを時計回りに回して取り付けます。

知識

■ エンジンカバーにオイルがこぼれたときは

エンジンカバーの損傷を防ぐため、中性洗剤を使用してできるだけ早くエンジンカバーからエンジンオイルを取り除いてください。ブレーキクリーナーなどの有機溶剤は使用しないでください。

警告

■ 使用済みエンジンオイル

- 使用済みエンジンオイルには、炎症や皮膚がんなどの皮膚疾患を引き起こす可能性のある有害な汚染物質が含まれているため、長時間の繰り返しの接触を避けるように注意してください。使用済みエンジンオイルを皮膚から取り除くには、石鹸と水でよく洗ってください。

警告

- 使用済みオイルとフィルターは、安全かつ適切な方法で廃棄してください。家庭ごみ、下水道、または地面に捨てないでください。リサイクルまたは廃棄に関する情報は、トヨタ販売店、サービスステーション、または自動車部品店にお問い合わせください。
- 使用済みエンジンオイルをお子さまの手の届くところに置かないでください。

注意**■ エンジンオイルを交換するときは**

- エンジンオイルが車両部品にこぼれないようにご注意ください。
- オイルを入れすぎるとエンジンが損傷する恐れがあります。
- オイルを補充するたびに、オイルレベルゲージでオイルレベルを確認してください。
- エンジンオイル注入口キャップがしっかりと締められていることを確認してください。

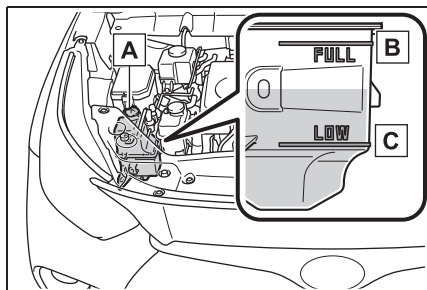
■ エンジンカバーにオイルがこぼれたときは

エンジンカバーの損傷を防ぐため、エンジンカバーに付着したエンジンオイルは、中性洗剤を使用してできるだけ早く拭き取ってください。ブレーキクリーナーなどの有機溶剤は使用しないでください。

冷却水の点検**■ エンジン冷却水リザーバー**

エンジンが冷えているとき、冷却水の量がリザーバータンクの

“FULL”ラインと“LOW”ラインの間にあれば適正です。



A リザーバーキャップ

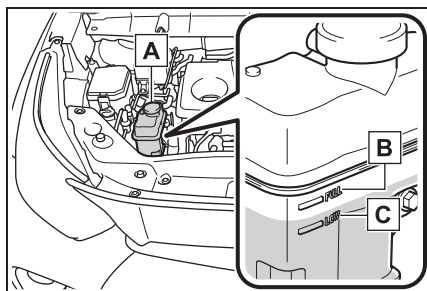
B “FULL”ライン

C “LOW”ライン

冷却水の量が“LOW”ライン上またはそれ以下の場合は、“FULL”ラインまで冷却水を補充してください。
(→P.384)

■ パワーコントロールユニット冷却水リザーバータンク

ハイブリッドシステムが冷えているとき、冷却水の量がリザーバータンクの“FULL”ラインと“LOW”ラインの間にあれば適正です。



A リザーバーキャップ

B “FULL”ライン

C “LOW”ライン

冷却水の量が“LOW”ライン上または

それ以下の場合は、“FULL” ラインまで冷却水を補充してください。
(→P.384)



知識

■クーラントの選択

“Toyota Super Long Life Coolant”
または、同等の高品質なエチレングリコール系で非シリケート、非アミン、非亜硝酸塩、非ホウ酸塩の冷却水で、長寿命ハイブリッド有機酸技術を採用したものを使用してください。

“Toyota Super Long Life Coolant”は、冷却水 50%と純水 50%の混合液です。(最低温度：-35℃)

冷却水に関する詳細は、トヨタ販売店にお問い合わせください。

■補充後すぐに冷却水の量が減る場合

ラジエーター、ホース、エンジン／パワーコントロールユニット冷却水リザーバータンクキャップ、ドレンコック、ウォーターポンプを目視で確認してください。漏れが見つからない場合は、トヨタ販売店でキャップの点検と冷却システムの漏れ検査を依頼してください。



警告

■ハイブリッドシステムが高温のときは

エンジン／パワーコントロールユニット冷却水リザーバータンクとラジエーターのキャップを外さないでください。冷却システムは加圧されている可能性があります。キャップを外すと熱い冷却水が噴出して、やけどなどの重大なけがを引き起こす恐れがあります。



注意

■冷却水を補充するときは

冷却水は単なる水や不凍液だけではありません。適切な潤滑、腐食防止、冷却を行うためには、水と不凍液の正しい混合比を使用する必要があります。不凍液または冷却水のラベルを必ず確認してください。

■冷却水をこぼした場合

部品や塗装を傷めないよう、水でしっかり洗い流してください。

ラジエーターとコンデンサーの点検

ラジエーターとコンデンサーを確認し、異物を取り除いてください。これらの部品が非常に汚れている場合や状態が不明な場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。



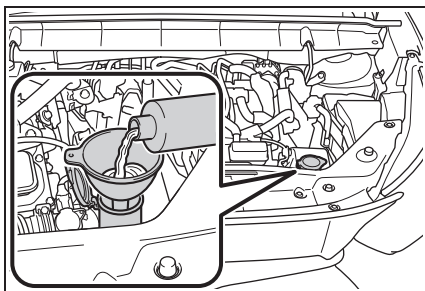
警告

■ハイブリッドシステムが熱いとき

ラジエーターやコンデンサーには触れないでください。高温になっている可能性があり、やけどなどの重大なけがを引き起こす恐れがあります。

ウォッシャー液の補充

ウォッシャー液が出なかったり、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたら、ウォッシャー液を補充する



⚠ 警告

■ ウォッシャー液を補充するとき

ハイブリッドシステムが熱いときやハイブリッドシステム作動中は、ウォッシャー液を補充しないでください。ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、ハイブリッドシステムなどにかかると出火するおそれがあります。

⚠ 注意

■ ウォッシャー液について

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。塗装にしみが付くことや、ポンプが故障してウォッシャー液が出なくなるおそれがあります。

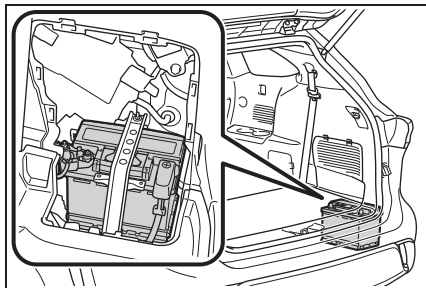
■ ウォッシャー液のうすめ方

必要に応じて水でうすめてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

12 ボルトバッテリー

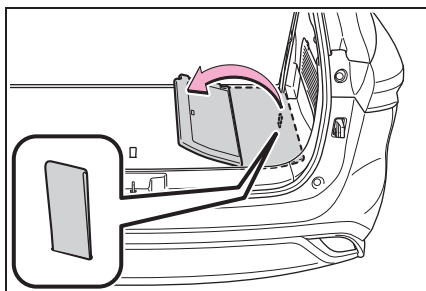
位置

12 ボルトバッテリーは、ラゲージコンパートメント（荷室）の右側にあります。



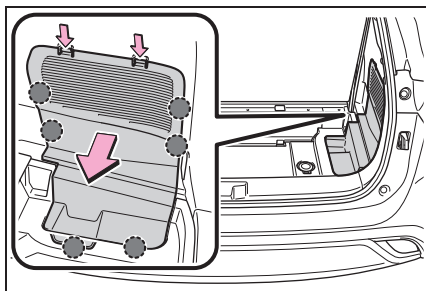
12 ボルトバッテリーカバーを取り外す前に

デッキボードを開けます。



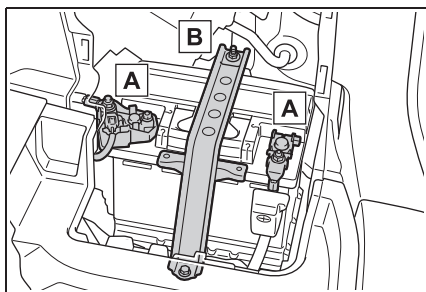
12 ボルトバッテリーカバーの取り外す

8 つのツメを外し、サイドデッキボードを引いて取り外します。



外観の確認

12 ボルトバッテリーの端子が腐食していないこと、接続が緩んでいないこと、ひび割れやクランプの緩みがないことを確認してください。



A 端子

B 固定クランプ



知識

■充電前の注意

充電中、12 ボルトバッテリーは可燃性で爆発性のある水素ガスを発生します。したがって、充電前に以下の注意事項を守ってください：

- 車両に12 ボルトバッテリーを取り付けたまま充電する場合は、必ずアースケーブルを外してください。
- 充電器のケーブルを12 ボルトバッテリーに接続または取り外す際は、充電

器の電源スイッチがオフになっていることを確認してください。

■12 ボルトバッテリーの充電後／再接続後

ハイブリッドシステムが始動しない場合があります。その際は、以下の手順でシステムを初期化してください。

- 1 シフトレバーをPにします。
- 2 いずれかのドアを開閉します。
- 3 ハイブリッドシステムを再始動します。

●12 ボルトバッテリー再接続直後は、スマートキーでドアのロック解除ができない場合があります。この場合は、ワイヤレスリモコンまたはメカニカルキーを使用してください。

●ハイブリッドシステムを始動する際は、パワースイッチをACCにしてから行ってください。ただし、パワースイッチがOFFのままだと始動できない場合がありますが、2回目以降は正常に動作します。

●パワースイッチモードは車両によって記録されます。12 ボルトバッテリーを取り外して再接続した場合、車両は12 ボルトバッテリーを取り外す前の状態にパワースイッチモードを戻します。12 ボルトバッテリーを取り外す前に、必ずパワースイッチをオフにしてください。12 ボルトバッテリーを取り外す前のパワースイッチモードが不明な場合は、接続時に特に注意してください。

複数回試してもシステムが始動しない場合は、トヨタ販売店に連絡してください。

⚠ 警告

■ 12 ボルトバッテリーに含まれる化学物質

12 ボルトバッテリーには有毒で腐食性のある硫酸が含まれており、さらに可燃性・爆発性の水素ガスを発生することがあります。死亡や重大なけがのリスクを減らすため、12 ボルトバッテリーの作業中や周囲で作業する際は、以下の注意事項を守ってください：

- 工具で12ボルトバッテリーの端子に触れて火花を発生させない
- 喫煙やマッチを近くで使用しない
- 目、皮膚、衣服への接触を避ける
- 電解液を吸入したり飲み込んだりしない
- 作業時は保護メガネを着用する
- お子さまをを12ボルトバッテリーから遠ざける

■ 12 ボルトバッテリーを安全に充電する場所

必ず屋外の換気の良い場所で充電してください。ガレージや換気の不十分な閉鎖空間で充電しないでください。

■ 12 ボルトバッテリーの充電方法

必ず低電流（5A 以下）でゆっくり充電してください。急速充電を行うと、12 ボルトバッテリーが爆発する恐れがあります。

■ 電解液に関する緊急措置

- 電解液が目に入った場合
清潔な水で15分以上洗い流し、すぐに医療機関を受診してください。可能であれば、最寄りの医療施設へ移動中もスポンジや布で水を当て続けてください。

- 電解液が皮膚に付着した場合
影響を受けた部分を十分に洗浄してください。痛みや灼熱感がある場合は、すぐに医療機関を受診してください。

- 衣服を通して皮膚に浸透する可能性があります。すぐに衣服を脱ぎ、必要に応じて上記の手順を実施してください。

- 誤って電解液を飲み込んだ場合
大量の水または牛乳を飲み、すぐに緊急医療機関を受診してください。

■ 12 ボルトバッテリーを交換するとき

必ずこの車両専用の12 ボルトバッテリーを使用してください。不適切なバッテリーを使用すると、水素ガスが車内に侵入し、火災や爆発の原因となる恐れがあります。

12 ボルトバッテリーの交換については、トヨタ販売店にお問い合わせください。

■ 12 ボルトバッテリーの取り扱いについて

→P.382

⚠ 注意

■ 12 ボルトバッテリーの充電するとき

ハイブリッドシステムが作動している間は、絶対に12 ボルトバッテリーを充電しないでください。また、すべてのアクセサリがOFFになっていることを確認してください。

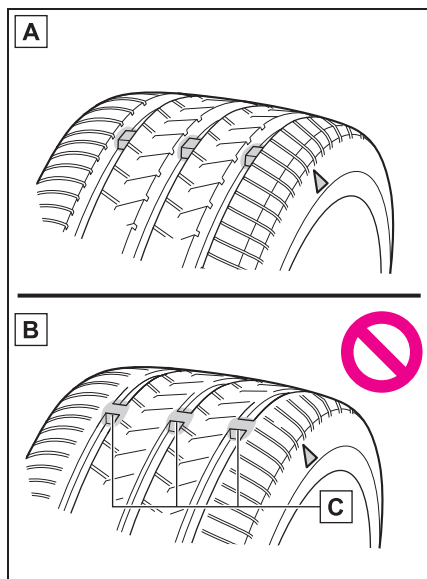
タイヤについて

メンテナンススケジュールおよびトレッドの摩耗状況に応じて交換またはローテーションしてください。

タイヤのチェック

タイヤのトレッドウェアインジケーターが現れているかを確認してください。また、トレッドの片側だけが過度に摩耗しているなど、偏った摩耗がないかも確認してください。

スペアタイヤがローテーションされていない場合は、その状態と空気圧を確認してください。



A 新しいトレッド

B 摩耗したトレッド

C トレッドウェアインジケーター

トレッドウェアインジケーターの位置は、各タイヤのサイドウォールに成形された

“TWI” または “△” マークなどで示されます。タイヤにトレッド摩耗インジケーターが表示されている場合は、タイヤを交換してください。

知識

■車のタイヤ交換時期

タイヤの交換時期は以下のとおりです。

- タイヤにトレッドウェアインジケーターが表示されているとき
- タイヤに切れ目、ひび割れ、繊維が露出するほど深いひび割れ、内部損傷を示す膨らみなどの損傷があるとき
- タイヤが何度もパンクしたり、切れ目やその他の損傷の大きさや場所により適切に修理できないとき

ご不明な点がある場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

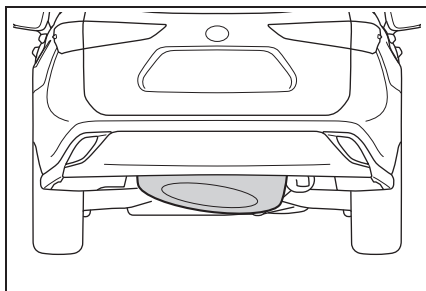
■タイヤの寿命

6年以上経過したタイヤは、ほとんど使用していない、または全く使用していない、あるいは損傷が目立たない場合でも、資格のある整備士による点検を受ける必要があります。

■スペアタイヤの適切な保管

スペアタイヤが適切に保管されていないと、スペアタイヤを固定しているワイヤーケーブルが損傷する可能性があるため、スペアタイヤが適切に保管されていることを毎日確認してください。

- 保管中のスペアタイヤが傾いているように見えたり、走行中にガタガタと音がする場合は、スペアタイヤが正しく保管されていない可能性があります。以下のタイヤ交換手順を正しく実行して、スペアタイヤを再度保管してください。



- 1 スペアタイヤが傾いている場合は、スペアタイヤキャリアがホイール開口部に引っかかっている可能性があります。走行中にスペアタイヤがガタガタと音を立てる場合は、スペアタイヤが完全に上昇していない可能性があります。スペアタイヤを地面に下ろし、スペアタイヤキャリアがホイール開口部に対して垂直になっていることを確認してください。
- 2 カチッという音がしてジャッキハンドルがスキップするまで、タイヤをゆっくりと確実に上げてください。

スペアタイヤが下がらない場合は、ワイヤーケーブルが断線している可能性があります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■スタッドレスタイヤのトレッドが4mm未満に摩耗したときは

スノータイヤとしての性能が失われます。

⚠ 警告

■点検・交換時の警告

必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- タイヤはすべて同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用する

- メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しない
- ラジアルタイヤ・バイアスベルテッドタイヤ・バイアスプライタイヤを混在使用しない
- サマータイヤ・オールシーズンタイヤ・冬用タイヤを混在使用しない
- 他の車両で使用していたタイヤを使用しない。以前どのように使用されていたか不明なタイヤは使用しない

⚠ 注意

■悪路走行に対する注意

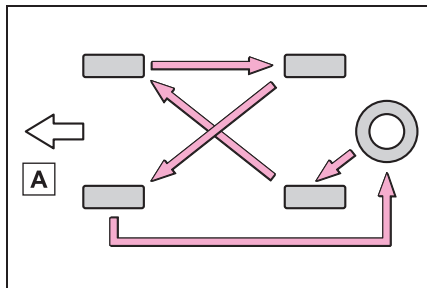
段差や凹凸のある路上を走行するときは注意してください。タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ・ホイール・車体などの部品も損傷するおそれがあります。

■走行中に空気もれが起きたら

走行を続けないでください。タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

タイヤローテーションをするには

図で示すようにタイヤのローテーションを行います。



A 前側

タイヤの摩耗を均等にし、寿命を延ばすために、トヨタでは約 5000km ごとにタイヤのローテーションを行うことを推奨しています。

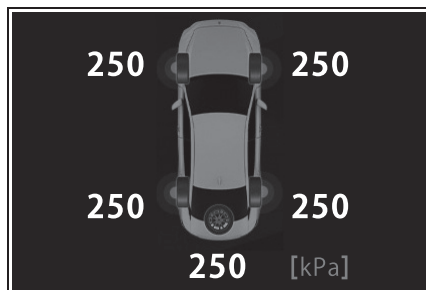
タイヤをローテーションした後は、必ずタイヤ空気圧警報システムを初期化してください。

タイヤ空気圧警報システム

お車には、タイヤ空気圧警報バルブとトランスミッターを用いてタイヤ空気圧の低下を検知し、重大な問題が発生する前に警告するタイヤ空気圧警報システムが装備されています。

- タイヤ空気圧警報システムによって検出されたタイヤ空気圧は、マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。
(→P.74)

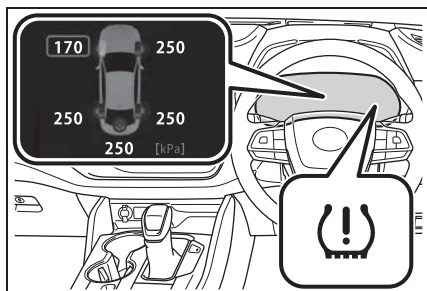
表示されているイラストは説明のためのものであり、実際にマルチインフォメーションディスプレイに表示される画像とは異なる場合があります。



- タイヤ空気圧が規定値を下回ると、画面表示と警告灯の点灯によって運転者に警告します。
(→P.355)

表示されているイラストは説明のためのものであり、実際にマルチインフォメーション

ディスプレイに表示される画像とは異なる場合があります。



知識

■ 定期的なタイヤ空気圧チェック

タイヤ空気圧警報システムは、定期的なタイヤ空気圧点検の代わりになるものではありません。日常点検の一環として、タイヤ空気圧を必ず点検してください。

■ タイヤ空気圧警報システムが正常に働かないおそれのある状況

- 次の場合は、タイヤ空気圧警報システムが正しく作動しない場合があります。
 - ・ 純正ホイール以外を使用したとき
 - ・ 純正装着タイヤ以外に交換したとき
 - ・ 指定サイズ以外のタイヤに交換したとき
 - ・ タイヤチェーンなどを装着しているとき
 - ・ 補助支持式ランフラットタイヤを装着しているとき
 - ・ 電波を遮断するフィルムがウインドウに貼り付けられているとき
 - ・ 車両（特にホイール・ホイールハウスの周辺）に多くの雪や氷などが付着しているとき
 - ・ タイヤ空気圧が指定空気圧より極端に高いとき
 - ・ タイヤ空気圧警報バルブ／送信機を搭載していないホイールを使用しているとき
 - ・ タイヤ空気圧警報バルブ／送信機の ID がタイヤ空気圧警報コンピューターに

登録されていないとき

- 次の場合は正しい性能が確保できない場合があります。
 - ・ 近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港など、強い電波やノイズの発生する場所にいます
 - ・ 無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器が車両付近にあるとき
- 電波状況によってタイヤ位置情報が正しく表示されない場合は、走行して電波状況がかわることで正しく表示されることがあります。
- 停車時は警報開始・警報解除までの時間が長くなる場合があります。
- タイヤが破裂（バースト）したときなど、空気圧が急激に低下したときは、警報できない場合があります。

■ タイヤ空気圧警報システムの警告性能

タイヤ空気圧警報システムの警告は、運転状況に応じて変化します。このため、タイヤの空気圧が十分に低いレベルに達していない場合、または空気圧がシステムの初期化時に調整された空気圧よりも高い場合でも、システムは警告を発する場合があります。

空気圧バルブ／送信機の装着について

タイヤやホイールを交換するときは、付けかえたホイールにも空気圧バルブ／送信機を装着してください。

バルブ／送信機を装着する場合は、専用の ID コードをコンピューターに登録する必要があります。
(→P.321)

□ 知識

■ ホイールごとタイヤを交換するとき

タイヤ空気圧バルブ／送信機の ID コードが登録されていないと、タイヤ空気圧警報システムは正しく作動しません。その場合、約 10 分間走行したあとシステム異常となり、タイヤ空気圧警告灯が約 1 分間点滅、その後点灯します。

△ 注意

■ タイヤ・ホイール・空気圧バルブ／送信機・バルブキャップの修理・交換

- タイヤをホイールから脱着する際は、空気圧バルブ／送信機が損傷しないよう注意してください。脱着手順の詳細は、トヨタ販売店へご相談ください。
- タイヤバルブキャップを必ず取り付けてください。取り付けを怠ると、タイヤ空気圧警告バルブに水が入り込み、バルブが固着する原因となります。
- バルブキャップを交換するときは、指定以外のバルブキャップを使用しないでください。バルブキャップが固着するおそれがあります。
- タイヤ空気圧警告バルブおよび送信機の損傷を防ぐため

液体シーラントでタイヤを修理した場合、タイヤ空気圧警告バルブと送信機が正常に作動しない可能性があります。液体シーラントを使用した場合は、速やかにトヨタ販売店にご連絡ください。タイヤ交換時には、必ずタイヤ空気圧警告バルブと送信機を交換してください。(→P.319)

タイヤ空気圧警報システムの初期化

■ 以下の状況では、タイヤ空気圧警報システムを初期化する必要があります：

- 走行速度変更時など、タイヤ空気圧が変更したとき
- タイヤサイズ変更時など、タイヤ空気圧が変更したとき
- タイヤをローテーションしたとき
- ID コードを登録したあと (→P.321)

タイヤ空気圧警報システムを初期化すると、現在のタイヤ空気圧が基準圧力として設定されます。

■ タイヤ空気圧警報システムの初期化方法

- 1 車両を安全な場所に駐車し、パワースイッチを OFF にしてください。

走行中は初期化できません。

- 2 タイヤ空気圧を規定の冷間空気圧レベルに調整してください。(→P.395)

必ず規定の冷間空気圧レベルに調整してください。この空気圧レベルを基準に警告システムが作動します。

- 3 パワースイッチを ON にします。
- 4 マルチインフォメーションディスプレイの  を選択します。
- 5 メーターコントロールスイッチの  または  を押して  を選択し、 を長押しします。

- 6 メーターコントロールスイッチの  または  を押して

“TPWS” を選択し、 を押しします。

- 7 メーターコントロールスイッチの  または  を押して “Set Pressure” を選択し、 を押しします。

マルチインフォメーションディスプレイに “Setting Tyre Pressure Warning System” と表示され、タイヤ空気圧警告灯が 3 回点滅します。

メッセージが消えると初期化完了です。

マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。また、タイヤ空気圧警報システムが位置を特定している間、マルチインフォメーションディスプレイには各タイヤの空気圧が “--” と表示されます。

各タイヤの空気圧がマルチインフォメーションディスプレイに表示されるまで、約 40km/h 以上の速度で約 10 ～ 30 分間走行してください。

初期化が完了すると、各タイヤの空気圧がマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

約 40km/h 以上で走行しなくても、長時間走行することで初期化を完了できます。ただし、1 時間以上走行しても初期化が完了しない場合は、安全な場所に約 20 分間駐車した後、再度走行してください。

知識

■ タイヤ空気圧警報システムの初期化

指定されたレベルにタイヤ空気圧を調整した状態でシステムを初期化してください。

■ 初期化手順

- タイヤ空気圧調整後は必ず初期化を行ってください。また、初期化またはタイヤ空気圧調整を行う際は、タイヤが冷えていることを確認してください。
- 初期化中に誤ってパワースイッチを OFF にした場合、次回パワースイッチを ON にした際に初期化が自動的に再開されるため、初期化を再実行する必要はありません。
- 初期化が不要な状態で誤って初期化を再実行した場合は、タイヤが冷えた状態でタイヤ空気圧を規定値に調整し、再度初期化を行ってください。
- 各タイヤの位置を特定中であり、マルチインフォメーションディスプレイに空気圧が表示されていない場合、タイヤの空気圧が低下するとタイヤ空気圧警告灯が点灯します。

■ タイヤ空気圧警報システムの初期化が失敗したとき

未舗装路を走行すると初期化完了までに時間がかかる場合があります。初期化時は可能な限り舗装路を走行してください。走行環境やタイヤの状態により、初期化は約 10 ～ 30 分で完了します。約 10 ～ 30 分走行しても初期化が完了しない場合は、しばらく走行を続けてください。

各タイヤの空気圧が約 1 時間の走行後も表示されない場合は、以下の手順を実行してください。

- 安全な場所に車両を約 20 分間停車させてください。その後、時速約 40km 以上で直進（時々左右に曲がる）を約 10

～ 30 分間走行してください。

ただし、以下の状況ではタイヤ空気圧が記録されず、システムが正常に動作しません。初期化を再度行ってください。

- 初期化中に後退操作を行った場合、それまでのデータがリセットされるため、初期化手順を最初からやり直してください。
- タイヤ空気圧警報リセットスイッチを操作しても、タイヤ空気圧警告灯が 3 回点滅しない
- 初期化後、走行中にタイヤ空気圧警告灯が 1 分間点滅した後、点灯したままになる

各タイヤの空気圧が依然として表示されない場合は、トヨタ販売店にて点検を受けてください。

警告

■ タイヤ空気圧警報システムの初期化したとき

タイヤ空気圧を規定値に調整せずに初期化を行わないでください。そうしないと、タイヤ空気圧が低い場合でも警告灯が点灯しない、あるいは実際には正常な空気圧時に警告灯が点灯する可能性があります。

ID コードの登録

各タイヤ空気圧警告バルブと送信機には固有の ID コードが割り当てられています。タイヤ空気圧警告バルブと送信機を交換する際は、ID コードの登録が必要です。ID コードを登録する際は、以下の手順を実行してください。

- 1 車両を安全な場所に駐車し、パワースイッチを OFF にしてください。

走行中は初期化を実行できません。

2 タイヤ空気圧を規定の冷間空気圧レベルに調整してください。 (→P.395)

タイヤ空気圧は必ず規定の冷間空気圧レベルに調整してください。タイヤ空気圧警報システムはこの空気圧レベルに基づいて作動します。

3 パワースイッチを ON にします。

4 マルチインフォメーションディスプレイの を選択します。

5 メーターコントロールスイッチの または を押して を選択し、 を長押しします。

6 メーターコントロールスイッチの または を押して

“TPWS” を選択し、 を押しします。

7 メーターコントロールスイッチの または を押して

“Change Wheel” を選択し、タイヤ空気圧警告灯がゆっくり 3 回点滅し始めるまで  を押しします。

スペアタイヤセットモードが作動し、登録が開始されます。

その後、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。登録中は、タイヤ空気圧警告灯が約 1 分間点滅した後、点灯し、マルチインフォメーションディスプレイには各タイヤの空気圧が “--” と表示されます。

8 約 40km/h 以上の速度で 10 ～ 30 分間走行してください。

登録が完了すると、タイヤ空気圧警告灯が消灯し、各タイヤの空気圧がマルチインフォメーションディスプレイに表示さ

れます。

約 40km/h 以上で走行しなくても、長時間走行することで登録を完了できます。ただし、1 時間以上走行しても登録が完了しない場合は、最初から手順をやり直してください。

9 タイヤ空気圧警報システムを初期化してください。(→P.320)

知識

■ ID コード登録時するとき

- ID コード登録は、車両速度が約 40km/h 以上で走行中に実行されます。
- ID コード登録を行う前に、タイヤ空気圧警告バルブと送信機が取り付けられた車輪が車両の近くにないことを確認してください。
- ID コード登録後は必ずタイヤ空気圧警報システムを初期化してください。ID コード登録前にシステムを初期化すると、初期化された値は無効になります。
- ID コードはご自身で登録できますが、走行条件や走行環境によっては登録完了までに時間がかかる場合があります。

■ ID コード登録の解除

- ID コード登録を開始した後に解除するには、車両を走行させる前にパワースイッチを OFF にしてください。ID コード登録開始後に車両を走行させた場合、登録を解除するには ID コード登録開始手順を再度実行し、走行前にパワースイッチを OFF にしてください。
- ID コード登録が解除された場合、パワースイッチを ON にするとタイヤ空気圧警告灯が約 1 分間点滅した後、点灯します。タイヤ空気圧警告灯が消灯すると、タイヤ空気圧警報システムは作動状態になります。
- 警告灯が数分経過しても消灯しない場

合、ID コード登録が正しく解除されていない可能性があります。登録を解除するには、再度 ID コード登録開始手順を実行し、運転前にパワースイッチを OFF にしてください。

■ ID コードが正しく登録されていないとき

以下の状況では、ID コードの登録が通常より長くなるか、登録できない場合があります。通常、登録は約 30 分以内に完了します。

- 走行前に約 20 分以上駐車していない
- 約 40km/h 以上で走行していない
- 未舗装道路を走行している
- 他の車両の近くを走行し、システムが自車のタイヤ空気圧警告バルブと送信機を他車のものと区別できない

タイヤ空気圧警告バルブと送信機が装着されたホイールが車内または車体付近にある

1 時間以上走行しても登録が完了しない場合は、ID コード登録手順を最初から再度実行してください。

- 登録中に車両を後退させた場合、それまでのデータはリセットされますので、登録手順を最初から再度実行してください。
- 以下の状況では、ID コード登録が開始されない、または正常に完了せず、システムが正常に作動しません。ID コード登録手順を再度実行してください。
 - ・ ID コード登録を開始しようとした際、タイヤ空気圧警告灯がゆっくり 3 回点滅しない
 - ・ ID コード登録後、約 10 分間走行した際に、タイヤ空気圧警告灯が約 1 分間点滅した後、点灯する

上記の手順を行っても ID コードが登録できない場合は、トヨタ販売店にお問い合わせください。

タイヤ空気圧について

適切なタイヤ空気圧を維持してください。タイヤ空気圧は少なくとも月に 1 回は点検する必要があります。ただし、トヨタでは 2 週間に 1 回の点検を推奨しています。(→P.395)

知識

■ タイヤ空気圧の不適切な影響

タイヤ空気圧が不適切な状態で走行すると、以下の結果を招くおそれがあります：

- 燃費の悪化
- 乗り心地の低下と操縦性の悪化
- 摩耗によるタイヤ寿命の短縮
- 安全性の低下
- 駆動系への損傷

タイヤの空気圧を頻繁に補充する必要がある場合は、トヨタ販売店にて点検を受けてください。

■ タイヤ空気圧の点検手順

タイヤ空気圧を点検する際は、以下の点に注意してください：

- タイヤが冷えている時のみ確認してください。車両を 3 時間以上駐車した場合、または 1.5km 以上走行していない場合に、正確な冷間時のタイヤ空気圧が測定できます。
- 必ずタイヤ空気圧計を使用してください。見た目だけで適切な空気圧かどうかを判断するのは困難です。
- 走行後はタイヤ内部で熱が発生するため、空気圧が上昇するのは正常です。走行後に空気圧を下げないでください。
- 車両の積載重量制限を超えないでください。乗員と荷物の重量は車両のバランスが取れるように配置してください。

⚠ 警告**■ 適切な空気圧はタイヤ性能を維持する上で極めて重要です**

タイヤの空気圧を適正に保ってください。空気圧が不適切な場合、以下の状態が発生し、死亡または重傷を伴う事故につながる可能性があります：

- 過度の摩耗
- 偏摩耗
- 操縦性の悪化
- タイヤの過熱によるバーストの可能性
- タイヤとホイールの隙間からの空気漏れ
- ホイールの変形およびタイヤの損傷
- 走行中のタイヤ損傷リスクの増加
(道路上の障害物、伸縮継手、鋭利な縁石などによる)

⚠ 注意**■ タイヤ空気圧の点検および調整時**

必ずタイヤバルブキャップを元に戻してください。バルブキャップを装着しないと、バルブ内に汚れや湿気が入り込み、空気漏れの原因となり、タイヤの空気圧が低下する可能性があります。

ホイールについて

ホイールが曲がったり、ひび割れたり、ひどく腐食したりした場合は、交換する必要があります。そうしないと、タイヤがホイールから外れたり、ハンドリング制御が失われたりするおそれがあります。

ホイールの選択について

ホイールを交換するときは、耐荷重、直径、リム幅^{*}、はめ込みが取り外されたものと同等であることを確認するように注意する必要があります。

交換用ホイールはトヨタ販売店で入手できます。

^{*} 従来はオフセットと呼ばれていました。

トヨタは、次の使用を推奨していません。

- さまざまなサイズまたはタイプのホイール
- 中古ホイール
- 修理されたホイール

□ 知識**■ ホイール交換時**

車両のホイールにはタイヤ空気圧警告バルブとトランスミッターが装備されており、タイヤ空気圧が低下した場合にタイヤ空気圧警報システムが事前に警告を発することができます。ホイールを交換するときはいつでも、タイヤ空気圧警告バルブとトランスミッターを取り付ける必要があります。(→P.319)

⚠ 警告

■ タイヤ交換時の注意

- 取扱説明書で推奨されているサイズと異なるサイズのホイールは、ハンドリングコントロールを失う可能性があるため、使用しないでください。
- チューブレスタイヤ用に設計されたホイールに空気漏れがある場合にインナーチューブを絶対に使用しないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります

■ ホイールナットを取り付けるとき

ねじ部にオイルやグリースをぬらないでください。ナットを締めるときに必要な以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。またナットがゆるみホイールが落下して、重大な事故につながるおそれがあります。オイルやグリースがねじ部についている場合はふき取ってください。

■ 異常があるホイールの使用禁止

ひび割れたり変形したりしたホイールは使用しないでください。走行中にタイヤから空気が漏れ、事故の原因になるおそれがあります。

- 車両にはトヨタ純正ホイールのみが使用されていることを確認してください。タイヤ空気圧警告バルブやトランスミッターは、非純正ホイールでは正常に動作しない場合があります。

アルミホイールの注意事項

- アルミホイールで使用するために設計されたトヨタのホイールナットとレンチのみを使用してください。
- タイヤをローテーション、修理、交換するときは、1600 km 走行した後もホイールナットがしっかりと締まっていることを確認してください。
- タイヤチェーンを使用する際は、アルミホイールを傷つけないように注意してください。
- ホイールのバランスをとるときは、トヨタ純正のバランスウェイトまたは同等のものと、プラスチックまたはゴム製のハンマーのみを使用してください。

⚠ 注意

■ タイヤ空気圧警告バルブおよび送信機の交換

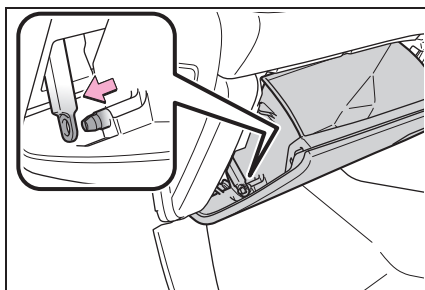
- タイヤの修理または交換はタイヤ空気圧警告バルブとトランスミッターに影響を与える可能性があるため、タイヤは必ずトヨタ販売店またはその他の認定サービスショップで整備を受けてください。さらに、タイヤ空気圧警告バルブとトランスミッターは必ずトヨタ販売店で購入してください。

エアコンフィルターの交換

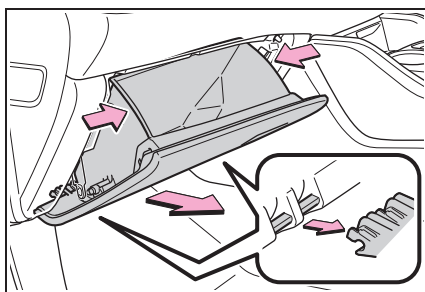
エアコンを快適にお使いいただくために、エアコンフィルターを定期的に交換してください。

交換するには

- 1 パワースイッチを OFF にする
- 2 グローブボックスを開きます。ダンパーをスライドさせて外します。

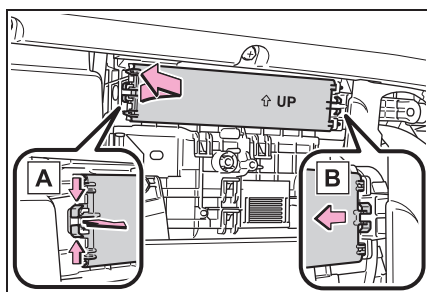


- 3 車両の外側にあるグローブボックスを押し込んで、ツメを外します。次に、グローブボックスを引き出し、下のツメを外します。

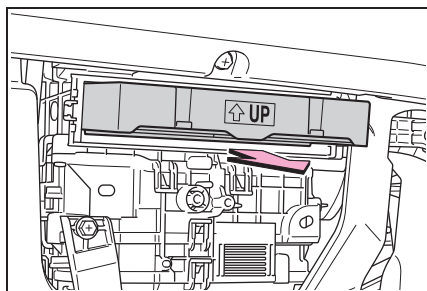


- 4 フィルターカバーのロックを解除し (A)、フィルターカバーを

ツメから引き出し (B)、フィルターカバーを取り外します。

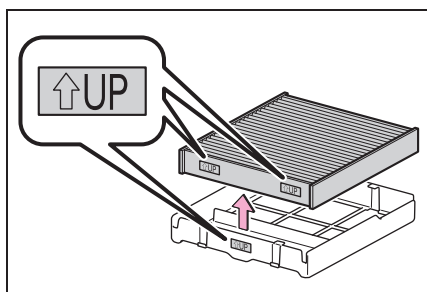


- 5 フィルターケースを取りはずす



- 6 フィルターケースからフィルターを取りはずし、新しいフィルターと交換する

“↑ UP” マークの矢印が上を向くように取り付けます。



知識

■ エアコンフィルターの交換について
メンテナンススケジュールに従ってエア

コンフィルターを点検し、交換してください。交通量や粉じんの多い地区では、早期の交換が必要になる場合があります。(定期メンテナンス情報については、

“Warranty and Service Booklet” を参照してください。)

■ エアコンの風量が減少したときは

フィルターが詰まっている可能性があります。フィルターを確認し、必要に応じて交換してください。



注意

■ 空調システムを使用する場合

フィルターが常に取り付けられていることを確認してください。フィルターなしで空調システムを使用すると、システムが損傷するおそれがあります。

駆動用電池冷却用吸入口の清掃

燃費性能の低下を防ぐために、駆動用電池冷却用吸入口が目づまりしていないか、定期的に点検してください。ほこりがたまっているときやマルチインフォメーションディスプレイに“Maintenance Required for Traction Battery Cooling Parts See Owner’s Manual”が表示されたときは、次の要領で清掃してください。



知識

■ 吸気口の定期メンテナンスは、次の場合に必要です

車両が頻繁に使用される場合や、交通量が多い場所やほこりの多い場所など、状況によっては、吸気口をより定期的に掃除する必要がある場合があります。詳しくは、“Warranty and Service Booklet” を参照してください。

■ 吸気口の清掃

誤った取り扱いをすると、吸入口カバーまたはフィルターが損傷するおそれがあります。ご自身での清掃に不安がある場合は、トヨタ販売店にご相談ください。



注意

■ マルチインフォメーションディスプレイに “Maintenance Required for Traction Battery Cooling Parts See Owner’s Manual” が表示されたときは

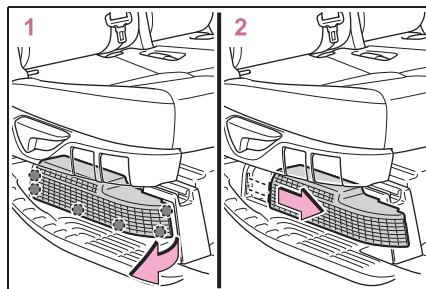
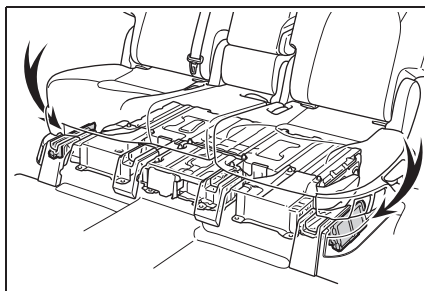
すぐに吸気口を清掃してください。警告メッセージを表示したまま車両を走行し続けると、ハイブリッドバッテリー（駆動用電池）の故障や出力制限の原因となります。

清掃のしかた

1 パワースイッチを OFF にします。

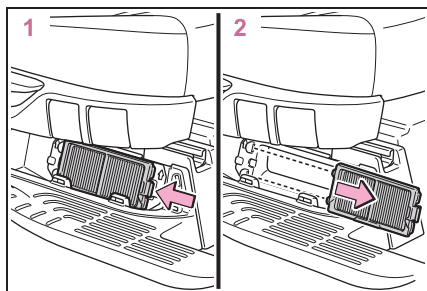
2 吸気口カバーを取り外します。

図のようにカバーを引いて、右上隅のツメから始めて 6 本のツメを外し、カバーを車両の前方に引いて取り外します。



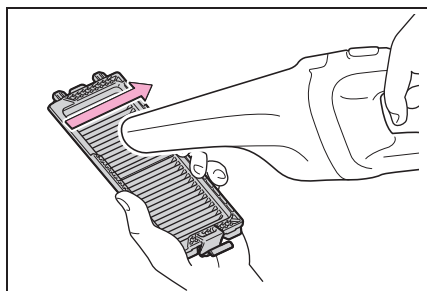
3 吸気口カバーからフィルターを取りはずす

吸入口カバーにほこりがたまっているときは、掃除機などで取り除いてください。



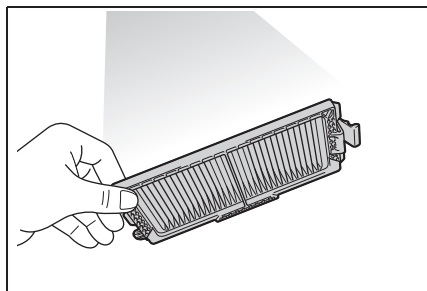
4 フィルターからほこりや砂などを取り除く

掃除機などを使用して、折り目に沿って軽くなぞるように吸引してください。



5 フィルターを光にかざし、目づまりがないか確認する

ほこりや砂などを取り除ききれないときは、トヨタ販売店にご相談ください。

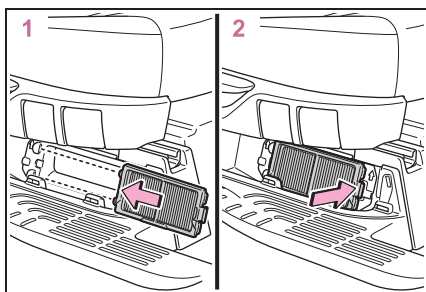


6 フィルターをカバーに再度取り付けます。

3 本のツメをかみ合わせてフィルターを

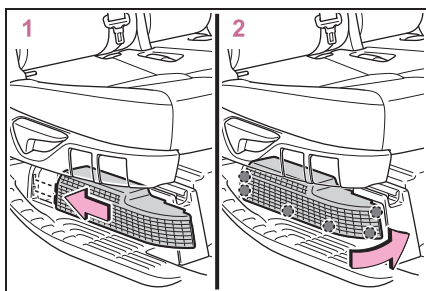
取り付けます。

取り付けるときは、フィルターが曲がったり変形したりしていないことを確認してください。



7 吸気口カバーを取り付けます。

図のようにカバーのタブを挿入し、カバーを押して6本のツメをかみ合わせます。



▶ マルチインフォメーションディスプレイに“Maintenance Required for Traction Battery Cooling Parts See Owner's Manual”と表示されていたとき

8 ハイブリッドシステムを始動し、警告メッセージが消えたことを確認する

警告メッセージが再度表示され、表示が消えるまで走行が必要な場合があります。

しばらくしても消えないときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■ フィルターのほこりや砂を取り除けないときは

樹脂製ブラシがついた掃除機のご使用をおすすめします。

警告

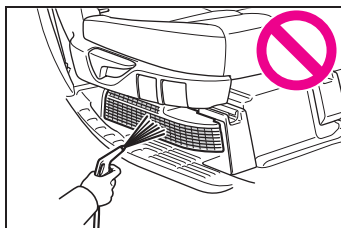
■ 吸入口の清掃をするときは

- 水や液体などで清掃しないでください。駆動用電池などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあります。
- 清掃前に必ずパワースwitchをOFFにしてハイブリッドシステムを停止してください。
- 吸入口の中に手や足などを入れないでください。冷却用ファンに巻き込まれたり高電圧部位にふれて感電するなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■ 吸入口の清掃をするときは

エアブローなどを使用しないでください。ほこりが押し込まれてしまい、駆動用電池の出力低下や故障の原因となるおそれがあります。



⚠ 注意

■ 車両の故障を防ぐために

次のことをお守りください。

- 吸入口に水や異物などが入らないように注意する
- 清掃後は、必ずフィルターと吸入口カバーをもとどおりに取り付ける
- この車両用のフィルター以外のものを吸入口に取り付けたり、フィルターを取りはずした状態で車を使用したりしない

■ フィルターの損傷を防ぐために

次のことをお守りください。フィルターが損傷した場合は、トヨタ販売店で新しいフィルターに交換してください。

- エアブローなどを使用しない
- 掃除機などをフィルターに強く押し付けない
- 金属製など、硬いブラシを使用しない
- フィルターの折り目をつぶさない

電子キーの電池交換

電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。電池はご自身で交換できますが、部品が破損するおそれがあるので、トヨタ販売店で交換することをおすすめします。

📖 知識

■ 電子キーの電池が消耗していると

次のような状態になります。

- スマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレス機能が作動しない
- 作動距離が短くなる

事前に準備するもの

- マイナスドライバー
- 小型マイナスドライバー
- リチウム電池：CR2450

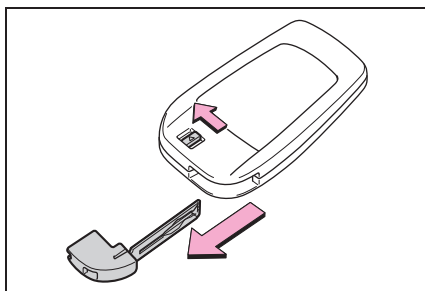
📖 知識

■ CR2450 リチウム電池を使用する

- 電池はトヨタ販売店・時計店およびカメラ店などで購入できます。
- メーカーが推奨する同一または同等のタイプとのみ交換してください。
- 使用済み電池は、現地の法律に従って廃棄してください。

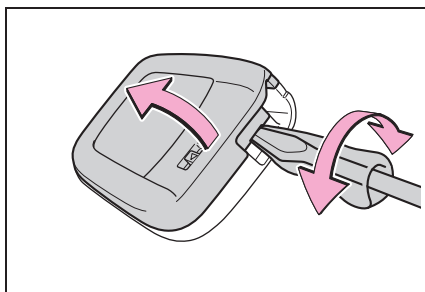
電池を交換するには

- 1 ロックを解除してメカニカルキーを抜く



- 2 カバーをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

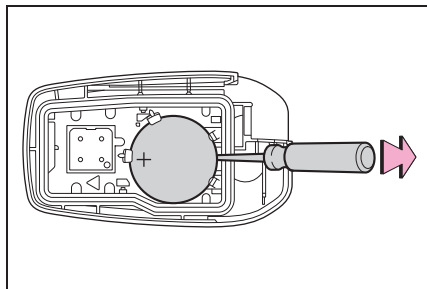


- 3 消耗した電池を取り外します。

カバーをはずしたときに、上側のカバーに電子キーのモジュールが貼り付き、電池面が隠れている場合があります。この場合、電子キーのモジュールをひっくり返し、図のように電池が見える状態で作業してください。

電池を取り外すときは、適切なサイズのドライバーを使用してください。“+”端子を上に向けて新しい電池を挿入しま

す。



⚠ 警告

■ 電子キーの電池について

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 誤って電池を飲み込まないように注意してください。化学熱傷のおそれがあります。
- 電子キーにはコイン電池もしくはボタン電池が使われています。電池を飲み込むと、わずか 2 時間で重度の化学熱傷を引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 新しい電池および取りはずした電池は、お子さまにさわらせないでください。
- カバーがしっかり閉まらない場合はそのまま使用せず、お子さまの手の届かない場所に保管し、トヨタ販売店で点検を受けてください。
- 誤って電池を飲み込んだ、または体の一部に入れてしまった場合は、すぐに医師の診察を受けてください。

警告

■ 電池の爆発や可燃性の液体またはガスの漏れを防ぐために

- 同じタイプの電池と交換してください。異なったタイプの電池を使用すると、電池が爆発するおそれがあります。
- 極端に温度の高いところや、高度が高く極端に気圧が低いところに電池を持ち込まないでください。
- 電池を燃やしたり、つぶしたり、切ったりしないでください。

注意

■ 交換後、正常に機能させるために次のことを必ずお守りください。

- めれた手で電池を交換しない錆の原因になります。
- 電池以外の部品に、ふれたり動かしたりしない
- 電極を曲げない

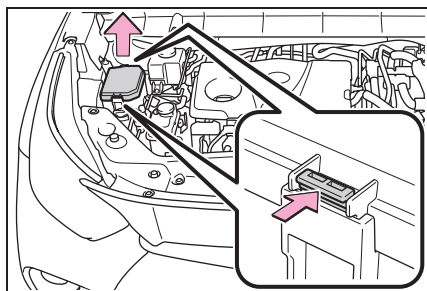
ヒューズの点検・交換

ランプがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検を行ってください。

ヒューズの点検・交換をするには

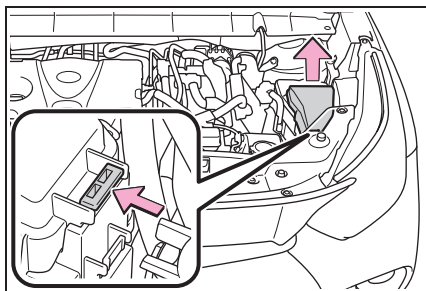
- 1 パワースイッチを OFF にします。
 - 2 ヒューズボックスを開ける
- ▶ エンジンルーム: タイプA ヒューズボックス ※

タブを押し込み、蓋を持ち上げて外します。



- ▶ エンジンルーム: タイプB ヒューズボックス

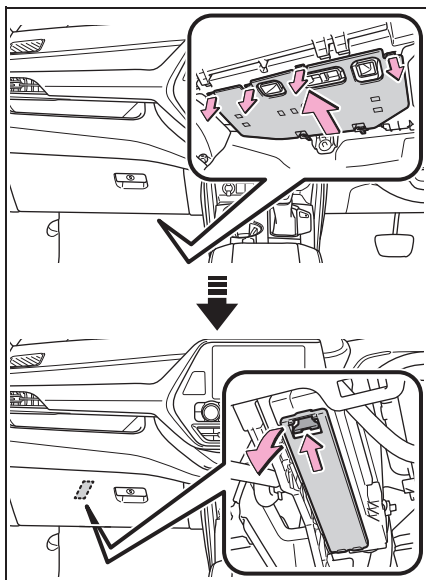
タブを押し込み、蓋を持ち上げて外します。



▶ 助手席サイドインストルメントパネルの下

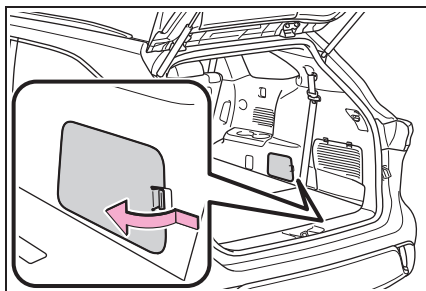
蓋を外します。

蓋を取り外したり取り付けたりするときは、必ずツメを押してください。



▶ 右側のラゲージコンパートメント

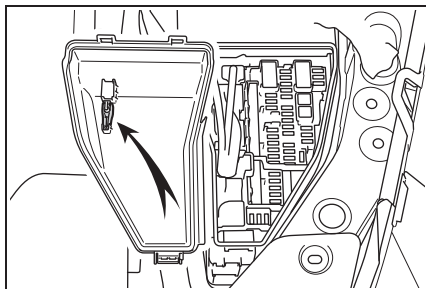
サードシートを折りたたむ。(→P.118)
ツメを外し、カバーを開けます。



※ グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

3 ヒューズを取り外します。

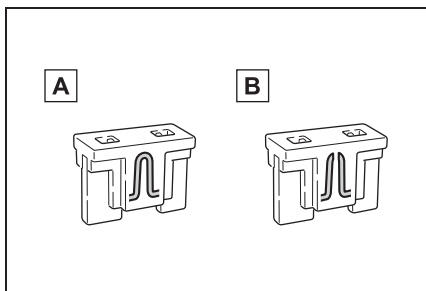
引き抜き工具でヒューズを取り外します。
引き抜き工具を使用して取り外すことができるのは一部のヒューズのみです。



4 ヒューズが切れていないか点検する

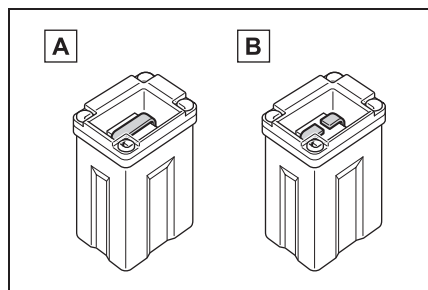
切れたヒューズを適切なアンペア数定格の新しいヒューズと交換します。アンペア数定格はヒューズボックスの蓋に記載されています。

▶ タイプ A

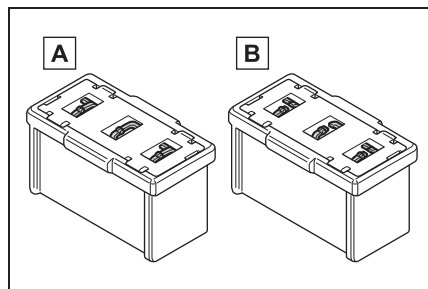


A 正常**B** ヒューズ切れ

▶ タイプ B

**A** 正常**B** ヒューズ切れ

▶ タイプ C

**A** 正常**B** ヒューズ切れ

知識

■ ヒューズを交換したあとは

- 交換してもランプ類が点灯しないときは、電球を交換してください。(→P.335)
- 交換しても再度ヒューズが切れる場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ 補機バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

■ ランプなどの電装部品を交換するとき

この車両に指定されているトヨタ純正品のご使用をおすすめします。一部の電装部品は過電流を防止する専用回路に接続されているため、この車両指定のトヨタ純正品以外は使用できない場合があります。

⚠ 警告**■ 車の故障や、車両火災を防ぐために**

次のことをお守りください。お守りいただかないと、車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

- 規定容量以外のヒューズ、またはヒューズ以外のものを使用しないでください。
- 常にトヨタ純正ヒューズまたは同等品を使用してください。ヒューズを一時的な修理としてでもワイヤーと交換しないでください。
- ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

■ 電源制御ユニット近くのヒューズボックス

ヒューズボックスの近くには高電圧部品や配線があるため、ヒューズの点検や交換は絶対に行わないでください。

⚠ 注意**■ ヒューズを交換する前に**

ヒューズが切れた原因が電気の過剰負荷だと判明したときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

電球（バルブ）の交換

次の電球はご自身で交換できます。交換の難易度は電球によって異なります。必要な電球交換が難しいと思われる場合は、トヨタ販売店にお問い合わせください。

他の電球の交換の詳細については、トヨタ販売店にお問い合わせください。

電球交換の準備

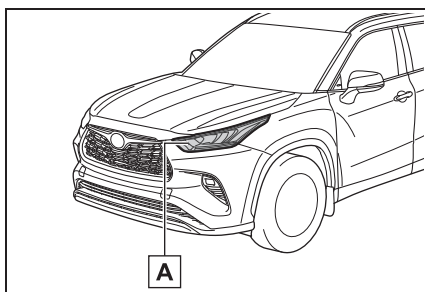
交換する電球のワット数を確認してください。（→P.396）

パワーバックドアメインスイッチを OFF にする（装備されている場合）

→P.403

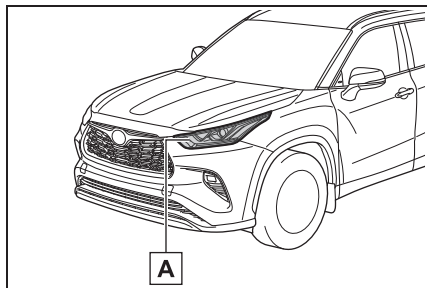
電球の位置

▶ フロント（タイプ A）



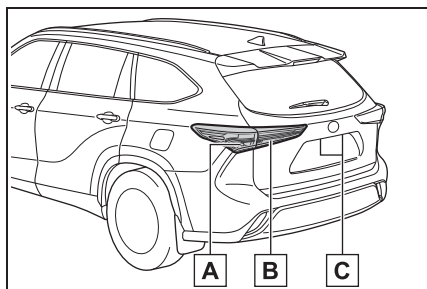
A フロントウインカーライト

▶ フロント（タイプ B）



A フロントウインカーライト

▶ リヤ



A リヤウインカーランプ

B バックアップランプ

C ナンバープレートランプ

■ トヨタ販売店による交換が必要なランプ

- ヘッドランプロービーム
- ヘッドランプハイビーム
- フロントポジションランプ
- フロントフォグラмп
- サイドウインカーランプ
- テールランプ/ストップランプ
- テールランプ
- ハイマウントストップランプ
- アウターフットランプ※

※ グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■LED ランプについて

次のランプ以外のランプは、それぞれ多数のLEDで構成されています。いずれかのLEDが切れた場合は、車両をトヨタ販売店に持ち込んでランプを交換してもらいます。

- フロントウインカーランプ
- リヤウインカーランプ
- バックアップランプ
- ナンバープレートランプ

■レンズ内の水滴と曇り

レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。ただし、次のようなときは、トヨタ販売店にご相談ください。

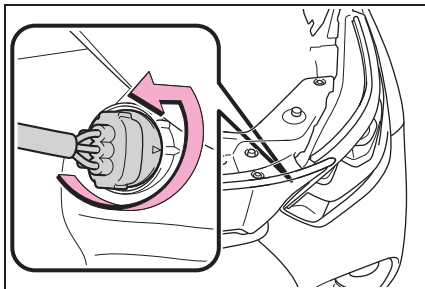
- レンズ内側に大粒の水滴が付いている
- ランプ内に水がたまっている

■ ランプなどの電装部品を交換するとき
→P.334

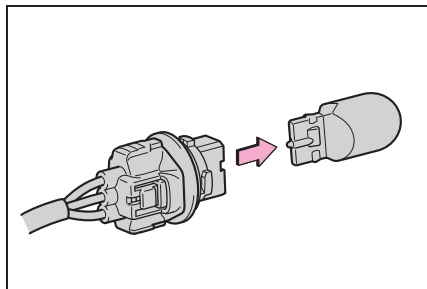
電球の交換

■ フロントウインカーランプ

- 1 電球ベースを反時計回りに回して取り外します。

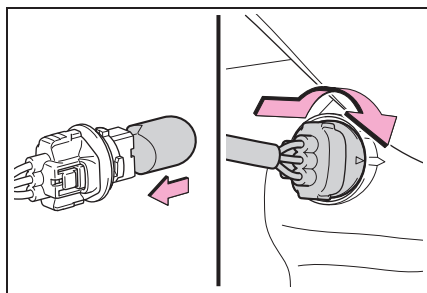


- 2 電球を取り外します。



- 3 新しい電球を取り付け、電球ベースを挿入して電球ベースを時計回りに回してランプユニットに取り付けます。

電球ベースを取り付けた後、軽く小刻みに動かしてしっかりと取り付けられていることを確認し、ランプとウインカーランプを点灯して、電球ベースとランプユニットの間に光が漏れていないことを目視で確認します。

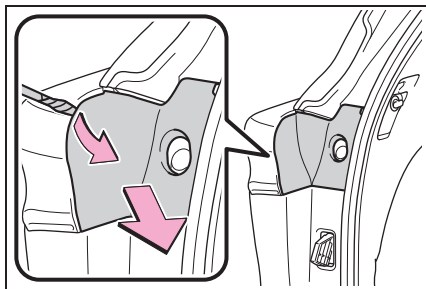


■ リヤウインカーランプ

- 1 バックドアを開き、マイナスドライバーを使用してカバーを取り外します。

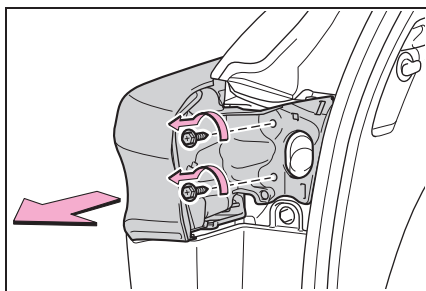
車両の損傷を防ぐため、マイナスドライバーの先端をテープなどで包んでください

い。

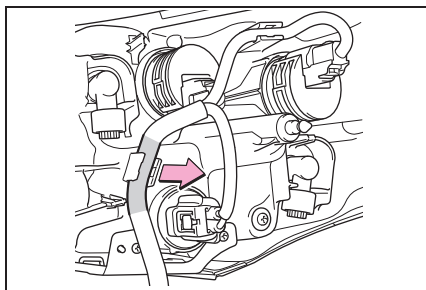


2 固定ネジ 2 本とランプユニットを取り外します。

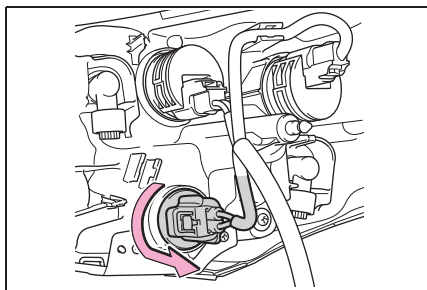
ランプユニットを車両後部からまっすぐ引き戻して取り外します。



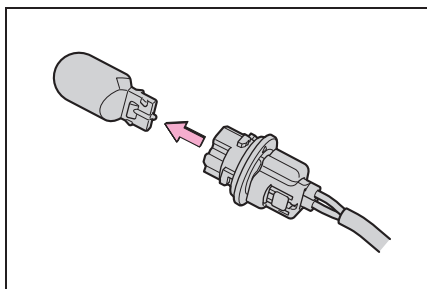
3 ワイヤーハーネスを外します。



4 電球ベースを反時計回りに回して取り外します。



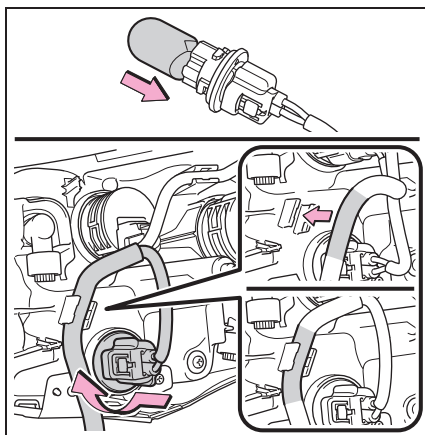
5 電球を取り外します。



6 新しい電球を取り付け、電球ベースを差し込んで時計回りに回してランプユニットに取り付けます。

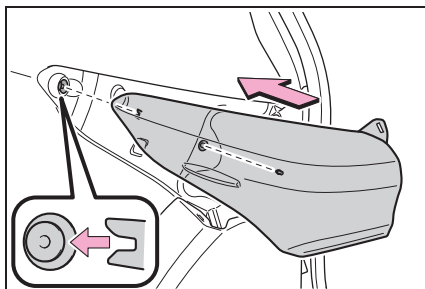
電球ベースを取り付けた後、軽く小刻みに動かしてしっかりと取り付けられていることを確認し、方向指示器を点灯して、電球ベースとランプユニットの間に光が

漏れていないことを目視で確認します。

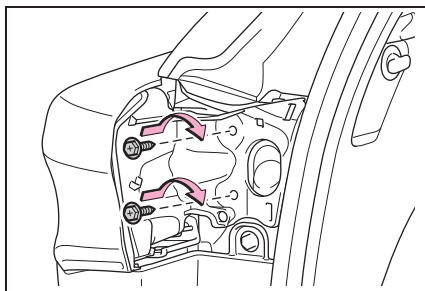


7 ランプユニットを取り付けます。

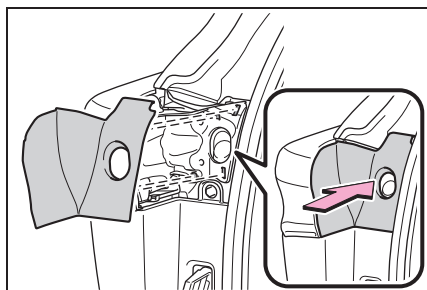
2つのガイドを合わせ、ランプユニットを車両の前方に押し込んで取り付けます。



8 2本のネジを取り付けます。



9 カバーを取り付けます。

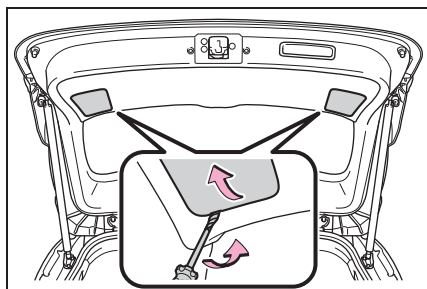


■ バックアップランプ

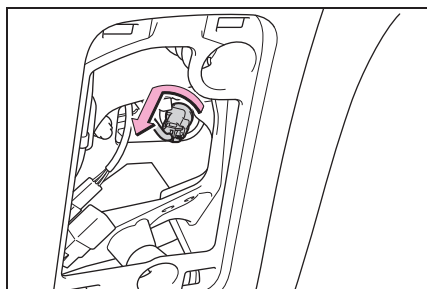
1 バックドアを開けてカバーを取り外します。

マイナスドライバーを使用して、カバーを取り外します。

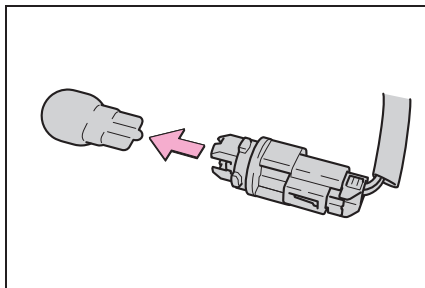
車両の損傷を防ぐため、マイナスドライバーの先端をテープなどで包んでください。



2 電球ベースを反時計回りに回して取り外します。

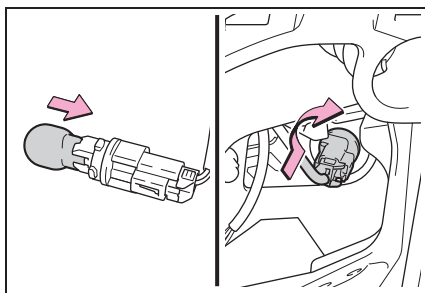


3 電球を取り外します。



4 新しい電球を取り付け、電球ベースを差し込んで時計回りに回してライトユニットに取り付けます。

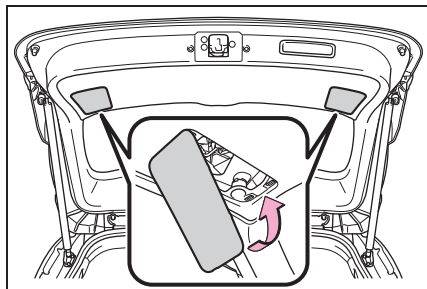
電球ベースを取り付けた後、軽く小刻みに動かしてしっかりと取り付けられていることを確認し、バックアップライトを点灯して、電球ベースとライトユニットの間から光が漏れていないことを目視で確認します。



5 カバーを取り付けます。

カバーのタブを溝に合わせ、カバーを取

り付けます。

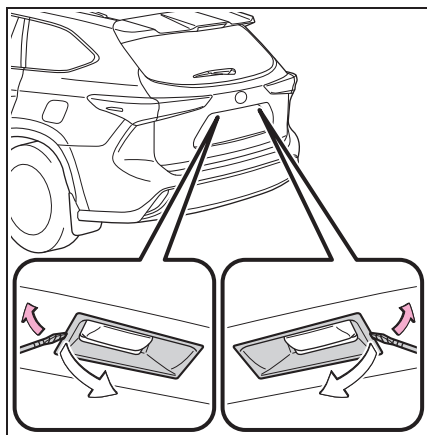


■ ナンバープレートライト

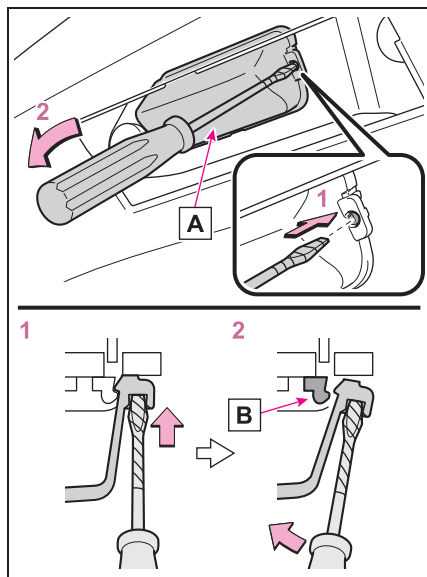
1 カバーを取り外します。

マイナスドライバーを使用して、カバーを取り外します。

車両の損傷を防ぐため、マイナスドライバーの先端をテープなどで包んでください。



2 レンズを取り外します。

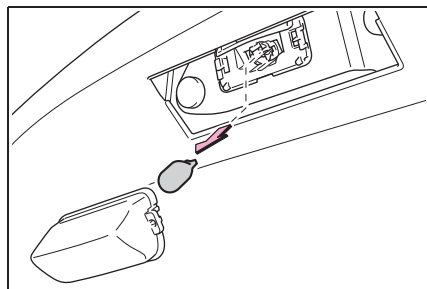
**A** レンズ**B** フック

1 レンズの左右の穴に小さなマイナスドライバーなどを差し込みます。

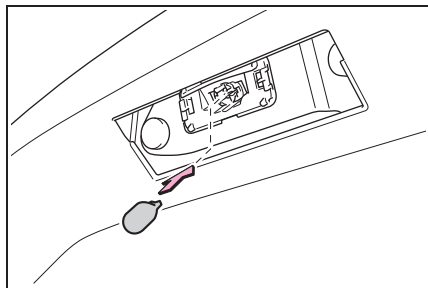
2 ドライバーを図の矢印の方向に横に押し、フックを外してからレンズを取り外します。

車両の損傷を防ぐため、ドライバーの先端をテープなどで包んでください。

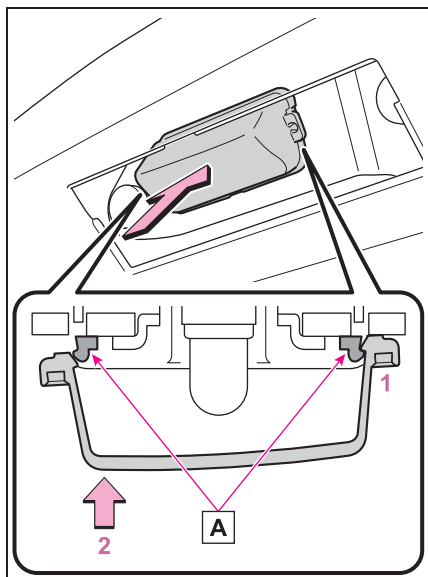
3 電球を取り外します。



4 新しい電球を取り付けます。



5 レンズを取り付けます。

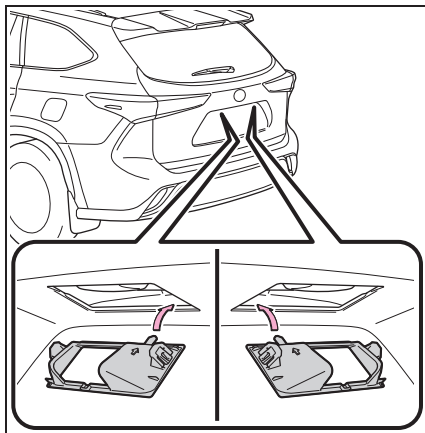
**A** フック

1 レンズを右または左のフックに取り付けます。

2 レンズを所定の位置に押し込みます。

取り付け後、レンズをゆっくりと引っ張って正しく取り付けられていることを確認します。

6 カバーを取り付けます。



⚠ 警告

■ 怪我を防ぐために

電球の交換手順を実行する前に、必ずパワースイッチを OFF にしてください。そうしないと、高温のコンポーネントで火傷を負ったり、体の一部が操作コンポーネントに引っかかって重傷を負うおそれがあります。

■ 電球を交換するとき

- ランプは消灯してください。消灯直後は高温になっているため、交換しないでください。やけどをすることがあります。
- 電球のガラス部を素手でふれないでください。やむを得ずガラス部を持つ場合は、電球に油脂や水分を付着させないために、乾いた清潔な布などを介して持ってください。また、電球を傷付けたり、落下させたりすると球切れや破裂することがあります。

- 電球や電球を固定するための部品はしっかり取り付けてください。取り付けが不十分な場合、発熱や発火、または内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。
- 電球、コネクタ、電気回路、または構成部品を修理または分解しようとしないでください。感電により死亡または重傷を負う恐れがあります。
- お車の故障や火災を防ぐために
- 電球が正しい位置にしっかりと取り付けられていることを確認してください。
- 熱による損傷を防ぐために、取り付けの前に電球のワット数を確認してください。

7-1. まず初めに

非常点滅灯（ハザードランプ）	344
発炎筒	344
車両を緊急停止するには	345
水没・冠水したときは	346

7-2. 緊急時の対処法

けん引について	348
何かおかしいと思ったら	351
警告灯がついたときは	352
警告メッセージが表示されたときは	359
パンクしたときは	363
ハイブリッドシステムが始動できないときは	374
キーをなくしたときは	375
燃料給油口が開かないときは	375
電子キーが正常に働かないときは	376
補機バッテリーがあがったときは	378
オーバーヒートしたときは	384
スタックしたときは	387

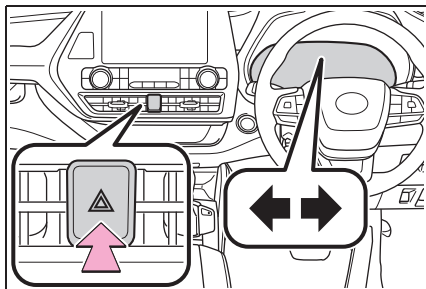
非常点滅灯（ハザードランプ）

事故などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるために使用してください。

点滅させるには

スイッチを押す

すべての方向指示灯が点滅します。もう一度押すと消灯します。



知識

■非常点滅灯について

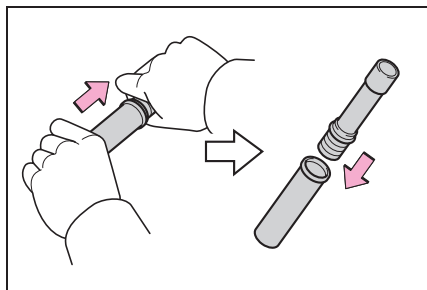
- ハイブリッドシステム停止中（READYインジケータが点灯していないとき）に、非常点滅灯を長時間使用すると、補機バッテリーがあがるおそれがあります。
- SRS エアバッグの作動時または後方から強い衝撃を受けたときは、非常点滅灯が自動で点滅します。非常点滅灯スイッチを2回押すか、約20分経過すると消灯します。（衝撃の度合いや事故の状況によっては点滅しないことがあります。）

発炎筒

高速道路や踏切などでの故障・事故時に非常信号用として使用します。
（トンネル内や可燃物の近くでは使用しないでください）
発炎時間は約5分です。非常点滅灯と併用してください。

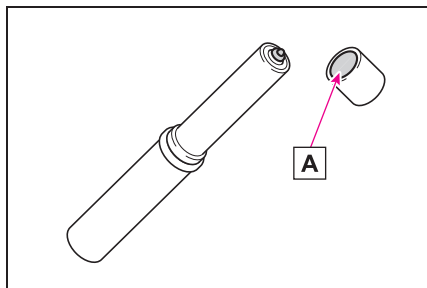
発炎筒を使うには

- 1 本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして挿し込む



- 2 先端のフタを取り、すり薬Aで発炎筒の先端をこすり、着火させる

必ず車外で使用してください。
着火させる際は、筒先を顔や体に向けないでください。



知識

■ 発炎筒の交換について

本体に表示してある有効期限が切れる前に、トヨタ販売店で求めください。有効期限が切れると、着火しなかったり、炎が小さくなる場合があります。

⚠ 警告

■ 発炎筒を使用してはいけない場所

次の場所では、発炎筒を使用しないでください。

煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- トンネル内
- ガソリンなど可燃物の近く

■ 発炎筒の取り扱いについて

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

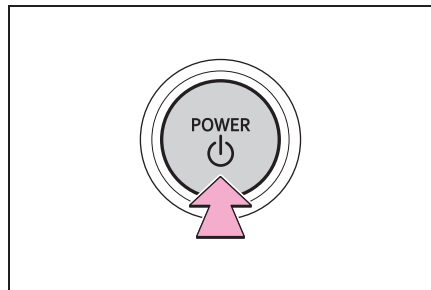
- 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近付けたりしない
- 発炎筒は、お子さまにさわらせない

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、手順に従って車両を停止させてください。

車を停止するには

- 1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける
ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。
- 2 シフトレバーを N に入れる
▶ シフトレバーが N に入った場合
- 3 減速後、車を安全な道路脇に停める
- 4 ハイブリッドシステムを停止する
▶ シフトレバーが N に入らない場合
- 3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる
- 4 パワースイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してハイブリッドシステムを停止する



- 5 車を安全な道路脇に停める

 警告**■ 走行中にやむを得ずハイブリッドシステムを停止するとき**

ハンドル操作が重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。ハイブリッドシステムを停止する前に、十分に減速するようにしてください。

水没・冠水したときは

この車両は水深が深い道路を走行できるように設計されていません。冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。車両が水没や漂流することが予想される場合は、車内に留まると危険です。落ち着いて次のように対処してください。

- ドアを開けることができる場合、ドアを開けて車外に出てください。
- ドアを開けることができない場合、パワーウィンドウスイッチでドアガラスを開けて避難経路を確保してください。
- ドアガラスが開けられる場合、窓から車外に出てください。
- 水没によりドアおよびドアガラスを開けることができない場合、落ち着いて車内外の水圧差がなくなるまで車内が浸水するのを待ってからドアを開けて車外に出てください。

車外の水位がドア高さの半分をこえると、水圧で車内からドアを開けることができなくなります。

 知識**■ 水位がフロアをこえると**

水位がフロアを超えて時間が経過すると、電気装置が損傷し、パワーウィンドウが作動しなくなったり、エンジンやモーターが停止し、車が移動できなくなるおそれがあります。

■緊急脱出用ハンマー ※¹の使用について

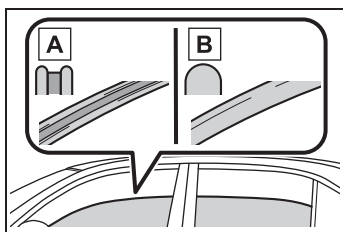
この車両のフロントウインドウガラスとドアガラスには合わせガラス ※² が使用されています。合わせガラスは、緊急脱出用ハンマー ※¹ では割れません。

※¹ 詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

※² 装備されている場合

■合わせガラスの見分け方

断面から見ると、合わせガラスは 2 枚のガラスを貼り合わせたものです。



A 合わせガラス

B 強化ガラス



警告

■走行中の警告

冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。車両が故障して動かなくなり、水没や漂流から死亡につながるおそれがあります。

けん引について

けん引は、できるだけトヨタ販売店または専門業者にご依頼ください。その場合は、レッカー車または、車両運搬車を使用することをおすすめします。

すべてのけん引作業には安全チェーンシステムを使用し、国・地方自治体の法令および地域の規則を遵守してください。

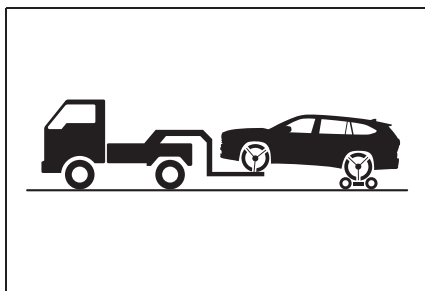
けん引の前に販売店への連絡が必要な状況

次の場合は、駆動系の故障が考えられるため、トヨタ販売店または専門業者へご連絡ください。

- ハイブリッドシステムの異常を示す警告メッセージが表示され、車が動かない
- 異常な音がある

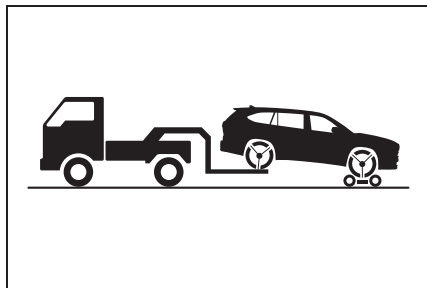
レッカー車でけん引するとき

▶ 前向きにけん引するときは



台車を使用して後輪を持ち上げる

▶ うしろ向きにけん引するときは



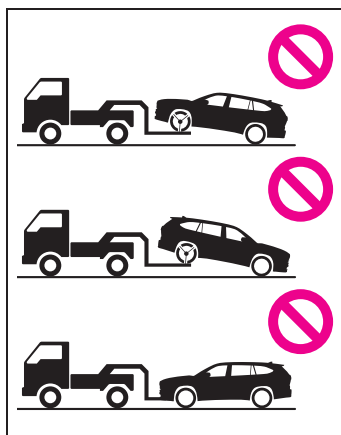
台車を使用して前輪を持ち上げる

警告

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ レッカー車でけん引するとき

4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。タイヤが地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品の破損や、車が台車から飛び出したり、モーターが回転することにより発電され、故障や破損の状態によっては火災が発生するおそれがあります。



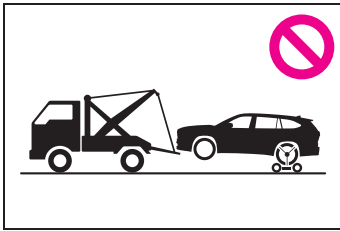
⚠ 注意

■ 車両の損傷を防ぐために

車両を持ち上げてけん引するときは、持ち上げた反対側の地上高を十分に確保してください。地上高が不十分な場合、けん引中に車両が損傷するおそれがあります。

■ レッカー車でけん引するとき

車両の損傷を防ぐために図のようなレッカー車ではけん引しないでください。



車両運搬車を使用するとき

車両運搬車で車両を輸送する場合は、タイヤバンドを使用してください。タイヤバンドの締め方については、車両運搬車の取扱説明書を参照してください。

輸送中の車両の動きを抑えるため、パーキングブレーキをかけ、パワースイッチを切ってください。

緊急けん引するとき

緊急時にレッカー車が利用できない場合は、緊急けん引アイレットに固定されたケーブルまたはチェーンを使用して、車両を一時的にけん引することができます。ただし、このけん引は舗装道路で、時速 30km 以下の短距離に限って

行ってください。

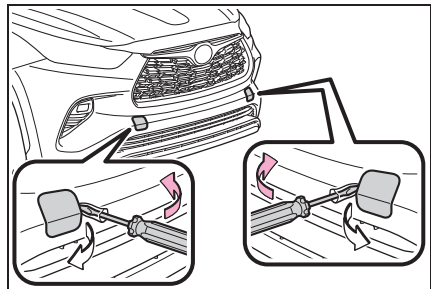
運転者はハンドル操作とブレーキ操作を行うために車両内にいなければなりません。車両の車輪、駆動系、車軸、ステアリング、ブレーキは良好な状態である必要があります。

他車にけん引してもらうとき

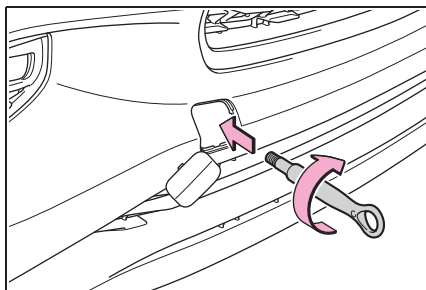
他車にけん引してもらうときは、けん引フックを取り付ける必要があります。手順に従って取り付けてください。

- 1 ラゲージルーム内のホイールナットレンチ、マイナスドライバー、けん引フックを取り出す (→P.364)
- 2 マイナスドライバーを使ってフタをはずす

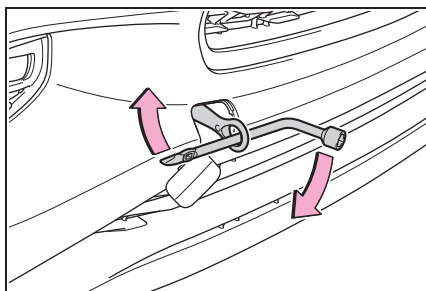
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



- 3** けん引フックを穴に挿し込んで
まわし、軽く締める



- 4** ホイールナットレンチや金属の
固い棒などを使い確実に取り付
ける



- 5** 車体に傷が付かないようにロー
プをけん引フックにかける

車体に傷が付かないように注意してく
ださい。また、前進方向でけん引してく
ださい。

- 6** 運転者はけん引される車両に乗り、ハイブリッドシステムを始
動する

ハイブリッドシステムが始動しないとき
は、パワースイッチを ON にしてくださ
い。

- 7** けん引される車両のシフトレ
バーを N にしてから、パーキ
ングブレーキを解除する

オートモードを OFF にしてください。
(→P.160)

シフトレバーがシフトできないときは：
→P.157

知識

■他車にけん引してもらうときに

ハイブリッドシステムが停止していると
ブレーキの効きが悪くなったり、ハンド
ル操作が通常より重くなったりします。

■ホイールナットレンチについて

ラゲージルームに搭載されています。
(→P.364)

警告

次のことを必ずお守りください。お守
りいただかないと、重大な傷害におよ
ぶか、最悪の場合死亡につながるおそ
れがあります。

■他車にけん引してもらうときの運転 について

けん引フックやロープに過剰な負荷を
かける急発進などを避けてください。
けん引フックやロープが破損し、その
破片が周囲の人などにあたり、重大な
傷害を与えるおそれがあります。

■けん引フックを車両に取り付けると き

指定の位置にしっかりと取り付けてく
ださい。指定の位置にしっかり取り付
けていないとけん引時にフックがはず
れるおそれがあります。

注意

■車両の損傷を防ぐために

サスペンション部などにロープをかけ
ない

何かおかしいと思ったら

次の症状のいずれかに気づいた場合、お車の調整または修理が必要であるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

目に見える症状

- 車両下部からの液漏れ。(使用後のエアコンからの水滴は正常です。)
- 平らに見えるタイヤまたは偏ったタイヤの摩耗
- エンジン冷却水温度計が常に通常より高い値を示している。

聴取可能な症状

- 排気音の変化
- コーナリング時の過剰なタイヤのきしむ音
- サスペンションシステムに関連する異音
- ハイブリッドシステムに関連するピング音その他の異音

機能症状

- エンジンがかからない、失速する、または不規則に作動する
- 著しい出力低下
- ブレーキをかけると車両が片側に大きく引っ張られる
- 平坦な道路を走行中に車両が片側に大きく引っ張られる

- 制動力の低下、スポンジのような感触、ペダルが床にほぼ接触する状態

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて次のように対処してください。なお、点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

警告灯・警告ブザーへの対応

■ ブレーキ警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 (赤色)	次の異常を示します。 ●ブレーキ液の不足 ●ブレーキシステムの異常 → ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。 走行を続けると危険です。

■ ブレーキ警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 (黄色)	次の異常を示します。 ●回生ブレーキシステムの異常 ●電子制御ブレーキシステムの異常 ●パーキングブレーキシステムの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ 高水温警告灯※（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	エンジン冷却水の高温異常 → ただちに安全な場所に停車し、対処方法に従ってください。 (→P.384)

※ マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ ハイブリッドシステム過熱警告灯※（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	ハイブリッドシステムの高温異常 → 安全な場所に停車し、対処方法に従ってください。(→P.385)

※ マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ 充電警告灯 ※（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	充電システムの異常 → ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

※ マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ 油圧警告灯 ※（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	エンジンオイル圧力の異常 → ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

※ マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ エンジン警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
	次の異常を示します。 ●ハイブリッドシステムの異常 ●エンジン電子制御システムの異常 ●電子制御スロットルの異常 → ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

■ SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
	次の異常を示します。 ●SRS エアバッグシステムの異常 ●プリテンショナー付きシートベルトシステムの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ ABS & ブレーキアシスト警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
	次の異常を示します。 ●ABS の異常 ●ブレーキアシストの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ ペダル誤操作警告灯※（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	ブザーが鳴った場合： ●ブレーキオーバーライドシステムの異常 ●ドライブスタートコントロールの異常 ●ドライブスタートコントロール作動時 ●パーキングサポートブレーキ（後方静止物）作動時 → マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。 ブザーが鳴らなかった場合： ブレーキオーバーライドシステム作動時 → アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。

※ マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ パワーステアリング警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 (赤色)	EPS（エレクトリックパワーステアリング）の異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
 (黄色)	

■ 燃料残量警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
	燃料の残量が約 9.7L 以下になった → 燃料を補給する

■ 運転席・助手席シートベルト非着用警告灯（警告ブザー）※

警告灯	警告内容・対処方法
	運転席・助手席シートベルトの非着用 → シートベルトを着用する助手席乗員がいるときは、助手席乗員もシートベルトを着用してください。

※ 運転席・助手席シートベルト非着用警告ブザー：

運転席・助手席シートベルト非着用のまま車速が一定以上になると、警告ブザーが一定時間断続的に鳴ります。

■ リヤ席シートベルト非着用警告灯（警告ブザー）※

警告灯	警告内容・対処方法
	リヤ席シートベルトの非着用 → シートベルトを着用する

※ リヤ席シートベルト非着用警告ブザー：

リヤ席シートベルト非着用（いずれかのシートベルト脱着により、リヤ席シートベルト非着用警告灯が点灯し続けているとき）のまま車速が一定以上になると、警告ブザーが一定時間断続的に鳴ります。リヤドアを開けると、ブザー吹鳴条件が解除されます。

■ タイヤ空気圧警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
	約 1 分間点滅した後、ライトが点灯するとき： タイヤ空気圧警報システムの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。 ライトが点灯するとき： 空気圧の異常 ●自然原因によるタイヤ空気圧の異常 ●パンク → ただちに安全な場所に停車し、対処方法に従ってください。 (→P.358)

■ LTA 表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 (橙色)	LTA（レーントレーシングアシスト）の異常が考えられます。 → ディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。(→P.200)

■ クリアランスソナー OFF 表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	ブザーが鳴った場合： クリアランスソナーの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。 ブザーが鳴らなかった場合： センサー部の汚れなどによりシステムが一時的に使用できない → マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。(→P.220)

■ RCTA OFF 警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	RCTA（リヤクロストラフィックアラート）の異常が考えられます。 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。 センサー部の汚れなどによりシステムが一時的に使用できない（→P.215） → マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。（→P.226）

■ PKSB OFF 警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	ブザーが鳴った場合： PKSB（パーキングサポートブレーキ）の異常が考えられます。 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。 ブザーが鳴らなかった場合： センサー部の汚れなどによりシステムが一時的に使用できない → マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。（→P.236, 359）

■ PCS 警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 (点滅または点灯)	ブザーが鳴った場合： PCS（プリクラッシュセーフティ）の異常が考えられます。 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。 ブザーが鳴らなかった場合： PCS（プリクラッシュセーフティ）が一時的に使用できなくなっています。修正措置が必要になるおそれがあります。 → マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。（→P.180, 359） プリクラッシュセーフティが OFF、または VSC（ビークルスタビリティコントロール）システムが停止しているときも点灯します。 → P.191

■ スリップ表示灯

警告灯	警告内容・対処方法
	表示灯が点灯している場合： 次の異常を示します。 ●VSC（ビークルスタビリティコントロール）システムの異常 ●TRC（トラクションコントロール）システムの異常 ●トレーラー横揺れ制御の異常 ●ヒルスタートアシストコントロールシステムの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。 表示灯が点滅している場合： ABS・VSC・TRC またはトレーラースウェイコントロールシステムが作動していることを示します。

■ パーキングブレーキ表示灯 ※

警告灯	警告内容・対処方法
 (点滅)	パーキングブレーキが完全にかかっていない、または解除されていない可能性がある → パーキングブレーキスイッチを再度操作してください。 パーキングブレーキが解除されていないときは点灯します。解除後、消灯すれば正常です。

※ 車両が約 5 km/h 以上の速度で走行している場合、ブザーが鳴ります。

■ ブレーキホールド作動表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 (点滅)	ブレーキホールドシステムの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■ 警告ブザーについて

状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

■ シートベルト非着用警告灯の乗員検知センサーの作動について

- 助手席に乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を

検知して警告灯が点滅し、ブザーが鳴ることがあります。

- 助手席に座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。

■ 走行中に故障警告灯が点灯した場合

燃料タンクが完全に空になると、故障表示ランプが点灯します。燃料タンクが空になった場合は、すぐに燃料を補給してください。故障表示ランプは数回走行す

ると消灯します。

数回走行しても警告灯が消えない場合は、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ パワーステアリング警告灯／警告ブザーについて

補機バッテリーの充電が不十分な場合、または一時的に電圧が下がった場合に警告灯が点灯し、警告ブザーが鳴ることがあります。

■ タイヤ空気圧警告灯が点灯したとき

タイヤを点検し、パンクしていないか確認してください。

タイヤがパンクした場合：→P.363

パワースイッチを OFF にし、その後 ON に切りかえてください。タイヤ空気圧警告灯が点灯または点滅するか確認してください。

▶ タイヤ空気圧警告灯が約 60 秒間点滅した後、点灯したままになる場合

タイヤ空気圧警報システムに不具合が生じているおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

▶ タイヤ空気圧警告灯が点灯した場合

- 1 タイヤの温度が十分に下がった後、各タイヤの空気圧を確認し、規定値に調整してください。
- 2 警告灯が数分経過しても消えない場合は、各タイヤの空気圧が規定値にあることを確認し、タイヤ空気圧設定手順を実行してください。(→P.320)

タイヤ空気圧設定操作を行ってから数分経過しても警告灯が消えない場合は、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ タイヤ空気圧警告灯は自然現象により点灯する場合があります

タイヤ空気圧警告灯は、自然空気漏れや温度によるタイヤ空気圧の変化などの自

然現象によって点灯することがあります。この場合、タイヤ空気圧を調整すると警告灯は消灯します（数分後）。

■ タイヤが応急用タイヤに交換されたとき

応急用タイヤには、タイヤ空気圧警告バルブと送信機が装備されていません。タイヤがパンクした場合、パンクしたタイヤを応急用タイヤに交換しても、タイヤ空気圧警告灯は消灯しません。応急用タイヤを修理したタイヤと交換し、タイヤの空気圧を調整してください。数分後にタイヤ空気圧警告灯は消灯します。

■ タイヤ空気圧警報システムが正常に動作しないおそれがある条件

→P.318

⚠ 警告

■ ABS 警告灯とブレーキ警告灯が同時に点灯したときは

ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店にご連絡ください。ABS またはブレーキアシストシステムに異常が発生しているだけでなく、強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ パワーステアリング警告灯が点灯したときは

黄色に点灯したときは操作力補助が制限され、赤色に点灯したときは操作力補助がなくなるため、ハンドル操作が非常に重くなることがあります。ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

⚠ 警告

■ タイヤ空気圧警告灯が点灯したときは

次の注意事項を必ずお守りください。これらを守らないと、車両の制御を失い、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ただちに安全な場所に停車し、タイヤの空気圧を調整してください。
- タイヤ空気圧警告灯が点灯したままの場合は、タイヤの空気圧を調整した後でも、パンクしているおそれがあります。タイヤを確認してください。パンクしているタイヤがある場合は、応急用タイヤと交換し、最寄りのトヨタ販売店にて修理を受けてください。
- 急な操作や急ブレーキは避けてください。タイヤが劣化した場合、ハンドルやブレーキの制御を失うおそれがあります。
- 万一、タイヤのパンクや急な空気漏れが発生したときは

タイヤ空気圧警報システムはただちに作動しない場合があります。

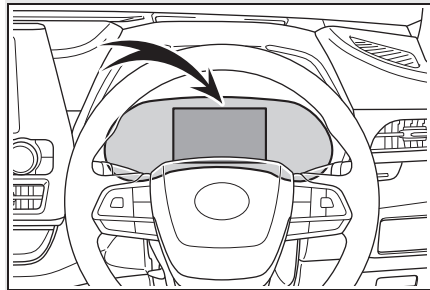
⚠ 注意

■ タイヤ空気圧警報システムが正常に作動することを保証するため

異なる仕様またはメーカーのタイヤを組み合わせず装着しないでください。タイヤ空気圧警報システムが正常に作動しないおそれがあります。

警告メッセージが表示されたときは

マルチインフォメーションディスプレイには、システムの故障や誤った操作をしたときの警告、メンテナンスが必要であることをお知らせするメッセージが表示されます。メッセージが表示されたときは、メッセージの内容に従って対処してください。処置後に再度メッセージが表示されたときは、トヨタ販売店へご連絡ください。



また、メッセージと同時に専用警告灯が点灯・点滅する場合があります。その際は、各警告灯が点灯・点滅したときの対処方法に従ってください。
(→P.352)

処置後に再度メッセージが表示されたときは、トヨタ販売店へご連絡ください。

メッセージと警告作動について

警告灯と警告ブザーは、メッセージの内容に応じて次のように作動します。販売店による点検が必要なメッセージが表示された場合は、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

警告灯	警告ブザー ※	警告
-	ブザー音が鳴る	●運転にかかわるシステムに不具合が生じている場合や、修正手順を実行しないと危険が生じるおそれがある場合など、重要な状況を示します。 ●車両の損傷や危険が生じるおそれがあるなどの状況を示します
点灯または点滅	ブザー音が鳴る	マルチインフォメーションディスプレイに表示されているシステムに不具合があるおそれがあるなど、重要な状況を示します。
-	ブザー音が鳴らない	●電気部品の故障や状態、メンテナンスの必要性などの状態を示します ●操作が誤って実行された場合などの状況を示す、または操作を正しく実行する方法を示す

※ マルチインフォメーションディスプレイに初めてメッセージが表示されるとブザー音が鳴ります。

□ 知識

■ 警告メッセージについて

文中の警告メッセージの表示は、使用状況や車両の仕様により実際の表示と異なる場合があります。

■ 警告ブザーについて

状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

■ “Engine Oil Level Low Add or Replace” が表示されたときは

エンジンオイルが不足しているときにメッセージが表示されます。エンジンオイル量を点検し、オイルを補給してください。

また、傾斜路などに停車したときに表示

される場合があります。水平な路面に移動し、メッセージが表示されるか確認してください。

■ “Hybrid System Stopped Steering Power Low” が表示されたときは

走行中にハイブリッドシステムが停止したときにメッセージが表示されます。

ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

■ “Hybrid System Overheated Output Power Reduced” が表示されたときは

負荷の高い走行状況（例えば、長い上り坂を走行）のときにメッセージが表示される場合があります。対処方法：

→P.384

■ **“Traction Battery Needs to be Protected Refrain from the Use of N Position” が表示されたときは**

シフトレバーがNのときにメッセージが表示されることがあります。

シフトレバーがNでは充電できないため、停車するときはシフトレバーをPにしてください。

■ **“Traction Battery Needs to be Protected Shift into P to Restart” が表示されたときは**

一定時間シフトレバーがNになっているため、駆動用電池の残量が低下したときにメッセージが表示されます。

車両を動かす場合は、シフトレバーをPにして、ハイブリッドシステムを再始動してください。

■ **“Shift to P when Parked” が表示されたときは**

シフトレバーがP以外でパワースイッチをOFFにせずに運転席ドアが開いたときにメッセージが表示されます。駐車時はPにしてください。

■ **“Shift is in N Release Accelerator Before Shifting” が表示されたときは**

シフトレバーがNで、アクセルペダルを踏んだときにメッセージが表示されます。

アクセルペダルから足を離し、シフトレバーをD・SまたはRにしてください。

■ **“Press Brake when Vehicle is Stopped Hybrid System may Overheat” が表示されたときは**

上り坂などでの停車時にアクセルペダルを踏んで車両を保持するとメッセージが表示される場合があります。そのままの状態を続けるとハイブリッドシステムが過熱するおそれがあります。アクセルペ

ダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。

■ **“Auto Power OFF to Conserve Battery” が表示されたときは**

自動電源OFF機能が作動したときにメッセージが表示されます。次回ハイブリッドシステム始動時に、約5分間ハイブリッドシステムが作動した状態を保持し、補機バッテリーを充電してください。

■ **“Headlight System Malfunction Visit Your Dealer” が表示されたときは**

次のシステムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

●AHB（オートマチックハイビーム）

■ **“Radar Cruise Control Temporarily Unavailable See Owner's Manual” が表示されたときは**

レーダークルーズコントロールは、メッセージに表示された問題が解決されるまで、または一時的に停止されます。（原因と対処方法：→P.180）

■ **“Radar Cruise Control Unavailable” が表示されたときは**

レーダークルーズコントロールは現在使用できません。再度使用可能になった際にご利用ください。

■ **フロントカメラの故障を示すメッセージが表示された場合**

次のいずれかのシステムが停止しています。（→P.180, 356）

- PCS（プリクラッシュセーフティ）
- LTA（レーントレーシングアシスト）
- AHB（オートマチックハイビーム）
- RSA（ロードサインアシスト）
- レーダークルーズコントロール

■レーダーセンサーの故障を示すメッセージが表示されたときは

メッセージに表示されている問題が解決されるまで、次のシステムは停止されるおそれがあります。(→P.180, 356)

- PCS (プリクラッシュセーフティ)
- LTA (レーントレーシングアシスト)
- レーダークルーズコントロール

■“AWD System Overheated Switching to 2WD Mode” または “AWD System Overheated 2WD Mode Engaged” が表示されたときは

システムがオーバーヒートしています。

車速を下げるか、ハイブリッドシステムを作動させたまま安全な場所に停車してください。

メッセージが消えない場合は、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■“Engine Maintenance Required Visit Your Dealer” が表示されたときは

エンジンまたはエンジン部品に不具合があります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■次のいずれかのシステムが停止します。

- 次のメッセージが表示された場合は、燃料切れのおそれがあります。安全な場所に停車し、燃料残量が少ない場合は燃料を補給してください。
 - ・“Hybrid System Stopped”
 - ・“Engine Stopped”
- 次のメッセージが表示された場合は、故障のおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
 - ・“Hybrid System Malfunction”
 - ・“Check Engine”
 - ・“Hybrid Battery System

Malfunction”

- ・“Accelerator System Malfunction”

■トヨタ販売店への訪問が必要であることを示すメッセージが表示されたときは

次のメッセージが表示された場合は、故障のおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■取扱書の確認をうながすメッセージが表示されたときは

- 次のメッセージが表示されたときは、故障している可能性があります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
 - ・“Braking Power Low Stop in a Safe Place See Owner's Manual”
 - ・“Oil Pressure Low Stop in a Safe Place See Owner's Manual”
 - ・“Charging System Malfunction Stop in a Safe Place See Owner's Manual”
 - ・“Stop in a Safe Place See Owner's Manual”
 - ・“Shift to P See Owner's Manual”
- “Smart Entry & Start System Malfunction See Owner's Manual” と表示された場合は、故障のおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
- 次のメッセージが表示されたときは、故障しているおそれがあります。
 - ・“Engine Coolant Temp High Stop in a Safe Place See Owner's Manual” (→P.384)
- “Maintenance Required for Traction Battery Cooling Parts See Owner's Manual” が表示されたときは、フィルターが目づまりしている、冷却用の吸入口がふさがれている、またはダクトにすき間があるなどが考

えられますので、次の対処方法に従ってください。

- ・ 駆動用電池冷却用吸入口を清掃する (→P.327)

駆動用電池冷却用吸入口を清掃してもメッセージが表示されたときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

注意

- “High Power Consumption Partial Limit on AC/Heater Operation” がひんばんに表示されるときは

補機バッテリーが劣化している可能性があります。その状態で放置しておくと、補機バッテリーのバッテリーあがりを起こすおそれがあるため、トヨタ販売店で補機バッテリーの点検を受けてください。

パンクしたときは

パンクしたタイヤを、備え付けの応急用タイヤと交換してください。

タイヤについての詳しい説明は次を参照してください →P.316

警告

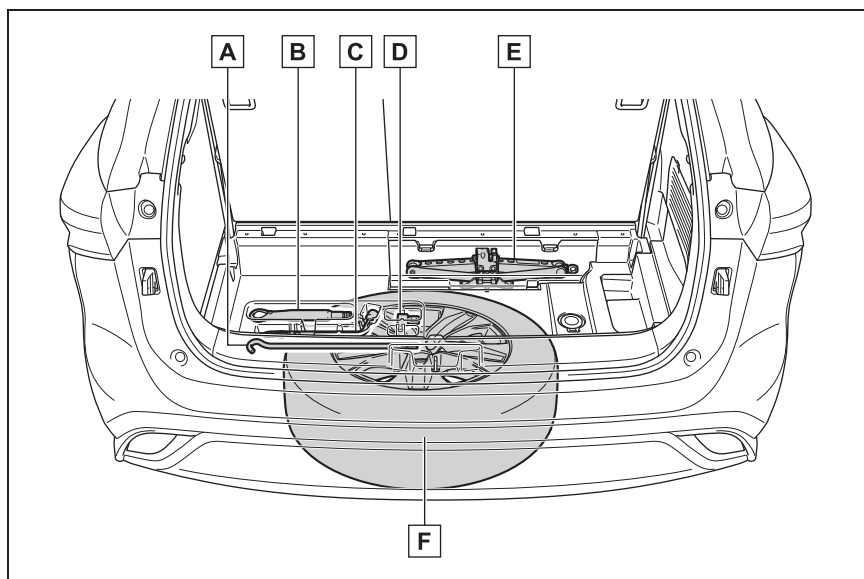
- タイヤがパンクしたときは

パンクしたまま走行しないでください。短い距離でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

ジャッキで車体を持ち上げる前に

- 地面が固く平らで安全な場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーを P にする
- ハイブリッドシステムを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる (→P.344)
- パワーバックドア装着車：パワーバックドアシステムを OFF にします。(→P.399)

タイヤパンク応急修理キットと工具の位置



- A** ジャッキハンドル
- B** けん引フック
- C** ホイールナットレンチ
- D** アダプターソケット
- E** ジャッキ
- F** 応急用タイヤ

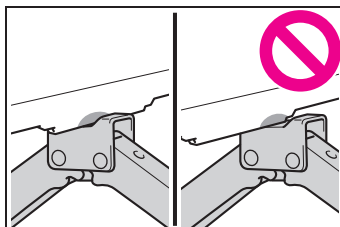
⚠ 警告

■ ジャッキの使用について

次のことをお守りください。ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下して重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ジャッキはタイヤ交換・タイヤチェーン取り付け・取りはずし以外の目的で使用しない

- 備え付けのジャッキは、お客様の車にしか使うことができないため、他の車に使ったり他の車のジャッキをお客様の車に使用したりしない
- ジャッキはジャッキセット位置に正しくかける

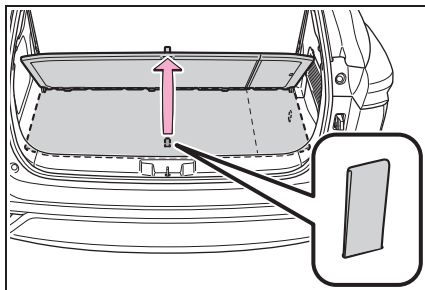
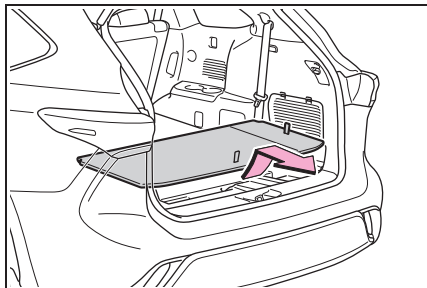
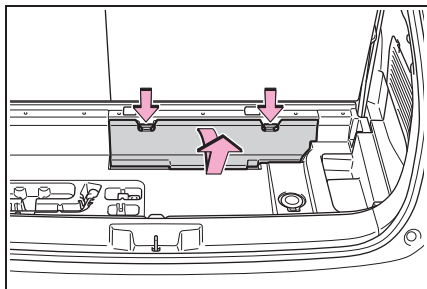
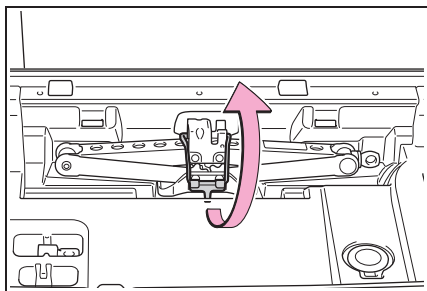


⚠ 警告

- ジャッキで支えられている車の下に体を入れない
- 車がジャッキで支えられている状態で、ハイブリッドシステムを始動したり車を走らせない
- 車内に人を乗せたまま車を持ち上げない
- 車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下にものを置かない
- 車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
- 車の下にもぐり込んで作業する場合は、ジャッキスタンドを使用する
- 車を下げるときは、周囲に人がいないことを確認し、人がいるときは声をかけてから下げる

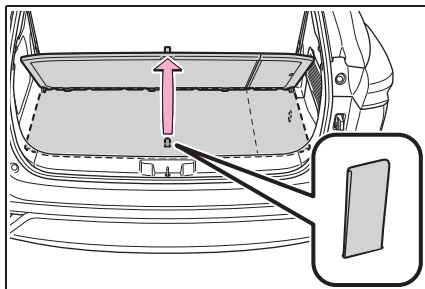
⚠ 注意

- **アダプターソケットの使用について**
アダプターソケットは応急用タイヤ・パンクしたタイヤを収納する以外の目的には使用しないでください。

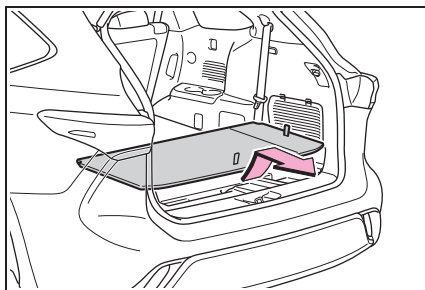
ジャッキの取り出し方**1 デッキボードを開く****2 デッキボードを取り外します。****3 ジャッキカバーを取り外します。****4 フックを外した後ジャッキも取り外します。**

応急用タイヤの取り出し方

1 デッキボードを開く

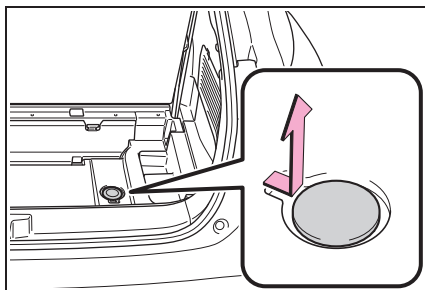


2 デッキボードを取り外します。

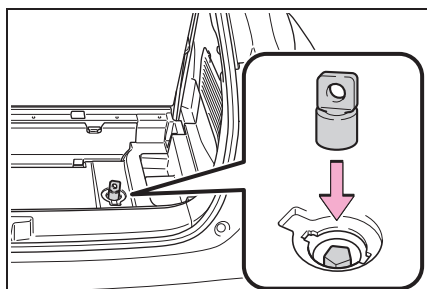


3 カバーを取り外します。

カバーを取りはずすのが難しい場合は、キーを使用することができます。

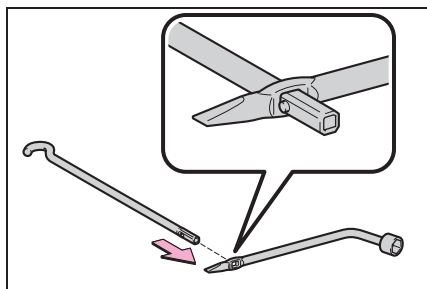


4 アダプターソケットを応急用タイヤのクランプボルトに取り付けます。



5 ホイールナットレンチをジャッキハンドルに組み付ける

ボタンでエクステンションが固定されていることを確認してください。



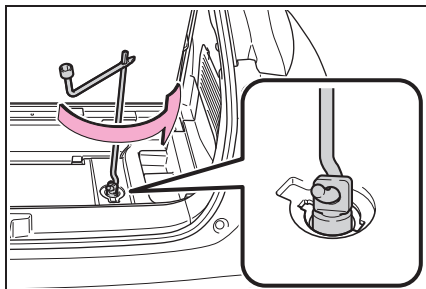
6 ジャッキハンドルをアダプターソケットに接続します。ジャッキハンドルを左まわりにまわします。

タイヤは完全に地面まで下がります。

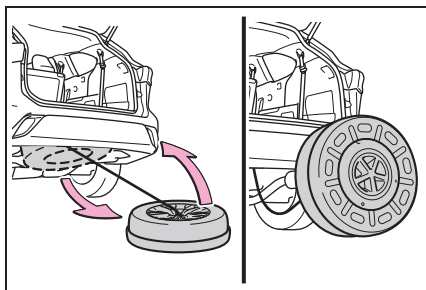
応急用タイヤを下ろす際は、ジャッキハンドルをゆっくりまわしてください。ハンドルを急激にまわすと、ジャッキ本体内のワイヤーケーブルがシャフトから外れ、タイヤが下ろせない場合があります。

応急用タイヤを下ろせない場合は：

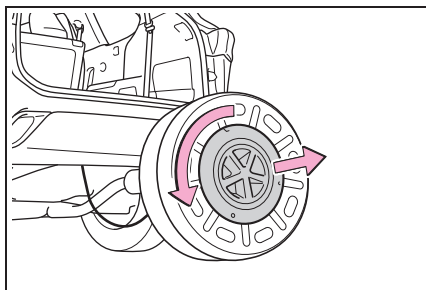
→P.368



7 応急用タイヤを引き出してバンパーに立てかけます。

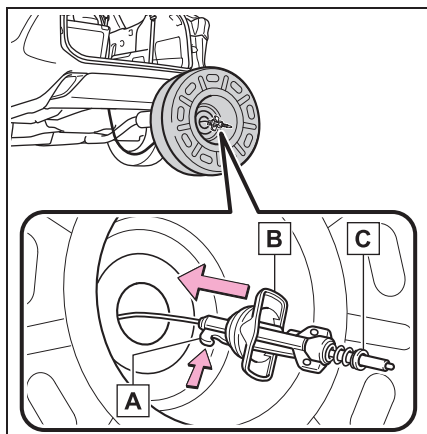


8 内側の応急用タイヤカバーを取り外します。

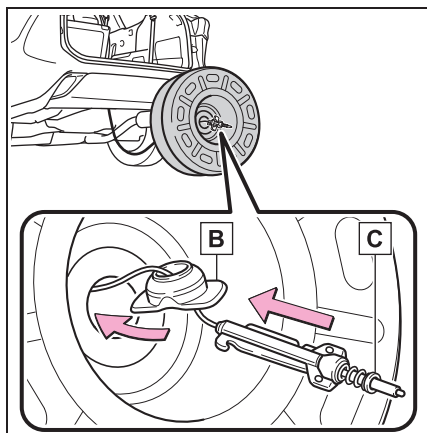


9 セカンダリラッチ **A** を完全に押し下げて、保持ブラケット

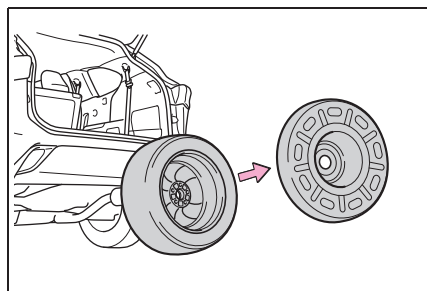
B をホイスアセンブリ **C** から取り外します。



10 保持ブラケット **B** を傾けて、ホイール開口部に容易に通せるようにします。保持ブラケットをホイール開口部に通した後、ホイスアセンブリ **C** を取り外します。



11 外側の応急用タイヤカバーを取り外します。

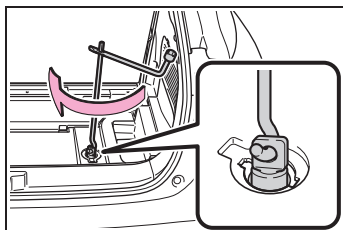


知識

■ 応急タイヤを下ろせないときは

応急タイヤが下ろせないときは、正しく収納されていないおそれがあります。次の手順に従ってください。

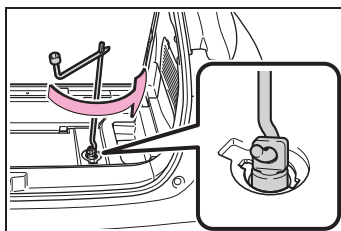
- 1 ジャッキハンドルを右まわりにまわして、カチッという音が2回聞こえ、ジャッキハンドルがスキップするまで、応急タイヤクランプボルトを完全に締めます。



- 2 ジャッキハンドルを左まわりにまわして応急タイヤを下げます。

それでも応急タイヤが下らない場合は、ジャッキハンドルを右まわりにまわして応急タイヤクランプボルトを再度完全に締め付けます。その後、左まわりに少なくとも2回転まわして応急タイヤを下げ

ます。



それでも応急タイヤが下らない場合は、ワイヤーケーブルが断線しているおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

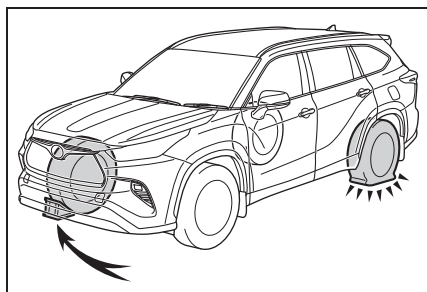
警告

■ 応急用タイヤを収納するとき

ボディと応急用タイヤとのあいだに、指などを挟まないように注意してください。

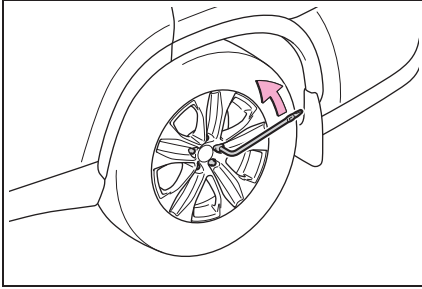
パンクしたタイヤの交換

1 輪止めをする



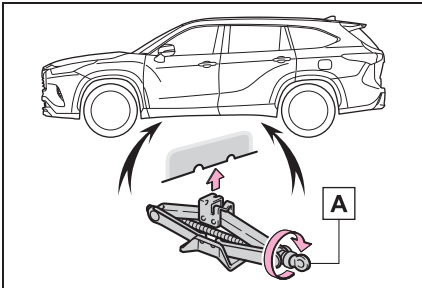
パンクしたタイヤ	輪止めの位置
左側前輪	右側後輪うしろ
右側前輪	左側後輪うしろ
左側後輪	右側前輪前
右側後輪	左側前輪前

2 ナットを少し（約 1 回転）ゆるめる

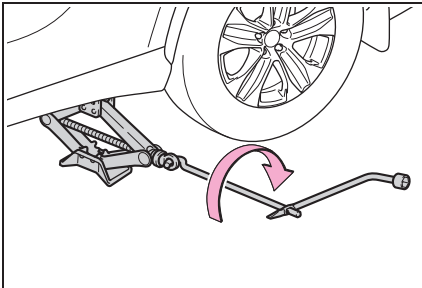


3 ジャッキ頭部の凹み部が、ジャッキセット位置の中央あたりに軽くあたるまで、ジャッキ **A** 部を手でまわす

ジャッキセット位置はロッカーパネルの下にあります。ジャッキセットの位置を示します。

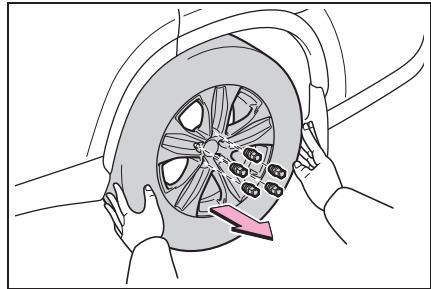


4 タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げる



5 ナットすべてを取りはずし、タイヤを取りはずす

タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの表面に傷が付かないよう表面を上に出します。



⚠ 警告

■ タイヤ交換について

● 走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているためタイヤ交換などで手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。

● 次のことをお守りいただかないとナットがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

・ ねじ部にオイルやグリースを塗らないナットを締めるときに必要な以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。ナットを取り付けるときに、オイルやグリースがねじ部に付いている場合はふき取ってください。

・ タイヤを交換したあとは、速やかに締め付けトルクを確認してください。
締め付けトルク：103N・m
(1050kgf・cm)

・ タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のナットを使用する

警告

- ・ ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、トヨタ販売店で点検を受ける
- ・ 損傷が激しいホイール装飾品は取り付けしないでください。走行中にホイールから外れるおそれがあります。

● 次のことをお守りいただかないと重大な傷害におよぶおそれがあります。

- ・ ホイールオーナメントを手で取り外そうとしないでください。予期せぬ怪我を避けるため、オーナメントの取り扱いには十分ご注意ください。
- ・ 応急用タイヤを車両の下から取りはずす前に、応急用タイヤを完全に地面まで下ろしてください。

■ パワーバックドア装着車のパンクしたタイヤの交換について

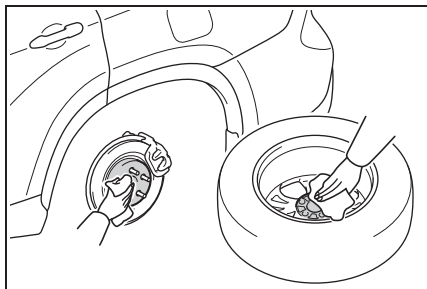
タイヤ交換時などには、必ずパワーバックドアメインスイッチを切ってください。パワーバックドアメインスイッチを切っておかないと、誤ってパワーバックドアスイッチにふれた場合、バックドアが意図せず作動し、手や指を挟んでけがをするおそれがあります。

応急用タイヤの取り付け

1 ホイール接触面の汚れをふき取る

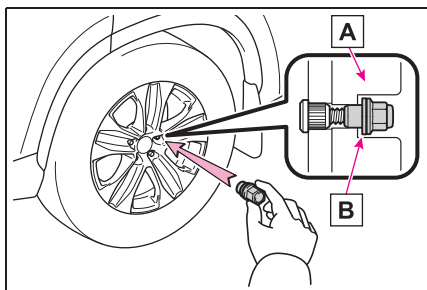
ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤがはずれるお

それがあります。



2 応急用タイヤを取り付け、タイヤががたつかない程度まで手でナットを仮締めする

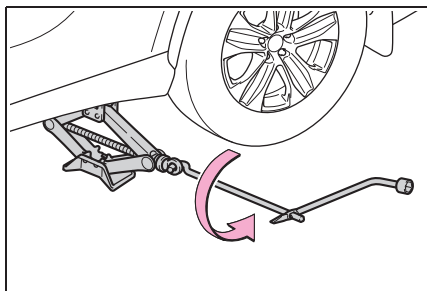
ナットのテーパー部がホイールのシート部に軽くあたるまでまわす



A ディスクホイール

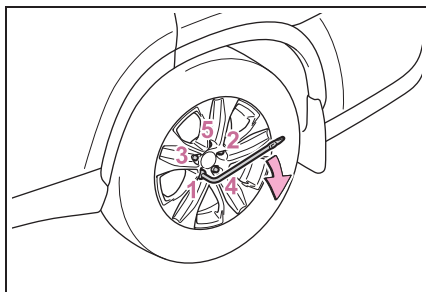
B ワッシャー

3 車体を下げる



4 ホイールナットレンチを使用し、図の番号順でナットを2、3度しっかり締め付ける

締め付けトルク：103N・m
(1050kgf・cm)

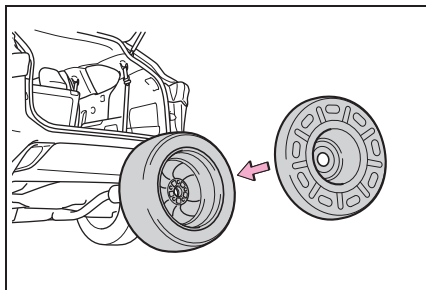


すべての工具・ジャッキ・パンクしたタイヤを収納する

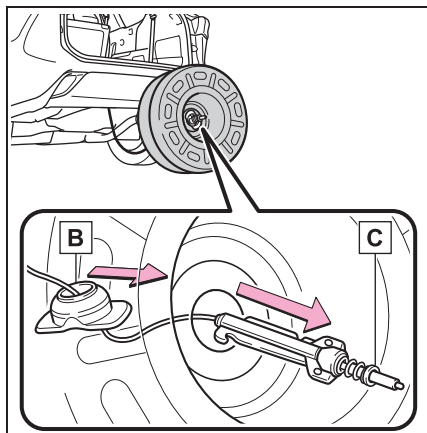
- 1 センターホイールオーナメントを裏側から押して取り外します。

ホイールオーナメントを紛失しないようにご注意ください。

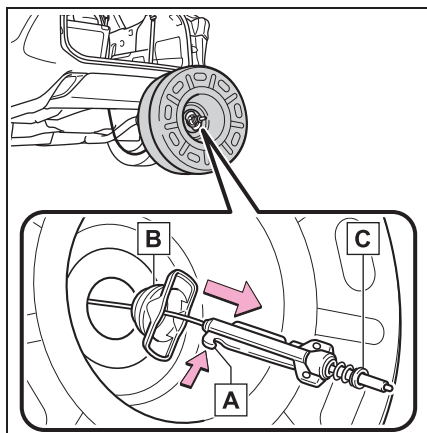
- 2 タイヤの内側を手前に向けてバンパーに立て、外側の応急用タイヤカバーを取り付けます。



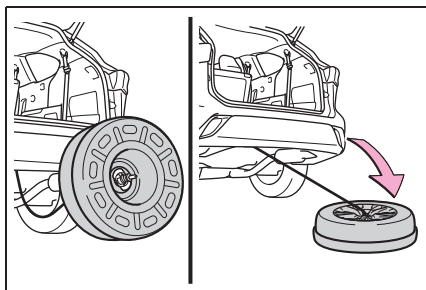
- 3 ホイストアセンブリ **C** と保持ブラケット **B** をホイール開口部に通します。



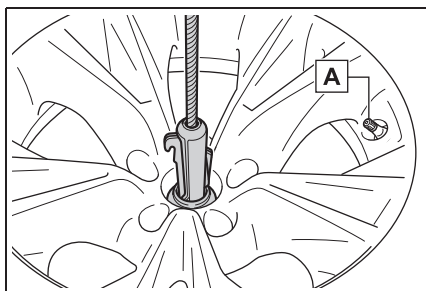
- 4 セカンダリラッチ **A** を完全に押し下げて、ブラケット **B** をホイストアセンブリ **C** に取り付けます。



- 5** タイヤの外側（バルブステム）を上に向けて地面に置きます。



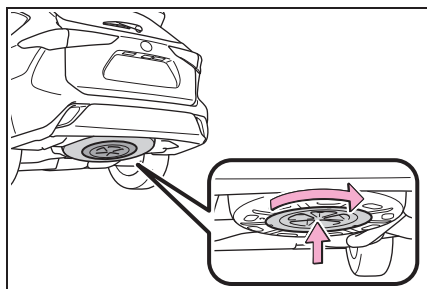
- 6** タイヤを持ち上げる前に、ホイストアセンブリがホイール開口部に対して垂直になっていることを確認してください。（タイヤは車両の真下、ワイヤーケーブルが垂れ下がっている場所の近くに置くようにしてください。）



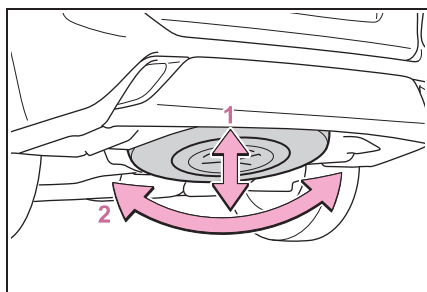
A バルブステム

- 7** ジャッキハンドルとアダプターソケットを使用して、タイヤが正しい位置になり、ジャッキハンドルがスキップして 2 回力チツという音がするまで、タイヤクランプボルトを右まわりにまわして締めます。

- 8** 内側応急用タイヤカバーを外側応急用タイヤカバーに取り付けます。



- 9** 締め付けた後に緩んでいないことを確認してください。



- 1** タイヤを押したり引いたりする
2 タイヤを回転させる

タイヤが周囲の部品に引っかかっていないことを目視で確認してください。緩みや組み付け不良がある場合は、手順 2 ～ 9 をくり返してください。

- 10** タイヤが下がったり乱れたりしたときは、手順 9 を繰り返す

- 11** ジャッキとすべての工具を収納する

⚠ 警告

■パンクしたタイヤを収納するとき

- タイヤの収納に記載されている手順に従わなかった場合、応急用タイヤキャリアが損傷したり、タイヤが紛失したりするおそれがあり、その結果、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 応急タイヤのクランプボルトをまわす際は、インパクトレンチを絶対に使用しないでください。この注意事項を守らないと、運転中にタイヤが脱落し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ツールとジャッキを使用した後は

衝突や急ブレーキの際に人身事故が発生する可能性を減らすため、運転する前にすべての工具とジャッキが保管場所にしっかりと固定されていることを確認してください。

⚠ 注意

■タイヤ交換について

ホイール・タイヤまたはタイヤ空気圧警告バルブとトランスミッターを取り外したり取り付けたりするときは、正しく取り扱わないとタイヤ空気圧警告バルブとトランスミッターが損傷するおそれがあるため、トヨタ販売店にご連絡ください。

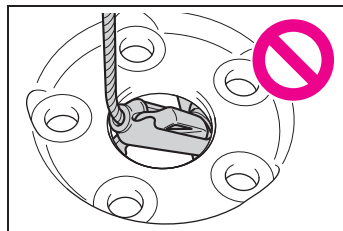
■パンクしたタイヤを収納するとき

- タイヤと車両の下部の間に物が挟まっていないことを確認してください。
- 応急用タイヤクランプボルトをしっかり締め、スペアホイールキャリアをフックで固定します。

- パンクしたタイヤは応急用タイヤ収納部に収納してください。応急用タイヤを収納しないと、応急用タイヤキャリアが損傷するおそれがあります。適切な保管は、衝突や急ブレーキ時の怪我のリスクを軽減します。
- できるだけ早く通常のタイヤと交換してください。

■応急用タイヤの適切な保管について

- タイヤを収納する際にホイストアセンブリが傾いていると、ホイストアセンブリがホイール開口部に引っかかってタイヤが適切に上昇せず、ホイールまたはワイヤーケーブルが損傷するおそれがあります。



- タイヤをホイストアセンブリに装着していない状態で応急用タイヤクランプボルトをまわさないでください。ワイヤーケーブルがユニット内のシャフトから外れ、ワイヤーケーブルの昇降ができなくなるおそれがあります。タイヤをホイストアセンブリに装着していない状態で応急用タイヤクランプボルトをまわしてもワイヤーケーブルの昇降ができない場合は、トヨタ販売店にご連絡ください。

ハイブリッドシステムが始動できないときは

ハイブリッドシステムが始動できない原因は状況によって異なります。次のことをご確認いただき、適切に対処してください。

正しいハイブリッドシステムの始動方法に従っても始動できない (→P.150)

次の原因が考えられます。

- 電子キーが正常に働いていない可能性があります。(→P.376)
- 燃料が入っていない可能性があります。給油してください。
- イモビライザーシステムに異常がある可能性があります。(→P.61)
- 電子キーの電池切れやヒューズ切れなど、電気系統異常の可能性があります。異常の種類によっては、ハイブリッドシステムを一時的な処置で始動することができます。(→P.374)

室内灯・ヘッドランプが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- 補機バッテリーあがりの可能性があります。(→P.378)
- 補機バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。

室内灯・ヘッドランプが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- 補機バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。
- 補機バッテリーあがりの可能性があります。(→P.378)

対処の方法がわからないとき、あるいは対処をしてもハイブリッドシステムが始動できないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

緊急時の始動について

通常のハイブリッドシステム始動操作でハイブリッドシステムが始動しないときは、次の手順でハイブリッドシステムが始動する場合があります。緊急時以外は、この方法で始動させないでください。

- 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認するため、パーキングブレーキスイッチを引く(→P.159)

メーター内のパーキングブレーキ表示灯が点灯します。

- 2 シフトレバーが P の位置にあることを確認する
- 3 パワースwitchを ACC にする
- 4 ブレーキペダルをしっかりと踏んでパワースwitchを約 15 秒以上押し続ける

上記の方法でハイブリッドシステムが始動しても、システムの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

キーをなくしたときは

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのメカニカルキーから、トヨタ販売店でトヨタ純正品の新しいメカニカルキーを作ることができます。

キーナンバープレートは車の中以外の安全な場所（財布の中など）に保管してください。



注意

■ 電子キーを紛失したとき

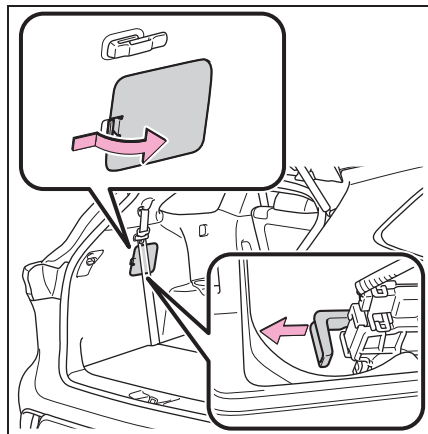
電子キーを紛失した状態で放置すると、盗難の危険性が極めて高くなります。車両に付属している残りの電子キーをすべてお持ちの上、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。

燃料給油口が開かないときは

燃料給油口開閉スイッチが操作できない場合は、トヨタ販売店にご連絡ください。緊急に給油が必要な場合は、次の手順で燃料給油口を開けることができます。

燃料給油口のドアを開ける

- 燃料給油口開閉スイッチが操作できない場合は、ラゲージルーム内のカバーを外し、レバーを引いて燃料給油口を開けてください。



- レバー操作で給油口を開けると、燃料タンク内の圧力が十分に下がらないため、給油前に燃料タンク内の圧力が十分に下がらない場合があります。燃料の吹き出しを防ぐため、キャップをはずす際はゆっくりとまわしてください。給油中は、燃料タンク内の空気が排出され、給油口から燃料が吹き出すことがあります。

す。そのため、燃料タンクへの燃料の補給は、慎重にゆっくりと行ってください。

電子キーが正常に働かないときは

電子キーと車両間の通信がさまたげられたり(→P.111)、電子キーの電池が切れたときは、スマートエントリー&スタートシステムとワイヤレスリモコンが使用できなくなります。このような場合、次の手順でドアを開けたり、ハイブリッドシステムを始動したりすることができます。

知識

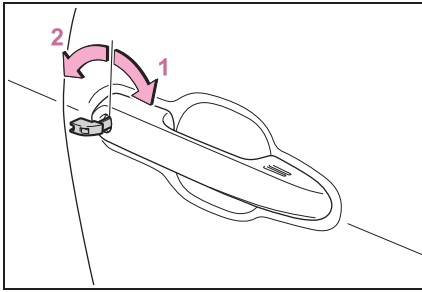
■ 電子キーが正常に働かないときは

- 車両カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムの設定を確認し、非作動になっている場合には、作動可能に設定変更してください。(→P.399)
- 電子キーが節電モードに設定されていないことを確認してください。設定されている場合は解除してください。(→P.110)

ドアの施錠・解錠

■ ドアのロックを解除するには

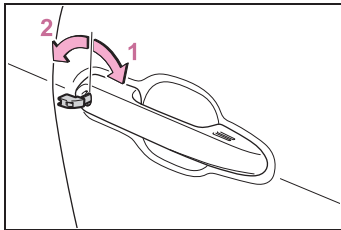
メカニカルキー(→P.94)を使って次の操作ができます。



- 1 全ドア施錠
- 2 全ドア解錠



■キー連動機能



- 1 ドアガラスとムーンルーフ※が閉まる（まわし続ける）
- 2 ドアガラスとムーンルーフ※が開く（まわし続ける）

トヨタ販売店ででの設定が必要です。

※ 装備されている場合

⚠ 警告

■メカニカルキーを使ってドアガラスまたはムーンルーフを操作するとき

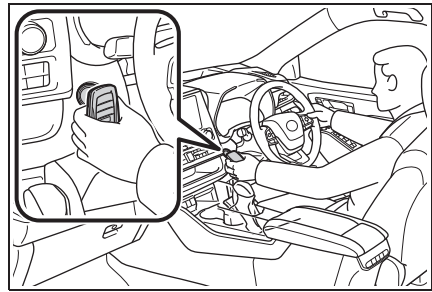
ドアガラスまたはムーンルーフに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、メカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスまたはムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

ハイブリッドシステム始動の方法

- 1 シフトレバーがPの状態ブレーキペダルを踏む
- 2 図のように、電子キーでパワースイッチにふれる

電子キーを認識するとブザーが鳴り、ONへ切りかわります。

車両カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムの設定が非作動になっている、かつACCカスタマイズがONのときは、ACCへ切りかわります。



- 3 ブレーキペダルをしっかりと踏み込んで、マルチインフォメーションディスプレイに  が表示されていることを確認する
- 4 パワースイッチを短く確実に押す

処置をしても作動しないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。



■ハイブリッドシステム停止方法

通常のハイブリッドシステムの停止方法と同様に、パーキングブレーキをかけ、シフトポジションをPにしてパワースイッチを押します。

■ 電子キーの電池交換

ここで説明しているハイブリッドシステムの始動方法は一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をおすすめします。(→P.330)

■ パワースイッチのモードの切りかえ

ハイブリッドシステム始動方法の手順 3 で、ブレーキペダルから足を離してパワースイッチを押すと、ハイブリッドシステムが始動せず、スイッチを押すごとにモードが切りかわります。(→P.152)

補機バッテリーがあがったときは

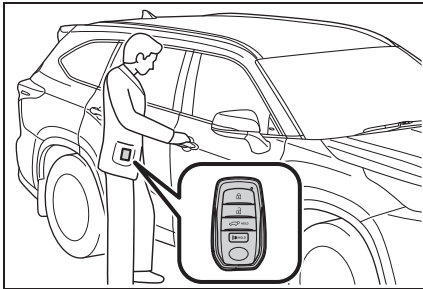
補機バッテリーがあがった場合、次の手順でハイブリッドシステムを始動することができます。

ハイブリッドシステムを再始動するには

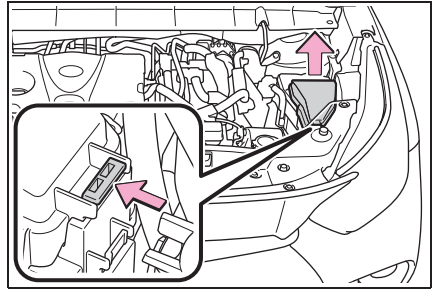
ブースターケーブルと 12V のバッテリー付き救援車があれば、次の手順に従って、ハイブリッドシステムを始動させることができます。

1 電子キーを携帯していることを確認する

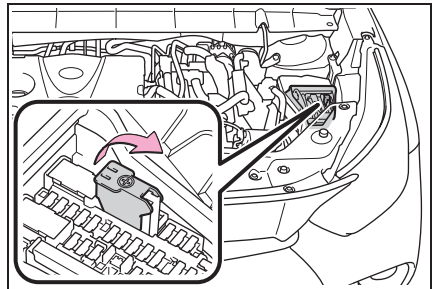
ブースターケーブル接続時、場合によっては、オートアラームが作動し自動的にドアが施錠されます。(→P.63)



2 ボンネットを開けて (→P.306)、ヒューズボックスのカバーをはずす

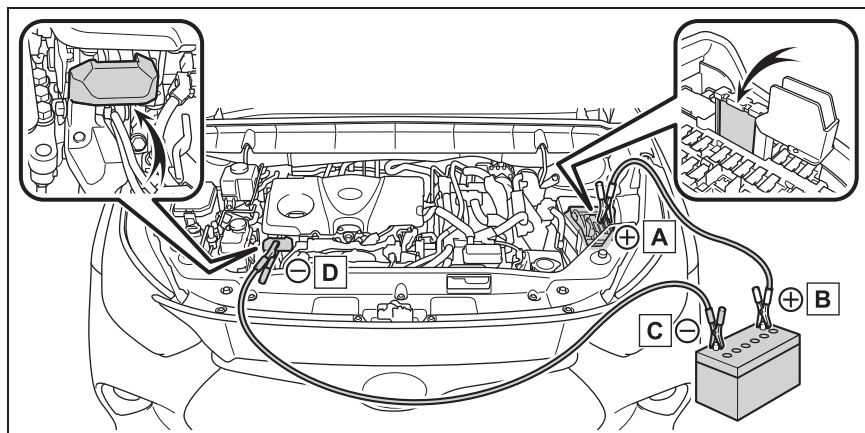


3 ヒューズボックス内の救援用端子のカバーを開ける



4 赤色のブースターケーブルを自車の補機バッテリーの+端子 **A** につなぎ、もう一方の端を救援車のバッテリーの+端子 **B** につなぐ。その後、黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの-端子 **C** につなぎ、もう一方の端を金属部 **D** につなぐ

ブースターケーブルは、指定の端子および接続箇所に届くものを使用してください。



A 補機バッテリーの+端子（自車）

B バッテリーの+端子（救援車）

C バッテリーの-端子（救援車）

D 図に示す金属部

5 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約 5 分間自車の補機バッテリーを充電する

6 パワースイッチが OFF の状態でいずれかのドアを開閉する

7 救援車のエンジン回転を維持したまま、パワースイッチをいったん ON にしてからハイブリッドシステムを始動する

8 “READY” インジケーターが点灯することを確認する点灯しない場合はトヨタ販売店にご連絡ください。

9 ハイブリッドシステムが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす

10 救援用端子カバーを閉じ、ヒューズボックスのカバーをもとどおりに取り付ける

ハイブリッドシステムが始動して

も、早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■補機バッテリーあがり時の始動について

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■補機バッテリーあがりを防ぐために

●ハイブリッドシステムが停止しているときは、ランプやオーディオの電源を切ってください。

●渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

■補機バッテリーがあがってしまったときは

●コンピューターに記憶されている情報が消去されます。補機バッテリーがあがったときはトヨタ販売店で点検を受

けてください。

- 初期設定が必要な機能があります。
(→P.410)

■ 補機バッテリー端子をはずすときは

補機バッテリー端子をはずすと、コンピューターに記憶されている情報が消去されます。補機バッテリー端子をはずすときは、トヨタ販売店にご相談ください。

■ 補機バッテリーの充電について

補機バッテリーの電力は、車両を使用していないあいだも、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。そのため、車両を長期間放置すると、補機バッテリーがあがってハイブリッドシステムを始動できなくなるおそれがあります。(補機バッテリーはハイブリッドシステムの作動中に自動で充電されます)

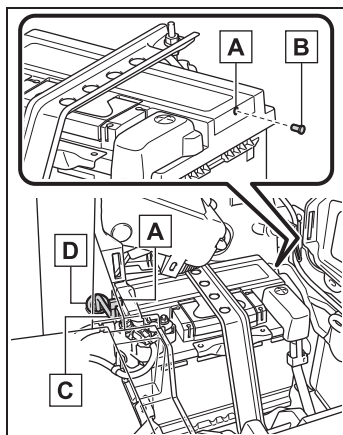
■ 補機バッテリーあがり時や取りはずし時など

- 補機バッテリー脱着直後はスマートエントリー&スタートシステムによるドアの解錠ができない場合があります。解錠できなかった場合はワイヤレスリモコン、またはメカニカルキーで解錠・施錠を実施してください。
- 補機バッテリー脱着後、最初の始動操作ではハイブリッドシステムが始動できないことがあります。異常ではありません。再度始動操作を行ってください。
- 車両は常にパワースイッチの状態を記憶しています。補機バッテリーあがり時、補機バッテリー脱着後は、バッテリーをはずす前の状態に復帰します。補機バッテリーを脱着する際は、パワースイッチを OFF にしてから行ってください。補機バッテリーがあがる前の状態が不明の場合、補機バッテリー接続時は特に注意してください。

- パワーバックドア装着車：パワーバックドアを初期化する必要があります。
(→P.105)

■ 補機バッテリーを交換するときは

- 欧州規格バッテリーを使用してください。
- 交換前と同一のケースサイズ (LN2)、20 時間率容量 (20HR) が同等 (55Ah) 以上、かつ性能基準値 (CCA) が同等 (345A) 以上の補機バッテリーを使用してください。
 - ・ 大きさが異なると、補機バッテリーが正しく固定されません。
 - ・ 20 時間率容量が小さいと、車両を使用していない時期が短い期間であっても補機バッテリーがあがって、ハイブリッドシステムの始動ができなくなるおそれがあります。
- ハンドル付きの補機バッテリーを使用してください。ハンドルのない補機バッテリーを使用すると、取り外しが難しくなります。
- 交換後は補機バッテリーの排気口に次のものをしっかりと取り付けてください。
 - ・ 交換前の補機バッテリーに付属していた排気ホースを使用し、車両の穴部分にしっかりと接続されていることを確認してください。
 - ・ 交換する補機バッテリーに付属の排気口プラグ、または交換前の補機バッテリーに装着されていた排気口プラグを使用してください。(交換する補機バッテリーによっては、排気口がふさがれている場合があります。)



- A** 排気穴
- B** 排気穴栓
- C** 排気ホース
- D** 車両穴部

詳しくは、トヨタ販売店にご相談ください。

警告

■補機バッテリー端子をはずすときは

必ず－端子を先にはずしてください。
＋端子を先にはずすと、＋端子が周辺の金属部分にふれた場合、火花が発生し火災につながるおそれがある他、感電し重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■補機バッテリーのマイナス端子について

ボデーに接続された補機バッテリーのマイナス端子をはずさないでください。
誤ってはずすとプラス端子と接触し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■補機バッテリーの引火または爆発を防ぐために

補機バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、火や火花が発生しないよう、次のことをお守りください。

- ブースターケーブルは正しい端子または接続箇所以外に接続しない
- “+”端子に接続したブースターケーブルの先を付近のブラケットや未塗装の金属部に接触させない
- ブースターケーブルは＋側と－側の端子を絶対に接触させない
- 補機バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起さない

■補機バッテリーの取り扱いについて

補機バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、次のことを必ずお守りください。

- 補機バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、バッテリー液（酸）が皮膚・衣服・車体に付着しないようにする
- 必要以上、顔や頭などを補機バッテリーに近付けない
- 誤ってバッテリー液が体に付着したり目に入ったりした場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受けるまた、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく
- 補機バッテリーや周辺部品の取り扱い後は手を洗う
- お子さまを補機バッテリーに近付けない

 警告**■ 補機バッテリーあがりの処置をしたあと**

早めにトヨタ販売店で補機バッテリーの点検を受けてください。補機バッテリーが劣化している場合、そのまま使い続けると補機バッテリーから異臭ガスが発生し、乗員に健康障害をおよぼすおそれがあり危険です。

■ 補機バッテリーを交換するときは

- 液栓やインジケーターがステーに近いと、バッテリー液（硫酸）がもれだすおそれがあります。
- 補機バッテリーの交換については、トヨタ販売店にご相談ください。
- 交換後は、交換した補機バッテリーの排気穴に排気ホースと排気穴栓を確実に取り付けてください。正しく取り付けられていないと、可燃性ガスが車内に侵入したり、引火して爆発するおそれがあり危険です。

■ 救援用端子について

この車の救援用端子は、他の車から応急的に補機バッテリーを充電するためのものです。この救援用端子を使用し、他の車のバッテリーあがりを救援することはできません。

 注意**■ ブースターケーブルの取り扱いについて**

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分注意してください。

■ ブースターケーブルを接続するときは

指定の端子および接続箇所以外にブースターケーブルを接続しないでください。電子機器に悪影響をおよぼしたり、破損につながったりするおそれがあります。

オーバーヒートしたときは

次のような場合は、オーバーヒートの可能性があります。

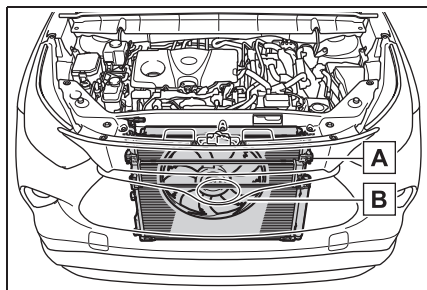
- 水温計 (→P.69) の針がレッドゾーンに入ったり、ハイブリッドシステムの出力が低下する (スピードが出ないなど)
- マルチインフォメーションディスプレイに “Engine Coolant Temp High Stop in a Safe Place See Owner’s Manual” または “Hybrid System Overheated Output Power Reduced” が表示される
- エンジンルームから蒸気が出る

対処方法

水温計の針がレッドゾーンに入ったり、マルチインフォメーションディスプレイに “Engine Coolant Temp High Stop in a Safe Place See Owner’s Manual” が表示されたとき

- 1 安全な場所に停車し、エアコンをOFFにしてから、ハイブリッドシステムを停止する
- 2 蒸気が出ている場合：蒸気が出なくなったことを確認してから、注意してボンネットを開ける
- 3 ハイブリッドシステムが十分に冷えてから、ラジエーターコア

部 (放熱部) やホースなどからの冷却水もれを点検する

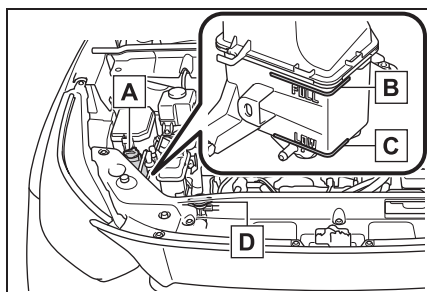


A ラジエーター

B ファン

多量の冷却水もれがある場合は、ただちにトヨタ販売店に連絡してください。

- 4 冷却水の量がリザーバータンクの “FULL” (上限) と “LOW” (下限) のあいだにあるかを点検する



A リザーバータンク

B “FULL” (上限)

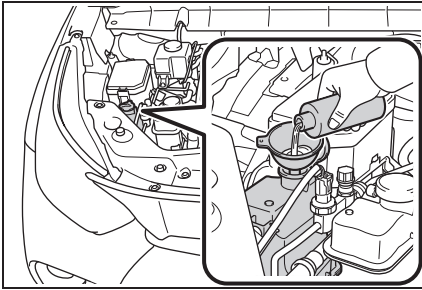
C “LOW” (下限)

D ラジエーターキャップ

- 5 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

冷却水がない場合は、応急措置として水

を補給してください。



- 6** ハイブリッドシステムを始動し、エアコンを作動させてラジエーター冷却用のファンが作動しているか、およびラジエーターコアやホースなどから冷却水もれがないことを再度確認する

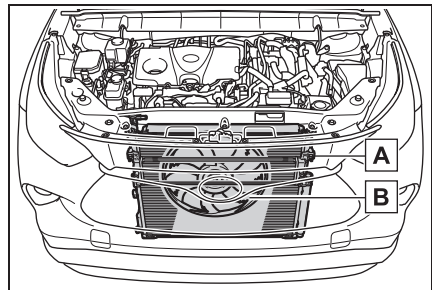
ハイブリッドシステムが冷えた状態での始動直後は、エアコンを ON にすることでファンが作動します。ファンの音や風で確認してください。わかりにくいときは、エアコンの ON/OFF をくり返してください。（ただし、氷点下となる寒冷時はファンが作動しないことがあります）

- 7** ファンが作動していない場合：すぐにハイブリッドシステムを停止し、トヨタ販売店に連絡する
ファンが作動している場合：最寄りのトヨタ販売店で点検を受ける
- 8** マルチインフォメーションディスプレイに “Engine Coolant Temp High Stop in a Safe Place See Owner’s Manual” が表示されたとき

メッセージが消えない場合：ハイブリッドシステムを停止し、トヨタ販売店にご連絡ください。メッセージが表示されない場合：最寄りのトヨタ販売店で車両を点検してください。

マルチインフォメーションディスプレイに “Hybrid System Overheated Output Power Reduced” が表示されたとき

- 1** 安全な場所に停車する
- 2** ハイブリッドシステムを停止し、注意してボンネットを開ける
- 3** ハイブリッドシステムが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水もれを点検する

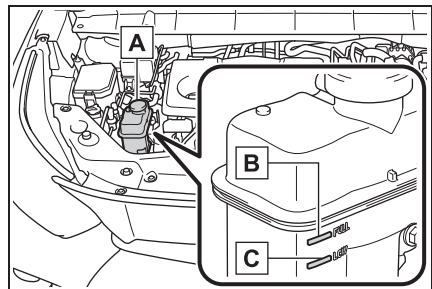


A ラジエーター

B ファン

多量の冷却水もれがある場合は、ただちにトヨタ販売店に連絡してください。

- 4** 冷却水の量がリザーバータンクの “FULL” （上限）と、“LOW” （下限）のあいだにあるかを点検する



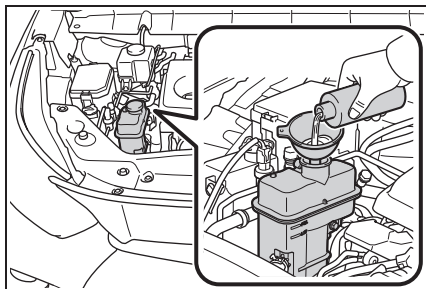
A リザーバータンク

B “FULL” (上限)

C “LOW” (下限)

5 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

冷却水がない場合は、応急措置として水を補給してください。



6 ハイブリッドシステムを停止してから 5 分以上経過したあとで、ハイブリッドシステムを始動し、マルチインフォメーションディスプレイを確認する

表示が消えない場合：ハイブリッドシステムを停止してトヨタ販売店に連絡する
表示が消えている場合：ハイブリッドシステムの温度が低下したため、通常走行が可能です。

ただし、そのあともひんばんに表示される場合は、トヨタ販売店に連絡してください。

⚠ 警告

■ エンジンルームを点検しているとき

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

- エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっています。

- ハイブリッドシステムの停止後は、“READY” インジケーターが消灯していることを確認してください。ハイブリッドシステムが作動していると、ガソリンエンジンが自動的に動き出したり、ガソリンエンジンが停止していても、冷却ファンが急にまわり出すことがあります。ファンなどの回転部分にふれたり、近付いたりすると、手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）が巻き込まれたりして、重大な傷害を受けるおそれがあります。

- ハイブリッドシステムおよびラジエーターが熱い場合は冷却水リザーバータンクのキャップを開けないでください。高温の蒸気や冷却水が噴き出すおそれがあります。

⚠ 注意

■ 冷却水を入れるとき

ハイブリッドシステムが十分に冷えてからゆっくり入れてください。ハイブリッドシステムが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、ハイブリッドシステムが損傷するおそれがあります。

■ 冷却システムの故障を防ぐために

次のことをお守りください。

- 異物（砂やほこりなど）を冷却水に混入させない
- 冷却水用添加剤を使用しない

スタックしたときは

ぬかるみや砂地・雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは次の方法を試みてください。

脱出するには

- 1 パーキングブレーキをかけシフトレバーをPにして、ハイブリッドシステムを停止する
シフトレバーをPにしたあとは、シフトレバーのボタンを押さないでください。
- 2 前輪周辺の土や雪などを取り除く
- 3 前輪の下に木や石などをあてがう
- 4 ハイブリッドシステムを再始動する
- 5 シフトレバーを確実にDまたはRにし、パーキングブレーキを解除して注意しながらアクセルペダルを踏む

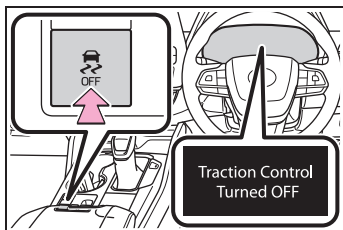


知識

■脱出しにくいとき



スイッチを押して TRC を OFF にしてください。



⚠ 警告

■脱出するとき

前進と後退をくり返してスタックから脱出する場合、他の車・ものまたは人との衝突を避けるため周囲に何もなかったことを確認してください。スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

■シフトレバーを操作するとき

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■トランスミッションやその他の部品への損傷を避けるために

- 前輪が空転するのを避け、必要以上にアクセルペダルを踏まないでください。
- 上記の方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

8-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）..... **390**

燃料情報..... **398**

8-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ機能一覧
..... **399**

8-3. 初期設定

初期設定が必要な項目..... **410**

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）

車両識別

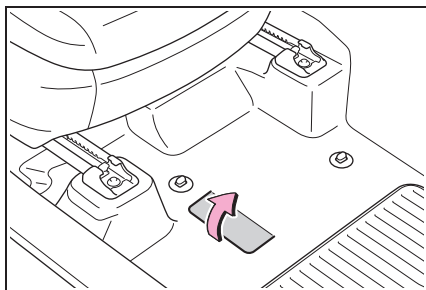
■ 車台番号

車両識別番号（VIN）は、お客様の車両の法的な識別番号です。これは、お客様のトヨタ車の主要な識別番号であり、車両の所有権登録に使用されます。

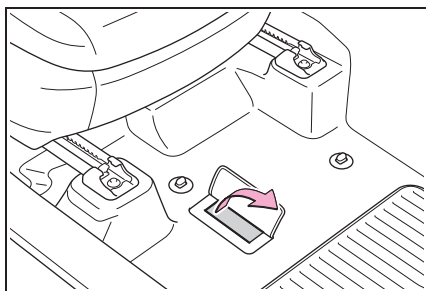
▶ 右前席の下

この番号は右前席の下に刻印されています。

1 カーペットを裏返します。

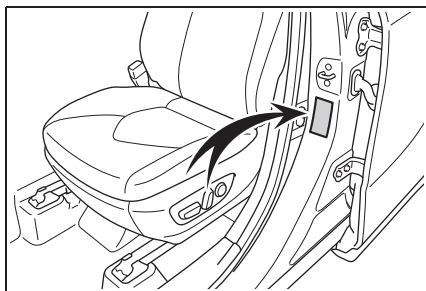


2 フロアパネル絶縁パッドを取り外します。



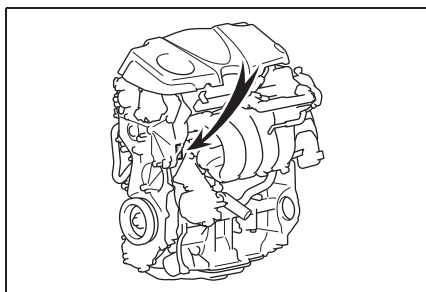
▶ 左側センターピラー

この番号は製造もとのラベルにも記載されています。



■ エンジン番号

エンジン番号は、図のようにエンジンブロックに刻印されています。



エンジン

モデル	A25A-FXS
種類	直列 4 気筒・4 サイクル・ガソリン
ボアとストローク	87.5 × 103.48 mm
排水量	2487 cm ³
バルブクリアランス（エンジン冷間時）	自動調整

燃料

燃料の種類	無鉛レギュラーガソリン
オクタン価	95 以上 ※ ¹
	91 以上 ※ ²
容量 [L]（参考値）	65

※¹ オーストラリア向け※² ニュージーランド向け**電動モーター（トラクションモーター）**

▶ 前方

種類	永久磁石同期モーター
最大出力	134 kW
最大トルク	270 N・m

▶ 後方

種類	永久磁石同期モーター
最大出力	40 kW
最大トルク	121 N・m

ハイブリッドバッテリー（トラクションバッテリー）

種類	ニッケル水素電池
電圧	7.2 V/モジュール
容量	6.5 Ah（3 時間）

量	40 モジュール
公称電圧	288 V

エンジンオイル

■ 容量 [L] (参考値 ※)

オイルとオイルフィルター交換	4.3
オイルのみ交換	4

※ エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、エンジンの暖機後にハイブリッドシステムを停止し、5 分以上経過してからレベルゲージで行ってください。

■ エンジンオイル推奨粘度

トヨタ車には “Toyota Genuine Motor Oil ” が使用されています。下記のグレードと粘度を満たす、トヨタ認定の “Toyota Genuine Motor Oil” または同等品をご使用ください。

オイルグレード：

0W-16:

API グレード SN

“Resource-Conserving” , SN PLUS

“Resource-Conserving” または SP

“Resource-Conserving” ; または ILSAC GF-6B マルチグレードエンジンオイル

0W-20, 5W-20, 5W-30 and 10W-30:

API グレード SL

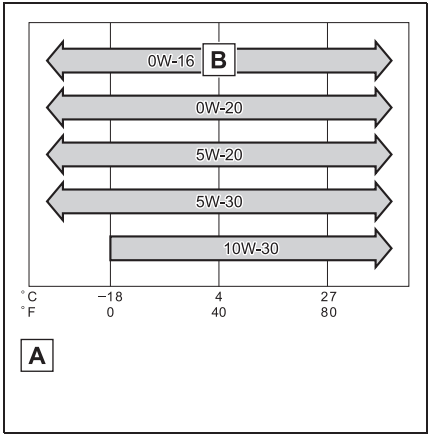
“Energy-Conserving” , SM

“Energy-Conserving” , SN
“Resource-Conserving” , SN PLUS

“Resource-Conserving” または SP

“Resource-Conserving” ; または ILSAC GF-6A マルチグレードエンジンオイル

推奨粘度 (SAE)：



A 外気温 (°C)

B 推奨

SAE 0W-16 は、燃費の向上と寒冷地での始動性の向上に最適です。

極低温時に SAE 10W-30 以上の粘度のエンジンオイルを使用すると、エンジンが始動しにくくなる場合がありますので、

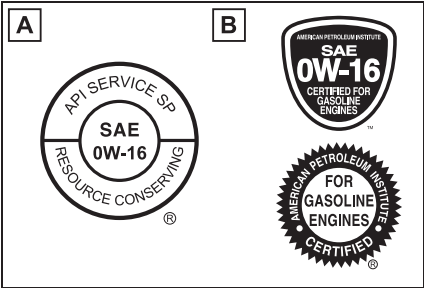
SAE 0W-16、0W-20、5W-20、5W-30 のエンジンオイルの使用をお勧めします。

オイル粘度について (例として 0W-16 で説明します)：

- ・ OW-16 の OW は、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。
- ・ OW-16 の 16 は、高温時の粘度特性を示しています。

オイル容器ラベルの読み方：

一部のオイル容器には、使用するオイルの選択に役立つよう、日本自動車規格協会（JASO）GLV-1 マークが付けられています。



A API マーク

上部：“API SERVICE SP” は、アメリカ石油協会（API）によるオイル品質指定を意味します。

中央部分：“SAE 0W-16” は SAE 粘度グレードを意味します。

下部：“Resource-Conserving” とは、燃料節約および環境保護機能を備えたオイルであることを意味します。

B ILSAC CERTIFICATION マーク

容器の前面に国際潤滑油規格諮問委員会（ILSAC）認証マークが表示されています。

ラジエーター

容量 [L]（参考値）	ガソリンエンジン	9.4
	パワーコントロールユニット	1.9
クーラントの種類		次のいずれかを使用します。 ● “Toyota Super Long Life Coolant” ● 長寿命ハイブリッド有機酸技術を採用した、同様の高品質エチレングリコールベースの非シリケート、非アミン、非亜硝酸塩、非ホウ酸塩冷却剤 普通の水だけを使用しないでください。

点火システム（スパークプラグ）

指定銘柄	DENSO FC16HR-Q8
ギャップ	0.8 mm



注意

■ イリジウムチップスパークプラグ

イリジウムチップ付きスパークプラグのみを使用してください。スパークプラグのギャップを調整しないでください。

電気系統（補機バッテリー）

20℃での開放電圧：	12.0V 以上（パワースイッチを OFF にし、ハイビームを 30 秒間点灯してください。）
充電速度	最大 5 A

ハイブリッドトランスミッション

容量 [L]（参考値 ※）	4.0
指定銘柄	Toyota Genuine ATF WS

※ 交換が必要な際はトヨタ販売店にご相談ください。



注意

■ ハイブリッドトランスミッションフルードについて

指定銘柄以外のフルードを使用すると、振動・異音の発生や、故障などの原因になるおそれがあります。

リヤディファレンシャル（リヤ電気モーター）

容量 [L]（参考値 ※）	1.7
指定銘柄	Toyota Genuine ATF WS

※ 交換が必要な際はトヨタ販売店にご相談ください。



注意

■ トランスミッションフルードについて

指定銘柄以外のフルードを使用すると、振動・異音の発生や、故障などの原因になるおそれがあります。

ブレーキ

踏み込んだときの床板とのすき間※	110 以上
遊び	1 — 6
指定銘柄	SAE J1703 or FMVSS No. 116 DOT 3 SAE J1704 or FMVSS No. 116 DOT 4

※ ハイブリッドシステムが作動している状態で、300N の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値

ステアリング

遊び	30 mm 未満

タイヤ・ホイール

▶ タイプ A

タイヤサイズ	235/65R18 106V
タイヤが冷えているときの 空気圧 kPa (kg/cm ²)	▶ 前輪 250 (2.5) ▶ 後輪 250 (2.5) ▶ 応急用タイヤ 250 (2.5)
ホイールサイズ	18 × 8 J
ホイールナット締め付けトルク	103N・m (1050kgf・cm)

▶ タイプ B

タイヤサイズ	235/55R20 102V
タイヤが冷えているときの 空気圧 kPa (kg/cm2)	▶ 前輪 250 (2.5) ▶ 後輪 250 (2.5) ▶ 応急用タイヤ 250 (2.5) 高速運転（時速 160km [100mph] 以上）（法律でその ような速度が許可されている国の場合） 前後タイヤに 10 kPa (0.1 kgf/cm 2 または bar、1 psi) の空気圧を加えてください。タイヤのサイドウォール に記載されている最大冷間空気圧を超えないようにし てください。
ホイールサイズ	20 × 8 J
ホイールナット締め付けトルク	103N・m (1050kgf・cm)



知識

■ トレーラーをけん引について

推奨タイヤ空気圧に 20.0 kPa (0.2 kgf/cm 2 または bar、3 psi) を追加し、時速 100 km (62 mph) 以下の速度で運転します。

電球（バルブ）

	電球	W（ワット）数	種類
車外	フロント方向指示灯（バルブタイプ）	21	A
	リヤ方向指示灯（バルブタイプ）	21	A
	後退灯（バルブタイプ）	16	B
	ナンバープレート灯	5	B
車内	ドアカーテシランプ	5	B
	バニティランプ	8	B
	リヤパーソナルランプ	8	B
	リヤインテリアランプ	8	C

- A: ウェッジベース電球（アンバー）
- B: ウェッジベース電球（クリア）
- C: ダブルエンド電球（クリア）

燃料情報

無鉛レギュラーガソリンのみを使用してください。

オーストラリアの場合：最適なエンジン性能を得るには、リサーチオクタン価 95 以上の無鉛レギュラーガソリンを選択してください。

ニュージーランドの場合：最適なエンジン性能を得るには、リサーチオクタン価 91 以上の無鉛レギュラーガソリンを選択してください。



知識

■ ガソリンエンジンにおけるエタノール混合ガソリンの使用

トヨタは、エタノール含有量が 10% までのエタノール混合ガソリンの使用を許可しています。使用するエタノール混合ガソリンのリサーチオクタン価が上記を満たしていることを確認してください。

■ エンジンから異常音がするとき

- トヨタ販売店にご相談ください。
- 加速時や上り坂走行中に、短時間だけ軽いノッキング音が聞こえる場合がありますが、異常ではありません。



注意

■ 燃料品質に関する注意事項

- 不適切な燃料を使用しないでください。不適切な燃料を使用すると、エンジンが損傷します。

- マンガン、鉄、鉛などの金属添加物が入ったガソリンは使用しないでください。エンジンや排出ガス制御システムに損傷を与えるおそれがあります。
- 金属添加剤を含む市販の燃料添加剤は使用しないでください。
- M15、M85、M100 などのメタノール混合ガソリンは使用しないでください。メタノールを含むガソリンを使用すると、エンジンの損傷や故障のおそれがあります。

ユーザーカスタマイズ機能一覧

お車に装備されている各種の機能は、ご希望に合わせてトヨタ販売店で作動内容を変更することができます。また、マルチメディア・マルチインフォメーションディスプレイの操作により設定を変更することができる機能もあります。

設定を変更するには

■ マルチメディアで設定するには

- 1 マルチメディアディスプレイの  を選択する
- 2 “Vehicle customise” を選択する
- 3 一覧表示された中から設定を変更する項目を選択する

各種設定を変更できます。変更可能な設定の一覧を参照してください。

作動・非作動を変更できる機能では、

 (On)/  (Off) を選択します。

■ マルチインフォメーションディスプレイで設定するには

- 1 メーター操作スイッチを押して  を選択する
- 2 メーター操作スイッチを押して設定変更したい項目にカーソルを合わせる

車両カスタマイズ設定一覧

機能によっては、他の機能と連動して設定がかわるものもあります。詳しくはトヨタ販売店へお問い合わせください。

3 スイッチを短押しまたは長押しする

 スイッチの短押し・長押しで設定できる内容が異なります。画面に表示されている内容に従って操作してください。

知識

■ マルチメディアを使用してカスタマイズする場合

安全な場所に停車し、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーをPにしてください。また、補機バッテリーの放電を防ぐため、機能のカスタマイズ中はハイブリッドシステムを作動させたままにしてください。

警告

■ カスタマイズ設定を行うとき

ハイブリッドシステムが作動している状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■ カスタマイズを行うときは

補機バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にハイブリッドシステムが作動している状態で実施してください。

- A** マルチメディアの画面操作で設定変更可能
B マルチインフォメーションディスプレイで設定変更可能
C トヨタ販売店で設定変更可能

記号の定義：○ = 利用可能、— = 利用不可

■ オートアラーム (→P.62)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
メカニカルキーを使って解錠したときのアラーム解除	●あり ●なし	—	—	○

■ メーター、マルチインフォメーションディスプレイ (→P.66, 69, 74)

機能の内容 ※1, 5	カスタマイズ設定	A	B	C
言語	※4	○	○	—
単位	※4	○	○	—
メータータイプ	●ダイヤル表示無し ※2 ●1 ダイヤル表示 ※2 ●2 ダイヤル表示	—	○	—
メーターデザインタイプ	●カジュアル ●スマート ●タフ ●スポーティー	—	○	—
アナログメーター切りかえ	●タコメーター ●スピードメーター ※3 ●HV システムインジケーター	—	○	—
EV インジケーター	●ON ●OFF	—	○	—
エコアクセラレータガイダンス	●ON ●OFF	—	○	—
燃費グラフ	●リセット間平均燃費 ●始動後平均燃費	—	○	—

機能の内容 ※1, 5	カスタマイズ設定	A	B	C
ドライブインフォ項目	●平均車速 ●走行距離 ●走行時間	—	0	—
TRIP A/B 項目	●平均車速 ●走行距離 ●走行時間	—	0	—
割り込み表示	●ON ●OFF	—	0	—
提案機能	●ON ●ON（車両が停止しているとき） ●OFF	0	—	0

※1 機能についての詳しい説明は →P.76 を参照してください。

※2 ウィジェットの ON/OFF 操作を変更できます。

※3 1 ダイアル表示が選択されているときにカスタマイズが可能です。

※4 設定は車両仕様によって異なります。

※5 マイセッティングと連動して設定が変更されます。（一部設定は除外されます。）

■ ヘッドアップディスプレイ表示 ※(→P.82)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
ヘッドアップディスプレイ表示	●あり ●なし	—	0	—
ゲージ情報	●タコメーター ●ハイブリッドシステムインジケーター ●コンテンツなし	—	0	—
目的地 / 道路名へのルート案内 ※	●あり ●なし	—	0	—
運転支援システム表示	●あり ●なし	—	0	—

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
コンパス ※	●あり ●なし	—	0	—
オーディオシステムの動作状況	●あり ●なし	—	0	—

※ グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ リヤシートリマインダー機能 (→P.97)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
リヤシートリマインダー機能	●あり ●なし	—	0	—

■ ドアロック (→P.95, 376)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
メカニカルキーによる解錠	●1 回で運転席ドア解錠、連続 2 回で全ドア解錠 ●1 回で全ドア解錠	—	—	0

■ スマートエントリー&スタートシステム、ワイヤレスドアロック共通 (→P.95, 109)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
作動の合図（ブザー音量調整）※	●レベル 0（なし）～レベル 7	0	—	0
作動の合図（非常点滅灯）※	●あり ●なし	0	—	0
解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠までの時間	●30 秒 ●60 秒 ●120 秒	—	—	0
半ドア警告ブザー	●あり ●なし	—	—	0

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ スマートエントリー&スタートシステム (→P.95, 109)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
スマートエントリー&スタートシステム	●あり ●なし	0	—	0
解錠されるドアの選択	●全席解錠 ●記憶呼び出し機能に連動するドアの選択	0	—	0
連続ロック操作の有効回数	●2 回 ●無制限	—	—	0
「解錠されるドアの選択」を運転席のみ解錠に設定時、ドアハンドルを握って保持することで全席解錠するまでの時間 ※	●1.5 秒 ●2.0 秒 ●2.5 秒 ●非作動	—	—	0

※ 解錠されるドアの選択を運転席のみ解錠にしたときに設定できます。

■ ワイヤレスドアロック (→P.93, 95, 99)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
ワイヤレス機能	●あり ●なし	—	—	0
解錠時の操作 ※	●1 回で運転席ドア解錠、連続 2 回で全ドア解錠 ●1 回で全ドア解錠	0	—	0
盗難防止パニックモード	●あり ●なし	—	—	0

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ パワーバックドア ※¹ (→P.99)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
パワーバックドア機能	●あり ●なし	—	0	—
キックセンサー ※ ¹	●あり ●なし	—	0	—

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
パワーバックドア全開時の開度	●1 ～ 5※ ²	—	0	—
ブザー音量	●レベル 1 ～レベル 3	—	0	—

※¹グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※²バックドア下部のスイッチ操作で設定します。(→P.108)

■ ドライビングポジションメモリー ※ (→P.136)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
記憶呼び出し機能に連動するドアの選択	●運転席ドア ●全ドア	—	—	0

※ グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ドアミラー (→P.124)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
オート電動格納作動	●ドアの施錠・解錠と連動 ●パワースイッチと連動 ●なし	—	—	0

■ パワーウィンドウとムーンルーフ ※ (→P.127, 129)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
メカニカルキー連動開閉機能	●あり ●なし	—	—	0
ワイヤレスリモコン連動開閉機能	●あり ●なし	—	—	0
ワイヤレスリモコン連動開閉作動の合図（ブザー）	●あり ●なし	—	—	0

※ グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ムーンルーフ ※ (→P.129)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
ドアキー連動作動時の開閉部位	●スライドのみ ●チルトのみ	—	—	0
ワイヤレスリモコン連動作動時の開閉部位	●スライドのみ ●チルトのみ	—	—	0

※ グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ランプ自動点灯・消灯システム (→P.165)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
ライトセンサーの感度調整※	●-2 ~ 2	0	—	0
ランプ消し忘れ防止機能	●なし ●30 秒 ●60 秒 ●90 秒	0	—	0

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ リヤウインドウワイパー (→P.173)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
バックドア開連動リヤワイパー停止機能	●あり ●なし	—	—	0
ウォッシャー液を噴射したときのリヤワイパー作動	●あり ●なし	—	—	0
リバース連動機能 (→P.173)	●非作動 ●1 回のみ作動 ●連続作動	—	—	0

■ PCS (プリクラッシュセーフティ) (→P.182)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
プリクラッシュセーフティ ※	●あり ●なし	—	0	—
警報タイミング	●早い ●中間 ●遅い	—	0	—

※ パワースイッチを ON にするたびに、システムが自動的に有効になります。

■ LTA (レーントレーシングアシスト) (→P.192)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
車線中央維持機能	●ON ●OFF	—	0	—
アラート感度	●標準 ●高い	—	0	—
車両揺れ警報機能	●ON ●OFF	—	0	—

■ RSA (ロードサインアシスト) (→P.211)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
RSA (ロードサインアシスト) ※ ¹	●ON ●OFF	—	0	—
速度標識超過告知方法 ※ ²	●表示 ●表示とブザー ●無	—	0	—
速度超過告知車速	●1 km/h ●3 km/h ●5 km/h	—	0	—

※¹ パワースイッチを ON にするたびに、システムが自動的に有効になります。

※² 補助マークの付いた速度制限を超えた場合、通知ブザーは作動しません。

■ レーダークルーズコントロール (→P.201)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
レーダークルーズコントロール (ロードサインアシスト付き)	●ON ●OFF	—	0	—
カーブ速度抑制	●OFF ●弱 ●強	—	0	—

■ BSM (ブラインドスポットモニター) (→P.214)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
ブラインドスポットモニター機能	●あり ●なし	—	0	—
ドアミラーインジケータの明るさ	●明るい ●暗い	—	0	—
接近車両を知らせるタイミング (感度)	●死角で車両を検知した場合のみ ●遅い ●標準 ●早い	—	0	—

■ クリアランスソナー (→P.218)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
クリアランスソナー	●ON ●OFF	—	0	0
ブザー音量	●レベル 1 からレベル 3	—	0	0

■ RCTA (リヤクロストラフィックアラート) (→P.226)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
リヤクロストラフィックアラート機能	●ON ●OFF	—	0	—
ブザーの音量 ※	●レベル 1 からレベル 3	—	0	—

※ クリアランスソナーがある場合のみ設定可能です。

■ PKSB（パーキングサポートブレーキ）（→P.231）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
PKSB（パーキングサポートブレーキ）機能	●ON ●OFF	—	0	—

■ フロントオートエアコン（→P.258）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
AUTO スイッチが ON のとき、連動して外気導入と内気循環を自動的に切りかえる ※	●する ●しない	0	—	0
AUTO スイッチを ON にしたとき、A/C スイッチが連動して ON になる ※	●する ●しない	0	—	0

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ イルミネーション（→P.271）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
室内灯の消灯までの時間 ※1	●7.5 秒 ●15 秒 ●30 秒 ●OFF	0	—	0
パワースイッチ OFF 後の照明の点灯	●あり ●なし	—	—	0
解錠時の照明の点灯	●あり ●なし	—	—	0
電子キーを携帯して車両に近づいたときの操作	●あり ●なし	—	—	0
インストルメントパネルオーナメントランプ ※2 とドアトリムオーナメントランプ ※2	●あり ●なし	—	—	0

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
外側のフットライト ※2 が 消灯するまでの時間 ※1	●7.5 秒 ●15 秒 ●30 秒 ●OFF	0	—	0
電子キーを携帯して車両に 近づくと、外側のフットラ イト ※2 が作動します。	●あり ●なし	—	—	0
パワードアロックスイッチ でドアを解錠した際の外側 フットライト ※2 の点灯	●あり ●なし	—	—	0

※1 マイセッティングと連動して設定が変更されます。

※2 グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



■車両カスタマイズについて

- スマートエントリー&スタートシステムが OFF の場合、スマートドアロック解除はカスタマイズできません。
- 解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠が作動したときの合図は、作動の合図（非常点滅灯）と作動の合図音量（ブザー音量調整）の設定に依存します。

初期設定が必要な項目

次の項目はバッテリーを再接続したり、メンテナンスを行ったあとなどに、システムを正しく作動させるために初期設定が必要です。

設定が必要な項目

項目	初期設定が必要なとき	参照先
パワーバックドア ※	・ バッテリーの充電・交換後の再接続時	P.105
クリアランスソナー	・ バッテリーの充電・交換後の再接続時	P.221
タイヤ空気圧警報システム	・ 走行速度の変更などにより、タイヤの空気圧が変更になったとき ・ タイヤサイズの変更などにより、タイヤの指定空気圧が変更になったとき ・ タイヤローテーションを実施したとき ・ ID コードの登録を実施したとき	P.320

※ グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

さくいん

こんなときは（症状別さくいん）	412
アルファベット順さくいん.....	415
五十音順さくいん	416

こんなときは（症状別さくいん）

お困りの際は、トヨタ販売店にご連絡いただく前にまず次のことを確認してください。

施錠／解錠／ドアの開閉ができない



キーをなくした

- メカニカルキーをなくした場合、トヨタ販売店でトヨタ純正の新しいメカニカルキーを作ることができます。（→P.375）
- 電子キーをなくすと盗難の危険性が極めて高くなるため、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。（→P.375）



施錠・解錠できない

- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？（→P.330）
- パワースイッチが ON になっていませんか？

施錠するときは、パワースイッチを OFF にしてください。（→P.151）

- 電子キーを車内に置き忘れていませんか？

施錠するときは、電子キーを携帯していることを確認してください。

- 電波状況により、機能が正常に働いていない可能性があります。

（→P.111）



リヤドアが開かない

- チャイルドプロテクターがかかっていませんか？

チャイルドプロテクターがかかっていると車内からは開きません。いったん車外から開けて、チャイルドプロテクターを解除してください。（→P.98）

故障かな？と思ったら



ハイブリッドシステムが始動できない

- ブレーキペダルをしっかりと踏みながらパワースイッチを押していますか？（→P.150）
- シフトレバーは P になっていませんか？（→P.150）
- キーが車内の検知される場所にありますか？（→P.110）
- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？（→P.330）

このときは、一時的な方法でハイブリッドシステムを始動することができます。（→P.377）

- 補機バッテリーがあがっていませんか？（→P.378）



ブレーキペダルを踏んでもシフトレバーが P から動かない

- パワースイッチは ON になって
いますか？

パワースイッチが ON でブレーキ
を踏んでも解除できないときは
(→P.157) を参照してください。



**パワーウィンドウスイッチを操
作してもドアガラスが開閉しな
い**

- ウィンドウロックスイッチが押
されていませんか？

ウィンドウロックスイッチが押さ
れていると、運転席以外のパワー
ウィンドウは操作できなくなりま
す。(→P.129)



**パワースイッチが自動的に OFF
になった**

- 一定時間 ACC または ON (ハイ
ブリッドシステムが作動してい
ない状態) にしておくと、自動
電源 OFF 機能が作動します。
(→P.152)



走行中に警告音が鳴りだした

- シートベルト着用警告灯が点滅
しています

運転者と同乗者はシートベルトを
着用していますか？ (→P.354)

- パーキングブレーキインジケー
ターが点灯しています

パーキングブレーキは解除されて
いますか？ (→P.159)

状況によっては、他の種類の警告

音が鳴る場合があります。
(→P.352, 359)



**アラームが作動し、クラクショ
ンが鳴った**

- アラームを設定中に車内の誰か
がドアを開けましたか？

センサーが感知してアラームが鳴
ります。(→P.62)

アラームを無効化または停止する
には、次のいずれかを実行してく
ださい

- ドアのロックを解除してくださ
い。
- パワースイッチを ACC または
ON の位置に切りかえるか、ハ
イブリッドシステムを始動して
ください。



**警告灯や警告メッセージが表示
されたとき**

- 警告灯や警告メッセージが表示
されたときは、P.352, 359 を
ご確認ください。

トラブルが発生した



タイヤがパンクした

- 車を安全な場所に停め、パンク
したタイヤを応急用タイヤに交
換してください。(→P.363)



立ち往生した

- めかるみ・砂地・雪道などで動けなくなったときの脱出方法を試してください。(→P.387)

アルファベット順さくいん

A/C

(エアコン) 258

ABS

(アンチロックブレーキシステム)
..... 244

ABS (アンチロックブレーキシステム)

警告灯 353

ACA

(アクティブコーナリングアシスト)
..... 244

AHB

(オートマチックハイビームシステム) 167

BSM

(ブラインドスポットモニター)
..... 214

ECB

(エレクトロニカリーコントロール
ドブレーキシステム) 244

EDR

(イベントデータレコーダー) 7

EPS

(エレクトリックパワーステアリン
グ) 244

EPS (エレクトリックパワーステアリング)

警告灯 354

HUD

(ヘッドアップディスプレイ) 82

LTA

(レーントレーシングアシスト)
..... 192

PCS

(プリクラッシュセーフティ) .. 182

PKSB

(パーキングサポートブレーキ)
..... 231

RCTA

(リヤクロストラフィックアラート)
..... 226

RSA

(ロードサインアシスト) 211

SRS

(サブリメンタルレストレイントシ
ステム) 28

Toyota Safety Sense

AHB (オートマチックハイビーム)
..... 167

LTA (レーントレーシングアシス
ト) 192

PCS (プリクラッシュセーフティ)
..... 182

RSA (ロードサインアシスト) 211

レーダークルーズコントロール
..... 201

TRC

(トラクションコントロール) .. 244

VDIM

(ビークルダイナミクスインテグレ
イテッドマネージメント) 244

VSC

(ビークルスタビリティコントロー
ル) 244

五十音順さくいん

あ

アースポイント（バッテリーあがりの処 置）.....	378
アームレスト.....	290
アウターミラー（ドアミラー）	
格納のしかた.....	125
操作.....	125
ブラインドスポットモニター（BSM）	214
ポジションメモリー.....	136
ミラーヒーター.....	260
リバース連動機能.....	125
明るさの調整	
インストルメントパネルライトコントロー ル.....	74
アクセサリソケット.....	291
アクティブコーナリングアシスト （ACA）.....	244
アシストグリップ.....	290
アラーム	
オートアラーム.....	62
警告ブザー.....	352
アウターフットランプ	
電球（バルブ）の交換.....	335
アンチロックブレーキシステム（ABS）	244
警告灯.....	353
アンテナ（スマートエントリー&スター トシステム）.....	109

い

EV ドライブモード.....	154
イグニッションスイッチ（エンジンス イッチ）	
車両を緊急停止するには.....	345
イグニッションスイッチ（パワースイ ッチ）.....	150

イグニッションスイッチ（パワースイ ッチ）	
車両を緊急停止するには.....	345
モードの切りかえ.....	152
イベントデータレコーダー（EDR）.....	7
イモビライザーシステム.....	61
イルミネーテッドエントリーシステム	273
インナーミラー.....	123

う

ウインカー（方向指示灯）	
方向指示レバー.....	159
ウインドウ	
ウォッシャー.....	171
パワーウインドウ.....	127
リヤウインドウデフォッガー.....	260
ウインドウロックスイッチ.....	129
ウォッシャー	
スイッチ（フロント）.....	171
スイッチ（リヤ）.....	173
冬の前の準備・点検.....	252
フロント.....	171
リヤ.....	173
ウォッシャー液	
液の補充.....	312
動けなくなったときは（スタック）.	387
運転	
運転のアドバイス.....	250
寒冷時の運転.....	252
正しい運転姿勢.....	23
手順.....	142
運転支援機能情報表示.....	76
運転席シートベルト非着用警告灯 ...	354

え

エアコン	258
エアコンフィルター.....	326
エコ空調モード.....	261
フロントオートエアコン.....	258
フロント席集中送風モード (S-FLOW)	263
リヤオートエアコン.....	265
エアコンフィルター	326
エアバッグ	
SRS エアバッグ警告灯.....	353
改造・廃棄.....	33
警告ブザー.....	353
作動条件.....	29
正しい姿勢.....	23
液体	
ウォッシュ液.....	312
エコアクセルガイド	78
エコ空調モード	261
エコジャッジ	78
エコドライブモード	241
エネルギーモニター	87
エレクトリックパワーステアリング (EPS)	244
警告灯.....	354
エンジン	
アクセサリモード.....	152
イグニッションスイッチ (パワースイッ チ).....	150
イモビライザーシステム.....	61
エンジンスイッチ.....	150
オーバーヒート.....	384
緊急時の停止方法.....	345
構成部品.....	308
タコメーター.....	69
ハイブリッドシステムが始動できない.....	374
ハイブリッドシステムの始動方法.....	150

パワースイッチ.....	150
パワースイッチ (イグニッションスイッチ ／エンジンスイッチ).....	150
ボンネット.....	306
エンジンオイル	
警告灯.....	353
点検.....	310
冬の前の準備・点検.....	252
エンジンスイッチ	
自動電源 OFF 機能.....	152
エンジンスイッチ (パワースイッチ)	150
車両を緊急停止するには.....	345
エンジンフード (ボンネット)	
開け方.....	306
エンジンルーム	
エンジンルームから蒸気が出ている.....	384
エンジン冷却水	
点検.....	311

お

応急用タイヤ	363
交換方法.....	363
オーディオシステム連携表示	79
オートアラーム	62
オートエアコン	
エコ空調モード.....	261
オートマチックハイビーム	167
オーバーヒート	384
オープナー	
給油扉.....	176
バックドア.....	101
お子さまを乗せるとき	
12 ボルトバッテリーに含まれる化学物質	315
お子さまの安全のために.....	36
シートベルトの着用.....	24, 25
チャイルドシートの取り付け.....	37

チャイルドプロテクター	98
発炎筒の取り扱いに関する警告	345
バックドアの注意事項	99
バッテリーに関する警告	382
パノラマムーンルーフに関する警告	134
パワーウインドウに関する警告	128
パワーウインドウロックスイッチ	129
ムーンルーフに関する警告	131
オドメーター	73

か

カーゴネットフック	279
カーテンシールドエアバッグ	28
外気温度表示	69
買い物フック	279
ガス欠になったとき	57
カップホルダー	276
カメラ	
前方カメラ (PCS)	177
白線認識用カメラ (LTA)	192
寒冷時の運転	252

き

キー	
キーナンバープレート	92
キーレスエントリー	95, 100, 109
キーをなくした	375
警告ブザー	110
節電機能	110
電子キー	92
電池の交換	330
ハイブリッドシステムが始動できない	374
パワースイッチ	150
メカニカルキー	92
ワイヤレスリモコン	93

キーレスエントリー

スマートエントリー&スタートシステム	109
ワイヤレスドアロック	93

給油

給油口が開けられない	375, 376
給油のしかた	175

緊急時の対処

オーバーヒートした	384
キーをなくした	375
警告灯がついた	352
警告メッセージが表示された	359
けん引	348
車両を緊急停止する	345
水没したときは	346
スタックした	387
何かおかしいと思ったら	351
ハイブリッドシステムが始動できない	374
発炎筒	344
パンクした	363
補機バッテリーがあがった	378

緊急停止システム

緊急ブレーキシグナル

く

空気圧 (タイヤ)

タイヤ空気圧警報システム	318

空気圧表示画面

駆動用電池

警告メッセージ	60
充電について	55
搭載位置	57
冷却用吸入口	59

曇り取り

アウトミラー (ドアミラー)	260
フロントガラス	259
リヤウインドウ	260

クリアランスソナー	218
操作	219
クリアランスランプ (車幅灯)	
スイッチ	165
クルーズコントロール	201
グローブボックス	275
グローブボックスランプ	275

け

計器類 (メーター)	69
警告灯	352
RCTA OFF 表示灯	356
ABS & ブレーキアシスト	353
SRS エアバッグ	353
LTA 表示灯	355
エンジン	353
クリアランスソナー OFF 表示灯	355,
356	
高水温	352
シートベルト非着用	354, 355
充電	353
スリップ表示灯	357
タイヤ空気圧	355
ドライブスタートコントロール	354
燃料残量	354
パーキングブレーキ表示灯	357
ハイブリッドシステム過熱	352
パワーステアリング	354
PCS	356
ブレーキ	352
ブレーキオーバーライドシステム	354
ブレーキホールド作動表示灯	357
油圧	353
警告ブザー	
RCTA (リヤクロストラフィックアラート)	
.....	356
ABS & ブレーキアシスト	353
SRS エアバッグ	353

LTA (レーントレーシングアシスト)	355
エンジン	353
クリアランスソナー	355, 356
高水温	352
シートベルト非着用	354, 355
充電	353
衝突警報	182
接近警報 (レーダークルーズコントロー	
ル)	206
タイヤ空気圧	355
手放し運転警告 (LTA)	199
ドライブスタートコントロール	354
ハイブリッドシステム	353
ハイブリッドシステム過熱	352
パワーステアリング	354
半ドア	96
半ドア走行時	98
ブリクラッシュセーフティシステム	356
ブリクラッシュブレーキ	182
ブレーキ	352
ブレーキオーバーライドシステム	354
ブレーキホールド	357
油圧	353
シフトダウン制限	158
警告メッセージ	359
言語 (マルチインフォメーションディス	
プレイ)	81

こ

交換	
タイヤ	363
電球 (バルブ)	335
電子キーの電池	330
ヒューズ	332
工具 (ツール)	364
後退灯 (バックアップランプ)	
電球 (バルブ) の交換	335

高電圧部位	57
コーションラベル	57
コートフック	291
子供専用シート	
取り付け方	38
小物入れ	277
コンソールボックス	275
コンデンサー	312

こ

こ自身で行うメンテナンス	302

さ

サービスプラグ	57
サイドウインドウ	127
サイドエアバッグ	28
サイド方向指示灯	
電球（バルブ）の交換	335
方向指示レバー	159
サイドミラー（ドアミラー）	
格納のしかた	125
操作	125
ブラインドスポットモニター（BSM）	214
ポジションメモリー	136
リバース連動機能	125
リヤクロストラフィックアラート（RCTA）	226
サンシェード	
ルーフ	130
サンバイザー	292

し

シート	
シートヒーター	269
シートポジションメモリー	136
正しい運転姿勢	23

チャイルドシート	37
調整	114
調整の注意事項	114
手入れ	299
ドライビングポジションメモリー	136
ヘッドレスト	119
メモリーコール機能	137
シートヒーター	269
シートベルト	
緊急ロック式リトラクター	25
シートベルト	24
お子さまの着用	24, 25
正しく着用するには	25
チャイルドシートの取り付け	37
着け方・はずし方	25
手入れ	299
妊娠中の方の着用	24
非着用警告灯	354, 355
シートベルト非着用警告灯	354, 355
シートベルトプリテンショナー	
機能	26
プリテンショナー警告灯	353
シートポジションメモリー	136
ドライビングポジションメモリー	136
事故が発生したとき（ハイブリッドシ テムの注意）	58
室内灯（インテリアランプ）	271
シフトレバー	
シフトポジションの切りかえ	157
ハイブリッドトランスミッション	156
シフトロックシステム	157
ジャッキ	
ガレージジャッキ	307
車載ジャッキ	364
ジャッキハンドル	364
車両接近通知装置	56
車両データの記録	6
車両を緊急停止するには	345

充電用 USB 端子	284
12 ボルトバッテリー	313
収納装備	274
初期化	
タイヤ空気圧警報システム	320
パワーウィンドウ	127
初期設定	410
助手席シートベルト非着用警告灯 ...	354

す

水温計	69
スイッチ	
.....	165
RCTA	226
アウターミラースイッチ	124
EV ドライブモード	154
イグニッション	150
インストルメントパネルライトコントロールスイッチ	74
ウインドウデフォッガスイッチ 259, 260	
ウインドウロックスイッチ	129
LTA	196
オートマチックハイビーム	167
クリアランスソナー	219
シートヒータースイッチ	269
シートポジションメモリー	136
車間距離切りかえ (レーダークルーズコントロール)	201
タイヤ空気圧警報初期化スイッチ	320
TRC OFF	245
電動サンシェードスイッチ	132
ドアロック	97
ドライブモードセレクト	241
パーキングブレーキ	159
パドルシフトスイッチ	157
パノラマムーンルーフ	132
パワーウィンドウスイッチ	127
PKSB	232

フォグランプ	170
ブレーキホールド	162
フロントウォッシャー	171
フロントワイパー	171
ヘルプネットボタン	51
ムーンルーフ	129
メーター操作	75
リヤウォッシャー	173
リヤフォグランプ	170
リヤワイパー	173
レーダークルーズコントロール	201
スタック	387
ステアリングホイール (ハンドル)	
位置調整	122
メーター操作スイッチ	75
ストップランプ (制動灯)	
電球 (バルブ) の交換	335
スノータイヤ (冬用タイヤ)	252
スペアタイヤ (応急用タイヤ)	363
交換方法	363
スポーツモード	241
スマートエントリー&スタートシステム	
アンテナの位置	109
始動方法	150
ドアの解錠・施錠	95, 100
スモールランプ (車幅灯)	
ランプスイッチ	165

せ

清掃	
外装	296
シートベルト	299
ホイール・ホイールキャップ	296
レーダー	177
制動灯	
緊急ブレーキシグナル	245
セカンダリーコリジョンブレーキ ...	245

セキュリティインジケータ	61, 62
接近警報（レーダークルーズコントロール）	206
センサー	
インナーミラー	123
雨滴感知センサー	172
LTA（レーントレーシングアシスト）	192
後側方レーダーセンサー	215
ライトセンサー	165
レーダー	177
前照灯（ヘッドランプ）	
マニュアルレベリングシステム	166
ライトセンサー	165
ランプ消し忘れ防止機能	165
ランプスイッチ	165

そ

走行モード（ドライブモード）	241
速度計（スピードメーター）	69

た

ターンシグナルランプ（方向指示灯）	
電球（バルブ）の交換	335
方向指示レバー	159
タイヤ	
応急用タイヤ	363
空気圧	323
空気圧警告灯	355
交換	363
タイヤ空気圧警告システム	318
チェーン	253
点検	316
パンクしたときは	363
冬用タイヤ	252
ローテーション（位置交換）	317
タイヤが空まわりする（スタックした）	387

タイヤ空気圧	
警告灯	355
タイヤ空気圧警告システム	
IDコードの登録	321
機能について	318
空気圧バルブ／送信機について	319
空気圧表示画面	318
初期化	320
タイヤ空気圧警報システム	
警告灯	355
タコメーター	69

ち

チェーン	253
チャイルドシート	
ISOFIX ロアアンカレッジでの取り付け	47
シートベルトでの固定	45
知っておいていただきたいこと	37
選択方法	37
チャイルドプロテクター	98
駐車ブレーキ（パーキングブレーキ）	
警告灯	357
操作	159

つ

ツール（工具）	364

て

提案機能	80
ディスプレイ	
ヘッドアップディスプレイ	82
マルチインフォメーションディスプレイ	74
手入れ	
外装	296
シートベルト	299

内装.....	299
ホイール・ホイールキャップ.....	296
レーダー.....	177
テールランプ（尾灯）	
ランプスイッチ.....	165
電気モーター.....	54, 57
電球（バルブ）	
交換.....	335
電子キー.....	92
節電機能.....	110
電池の交換.....	330
電子制御ブレーキシステム（ECB）.....	244
電動サンシェード	
操作.....	132
挟み込み防止機能.....	133

と

ドア	
アウトミラー.....	124
チャイルドプロテクター.....	98
ドアガラス.....	127
ドアロックスイッチ.....	97
バックドア.....	99
ロック.....	95
ドアミラー	
RCTA（リヤクロストラフィックアラート）.....	226
ブラインドスポットモニター（BSM）.....	214
盗難防止装置	
イモビライザーシステム.....	61
オートアラーム.....	62
時計.....	69, 74
トップテザーアンカレッジ.....	48
トヨタコネクティッドサービス.....	51
ドライビングポジションメモリー... ..	136
メモリーコール機能.....	137
ドライブモードセレクトスイッチ... ..	241

トラクションコントロール（TRC）.....	244
トランスミッション	
S モード.....	157
ドライブモードセレクト.....	241
ハイブリッドトランスミッション.....	156
パドルシフトスイッチ.....	157
トリップメーター.....	73
トレイルモード.....	242
トレーラー横揺れ制御.....	244

な

内装	
手入れ.....	299

に

ニーエアバッグ.....	28

ぬ

ぬかるみにはまった（スタック）.....	387

ね

燃費	
エネルギーモニター.....	87
燃料	
給油.....	175
情報.....	398
燃料残量警告灯.....	354
燃料計.....	69

は

パーキングサポートブレーキ（後方静止物）.....	237
パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）.....	240

パーキングブレーキ	159	パドルシフトスイッチ	157
.....	357	ハイマウントストップランプ	
警告メッセージ	161	電球（バルブ）の交換	335
未解除走行時警告ブザー	161	ハザードランプ（非常点滅灯）	344
パーキングランプ		挟み込み防止機能	
電球（バルブ）の交換	335	電動サンシェード	133
排気ガス	34	バックドア	104
ハイビーム（ヘッドランプ）		パノラマムーンルーフ	133
オートマチックハイビーム	167	パワーウインドウ	127
ランプスイッチ	165	ムーンルーフ	130
ハイブリッドシステム		発炎筒	344
EVドライブモード	154	バッテリー（12 ボルトバッテリー）	
運転のアドバイス	250	バッテリー点検	313
エネルギーモニター	87	バッテリー（駆動用電池）	
オーバーヒート	384	充電について	55
回生ブレーキ	55	搭載位置	57
ガス欠になったとき	57	冷却用吸入口	59
緊急時の停止方法	345	バッテリー（補機バッテリー）	
緊急停止システム	60	警告灯	353
駆動用電池冷却用吸入口	59	補機バッテリーがあがった	378
警告メッセージ	60	パドルシフトスイッチ	157
高電圧部位	57	パニックモード	93
サービスプラグ	57	バニティ（化粧用）ミラー	292
事故が発生したとき	58	バニティミラーランプ	292
始動できないときは	374	パノラマムーンルーフ	
始動方法	150	操作	132
車両接近通報装置	56	挟み込み防止機能	133
充電	55	パワーウインドウ	
注意	57	ウインドウロックスイッチ	129
特徴	54	操作	127
特有の音と振動	56	ドアロック連動ドアガラス開閉機能	128
パワー（イグニッション）スイッチ	150	挟み込み防止機能	127
補機バッテリーがあがった	378	パワーコントロールユニット	57
メンテナンス・修理・廃車するとき	56	パワースイッチ	150
ハイブリッドシステムインジケーター		パワースイッチ（イグニッションスイ	
.....	72, 85	チ／エンジンスイッチ）	
ハイブリッドトランスミッション	156	自動電源 OFF 機能	152
シフトポジションの切りかえ	157	モードの切りかえ	152

パワーステアリング	244
警告灯	354
パンクした	
タイヤ空気圧警告灯	355
番号灯 (ライセンスプレートランプ)	
ランプスイッチ	165
ハンドル (ステアリングホイール)	
位置調整	122

ひ

ビークルスタビリティコントロール (VSC)	244
ビークルダイナミクスインテグレイテッド マネージメント (VDIM)	244
ヒーター	
アウターミラー (ドアミラー)	260
シートヒーター	269
フロントオートエアコン	258
リヤオートエアコン	265
非常点滅灯 (ハザードランプ)	344
尾灯 (テールランプ)	
電球 (バルブ) の交換	335
ランプスイッチ	165
ヒューズ	332
表示灯	67
ヒルスタートアシストコントロール	244

ふ

フォグランプ	170
ランプスイッチ	170
フザー	
接近警報 (レーダークルーズコントロー ル)	206
手放し運転警告 (LTA)	199
半ドア走行時警告	98
フック	
カーゴネットフック	279

けん引フック	349
コートフック	291
フロアマット固定フック	22
フューエルメーター	69
フューエルリッド (給油口)	
給油口が開かない	375, 376
給油のしかた	175
ブラインドスポットモニター (BSM)	
.....	214
プリクラッシュセーフティ (PCS)	
PCS 警告灯	356
プリクラッシュセーフティ (PCS)	
機能	182
ブレーキ	
回生ブレーキ	55
警告灯	352
パーキングブレーキ	159
ブレーキアシスト	244
ブレーキホールド	162
フロアマット	22
フロントオートエアコン	258
フロントシート	
シートヒーター	269
シートポジションメモリー	136
正しい運転姿勢	23
調整	114
手入れ	299
ドライビングポジションメモリー	136
ヘッドレスト	119
メモリーコール機能	137
フロント席集中送風モード (S-FLOW)	
.....	263
フロント方向指示灯	
電球 (バルブ) の交換	335
方向指示レバー	159

へ

ヘッドアップディスプレイ	82
設定	83
ハイブリッドシステムインジケーター ..	85
ヘッドランプ	
電球（バルブ）の交換	335
マニュアルレベリングシステム	166
ライトセンサー	165
ランプ消し忘れ防止機能	165
ランプスイッチ	165
ヘッドレスト	119

ほ

ホイール	324
交換（タイヤ）	363
方向指示灯	
方向指示レバー	159
ホーン（警音器）	122
補機バッテリー	
補機バッテリーがあがった	378
補助ボックス	282
ボトルホルダー	276
ボンネット	306

ま

マイセッティング	138
マルチインフォメーションディスプレイ	
運転支援機能情報表示	76
エコアクセルガイド	78
エコジャッジ	78
オーディオシステム連携	79
警告メッセージ	359
設定	81
タイヤ空気圧	318
時計	74
メーター操作スイッチ	75

み

ミラー	
アウターミラー	124
インナーミラー	123
ドアミラー	124
バニティミラー	292
ミラーヒーター	260

む

ムーンルーフ	
操作	129
ドアロック連動ドアガラス開閉機能 ...	130
挟み込み防止機能	130

め

メーター	
明るさの調整	74
計器類	69
警告灯	352
警告メッセージ	359
設定	81
時計	69
ハイブリッドシステムインジケーター ..	72
表示灯	67
マルチインフォメーションディスプレイ	
.....	74
メーター操作スイッチ	75

メ

メンテナンス	
メンテナンス要件	302, 304

も

モーター（電気モーター）	57

ゆ

ユーザーカスタマイズ機能.....	399
雪道ですべて動けない（スタックした）	387

ら

ライセンスプレートランプ（番号灯）	
電球（バルブ）の交換.....	335
ランプスイッチ.....	165
ラゲージトレイ.....	279
ラゲージルーム.....	99
ラジエーター.....	312
オーバーヒート.....	384
ランプ	
LED イルミネーションランプ.....	165
インテリアランプ.....	272
オートマチックハイビーム.....	167
室内灯.....	271
パーソナルランプ.....	272
バニティミラーランプ.....	292
非常点滅灯（ハザードランプ）.....	344
フォグランプ.....	170
ヘッドランプ（前照灯）.....	165
方向指示灯（ターンシグナルランプ／ウイ ンカー）.....	159
ライトセンサー.....	165
ランプ消し忘れ防止機能.....	165
リヤフォグランプ.....	170
ランプ消し忘れ防止機能.....	165

り

リヤウインドウデフォグガー.....	260
リヤオートエアコン.....	265
リヤシート.....	115
シートヒーター.....	269
ヘッドレスト.....	119

リヤ席シートベルト非着用警告灯... ..	355
リヤドアサンシェード.....	292
リヤフォグランプ.....	170
ランプスイッチ.....	170
リヤ方向指示灯	
電球（バルブ）の交換.....	335
方向指示レバー.....	159

る

ルームミラー（インナーミラー）.....	123

れ

冷却システム.....	311
冷却水	
冬の前の準備.....	252
冷却装置（ラジエーター）	
オーバーヒート.....	384
レーダークルーズコントロール	
接近警報.....	206
レーダー.....	177
レーントレーシングアシスト（LTA）	192
レバー	
シフト.....	156
方向指示.....	159
ボンネット解除.....	306

ろ

ロードサインアシスト（RSA）.....	211
ロック	
スマートエントリー&スタートシステム	109
ドア.....	95
ワイヤレスリモコン.....	93

わ

ワイパー&ウォッシャー

フロント 171

リヤ 173

ワイヤレス充電器 285

ワイヤレスリモコン

節電機能 110

操作 93

電池の交換 330

半ドア警告ブザー 96

ワックス 296

**次の装備は、別冊“Multimedia
Owner's Manual”をお読みく
ださい。**

- ・ナビゲーションシステム
- ・オーディオ
- ・バックガイドモニター
- ・トヨタパーキングアシストモニ
ター
- ・パノラミックビューモニター



認証

▶ スマートエントリー&スタートシステム

14FEF



® 007-AQ0013

DENSO CORPORATION

- ・本機は、電波法の基準に適合しています。
- ・本機を分解・改造すると、法律により罰せられることがあります。

▶ タイヤ空気圧警報システム

PMV-E100



® 007-AQ0003

PACIFIC INDUSTRIAL CO.,LTD.

- ・本機は、電波法の基準に適合しています。
- ・本機を分解・改造すると、法律により罰せられることがあります。

▶ Toyota Safety Sense

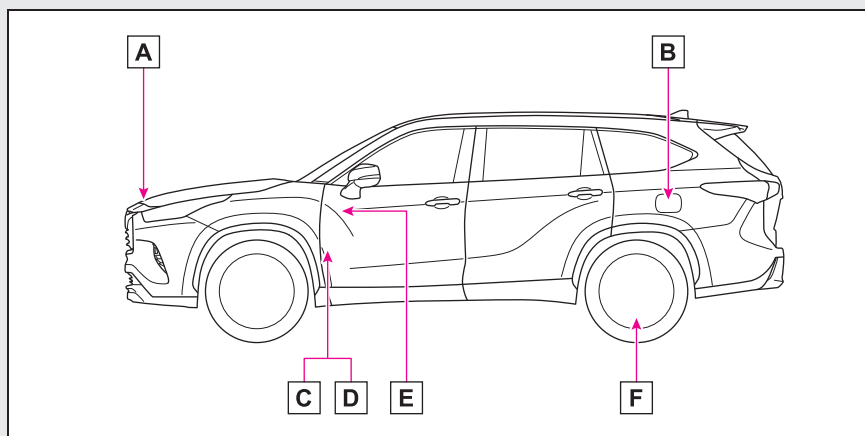
■ レーダーの取り扱い

レーダーセンサーは電波法の基準に適合しています。センサーに印字されているマークはその証明ですので消さないでください。また、製品を分解・改造すると罰せられることがあります。必ず日本国内でご使用下さい。

JP 01



ガソリンスタンドでの情報



A ボンネットフック (→P.306)

B 給油口 (→P.176)

C ボンネット解除レバー (→P.306)

D 給油口オープナー (→P.176)

E パワーバックドアスイッチ (装備されている場合) (→P.102)

F タイヤ空気圧 (→P.395)

燃料の容量 (参考値)	65 L	
燃料の種類	無鉛レギュラーガソリンのみ	P.391
タイヤが冷えているときの空気圧		P.395
エンジンオイル容量 (参考値)		P.392
エンジンオイルの種類		P.392

お車の取り扱い方法、故障、修理に関するご相談については、お買い上げ
いただきましたトヨタ販売店、または最寄りのトヨタ販売店へお問合せください。
また、リコール情報については、右記の QR コードからご確認ください。

販売店検索



リコール等情報



トヨタ自動車株式会社 お客様相談センター

所在地 〒450-8711 名古屋市中村区名駅4丁目7番1号



お電話によるお問い合わせ



全国共通・フリーコール

0800-700-7700



WEB ページからのお問い合わせ



インターネットフォーム
によるお問い合わせ



チャットによる
お問い合わせ



手話通訳サービス
によるお問い合わせ

各お問い合わせサービスのご利用・受付時間など詳細につきましては右記の QR コードからご確認ください。

「個人情報保護方針」については、https://toyota.jp/privacy_statement/ にて掲載しております。



●ご愛用車のお問い合わせは、自動車検査証（車検証）をご用意いただくと、スムーズな対応が可能です。

●QR コードは（株）デンソーウェーブの登録商標です。

トヨタ自動車株式会社
<https://toyota.jp>

